熊本県合志市文化財調査報告第２集

須　屋　城　跡

一般国道３号熊本北バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

２０１３年

合志市教育委員会

熊本県合志市文化財調査報告第２集

須　屋　城　跡

一般国道３号熊本北バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査

２０１３年

合志市教育委員会

序　　文

合志市（旧西合志町）教育委員会では、平成13（2001）年度から平成18（2006）年度にかけて、一般国道3号熊本北バイパス改築工事に伴い中世の平城跡である「須屋城跡」の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。

調査の結果、中世南北朝時代から室町時代にかけて造られたと考えられる土塁や空掘、掘立柱建物の跡など多くの遺構が検出されました。また、これらの遺構の中からは、青磁や白磁などの当時貴重な中国からの輸入陶磁器や、国内で生産された陶器や瓦質土器など、たくさんの遺物が出土しました。また、他に縄文時代や弥生時代、古墳時代、それに古代の遺構や遺物も多く出土しました。

出土した、これらの遺構や遺物は、郷土の歴史を究明する上で貴重な資料であります。この報告書が、郷土の歴史や文化財に対する理解ならびに学術・研究上の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査や報告書作成に際しましては、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所や熊本県教育庁文化課など、各方面から多くの方々にご協力やご努力を賜りましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

平成25年3月

合志市教育長　高　村　秀　夫

例　　言

1　本書は、熊本県合志市（旧西合志町）須屋字居屋敷に所在する「須屋城跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、一般国道3号熊本北バイパス改築工事に伴う事前調査で、2001（平成13）年度から2006（平成18）年度まで継続して実施した。本報告書は、01年度（Ⅰ次）から06年度（Ⅵ次）調査までのすべてを収録している。

3　発掘調査は、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所の委託を受けて、合志市（旧西合志町）教育委員会が行い、浦田信智が担当した。

4　現地における地形測量、遺構や遺構内外からの遺物出土状態の実測などの調査補助業務や、本書で使用した空中写真の撮影は（株）九州文化財研究所に委託した。

5　遺物整理は、平成14（2002）年度から平成24（2012）年度まで継続して実施した。

6　現地調査においての、出土遺物の取り上げは各調査員が分担して行った。

7　発掘調査により出土した中世陶磁器については、美濃口雅郎氏（熊本市教育委員会）にご指導いただいた。

8　現地調査での遺構写真及び本書に掲載した遺物写真の撮影は、主に奈須和貴が担当して行った。

9　本書で使用した遺物の実測は、浦田・奈須・正泉寺直美・宮田京子・松尾すみ子・川上直美が分担して行い、トレースは有瀬美保が行った。

10　本書の執筆及び編集は、主に浦田が担当し、奈須・有瀬が補佐した。

11　発掘調査で出土した遺物は、合志市西合志郷土資料館で保管している。

凡　　例

1　調査区のグリッドは、５m×５mの方眼である。

2　グリッドは、座標軸Y＝－24925を起点に西へA、B、C、D、E・・・とアルファベットで、座標軸X＝－16425を起点に北へ１、２、３、４、５・・・と数字で番号を付し、グリッドには、アルファベットと数字を組み合わせた番号を付している。
（例　A－1、A－2・・B－1・・Z－1・・AA－1、AA－2・・AB－1・・・AZ－1・・）

3　本書に使用した方位は、すべて座標北である。

4　遺構種別の略号標記は、以下のとおりである。

ＳＡ	柵列状遺構	ＳＢ	掘立柱建物跡	ＳＤ	溝状遺構	ＳＦ	道路状遺構
ＳＩ	竪穴住居跡	ＳＫ	土壙	ＳＸ	性格不明遺構	Ｐ	柱穴

5　遺構番号は、01年度（Ⅰ次）調査から06年度（Ⅵ次）調査まで、遺構種別ごとに通しで付番している。

6　土層や出土遺物の色調は、農林水産省監修「新版標準土色帳1990年版」（日本色研事業株式会社発行）を基準とした。

目　　次

序文

例言・凡例

第Ⅰ章　序説

第1節　調査に至る経緯 …… 1

第2節　調査の組織 …… 2

第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境 …… 6

第Ⅲ章　遺跡の概要と層位

第1節　遺跡の概要 …… 11

第2節　遺跡の層位 …… 11

第Ⅳ章　調査の成果

第1節　Ⅰ次（2001年度）調査の成果

1．調査の概要と経過 …… 14

2．調査の成果 …… 14

第2節　Ⅱ次（2002年度）調査の成果

1．調査の概要と経過 …… 91

2．調査の成果 …… 91

第3節　Ⅲ次（2003年度）調査の成果

1．調査の概要と経過 …… 153

2．調査の成果 …… 153

第4節　Ⅳ次（2004年度）調査の成果

1．調査の概要と経過 …… 187

2．調査の成果 …… 187

第5節　Ⅴ次（2005年度）調査の成果

1．調査の概要と経過 …… 205

2．調査の成果 …… 205

第6節　Ⅵ次（2006年度）調査の成果
1．調査の概要と経過 ……211
2．調査の成果 ……211

第Ⅴ章　まとめ……246

挿図目次

第 1 図　周辺遺跡図 …… 8
第 2 図　須屋城跡位置図 …… 12
第 3 図　Ⅰ次調査区遺構配置図及びグリッド図 …… 15
第 4 図　SD－02実測図 …… 16
第 5 図　1号円形遺構実測図 …… 17
第 6 図　SD－06実測図 …… 18
第 7 図　SD－13実測図 …… 19
第 8 図　SX－01実測図 …… 20
第 9 図　SX－02実測図 …… 22
第 10 図　SK－01実測図 …… 22
第 11 図　SK－02実測図 …… 23
第 12 図　SK－05実測図 …… 23
第 13 図　SK－06実測図 …… 24
第 14 図　SK－07実測図 …… 24
第 15 図　SK－08実測図 …… 26
第 16 図　SK－09実測図 …… 26
第 17 図　SK－11実測図 …… 27
第 18 図　SD－02内出土遺物実測図　(1) …… 28
第 19 図　SD－02内出土遺物実測図　(2) …… 29
第 20 図　SD－02内出土遺物実測図　(3) …… 30
第 21 図　SD－02内出土遺物実測図　(4) …… 31
第 22 図　SD－02内出土遺物実測図　(5) …… 32
第 23 図　SD－02内出土遺物実測図　(6) …… 33
第 24 図　SD－02内出土遺物実測図　(7) …… 34
第 25 図　SD－02内出土遺物実測図　(8) …… 34
第 26 図　SD－02内出土遺物実測図　(9) …… 35
第 27 図　SD－02内出土遺物実測図　(10) …… 36
第 28 図　SD－02内出土遺物実測図　(11) …… 37
第 29 図　SD－02内出土遺物実測図　(12) …… 38
第 30 図　SD－02内出土遺物実測図　(13) …… 39
第 31 図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(1) …… 40
第 32 図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(2) …… 41
第 33 図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(3) …… 42
第 34 図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(4) …… 43

第 35 図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(5) ……44
第 36 図　SD－06内出土遺物実測図　(1) ……45
第 37 図　SD－06内出土遺物実測図　(2) ……46
第 38 図　SD－13内出土遺物実測図　(1) ……47
第 39 図　SD－13内出土遺物実測図　(2) ……48
第 40 図　SD－13内出土遺物実測図　(3) ……49
第 41 図　SD－13内出土遺物実測図　(4) ……50
第 42 図　SX－01内出土遺物実測図　(1) ……50
第 43 図　SX－01内出土遺物実測図　(2) ……51
第 44 図　SX－01内出土遺物実測図　(3) ……52
第 45 図　SX－01内出土遺物実測図　(4) ……53
第 46 図　SX－01内出土遺物実測図　(5) ……54
第 47 図　SX－01内出土遺物実測図　(6) ……55
第 48 図　SX－02内出土遺物実測図 ……56
第 49 図　SK－01・SK－07内出土遺物実測図 ……56
第 50 図　一括遺物実測図　(中世) ……57
第 51 図　一括遺物実測図　(中世) ……58
第 52 図　一括遺物実測図　(中世) ……59
第 53 図　一括遺物実測図　(中世) ……60
第 54 図　一括遺物実測図　(中世) ……61
第 55 図　一括遺物実測図　(中世) ……62
第 56 図　一括遺物実測図　(縄文) ……63
第 57 図　II次調査区遺構配置図及びグリッド図 ……92
第 58 図　SD－02実測図 ……93
第 59 図　SD－06実測図 ……94
第 60 図　SD－16実測図 ……95
第 61 図　SK－34実測図 ……96
第 62 図　SK－38実測図 ……96
第 63 図　SK－47実測図 ……97
第 64 図　SK－53実測図 ……97
第 65 図　1号土墨実測図 ……98
第 66 図　2号土墨実測図 …… 100
第 67 図　SD－18実測図 …… 102
第 68 図　SI－01実測図 …… 103
第 69 図　SD－02内出土遺物実測図 (1) …… 104
第 70 図　SD－02内出土遺物実測図 (2) …… 105

第 71 図　SD－02内出土遺物実測図　(3) …… 106
第 72 図　SD－02内出土遺物実測図　(4) …… 107
第 73 図　SD－06内出土遺物実測図 …… 108
第 74 図　SD－16内出土遺物実測図 …… 109
第 75 図　SK－34・SK－38内出土遺物実測図 …… 109
第 76 図　1号土墨内出土遺物実測図　(1) …… 110
第 77 図　1号土墨内出土遺物実測図　(2) …… 111
第 78 図　1号土墨内出土遺物実測図　(3) …… 112
第 79 図　1号土墨内出土遺物実測図　(4) …… 113
第 80 図　1号土墨内出土遺物実測図　(5) …… 114
第 81 図　1号土墨内出土遺物実測図　(6) …… 115
第 82 図　2号土墨内出土遺物実測図　(1) …… 116
第 83 図　2号土墨内出土遺物実測図　(2) …… 117
第 84 図　SD－18内出土遺物実測図　(1) …… 118
第 85 図　SD－18内出土遺物実測図　(2) …… 119
第 86 図　SD－18内出土遺物実測図　(3) …… 120
第 87 図　SI－01内出土遺物実測図　(1) …… 121
第 88 図　SI－01内出土遺物実測図　(2) …… 122
第 89 図　一括遺物実測図　(中世) …… 123
第 90 図　一括遺物実測図　(縄文) …… 124
第 91 図　一括遺物実測図　(縄文) …… 125
第 92 図　一括遺物実測図　(縄文) …… 126
第 93 図　一括遺物実測図　(中世・縄文) …… 127
第 94 図　一括遺物実測図　(中世) …… 128
第 95 図　Ⅲ次調査区遺構配置図及びグリッド図 …… 154
第 96 図　A区　SD－02実測図 …… 155
第 97 図　B区　SI－02実測図 …… 156
第 98 図　C区　SI－03実測図 …… 157
第 99 図　C区　SI－04実測図 …… 158
第100図　C区　SI－05・SI－06実測図 …… 159
第101図　C区　SD－64実測図 …… 160
第102図　A区　SD－02内出土遺物実測図 …… 161
第103図　A区　一括遺物実測図　(中世) …… 162
第104図　B区　SI－02内出土遺物実測図 …… 163
第105図　B区　一括遺物実測図　(中世) …… 163
第106図　B区　一括遺物実測図　(中世) …… 164

第107図　B区　一括遺物実測図　(中世) …… 165
第108図　B区　一括遺物実測図　(縄文) …… 166
第109図　B区　一括遺物実測図　(縄文) …… 167
第110図　B区　一括遺物実測図　(縄文) …… 168
第111図　B区　一括遺物実測図　(縄文) …… 169
第112図　B区　一括遺物実測図　(縄文) …… 170
第113図　C区　一括遺物実測図　(中世・古代) …… 171
第114図　C区　一括遺物実測図　(中世・古代・弥生) …… 172
第115図　Ⅳ調査区遺構配置図及びグリッド図 …… 188
第116図　B区　SD－70実測図 …… 189
第117図　C区　SB－101実測図 …… 190
第118図　A区　一括遺物実測図　(縄文) …… 191
第119図　B区　SD－70内出土遺物実測図 …… 192
第120図　B区　一括遺物実測図　(中世・古代) …… 193
第121図　B区　一括遺物実測図　(弥生・縄文) …… 194
第122図　B区　一括遺物実測図　(中世・古代・縄文) …… 195
第123図　C区　一括遺物実測図　(中世・弥生・縄文) …… 196
第124図　Ⅴ次調査区遺構配置図及びグリッド図 …… 206
第125図　一括遺物実測図　(縄文) …… 207
第126図　Ⅵ次調査区遺構配置図及びグリッド図 …… 212
第127図　A区　SB－104実測図 …… 213
第128図　A区　SB－105実測図 …… 214
第129図　A区　SB－106実測図 …… 215
第130図　B区　SB－103実測図 …… 216
第131図　C区　SI－07実測図 …… 217
第132図　C区　SI－08実測図 …… 218
第133図　A区　一括遺物実測図　(古代) …… 220
第134図　A区　一括遺物実測図　(中世・古代) …… 221
第135図　A区　一括遺物実測図　(縄文) …… 222
第136図　B区　一括遺物実測図　(縄文) …… 223
第137図　C区　一括遺物実測図　(古代) …… 223
第138図　D区　一括遺物実測図　(古代) …… 224
第139図　D区　SI－08内出土遺物実測図　(1) …… 225
第140図　D区　SI－08内出土遺物実測図　(2) …… 226
第141図　一括遺物実測図　(縄文石器) …… 238
第142図　一括遺物実測図　(縄文石器) …… 239

第143図　一括遺物実測図　（縄文石器）…… 240
第144図　一括遺物実測図　（縄文石器）…… 241
第145図　一括遺物実測図　（縄文石器）…… 242

表 目 次

第 1 表　合志市の遺跡 …… 9
第 2 表　Ⅰ次調査　SD－02内出土遺物観察表 …… 64
第 3 表　Ⅰ次調査　1号円形遺構内出土遺物観察表 …… 71
第 4 表　Ⅰ次調査　SD－06内出土遺物観察表 …… 73
第 5 表　Ⅰ次調査　SD－13内出土遺物観察表 …… 74
第 6 表　Ⅰ次調査　SX－01内出土遺物観察表 …… 77
第 7 表　Ⅰ次調査　SX－02内出土遺物観察表 …… 79
第 8 表　Ⅰ次調査　SK－01、SK－07内出土遺物観察表 …… 80
第 9 表　Ⅰ次調査　一括遺物観察表 …… 80
第10表　Ⅱ次調査　SD－02内出土遺物観察表 …… 129
第11表　Ⅱ次調査　SD－06内出土遺物観察表 …… 130
第12表　Ⅱ次調査　SD－16内出土遺物観察表 …… 131
第13表　Ⅱ次調査　SK－34、SK－38内出土遺物観察表 …… 131
第14表　Ⅱ次調査　1号土塁内出土遺物観察表 …… 132
第15表　Ⅱ次調査　2号土塁内出土遺物観察表 …… 135
第16表　Ⅱ次調査　SD－18内出土遺物観察表 …… 137
第17表　Ⅱ次調査　SI－01内出土遺物観察表 …… 139
第18表　Ⅱ次調査　一括遺物観察表 …… 139
第19表　Ⅲ次調査　A区　SD－02内出土遺物観察表 …… 173
第20表　Ⅲ次調査　A区　一括遺物観察表 …… 173
第21表　Ⅲ次調査　B区　SI－02内出土遺物観察表 …… 174
第22表　Ⅲ次調査　B区　一括遺物観察表 …… 174
第23表　Ⅲ次調査　C区　一括遺物観察表 …… 179
第24表　Ⅳ次調査　A区　一括遺物観察表 …… 197
第25表　Ⅳ次調査　B区　SD－70内出土遺物観察表 …… 197
第26表　Ⅳ次調査　B区　一括遺物観察表 …… 197
第27表　Ⅳ次調査　C区　一括遺物観察表 …… 200
第28表　Ⅴ次調査　一括遺物観察表 …… 208
第29表　Ⅵ次調査　A区　一括遺物観察表 …… 227
第30表　Ⅵ次調査　B区　一括遺物観察表 …… 229
第31表　Ⅵ次調査　C区　一括遺物観察表 …… 230
第32表　Ⅵ次調査　D区　一括遺物観察表 …… 230
第33表　Ⅵ次調査　D区　SI－08 内出土遺物観察表 …… 231
第34表　須屋城跡遺跡出土　縄文石器観察表 …… 243
第35表　須屋城跡遺跡出土　縄文石器観察表 …… 244
第36表　須屋城跡遺跡出土　縄文石器観察表 …… 245

写真図版目次

図版1 ……85

(1) 調査前

(2) SD－02検出状況

(3) SD－02遺物出土状況

(4) SD－02完掘

(5) SD－02土層断面

(6) SX－01検出状況

図版2 ……86

(1) SX－01遺物出土状況

(2) SX－01出土遺物

(3) SX－01出土遺物

(4) SX－01完掘

(5) 1号円形遺構遺物出土状況

(6) 1号円形遺構出土遺物

図版3 ……87

(1) 1号円形遺構出土遺物

(2) 1号円形遺構完掘

(3) SK－01

(4) SK－02

(5) SK－05

(6) SK－06

図版4 ……88

(1) SX－01内出土遺物

(2) SD－13内出土遺物　1

(3) SD－13内出土遺物　2

(4) SD－13内出土遺物　3

図版5 ……89

(1) SD－06内出土遺物

(2) 1号円形遺構内出土遺物

(3) SD－02内出土遺物　1

(4) SD－02内出土遺物　2

図版6 ……90

(1) SD－02内出土遺物　3

(2) SD－02内出土遺物　4

図版7 …… 145
(1) 表土剥ぎ
(2) SI－01
(3) SD－02遺物出土状況
(4) SD－02土層断面
(5) SD－06遺物出土状況
(6) SD－02（左）・SD－06（右）
図版8 …… 146
(1) SD－18
(2) SD－18土層断面
(3) SD－18遺物出土状況
(4) SD－18内出土遺物
(5) SD－18内出土遺物
(6) SD－18完掘
図版9 …… 147
(1) 1号土墓土層断面
(2) 1号土墓遺物出土状況
(3) 1号土墓出土遺物
(4) 2号土墓土層断面
(5) 2号土墓遺物出土状況
(6) 2号土墓遺物出土状況
図版10 …… 148
(1) 2号土墓出土遺物
(2) 縄文調査　土器
(3) 縄文調査　土器
(4) 縄文調査　土器
(5) 縄文調査　石器
(6) 縄文調査　石器
図版11 …… 149
(1) 出土縄文式土器　1
(2) 出土縄文式土器　2
(3) SI－01内出土遺物　1
(4) SI－01内出土遺物　2
図版12 …… 150
(1) 1号土墓出土遺物　1

(2) SD－18内出土遺物
(3) 1号土墨出土遺物　2
(4) 1号土墨出土遺物　3
図版13 …… 151
(1) SD－16内出土遺物
(2) SD－02内出土遺物　1
(3) SD－02内出土遺物　2
図版14 …… 183
(1) 表土剥ぎ
(2) A区　SD－02検出状況
(3) A区　SD－02遺物出土状況
(4) A区　SD－02遺物出土状況
(5) A区　SD－02土層断面
(6) SI－02検出状況
図版15 …… 184
(1) B区　全景
(2) C区　SI－02
(3) C区　SI－04
(4) C区　SI－05・06
(5) C区　全景
(6) 縄文調査　土器
図版16 …… 185
(1) C区　SX－11内出土遺物
(2) C区　SI－05内出土遺物
(3) C区　SI－06内出土遺物
(4) B区　出土縄文式土器　1
図版17 …… 186
(1) B区　出土縄文式土器　2
(2) B区　出土縄文式土器　3
(3) B区　SI－02内出土遺物
(4) B区　SD－02内出土遺物
図版18 …… 203
(1) 調査前
(2) 表土剥ぎ
(3) C区　全景

(4) C区　全景
(5) 縄文調査　土器
(6) 縄文調査　土器
図版19 …… 204
(1) B区　SD－70内出土土器
図版20 …… 209
(1) 表土剥ぎ
(2) 調査区全景
(3) 縄文調査　遺物出土状況
(4) 縄文調査　遺物出土状況
(5) 縄文調査　土器
(6) 縄文調査　石器
図版21 …… 210
(1) 出土縄文式土器
図版22 …… 233
(1) A区　SB－06
(2) A区　SB－05
(3) A区　SB－04
(4) A区　SB－03
(5) B区　全景
(6) C区　SI－07
図版23 …… 234
(1) D区　SI－08
(2) D区　SI－08内遺物出土状況
(3) A区　全景
(4) 縄文調査遺物出土状況
(5) 縄文調査　土器
(6) 縄文調査　石器
図版24 …… 235
(1) A区　出土墨書土器
(2) A区　出土土師器
(3) A区　出土縄文式土器
(4) C区　出土土師器
図版25 …… 236
(1) C区　SI－07内出土遺物

(2) D区　出土墨書土器
(3) D区　出土土師器　1
(4) D区　出土土師器　2
図版26 …… 237
(1) D区　SI－08内出土遺物

第Ⅰ章　序　説

第1節　調査に至る経緯

平成12年9月に国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所（旧建設省九州地方整備局熊本工事事務所）より、旧西合志町役場企画課を通じて国道3号熊本北バイパス建設予定地で合志市（旧西合志町）須屋字居屋敷に所在し、周知の埋蔵文化財包蔵地である中世の平城跡、須屋城跡の発掘調査を平成13年度より実施してほしいという依頼があった。北バイパスを国道387号まで早期に開通させるために平成13年度中に埋蔵文化財の発掘調査に着手したいという国土交通省側の意向であった。本来は、今回の国道バイパス建設は国の事業であることから、熊本県教育庁文化課が担当し発掘調査を行うのであるが、県教育庁文化課でも平成13年度には同事業で須屋城跡の東約20mの地点で試掘調査により、新しく発見された船入遺跡（合志市須屋字船入）で発掘調査に入ることから、調査員が不足し同年度中には須屋城跡の発掘調査まで着手が出来ない等の理由から、遺跡の所在地である旧西合志町に発掘調査の依頼をしたという経緯であった。

同年12月国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所に、旧西合志町役場企画課長と、文化財担当課である旧西合志町教育委員会図書館長及び同館文化係文化財担当の浦田が出向き、平成13年度は平成12年度に県事業の農政関係で発掘調査を実施した石川遺跡の整理作業と発掘調査報告書の刊行を予定しているので、10月以降であれば須屋城跡の発掘調査に着手することが可能である旨を伝えたところ、10月以降でも良いので13年度中に須屋城跡の発掘調査に入ってほしいと再度の依頼を受け、平成13年10月より6ヶ月間の予定で須屋城跡の発掘調査に入ることで了承した。

平成13年9月28日付け国九整熊二調第33号で、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所と文化財発掘調査委託契約を締結し、10月より機械や作業員を入れての発掘調査を開始した。

発掘調査は、面積が広く発掘対象地区の用地取得が部分的だったことや、また中世期と縄文期の2面の調査が必要なため、取得が完了した所から実施することになり、平成13年度より平成18年度まで6ヵ年の継続事業として実施した。

第2節　調査の組織

【発掘調査】

▩平成13（2001）年度

調査主体	西合志町教育委員会		
調査責任者	教育長	長田　孝吉	
調査事務局	図書館長	松岡　　隆	(平成13年1月1日～12月31日)
		榊田　郁夫	(平成14年1月1日～)
調査事務	学芸員	菅　真一郎	
調査担当	参事	浦田　信智	
	嘱託	奈須　和貴	
整理担当	嘱託	井上　美保	

▩平成14（2002）年度

調査主体	西合志町教育委員会		
調査責任者	教育長	長田　孝吉	
調査事務局	図書館長	榊田　郁夫	(平成14年1月1日～12月31日)
		塚本　敏明	(平成15年1月1日～)
	図書館副館長	野本　立一	
調査事務	学芸員	菅　真一郎	
調査担当	係長	浦田　信智	
	嘱託	奈須　和貴	
整理担当	嘱託	井上　美保	

▩平成15（2003）年度

調査主体	西合志町教育委員会	
調査責任者	教育長	長田　孝吉
調査事務局	図書館長	塚本　敏明
	図書館副館長	野本　立一
調査事務	学芸員	菅　真一郎
調査担当	係長	浦田　信智
	嘱託	奈須　和貴
整理担当	嘱託	井上　美保

▩平成16（2004）年度

調査主体	西合志町教育委員会	
調査責任者	教育長	長田　孝吉
		末永　節夫
調査事務局	図書館長	塚本　敏明
	図書館副館長	野本　立一
調査事務	学芸員	菅　真一郎
調査担当	係長	浦田　信智
	嘱託	奈須　和貴
整理担当	嘱託	井上　美保

▩平成17（2005）年度

調査主体	西合志町教育委員会	
調査責任者	教育長	末永　節夫
調査事務局	図書館長	塚本　敏明
	図書館副館長	工藤　哲生
調査事務	学芸員	菅　真一郎

調査担当	係長	浦田	信智
	嘱託	奈須	和貴
整理担当	嘱託	井上	美保

■平成18（2006）年2月27日旧西合志町と旧合志町の町村合併により合志市
合志市教育委員会文化振興課文化財係

調査主体	合志市教育委員会		
調査責任者	教育長	末永	節夫
調査事務局	文化振興課長	山戸	宇機夫
	文化振興課長補佐	辻	健一
調査事務	主事	仁田	真由美
	調査員	米村	大
調査担当	係長	浦田	信智
	嘱託	奈須	和貴
整理担当	嘱託	井上	美保

■平成18（2006）年度

調査主体	合志市教育委員会		
調査責任者	教育長	末永	節夫
調査事務局	文化振興課長	山戸	宇機夫
	文化振興課長補佐	辻	健一
調査事務局	主事	仁田	真由美
	調査員	米村	大
調査担当	係長	浦田	信智
	嘱託	奈須	和貴
整理担当	嘱託	井上	美保

【整理・報告書作成】
■平成19（2007）年度
＊4月1日機構改革により文化振興課は生涯学習課と統合
合志市教育委員会教育部生涯学習課生涯学習班

調査主体	合志市教育委員会		
調査責任者	教育長	末永	節夫
調査事務局	生涯学習課長	野本	立一
	生涯学習班長	工藤	哲生
調査事務	主事	仁田	真由美
	調査員	米村	大
担当	主幹	浦田	信智
	嘱託	奈須	和貴
	嘱託	井上	美保

■平成20（2008）年度

調査主体	合志市教育委員会		
調査責任者	教育長	末永	節夫
調査事務局	生涯学習課長	髙木	敏明
	生涯学習班長	工藤	哲生
調査事務	主事	仁田	真由美
担当	主幹	浦田	信智
	嘱託	奈須	和貴

	嘱託	有瀬　美保

■平成21（2009）年度

調査主体	合志市教育委員会	
調査責任者	教育長	末永　節夫
調査事務局	生涯学習課長	髙木　敏明
	生涯学習班長	工藤　哲生
調査事務	主事	渡辺　紀子
担当	主幹	浦田　信智
	嘱託	奈須　和貴
	嘱託	有瀬　美保

■平成22(2010）年度

調査主体	合志市教育委員会		
調査責任者	教育長	末永　節夫	（平成22年6月27日）
	教育長	髙村　秀夫	（平成22年6月28日～）
調査事務局	生涯学習課長	西川　正則	
	生涯学習班長	辻　　健一	
調査事務	主事	渡辺　紀子	
担当	主幹	浦田　信智	
	嘱託	奈須　和貴	
	嘱託	有瀬　美保	

■平成23（2011）年度

調査主体	合志市教育委員会	
調査責任者	教育長	髙村　秀夫
調査事務局	生涯学習課長	上原　哲也
	生涯学習班長	辻　　健一
調査事務	主事	渡辺　紀子
担当	主幹	浦田　信智
	嘱託	奈須　和貴
	嘱託	有瀬　美保

■平成24（2012）年度

調査主体	合志市教育委員会	
調査責任者	教育長	髙村　秀夫
調査事務局	生涯学習課	上原　哲也
	生涯学習班長	安武　亮子
調査事務局	主事	渡辺　紀子
担当	主幹	浦田　信智
	嘱託	奈須　和貴
	嘱託	有瀬　美保

調査協力　国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所　調査第二課・公務三課
熊本県教育庁文化課・合志市文化財保護委員会・合志市役所建設課

調査指導	佐藤　伸二	（元国立八代工業高等専門学校教授）
	花岡　興志	（熊本県立大学　非常勤講師）
	江本　直・髙木　正文・西住　欣一朗・坂田　和弘・坂口　圭太朗・亀田　学・	
	廣田　静学	（熊本県教育庁文化課）

木崎　康弘・角田　賢治　　（熊本県立装飾古墳館）
鶴島　俊彦・和田　好史　　（人吉市教育委員会）
勢田　廣行　　（元荒尾市教育委員会）
竹田　宏司　　（玉名市教育委員会）
山口　健剛　　（山鹿市教育委員会）
黒田　裕司・益永　浩仁　　（和水町教育委員会）
坂本　重義　　（南関町教育委員会）
豊崎　晃一・網田　龍生・美濃口　雅朗・赤星　雄一・稲津　暢洋・金田　一精・
林田　和人・中原　幹彦　　（熊本市教育委員会）
阿南　亨・高見　淳　　（菊池市教育委員会）
清田　純一　　（熊本市立博物館）
緒方　徹　　（阿蘇市教育委員会）

発掘作業員　池田　賢哲・池田　玉子・田上　好信・田上　敦子・上野　誠也・上野　重子・
安武　容子・安武　京子・佐野　新子・中原　節子・池田　慶子・池田　冨代子・
小浜　武子・荒井　泰臣・澤田　まり子・片山　あつ子・笠　うめ子・岡元　美子・
藤木　悌一・松岡　豊茂・上村　恵正・太田黒　真理・太田黒　達夫・上野　ミツメ・
野崎　千枝子・国武　いつ子・坂田　美智子・内田　英美・村上　照美・
国武　達矢・岡元　俊太郎

整理作業員　正泉寺　直美・宮田　京子・松尾　すみ子・川上　直美

第II章　遺跡の位置及び環境

熊本県合志市は、熊本市の北側に隣接し、平成18（2006）年2月27日に旧西合志町と旧合志町の2町が合併し、合志市となった。市の面積は、53.17平方キロメートル、合併時の人口は52,516人で、現在は57,429人（平成24年12月末）である。

遺跡は、合志市で旧西合志町の南部地域である須屋地区に位置し、合志市須屋字居屋敷地内に所在している。遺跡が所在する市南部の須屋地区は、熊本市や菊陽町と接していることや、熊本市内への交通の利便さから住宅地として発展しており、人口が集中している。須屋城跡は、住宅化が著しいその市内に広がる菊池台地の側縁部から一段下がった微高地上にあり、海抜標高36m前後を測る。北側には、妙泉寺湧水池が、東側には江戸時代に灌漑用の目的で掘られた堀川が流れており、すぐ西側には熊本市内から菊池に至る国道387号が南北に走っており、古代から現在に至るまで、熊本と菊池を結ぶ交通の要所として、重要な地域であったと考えられる。

合志市の遺跡分布は、菊池川の支流である合志川や、その支流である塩浸川など複数の川が流れる市北部に集中する傾向が見られ、当遺跡周辺には少ない。

縄文時代

旧石器時代の遺跡は、現在のところ見つかっていない。市内では、縄文時代早期が一番古く、轟遺跡や野付遺跡、上生上の原遺跡などで押型文土器が出土している。上生上の原遺跡は、熊本県教育庁文化課（以下県文化課）により昭和63年から平成2年にかけて発掘調査が行われ、押型文土器を伴う集石群が多数検出されている。後期では、熊本県の「御手洗式土器」の標式遺跡である御手洗遺跡や、御領期と考えられる国指定の二子山打製石器製作遺跡がある。二子山遺跡は、昭和40年から42年にかけて計3回の部分的な確認調査が行われ、金峰山系の玄武岩質安山岩の母岩の確認と、その周辺から打製石斧の未製品や石片などが多数出土し、石器の製作工程が分かることや、また菊池地方を中心に二子山遺跡の石材で作られた打製石斧が広範囲にわたり分布していることが判明し、縄文時代の交易範囲を知ることができる全国でも稀な遺跡として、昭和47年に国の指定を受けた。須屋城跡の近くには、すぐ北側の台地上に包蔵地である向島遺跡がある。

弥生時代

遺跡の近くには、中期で黒髪期の合口甕棺が発見された宿の山遺跡や、梨の木遺跡がある。市内には、前期の遺物が出土した遺跡は今のところ確認されていない。菊池川水系には、支石墓が多く認められ、市内には永田支石墓や後川辺遺跡群の権現原遺跡内にある安山岩露頭も支石墓の可能性が指摘されている。平成17年に発掘調査された陣ノ内遺跡からは、中期の甕棺が10基検出されており、中から人骨や遺物の出土は全く無かった。周辺に、集落の存在が考えられる。後期になると、遺跡数も増える。前述の陣ノ内からは、竪穴住居跡こそ検出されていないが、後期後半から終末にかけての並行に走る2条の溝が検出され、断面の形状などから集落を囲む環濠と考えられる。調査者は、出土土器に時期差は認められないとして、同時期の溝で二重に環濠を巡らした集落跡と考えられている。この様に二重に環濠を巡らせた集落は、平成元年度から3年度にかけて発掘調査された、生坪地区の石立遺跡などでも確認されている。他には、後期の竪穴住居跡内から「S字文」鏡が出土した木瀬遺跡や、後期の甕棺内より南海産のゴホウラ製貝輪が出土した御領遺跡、高木原遺跡などが上げられ、市の北部地域で合志川や塩浸川、芋扱川など河川に沿った台地上に多く認められる。

古墳時代

古墳は、他の時代同様市北部地域の河川近くの台地上に築造されている。当市を代表する黒松古墳群は、合志川の左岸台地上に築造され、直径約40m、高さ約7mの円墳で、県内でも最大級の規模を測る1号（ヌレ観音）古墳を中心とする大小の円墳で構成され、市内に6基、菊池市泗水町に3基の計9基が残っている。古墳は、発掘の記録や盗掘の痕跡がなく未発掘であり、詳細は不明であるが4世紀から5世紀の築造と考えられる。黒松古墳群の北側崖面には、塚口横穴群や平野横穴群などの横穴墓が存在する。塚口横穴群は、昭和46年に調査され、金環等の装飾品や鉄剣等の鉄製品、須恵器などが多量に出土した。黒松古墳群が立地する台地の東側には、塩浸川を挟んで弘生、生坪の台地がある。この台地上には、直径約30m、高さ約5mの円墳である生坪塚山古墳や、阿蘇溶結凝灰岩製の家型石棺の蓋外側に連続三角文を線刻した石立（別名姫塚）石棺、それにヤンボシ塚古墳や中林古墳など、合志川や塩浸川沿いの台地上に立地している。また、塩浸川のさらに上流である上庄地区には、多数の人骨と共に副葬品として金環や南海産のイモガイ製貝輪、ガラス玉、切子玉などの装身具や、鉄鏃、鑿、刀子などの鉄製品が出土した豊岡宮本横穴群がある。豊岡宮本横穴群の横穴墓は、発掘調査の後埋め戻しによる保存と、一部の横穴墓ついては内部が見学出来るよう整備を行っている。現在のところ、市内において前方後円墳は確認されていない。集落跡としては、県文化課により発掘調査が実施された沖田遺跡や上生上の原遺跡がある。沖田遺跡からは、弥生時代後期末の特徴である、屋内の壁際にベッド状の高まりが残る前期の竪穴住居跡が検出されている。

古代

当市は、古代から明治時代までは「合志郡」に属していた。明治29年の郡制施行後は、菊池郡と合併し「菊池郡」となった。『日本書紀』の持統10（696）年に、白村江の戦い（663年）で唐軍の捕虜となり、33年の歳月を経て帰国した肥後国皮石郡の壬生諸石と伊豫国風速郡の物部薬の2名に対し、その労に報いるため朝廷から官位や、絁や糸、布、鍬、稲、水田などが授与され、また調と庸、それに徭役が免除されたことが記されている。当初「合志」は、「加波志（かはし）」あるいは「皮石（かはし）」と表記され、和銅6年（713）年に現在の「合志」に改められたとされている。現在、当市や周辺に壬生という地名は残っていないが、市の北西部で旧植木町と旧泗水町に接する地域に上生（わぶ）という字名が残っている。上生の近くには、黒松古墳群や高熊古墳（熊本市植木町・前方後円墳）など多くの古墳が築造され、古墳時代からこの地域周辺は中心地域であったことがうかがえ、壬生諸石の出身地の可能性が高いと考えられる。古代の合志郡は、当市を含め熊本市植木町（旧鹿本郡植木町）、菊陽町、大津町、菊池市泗水町（旧菊池郡泗水町）、菊池市七城町（旧菊池郡七城町）、菊池市旭志（旧菊池郡旭志村）の広い範囲に及ぶ。日本三代実録には、平安時代の貞観元（859）年に合志郡の西部を割いて山本郡が建てられ、肥後国は13郡から14郡になったことが記されている。山本郡は、現在の植木町を中心に、前述した上生という大字名が残る合志市の北西部の一部や泗水町の一部、それに七城町の一部が含まれる。また、和名類聚抄には、分立後の合志郡の郷名として合志郷、小川郷、山道郷、烏嶋郷、口益郷、烏取郷の六つの郷名が見える。これらの郷の比定地については、諸説があり、定まった郷は現在までのところない。生坪地区の八反畑遺跡や八反田遺跡、迫原遺跡からは、奈良～平安時代にかけての方形の竪穴住居跡が多数検出されたが、単独で検出される例はほとんどなく、重複した状態で検出された。このことや、周辺市町村の発掘調査結果を踏まえ、西合志町史の古代編の執筆者である故田辺哲夫氏は同町史の中で、貞観元年の合志郡から山本郡が分立した理由について、急激な人口増加によるものが主な原因と考えられている。

第1図　周辺遺跡図

第１表　合志市の遺跡

遺跡番号	遺　跡　名	所　在　地	時　代	種　別	指定	備　　考
1	中林古墳	栄　中林	古墳	古墳		円墳2基、うち1基は勢得塚と呼ばれている
2	中林遺跡	栄　中林	縄文	包蔵地		御領式土器
3	中林西原遺跡群	栄　西原・城山	古代・弥生	集落		千束遺跡　県調査平成3年、円面硯出土
4	後川辺遺跡群	栄　後川辺	古墳	包蔵地		権現原、南原、西原遺跡、県調査　昭和63年、野辺田式土器
5	ヤンボシ古墳	栄　村岡	古墳	古墳		円墳
6	千束城跡	栄　城山	中世	城		
7	千経塚遺跡	上庄　千経塚	弥生・他	集落		県調査　昭和61年
8	野付遺跡	福原　野付	縄文・他	包蔵地		押型文、黒髪式甕棺
9	医者寺跡	竹迫　屋敷	中世	寺院	市	古塔、一字一石経塔
10	陣ノ内遺跡	幾久富　陣ノ内	弥生・他	集落		甕棺、環濠集落
11	宮ノ前遺跡	上庄　宮前	弥生	包蔵地		須玖式・黒髪式土器・土師器
12	小園遺跡	豊岡　小園	縄文～弥生	包蔵地		御領式土器、石器、弥生土器
13	竹迫城跡	上庄　城山	中世	城	市	中世城
14	木瀬遺跡	上庄　木瀬	弥生	包蔵地	市	竪穴式住居跡、S字文鏡、重弧文式土器・石包丁
15	虚空蔵横穴	上庄　蛇ノ尾	古墳？	古墳？	市	近世の岩窟？
16	御手洗遺跡	幾久富　御手洗	縄文・他	包蔵地	市	縄文後期・御手洗式土器・土師器
17	原口新城跡	豊岡　宮本	中世	城		県調査
18	桑鶴遺跡	竹迫　福原	縄文・弥生	包蔵地	市	昭和50年圃場整備、盛土で残す
19	八久保遺跡	竹迫　八久保	縄文	包蔵地		阿高式・御領式
20	竹迫字上遺跡	竹迫　字上	縄文	包蔵地		県調査、三万田式、弥生中期
21	群山遺跡	豊岡　群山	古代・中世	包蔵地		骨蔵器
22	飯高山遺跡	幾久富　飯高	弥生	包蔵地		
23	御領遺跡	竹迫　福原	縄文～弥生	包蔵地		土偶・御領式土器、甕棺よりゴホウラ製貝輪
24	鳶遺跡	豊岡　福原	弥生	包蔵地		押型文・黒髪式土器
25	豊岡宮本横穴群	豊岡　宮本	古墳	古墳		12基、平成16年調査
26	蛇ノ尾城跡	上庄　蛇ノ尾	弥生	包蔵地		竪穴式住居跡、中世城の可能性
27	上生遺跡	上生　北野	弥生	埋葬		
28	城遺跡	上生　城敷	古墳	包蔵地		野辺田式土器、三日本書紀、誌石の本拠
29	沖田遺跡	野々島　沖田	縄文、他	包蔵地		丸木弓、御領式・野辺田式・土師器・石器
30	黒松岡原遺跡	合生　黒松	縄文	集落		表面に土器細片散布・石斧出土
31	黒松萩の迫遺跡	合生　萩の迫	弥生	包蔵地		
32	北野甕棺	上生　北野	弥生	埋葬		
33	聖寿寺跡	上生　城	中世	寺社		
34	上原遺跡	上生　上原	縄文～奈良	包蔵地		
35	城塚遺跡	上生　城	縄文～古代	包蔵地		
36	猿雪城跡	上生　城敷	中世	城		
37	城敷古墳	上生　城敷	古墳	古墳		
38	アミダメ遺跡	野々島　古閑・前田	縄文～古代	包蔵地		
39	延寿寺遺跡	野々島　古閑	縄文～古代	包蔵地		
40	巡廻遺跡	野々島　巡廻	縄文～古代	包蔵地		
41	永田支石墓	野々島　永田	弥生	埋葬		支石墓
42	永田石棺	野々島　永田	古墳	埋葬		
43	瀬叶古墳	野々島　瀬叶	古墳	古墳		
44	汐浸石棺	上生　汐浸	古墳	埋葬		
45	笹塚遺跡	上生　笹塚	弥生・古墳	包蔵地	市	市指定　笹塚古墳
46	永田遺跡	野々島　永田	弥生・古墳	包蔵地		
47	向原遺跡	上生　向原	弥生・古墳	包蔵地		
48	ヂナン下遺跡	上生　池尻	弥生～古代	包蔵地		
49	岡原遺跡	合生　岡原	縄文～古代	包蔵地		
50	古閑原遺跡	野々島　古閑	弥生・古墳	包蔵地		
51	城甕棺群	上生　城	弥生	埋葬		
52	中尾遺跡	野々島　天神島・中尾原	縄文・弥生	包蔵地		縄文・弥生・古墳期土器片
53	黒松古墳群	合生　萩の迫	古墳	古墳	市	
54	生坪古墳群	合生	古墳	古墳	市	市指定　生坪塚山古墳
55	八反田遺跡	合生	弥生	埋葬		旧西合志町調査、甕棺・壺・柵・石斧
56	立割横穴群	合生　立割	古墳	古墳		横穴数基から成る
57	小合志古墳	合生　小合志　小合志原	古墳	古墳		円墳、上石横穴石室消滅、副葬品多数
58	弘生原遺跡	合生　弘生	弥生～古墳	包蔵地		弥生野辺田式、土師器・須恵器土器
59	道原ハヤマ古墳	合生　道原	古墳	古墳		円墳、箱式石棺、鉄鎌・文字ある土師器
60	江原遺跡	合生　江原	古墳	包蔵地		野辺田式、土師器・須恵器片多数出土
61	道原長塚古墳	合生　道原	古墳	古墳		箱式石棺
62	高本原遺跡	合生　高本	縄文～奈良	包蔵地		縄文後期、奈良時代、出土品大量
63	合志郡家跡推定地	合生　玉蓮寺	古代	包蔵地		
64	玉蓮寺跡	合生　玉蓮寺	中世	寺社		
65	弘生城跡	合生	中世	城		
66	塚口横穴群	合生　塚口	古墳	古墳		
67	八反原遺跡	合生　弘生	弥生・古墳	集落		旧西合志町
68	野々島遺跡	野々島　北	弥生、他	包蔵地		畑地、弥生・野辺田式土器・土師器
69	八反畑遺跡	野々島　八反畑	縄文～弥生	包蔵地		旧西合志町調査、縄文～弥生土器、中央小校庭
70	フタゴ遺跡	野々島　天神免	古墳	古墳		円墳
71	枇杷田遺跡	野々島　中原・枇杷田	縄文	包蔵地		縄文早期
72	西合志中学校跡地	野々島　東原	縄文・古墳	包蔵地		御領式土器・古式勾玉・野辺田式・須恵器
73	野々島土器跡	野々島　八通丸	中世	包蔵地		八通丸
74	花園遺跡	野々島　花園	弥生～古代	包蔵地		
75	野田原遺跡	野々島　野田原	弥生・古墳	包蔵地		
76	馬飼場遺跡	野々島　馬飼場	古代	包蔵地		
77	弁天山磐座遺跡	野々島　野々島	古代	祭祀		
78	愛染寺遺跡	野々島　外園	中世	寺社		
79	花園上器跡	野々島　花園	中世	包蔵地		
80	二子山石器製作跡	野々島　天神免	縄文	包蔵地	国	石器各種・原石
81	中原支石墓	野々島　中原	弥生	埋葬		
82	丸の内遺跡	野々島　丸の内	縄文	包蔵地		
83	笹山遺跡	御代志	縄文	包蔵地		
84	小合志原遺跡	合生　辻久保　小合志原	縄文	包蔵地		
85	辻久保遺跡	合生　辻久保	縄文	包蔵地		
86	若原石棺	野々島　通称若原	古墳	埋葬		石棺群あり
87	中野遺跡	野々島　中野	縄文	包蔵地		
88	木原野遺跡A・B	野々島　木原野	縄文	包蔵地		石鏃
89	宿の山（須屋）	須屋　宿の山	弥生	埋葬		弥生合口甕棺・土師器片一括
90	梨の木	須屋　梨の木	縄文	包蔵地		
91	向島	須屋　向島	縄文	包蔵地		
92	須屋城跡	須屋　城跡	縄文～中世	城		合志市調査　中世城跡
93	妙泉寺跡	須屋	中世	寺社		
94	ヌレ観音古墳	合生	古墳	古墳		
95	巡廻遺跡	野々島　巡廻	弥生・古墳	包蔵地		
96	船人遺跡	須屋　船人	中世	館		県調査　平成13年
97	萩迫横穴群	合生　萩迫	古墳	古墳		旧西合志町調査
98	豆ヶ原遺跡群	上庄　豆ヶ原、境目、新地	縄文・弥生・古代			県調査　平成元年
99	上窪遺跡	上庄　上窪	古代			県調査　平成元年
100	桜山遺跡	上庄　桜山	古代			骨蔵器
101	畔遺跡	上庄　畔	古代			県調査　平成3年　墨書土器
102	出口遺跡	上庄　出口	古代			県調査　平成3年　墨書土器
103	揚上遺跡	上庄　揚上	古代			県調査　平成3年　墨書土器
104	中野遺跡	上庄　中野	縄文			縄文晩期
105	天神本遺跡	豊岡　天神本	古代	埋葬		本時発見　骨蔵器より火葬骨・唐式鏡出土
106	寺崎城跡	上庄　寺崎	弥生・中世	城		中世城跡の可能性
107	今町遺跡	幾久富　今町	中世	埋葬		旧合志役場跡、現町営住宅付近

中世

市内には、今回発掘調査を実施した須屋城跡の他に旧合志町に竹迫城跡がある。竹迫城を治めた竹迫氏は、「肥後国誌」によると、鎌倉時代初めの12世紀末に合志郡地頭職として下向した中原親能の四男師員が始まりとあり、この中原師員が「竹迫輝種」と名を改め、「竹迫氏」の祖として統治の礎を築いたとされている。「妙正寺文書」では、貞和年間の14世紀半ばに鹿子木貞基から種継に代わり、竹迫を名乗るとある。合志氏については、「合志系図」では佐々木長綱が延元2（1337）年延暦寺領合志郡の寺社奉行として大津真木に下向し、合志氏と称すとある。南北朝時代には、合志幸隆が南朝方の菊池氏と対峙し、大友氏とともに菊池本城を攻め、陥落させ一時占拠したが、室町時代になると菊池氏の家臣となり、合志隆岑が永正7（1510）年に竹迫氏に代わり竹迫城に入城し合志郡を治めた。合志宣頓は、天正13（1585）年島津氏の阿蘇氏への攻撃が激しくなり危機感を覚えたことから、島津氏に対し親重の隠居を条件に家督存続を願いでるが認められず、親重は降伏し下城している。その後、合志郡は島津氏の管理下となり、天正15（1587）年豊臣秀吉の九州平定後は佐々成政、つづいて加藤清正の治下となり、加藤以降は細川藩政下となった。

第Ⅲ章　遺跡の概要と層位

第1節　遺跡の概要

須屋城跡は、古文書等の文献が殆ど残っていないことからその詳細については不明な部分が多いが、中世期の南北朝時代に菊池氏の庶流であった須屋市蔵隆正の居城と伝えられている。城跡は、微高地に作られた平城で、城域は東西約200m、南北約200mの面積約40,000㎡の範囲と考えられている。城域内には、現在でも陣の山や下屋敷、居屋敷などの城関連と考えられる字名が、さらには城の遺構と考えられる空堀や土塁の一部も残っている。

今回は、遺跡内を国道3号熊本北バイパスが横断することになり、建設工事に先立ち路線区域内の発掘調査を実施した。発掘調査は、平成13年の10月（第Ⅰ次調査）から開始し、平成18年度（第Ⅵ次調査）までの6年間実施した。6年間（Ⅵ次）に亘る発掘調査面積は、Ⅰ次調査では中世期約3,000㎡と縄文期約500㎡の計約3,500㎡、Ⅱ次調査では中世期約3,500㎡と縄文期約2,500㎡の計約6,000㎡、Ⅲ次調査では中世期約3,800㎡と縄文期約1,400㎡の計約5,200㎡、Ⅳ次調査では中世期約4,300㎡と縄文期約800㎡の計約5,100㎡、Ⅴ次調査では中世期約800㎡と縄文期約800㎡の計約1,600㎡、Ⅵ次調査では中世期約3,120㎡と縄文期約3,120㎡の計約6,240㎡で、中世期約18,520㎡、その下層の縄文期約9,120㎡、上層と下層を合わせた発掘調査の総面積は約27,640㎡である。調査は、平成13年度から15年度までが周知の埋蔵文化財包蔵地である中世期須屋城跡と考えられる部分の調査で、平成16年度以降の調査地ついては国土交通省熊本河川国道事務所の用地取得に応じて実施された、熊本県教育庁文化課の遺跡確認調査の結果を基に、必要とされた地域の発掘調査を平成18年度まで実施した。出土遺物の洗浄、注記、接合等の基礎的整理作業は、平成14年度より開始し、平成20年度まで行い、平成21年度から出土遺物の実測やトレースなど報告書作成の為の専門的整理作業を開始し、平成24年度に発掘調査報告書を刊行した。須屋城跡の発掘調査事業を終了した。

第2節　遺跡の層位

遺跡の基本層序は、以下のとおりである。

第Ⅰ層　表土　　厚さ20～30cm

第Ⅱ層　黒色土　（7.5YR2/1）　　厚さ40～50cm

粘性はなく、サラサラしている。

第Ⅲ層　黒褐色土　（7.5YR2/2）　　厚さ20～30cm

粘性があり、場所によっては黄色味が強い所も認められる。

第Ⅳ層　黒褐色土　（7.5YR3/2）　　厚さ30～40cm

粘性が強く、しまり、乾燥するとクラックが入る。

第Ⅴ層　黒褐色土　（7.5YR3/2）　　厚さ20～30cm

火山ガラスを多量に含み、直径5～10cm程の塊を多量に含む。

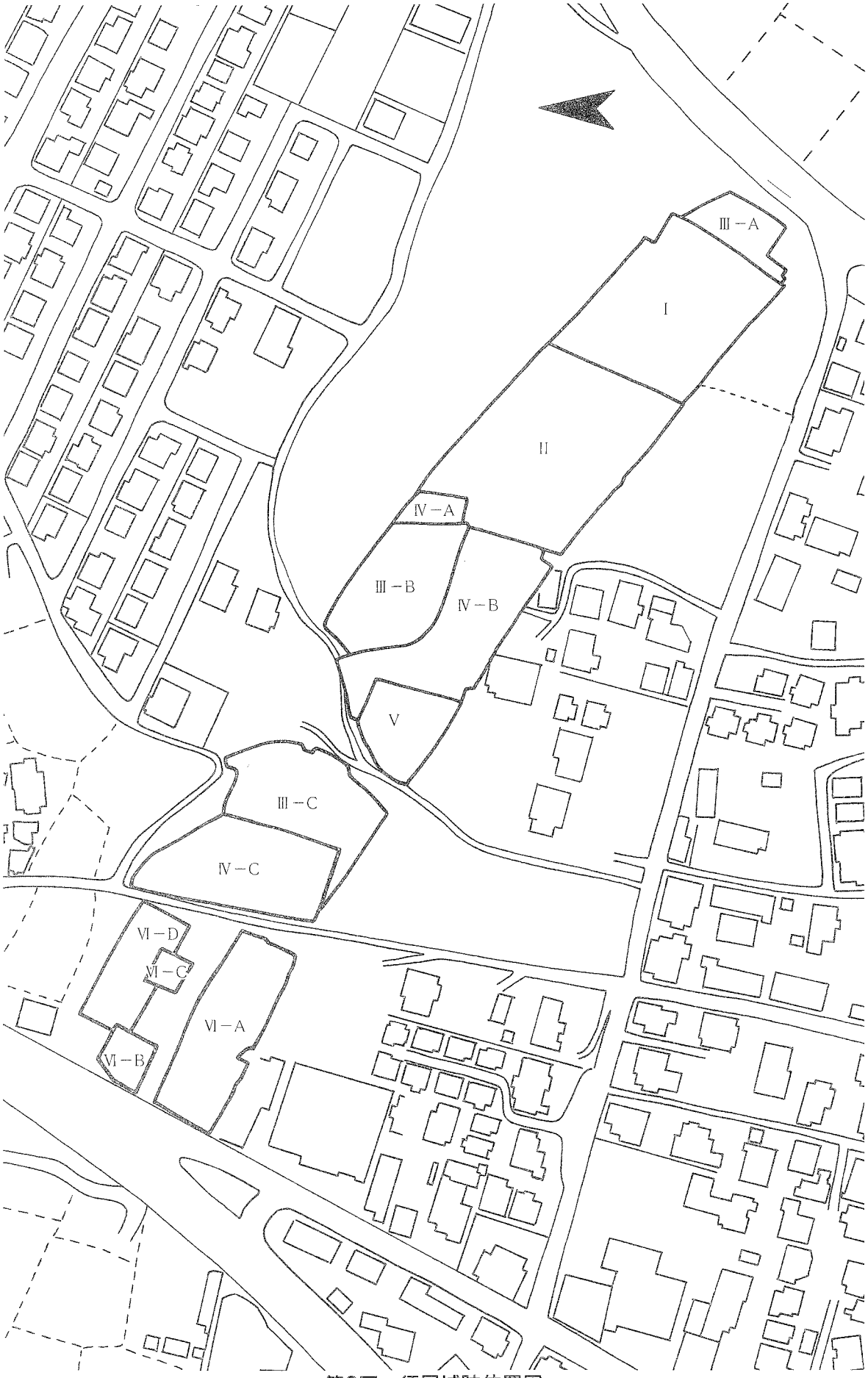
第Ⅵ層　黒褐色土　（7.5YR3/3）　　厚さ20～30cm

火山ガラスを多量に含み、直径5～10cm程の塊を多量に含む。

第Ⅶ層　明褐色土　（7.5YR5/6）

粘性が強く、しまっている。

遺跡の層序は、熊本県内の洪積台地上に普遍的に見られる、阿蘇などの火山から噴出された火山灰の堆積土である。遺跡第Ⅱ層は、弥生時代以降の遺物を含む層で、阿蘇カルデラから噴出の火山灰であるクロボク



第2図　須屋城跡位置図

に相当する。第Ⅲ層は、縄文時代の遺物を含む層で、約6,300年前に鬼界カルデラから噴出された、「AH火山灰」を含むアカホヤに相当する。第Ⅳ層は、上面に縄文時代早期の遺物を含むクロニガに相当する。第Ⅴ層及び第Ⅵ層は、約25,000年前に姶良カルデラから噴出された、姶良TN火山灰「AT」の火山ガラスを含む塊が多量に混入しており、ニガシロに相当する。第Ⅶ層は、ローム層である。

第Ⅳ章　調査の成果

第1節　Ⅰ次(2001年度)調査の成果

1．調査の概要と経過

須屋城跡の発掘調査は、道路建設予定地内の用地の取得が部分的であり、用地交渉途中であることを考慮し、02年度までは更に用地の取得が済んでいる遺跡の東側部分で市道近くより西側へ発掘調査を順次進めていき、03年度以降については用地の取得状況に応じて発掘調査を進めることにした。

Ⅰ次調査である01年度調査は、県文化課による確認調査の結果中世の遺構・遺物の他に縄文時代の遺物も出土していることから、縄文時代の包含層まで調査する必要性が生じ、2面の調査をすることになった。調査地区は、X座標のX＝－16425からX＝－16340までと、Y座標のY＝－24925からY＝－24990までの間で、座標軸のY＝－24925を起点に西へAからアルファベットで、座標軸のX＝－16425を起点に北へ1から数字を付し、アルファベットと数字を組み合わせてグリッド番号としている。一つのグリッドの大きさは、5m×5mである。本年度調査を行ったグリッドは、東西がAからMの間で南北が2から17の間である。調査面積は中世期約3,000㎡と、縄文期約500㎡の合計約3,500㎡である。縄文期の調査面積が少ないのは、調査地の大部分で縄文期の遺物包含層が住宅建築などに伴う整地で削平され消滅していた為で、そのほとんどがローム層で遺構の検出を行っている。

発掘調査は、01年10月10日より開始し、02年3月29日まで実施した。

2．調査の成果

SD－02（2号溝）

遺構（第4図）　遺物（第18図～第30図）　第2表

A～K－8～12のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、調査区の北側部分をほぼ東西の方向に掘られており、約55.7m分を検出した。東側及び西側は、本年度調査区より先の方に伸びていく、東側部分については南の方向に少しずつ曲がっていくのが確認された。溝の幅は、1.7mから広い部分で3.4mを測る。深さは、1.75mから深い部分で2.05mを測る。溝の断面は、底の部分が狭いV字形を呈している。

遺構内からは、溝の中位ぐらいから中世期の遺物が多量に出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

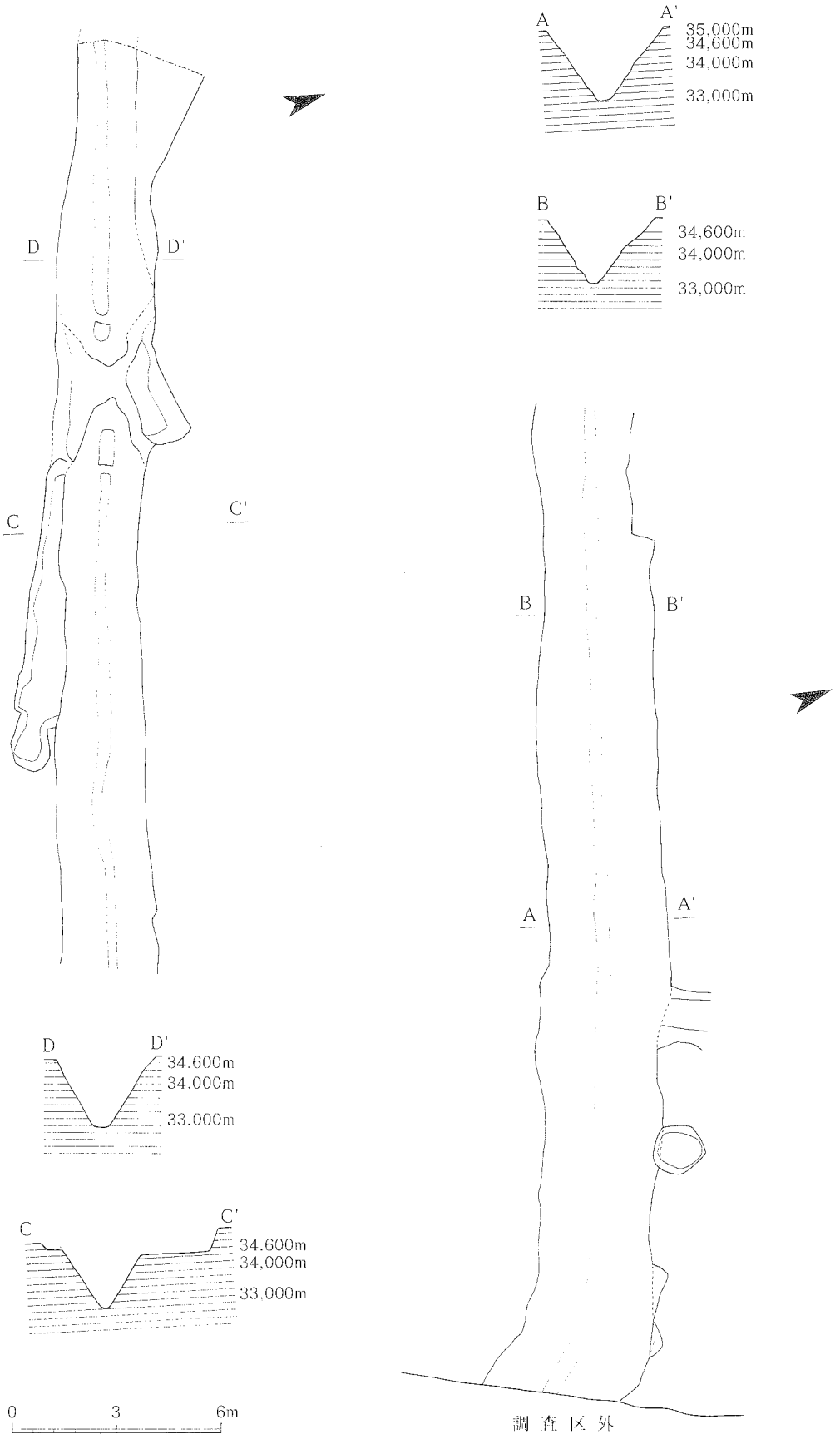
1号円形遺構

遺構（第5図）　遺物（第31図～第35図）　第3表

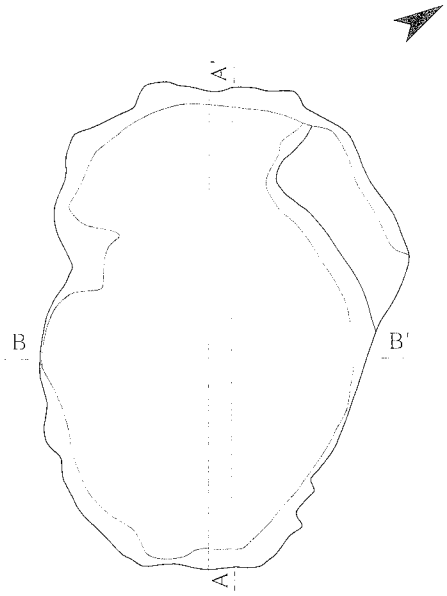
F～H－13～14のグリッドにかけて、検出した形状が楕円形を呈した遺構である。遺構は、主軸を東西方向に向き掘られており、規模は長径が7.6mで、短径が5.66mとかなり大型で、深さは0.9mを測る。断面は、上方に向かってやや開いていくU字形を呈している。

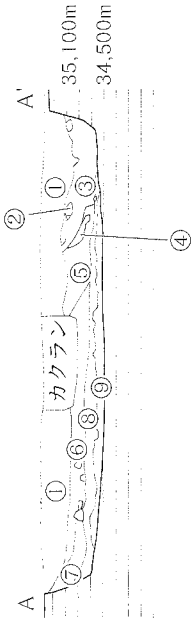
遺構内からは、中世期の遺物が多く出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

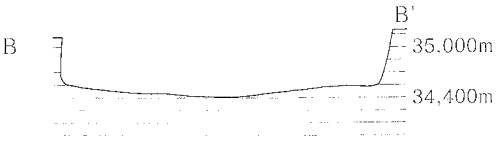
第3図　Ⅰ次調査区遺構配置図及びグリッド図


A
A'
35.000m
34.600m
34.000m
33.000m
B
B'
34.600m
34.000m
33.000m
D
D'
C
C'
B
B'
A
A'
D
D'
34.600m
34.000m
33.000m
C
C'
34.600m
34.000m
33.000m
0
3
6m
調 査 区 外

第4図　SD－02実測図



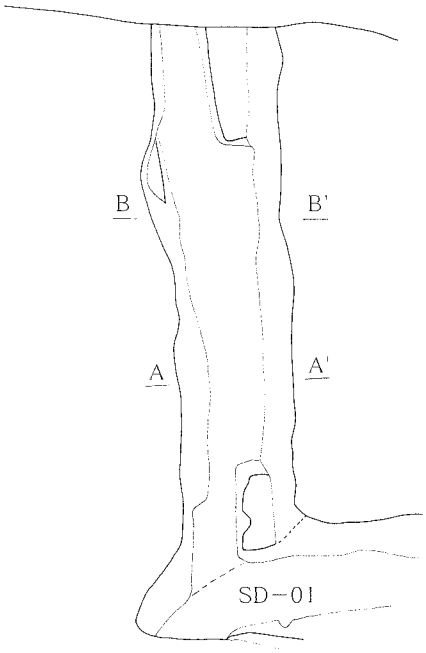


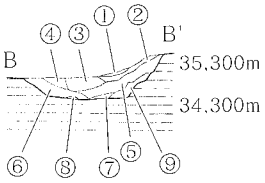


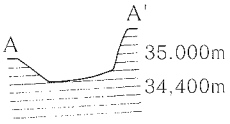
①7.5YR黒褐3/2　粒子状ローム　多。
②7.5YR黒褐3/2にブロック状ローム混入。
③7.5YR黒褐2/2。
④ロームに7.5YR黒褐2/2が少量混入。
⑤7.5YR明褐5/6ローム。
⑥7.5YR黒褐3/2。
⑦
⑧ロームに7.5YR黒褐2/2が少量混入。
⑨ロームに7.5YR黒褐2/2が多量混入。

0　3　6m

第5図　1号円形遺構実測図



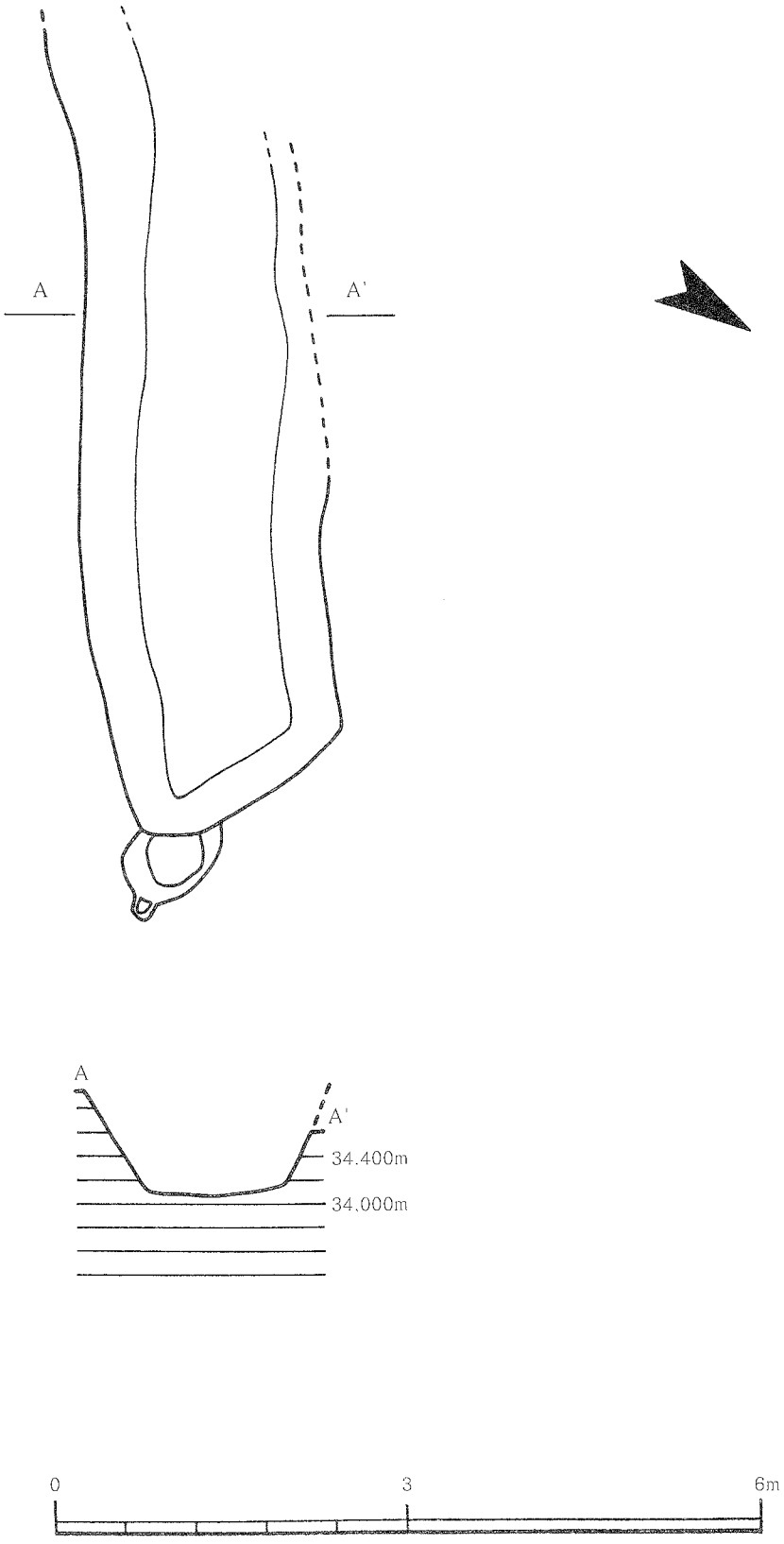




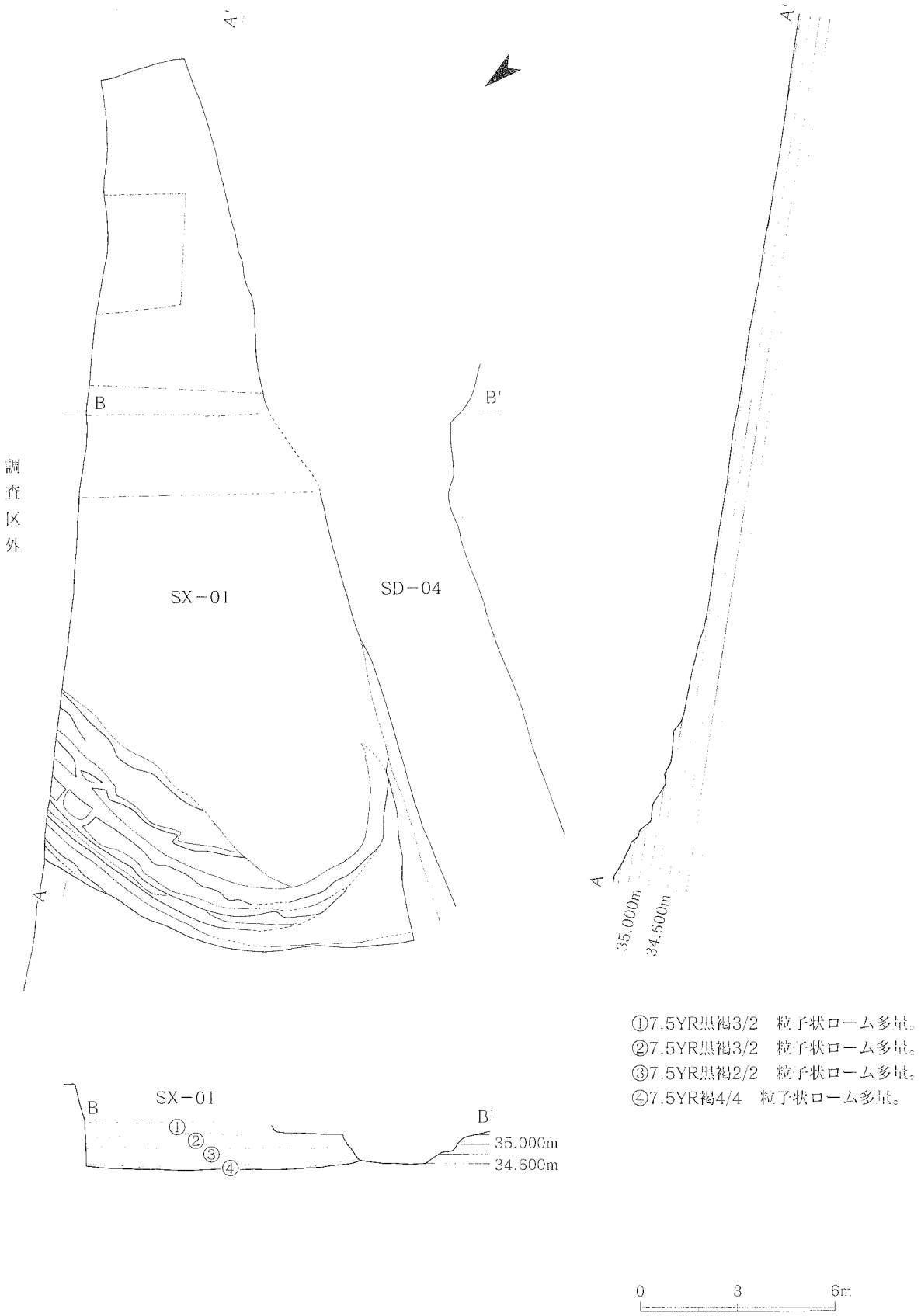
①粘土、7.5YRにぶい褐6/3
②7.5YR黒褐3/2　粒子状ローム少。
③7.5YR黒褐3/2、2/2の混合。
　　粒子状、ブロック状のロームを多く含む。
④7.5YR黒褐3/2。
⑤7.5YR黒褐2/2　粒子状ローム少。
⑥7.5YR黒褐3/2　粒子状ローム多。
⑦7.5YR黒褐3/2。
⑧ ⑨ 7.5YR明褐5/6ロームに、
　　7.5YR黒褐2/2が混入。

0　3　6m

第6図　SD−06実測図



第7図　SD－13実測図


A'
B
B'
調査区外
SX−01
SD−04
A
A'
A
35.000m
34.600m
①7.5YR黒褐3/2　粒子状ローム多量。
②7.5YR黒褐3/2　粒子状ローム多量。
③7.5YR黒褐2/2　粒子状ローム多量。
④7.5YR褐4/4　粒子状ローム多量。
B
SX−01
①
②
③
④
B'
35.000m
34.600m
0
3
6m

第8図　SX−01実測図

SD－06（6号溝）

遺構（第6図）　遺物（第36図～第37図）　第4表

I～K－12～14のグリッドにかけて、検出した溝遺構である。遺構は、2号溝の北側に並行して東西に掘られており、2号溝と本遺構との間隔は5mを測る。遺構は、西側が次年度調査区に伸び、東側は近代の溝により切られており全体は不明であるが、13.2m分を検出した。溝の幅は、2.75mで、深さは0.88mを測る。溝の断面は、上方に向かってやや開いていくU字形を呈している。

遺構内からは、中世期の遺物が多く出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

SD－13（13号溝）

遺構（第7図）　遺物（第38図～第41図）　第5表

J～L－9～10のグリッドにかけて、検出した溝遺構である。遺構は、南北に掘られており、南側部分は削平を受けて残っていなかったが6.72m分を検出した。溝の幅は、1.9mから広い部分で2.1mを測る。深さは、0.9mを測り、断面の形状は上方に向かってやや開いていくU字形を呈している。

遺構内からは、中世期の遺物が多く出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

SX－01（1号不明遺構）

遺構（第8図）　遺物（第42図～第47図）　第6表

C～G－11～14のグリッドにかけて、検出した形状が楕円形を呈した遺構である。東側と北側は、調査区外に広がり、また南側は溝に切られており、形状や正確な規模は不明であるが、長さは19.2m以上で、深さは0.58mを測る。西側には、階段状に5段の段差が残っている。底には、砂等の堆積物や、粘土を底に貼ったような痕跡は認められなかった。

遺構内からは、中世期の遺物が多く出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

SX－02（2号不明遺構）

遺構（第9図）　遺物（第48図）　第7表

H－8～9のグリッドにかけて、検出した形状が不整楕円形を呈した遺構である。遺構は、北側を土坑により切られていることから、正確な規模は不明であるが長径が2.48m以上で、短径が1.8mである。深さは、0.37mを測る。断面は、上方に向かってやや開いていくU字形を呈している。

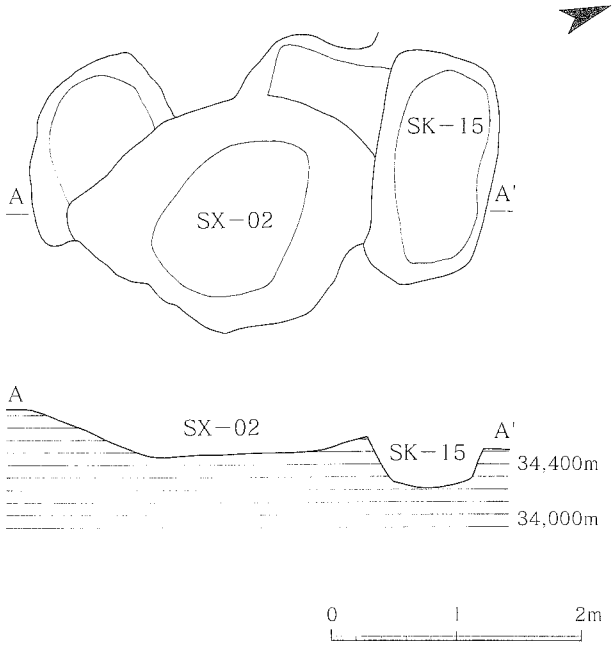
遺構内からは、中世期の遺物が多く出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

SK－01（1号土坑）

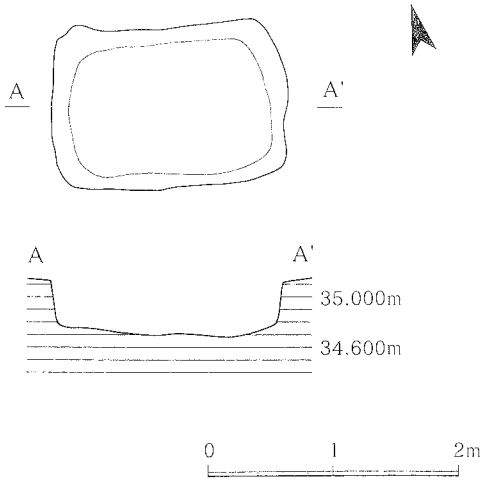
遺構（第10図）　遺物（第49図）　第8表

E－8グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を東西方向に向き掘られ、形状は隅丸長方形を呈している。規模は、長辺が1.79mで、短辺が1.25mで、深さは0.43mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

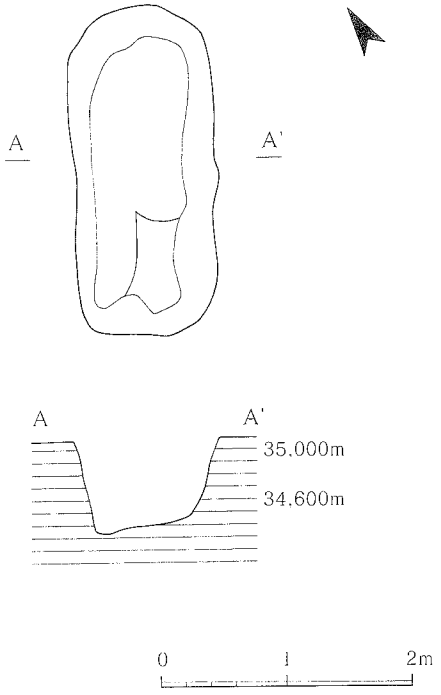
遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土している。



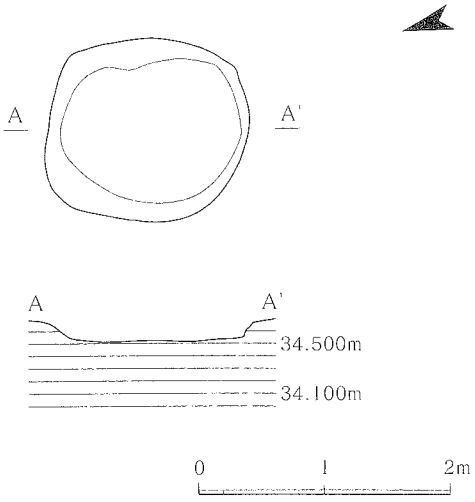
第9図　SX－02実測図



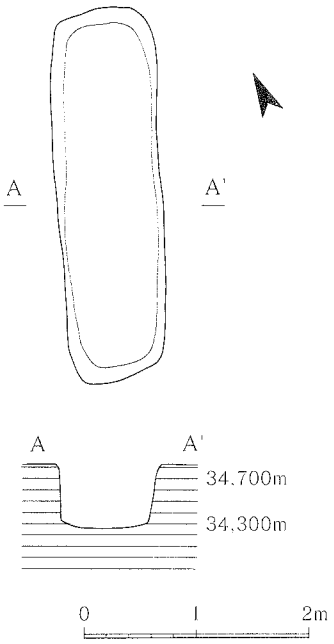
第10図　SK－01実測図



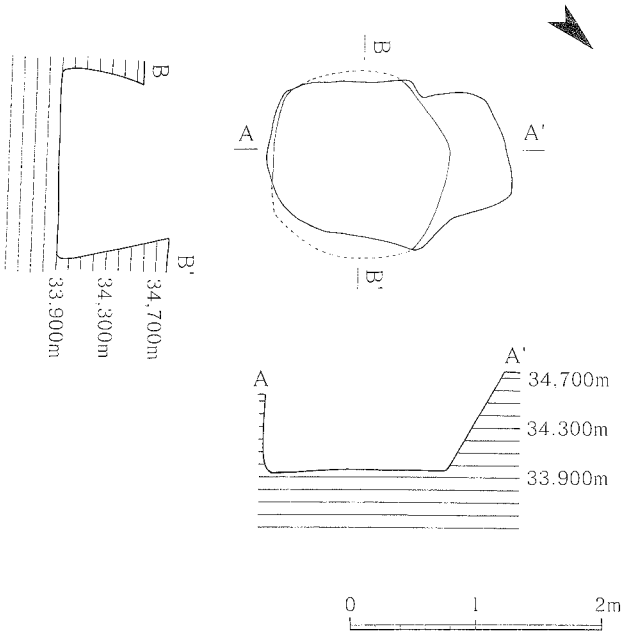
第11図　SK－02実測図



第12図　SK－05実測図



第13図　SK－06実測図



第14図　SK－07実測図

SK－02（2号土坑）

遺構（第11図）

G－8グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を南北方向に向き掘られ、形状は隅丸長方形を呈している。規模は、長辺が2．63mで、短辺が1．15mで、深さは0．73mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土している。しかし、小片のため図化できるものは無かった。

SK－05（5号土坑）

遺構（第12図）

H－6グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を南北方向に向き掘られ、形状は不整円形を呈している。規模は、長径が1.60mで、短径が1.45mで、深さは0.13mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土している。しかし、小片のため図化できるものは無かった。

SK－06（6号土坑）

遺構（第13図）

G～H－5グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を南北方向に向き掘られ、形状は隅丸長方形を呈している。規模は、長辺が3.38mで、短辺が0.93mで、深さは0.6mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土しているが、小片のため図化できるものは無かった。

SK－07（7号土坑）

遺構（第14図）遺物（第49図）第8表

F～G－7グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を南北方向に向き掘られ、形状は不整長方形を呈している。規模は、長辺が1.85mで、短辺が1.21mで、深さは0.9mを測る。断面は、底面が上面より広くなる袋状を呈している。

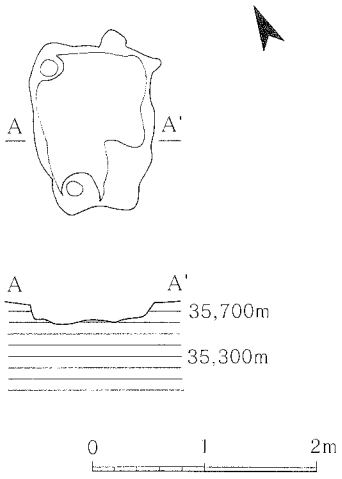
遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土している。

SK－08（8号土坑）

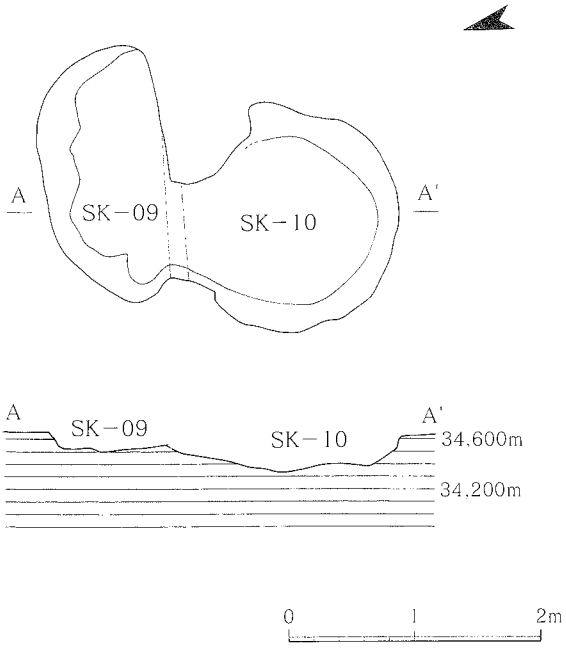
遺構（第15図）

H－7グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を南北方向に向き掘られ、形状は不整長方形を呈している。規模は、長辺が1.45mで、短辺が1.07mで、深さは0.12mを測る。断面は、上方が大きく開く皿形を呈している。

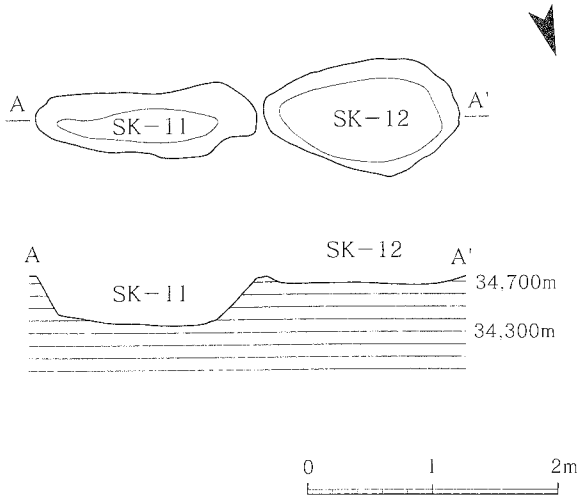
遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土しているが、小片のため図化できるものは無かった。



第15図　SK－08実測図



第16図　SK－09実測図



第17図　SK－11実測図

SK－09（9号土坑）

遺構（第16図）

H～I－7グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を東西方向に向き掘られ、形状は不整楕円形を呈している。規模は、長径が2.04mで、短径が1.02mで、深さは0.11mを測る。断面は、上方が大きく開く皿形を呈している。土坑は、別の土坑と切りあっており、新旧関係は調査時には分からず不明である。

遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土しているが、小片のため図化できるものは無かった。

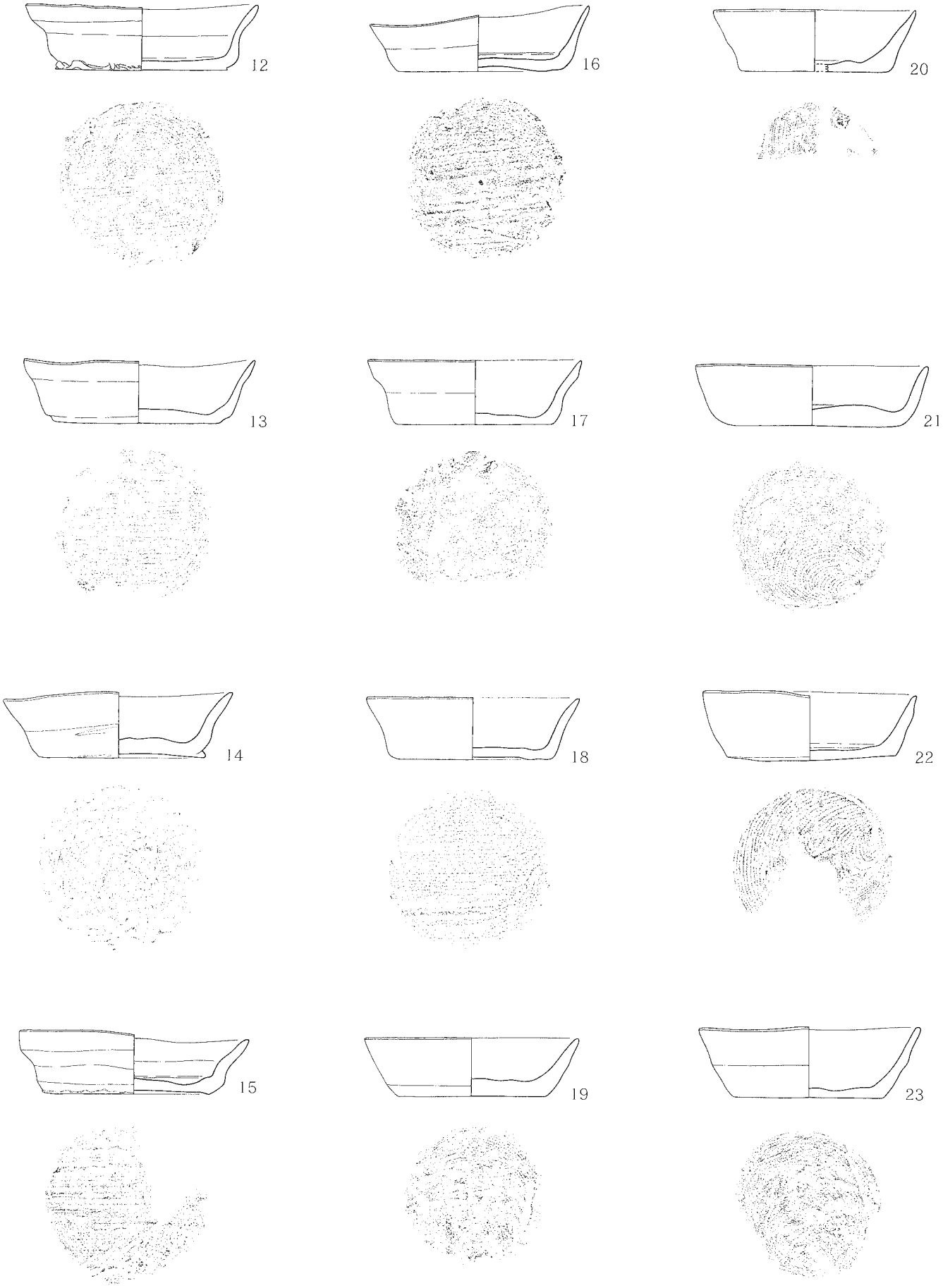
SK－11（11号土坑）

遺構（第17図）

H－5グリッドに、検出した土坑である。遺構は、主軸を東西方向に向き掘られ、形状は不整楕円形を呈している。規模は、長径が1.75mで、短径が0.55mで、深さは0.4mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

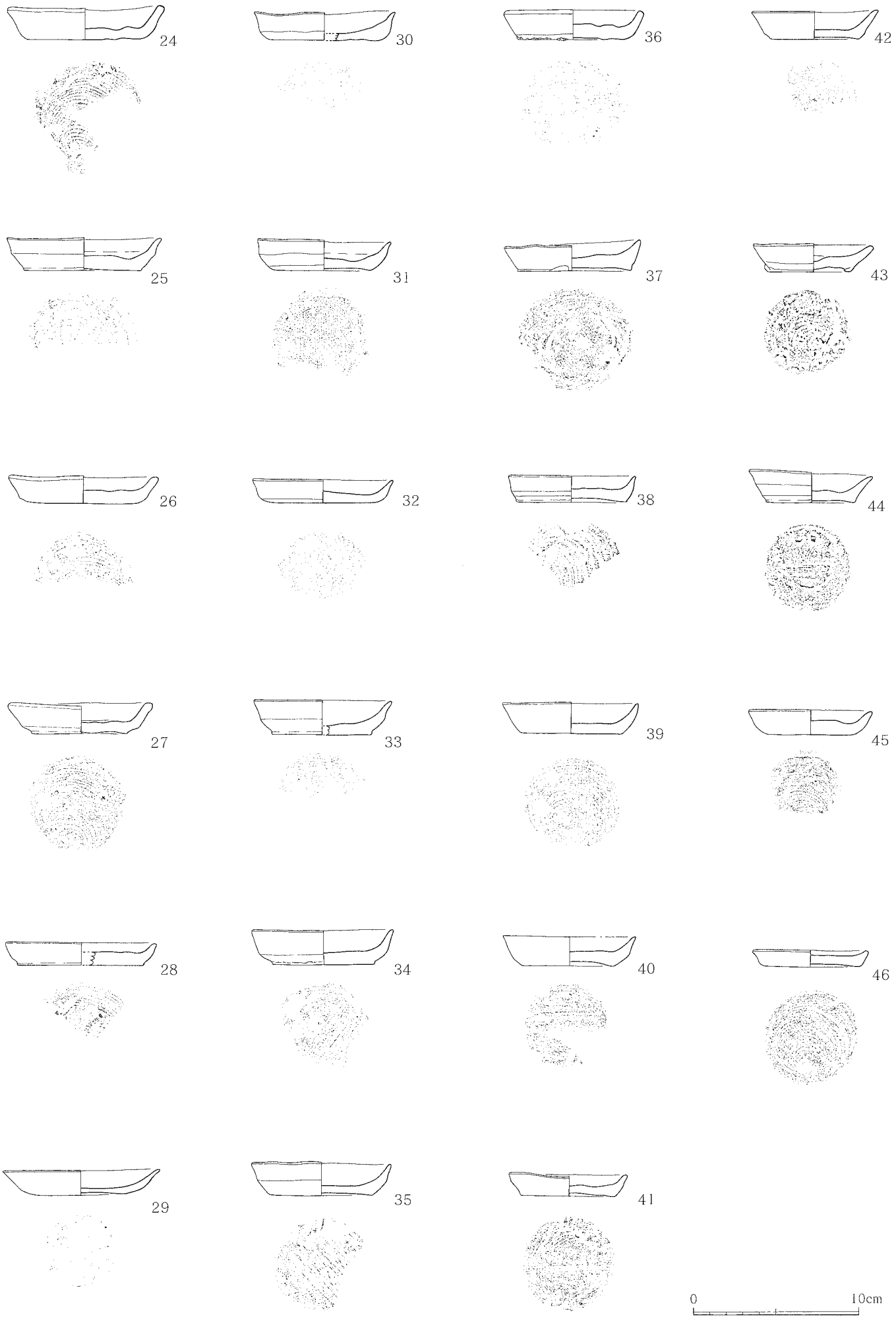
遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土しているが、小片のため図化できるものは無かった。

第18図　SD－02内出土遺物実測図　（1）

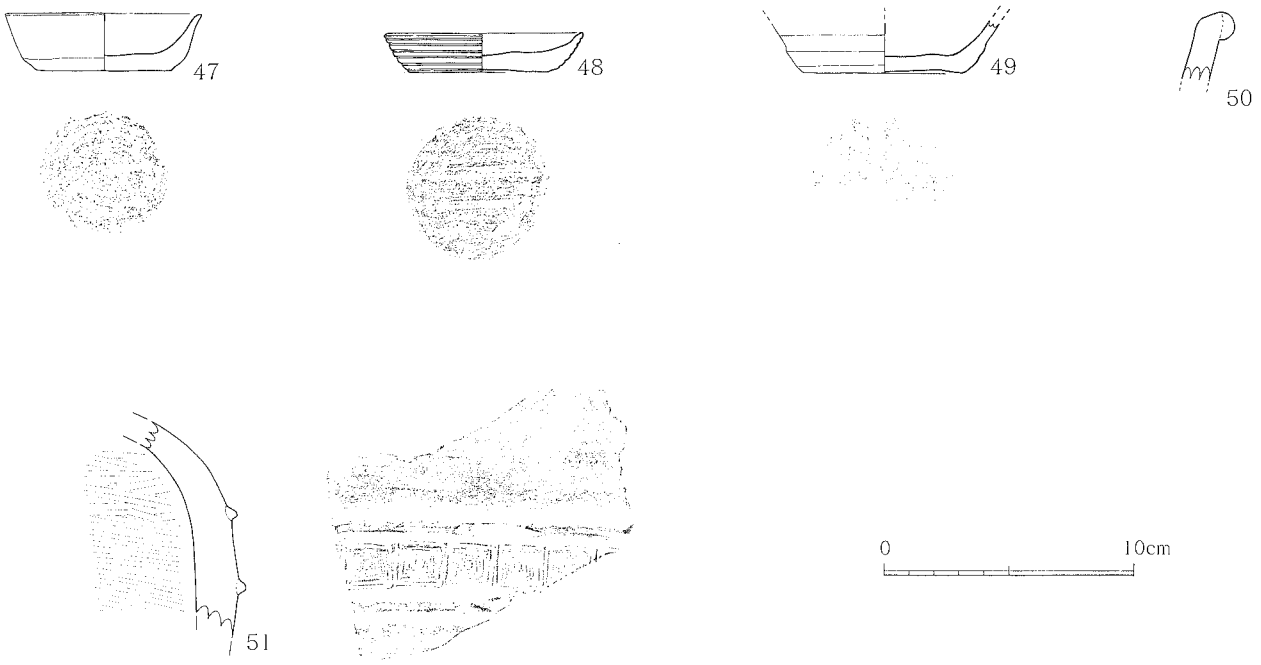


第19図　SD－02内出土遺物実測図　(2)

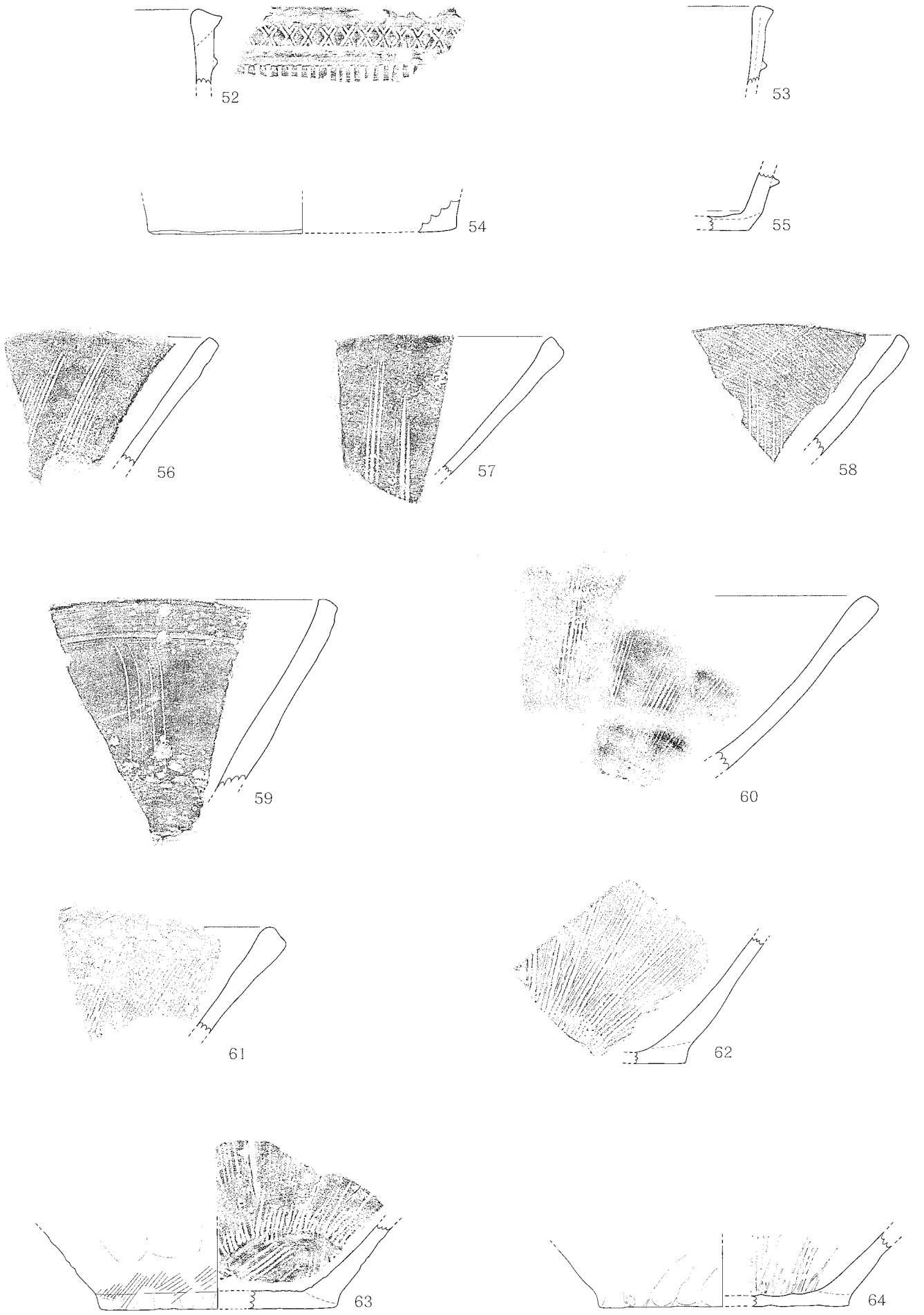
0　10cm



第20図　SD－02内出土遺物実測図　(3)

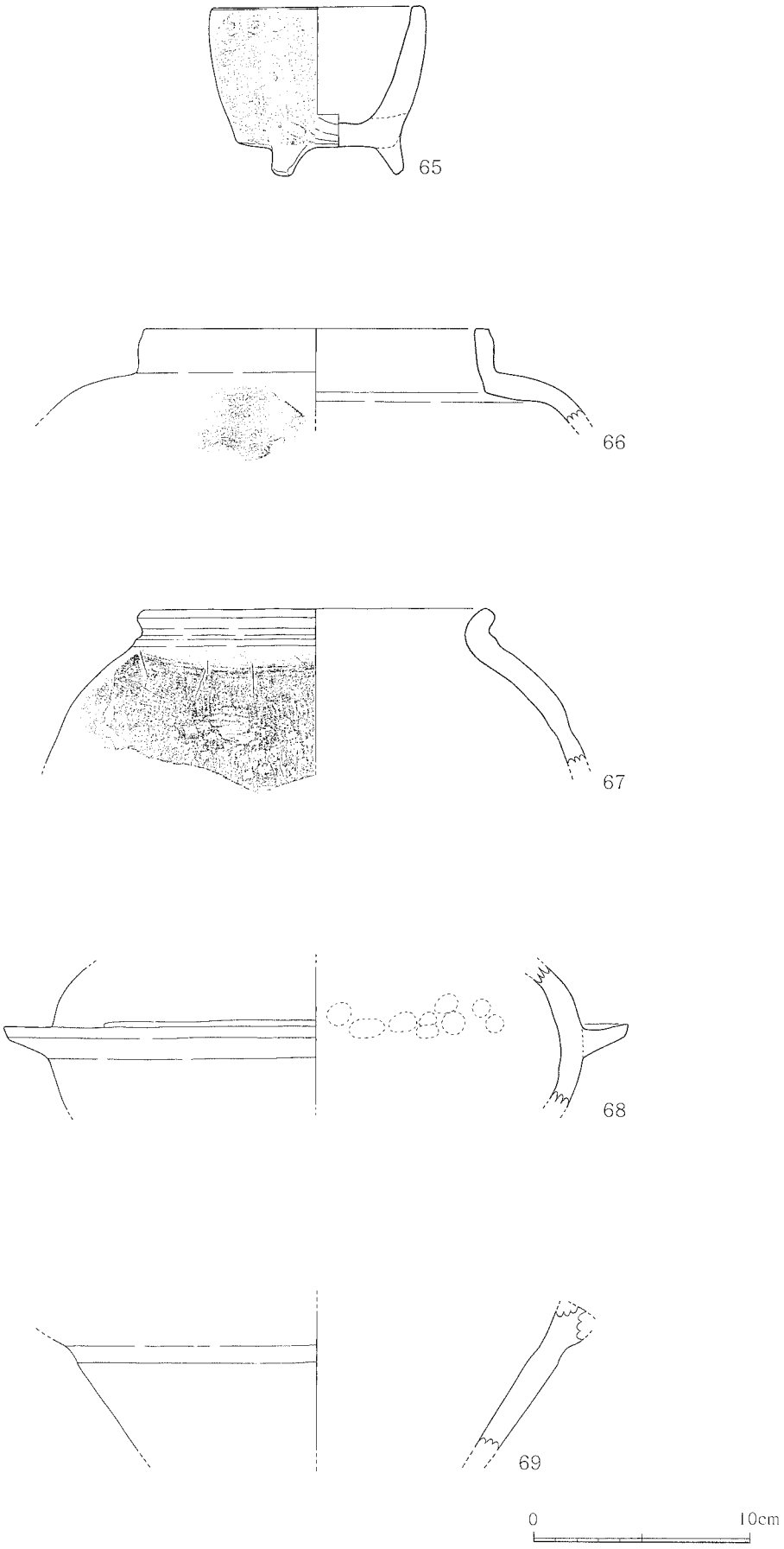


第21図　SD－02内出土遺物実測図　（4）

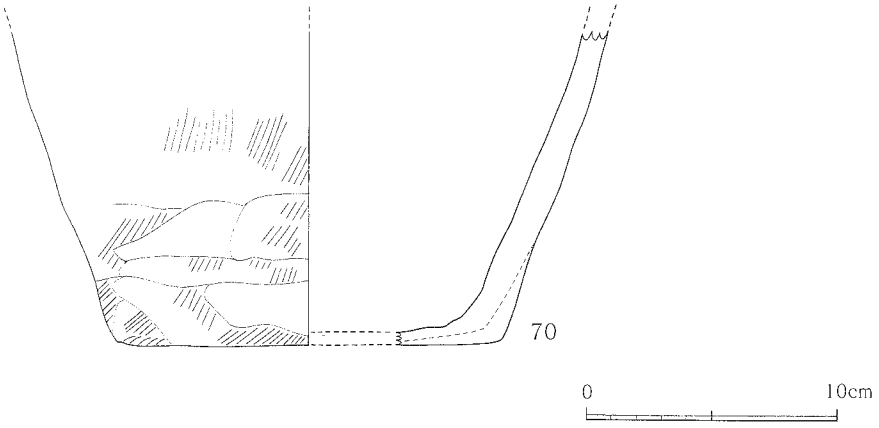


第22図　SD－02内出土遺物実測図　(5)

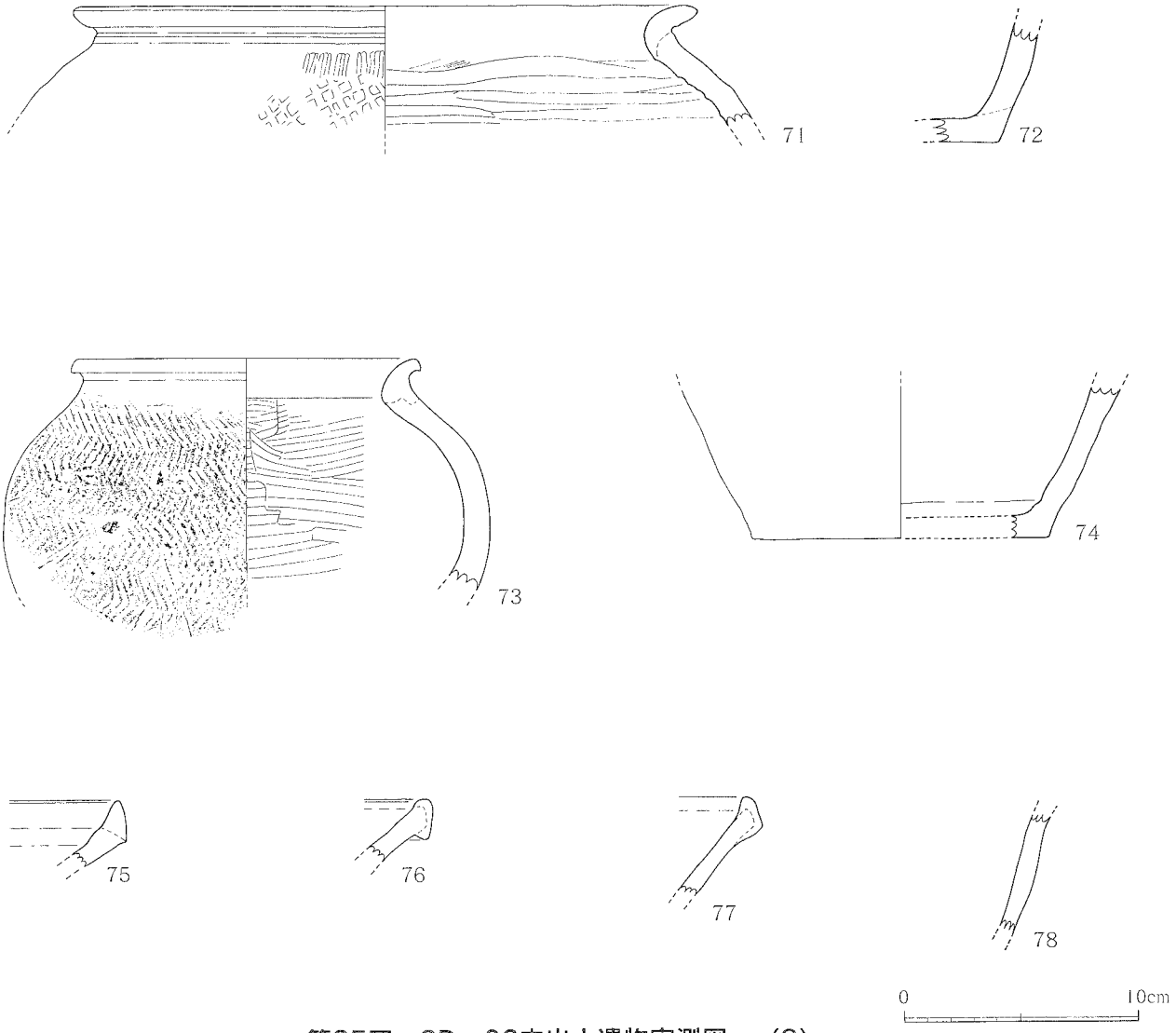
0　10cm



第23図　SD－02内出土遺物実測図　(6)



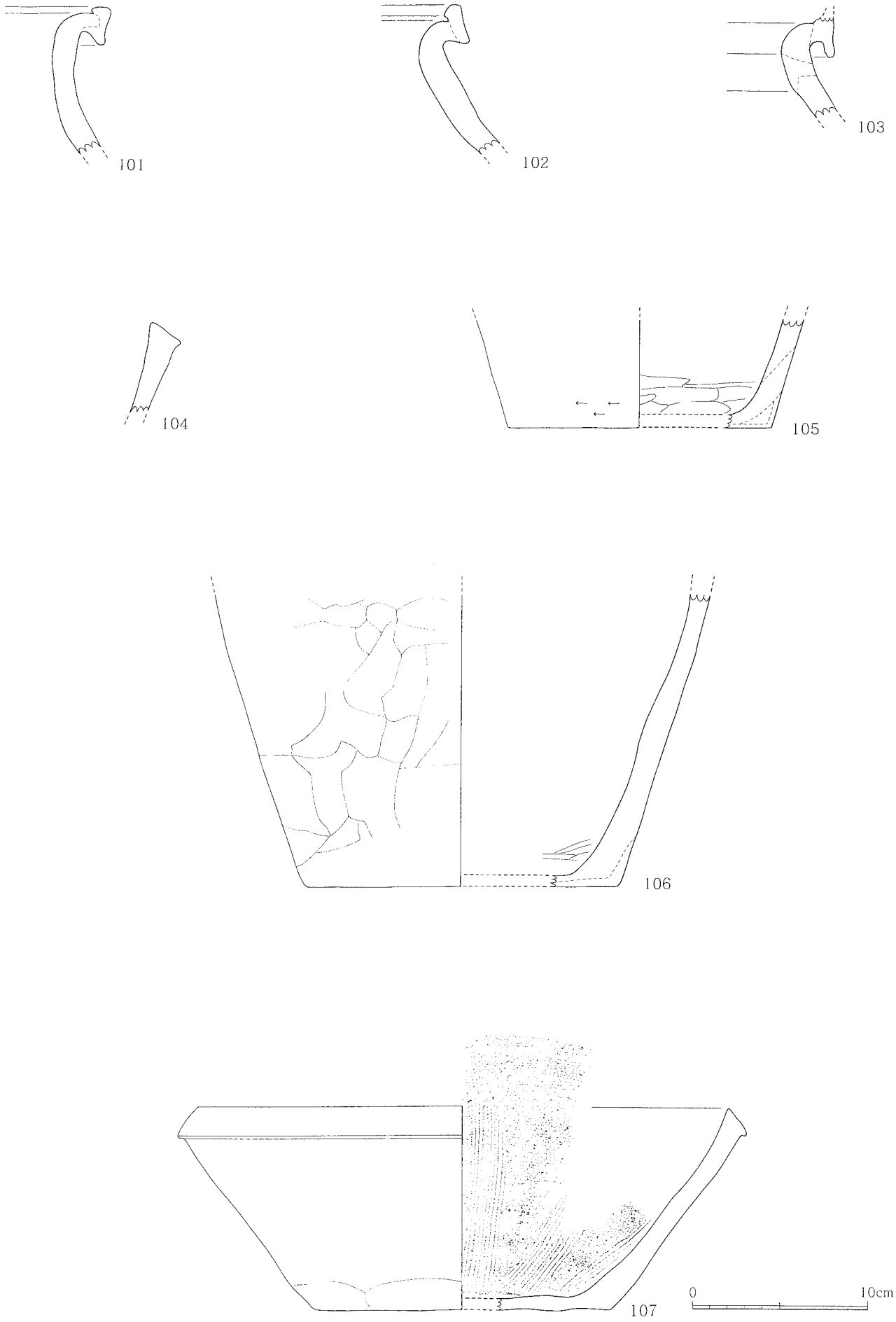
第24図　SD－02内出土遺物実測図　(7)



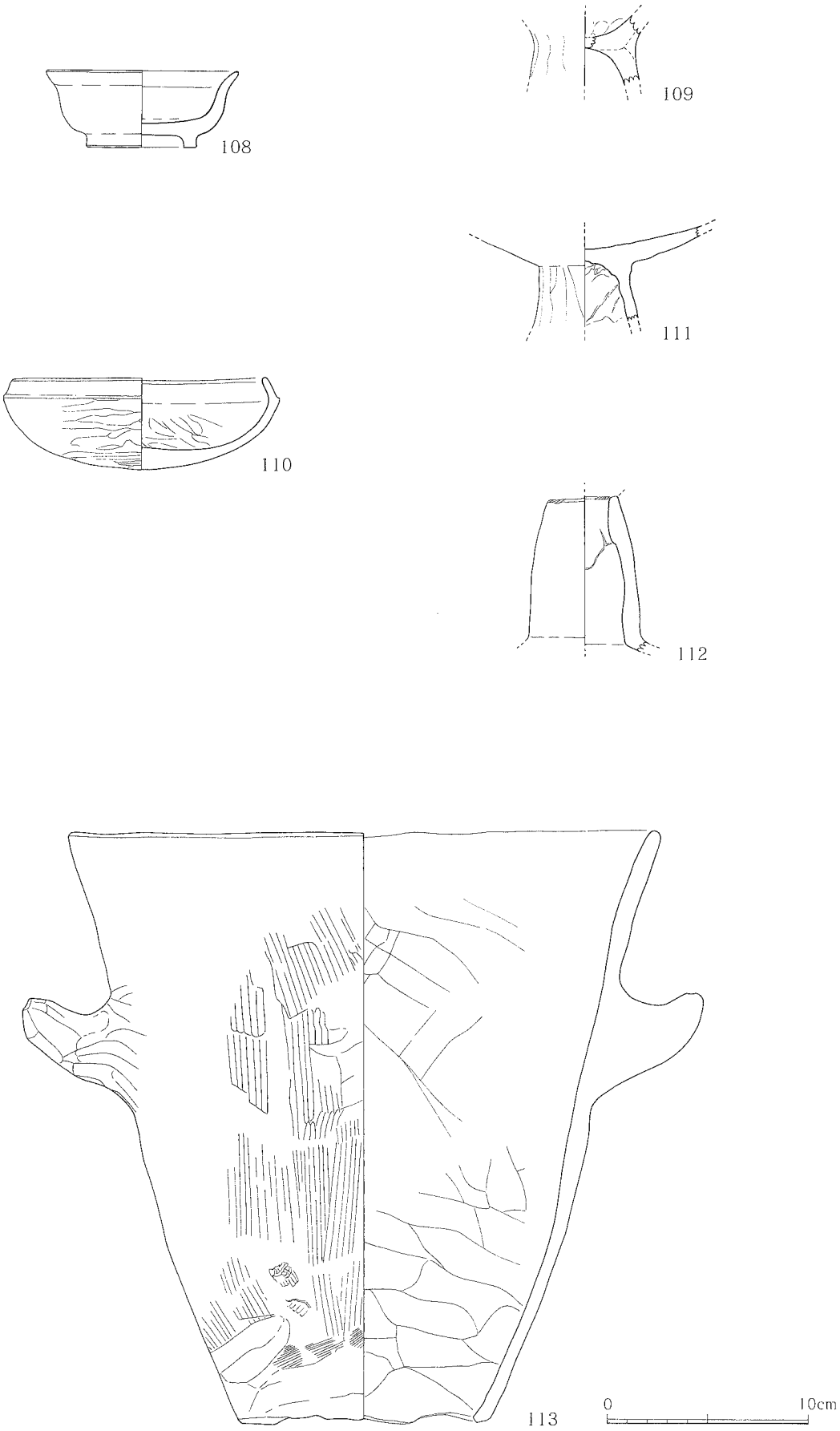
第25図　SD－02内出土遺物実測図　(8)

第26図　SD－02内出土遺物実測図　(9)

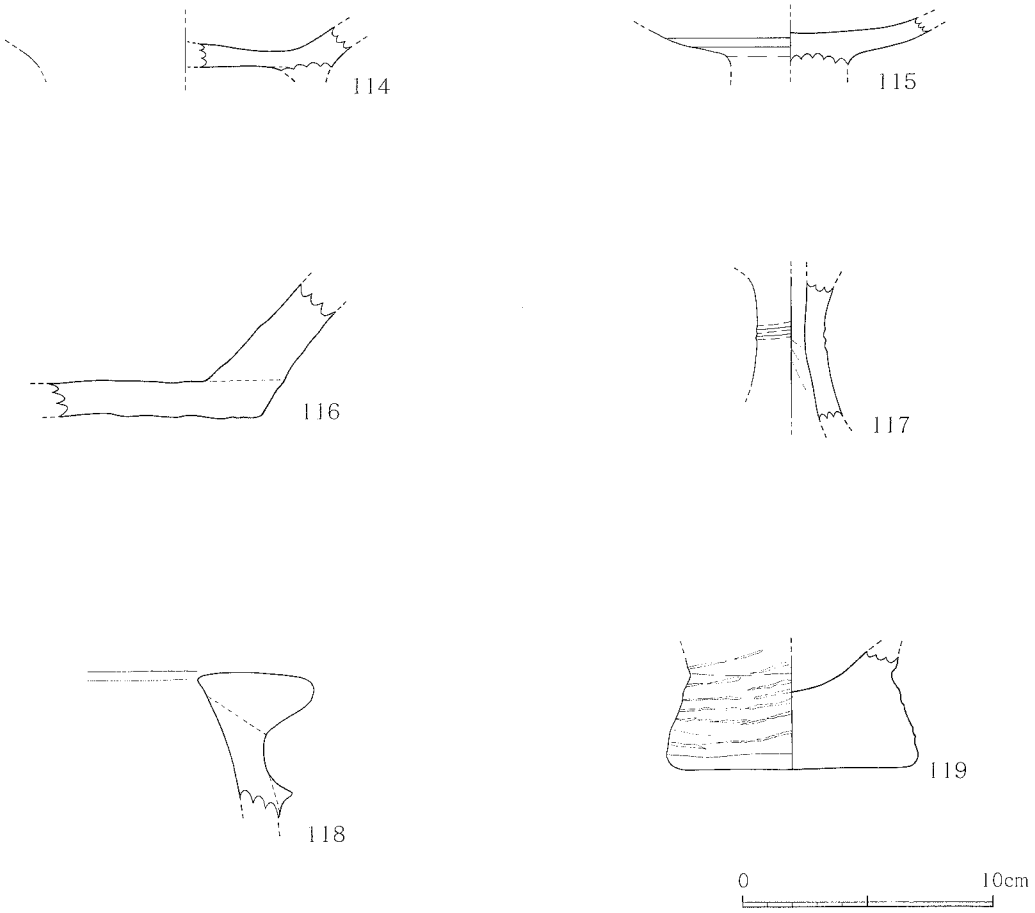
第27図　SD－02内出土遺物実測図　（10）



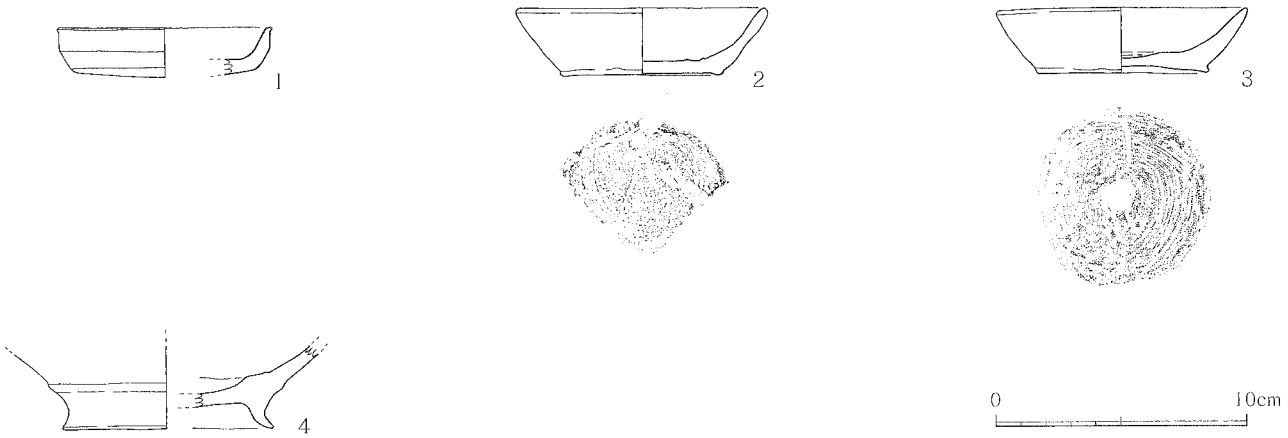
第28図　SD－02内出土遺物実測図　（11）



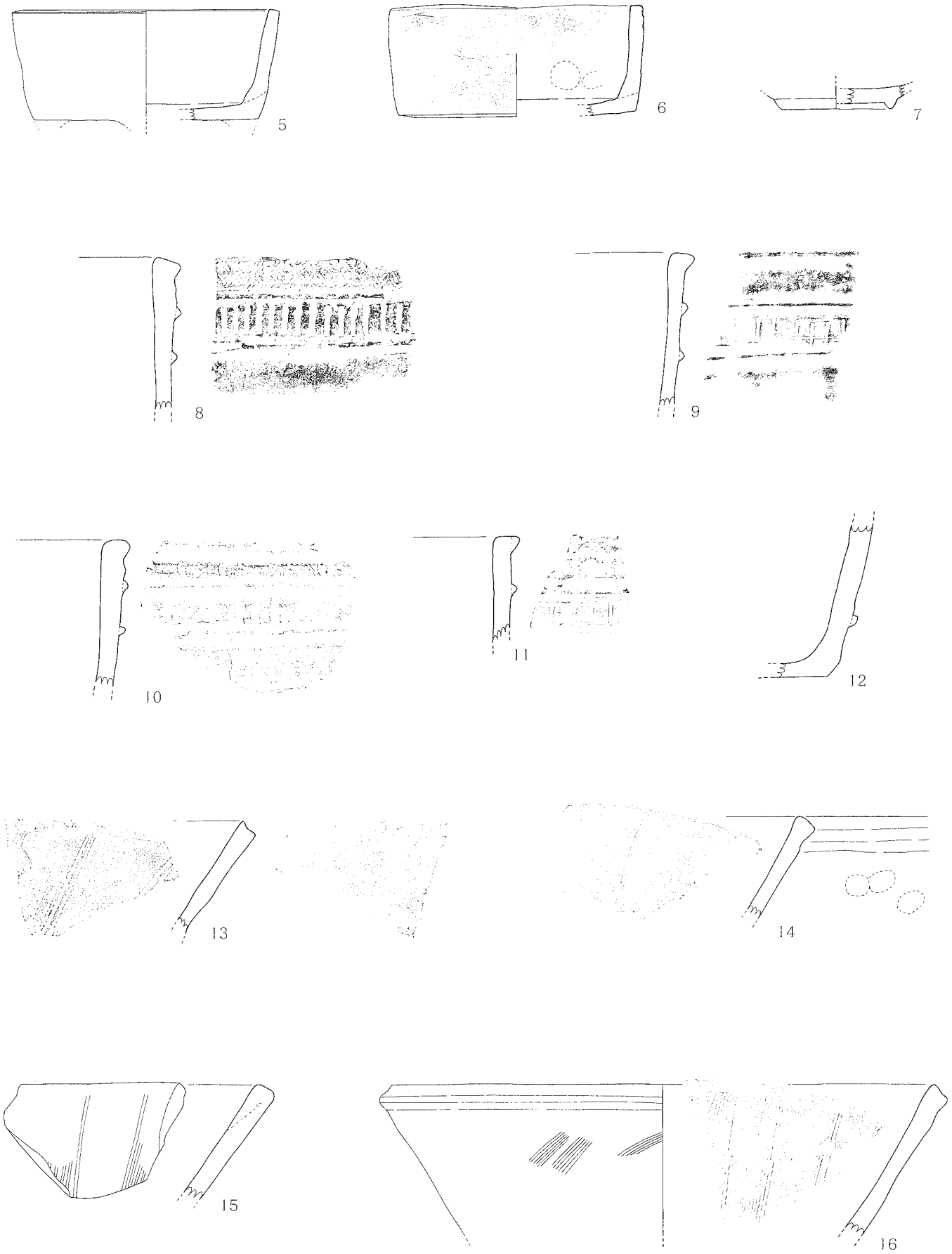
第29図　SD－02内出土遺物実測図　（12）



第30図　SD－02内出土遺物実測図　（13）

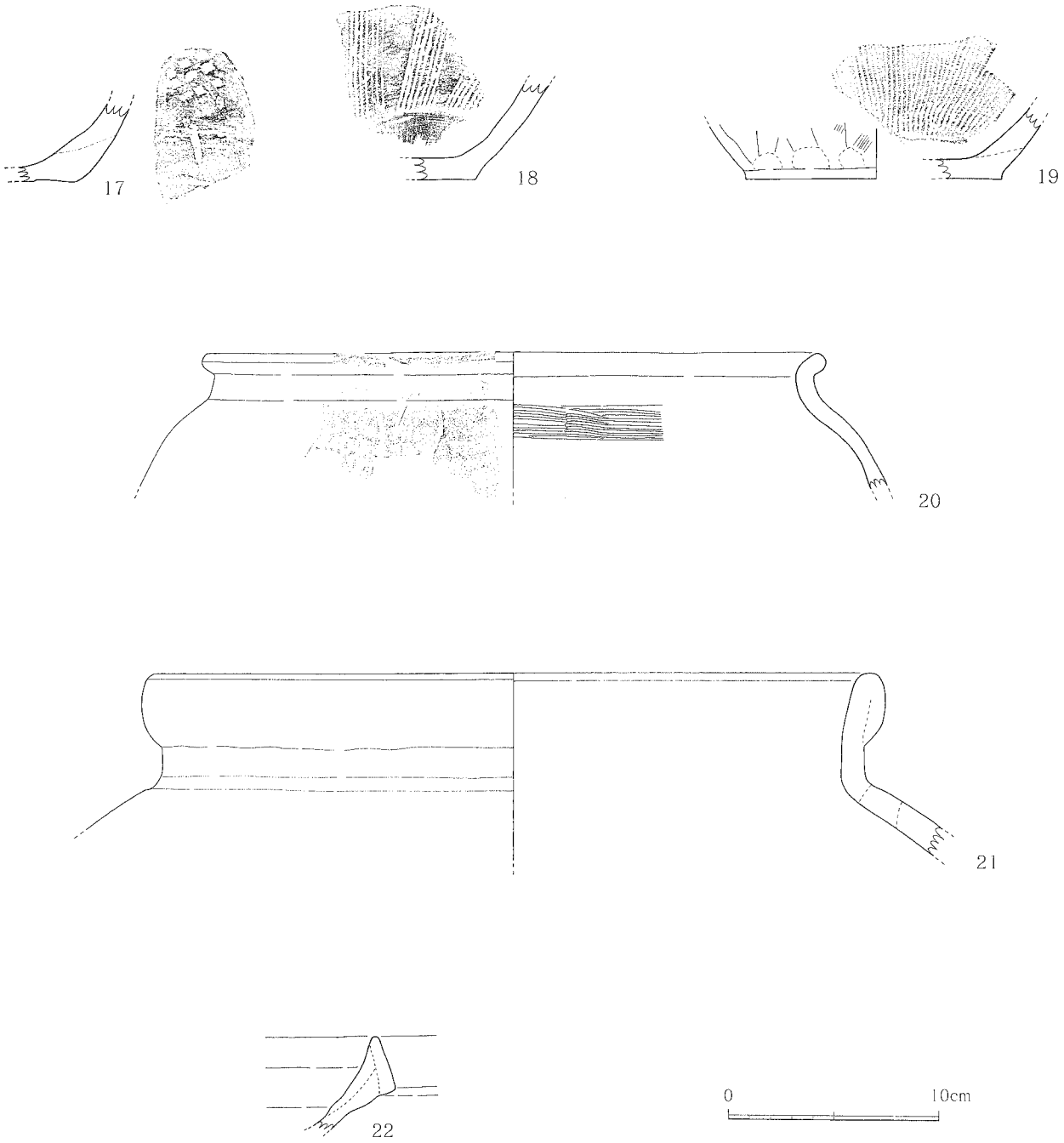


第31図　1号円形遺構内出土遺物実測図　（1）

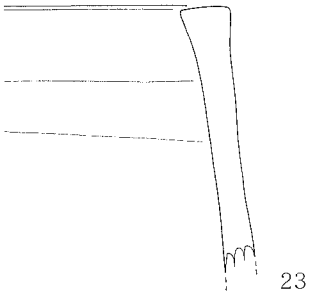


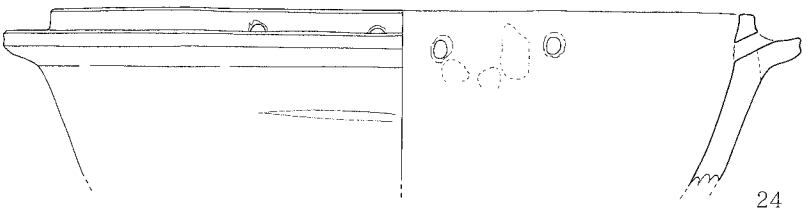
第32図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(2)

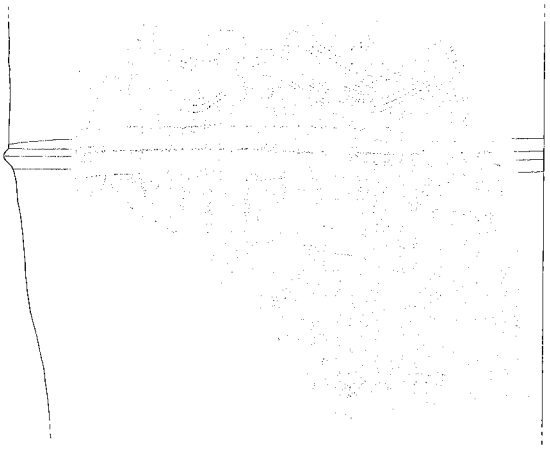
0　10cm

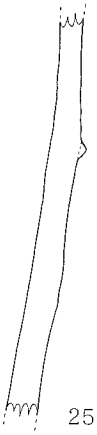


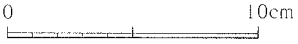
第33図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(3)





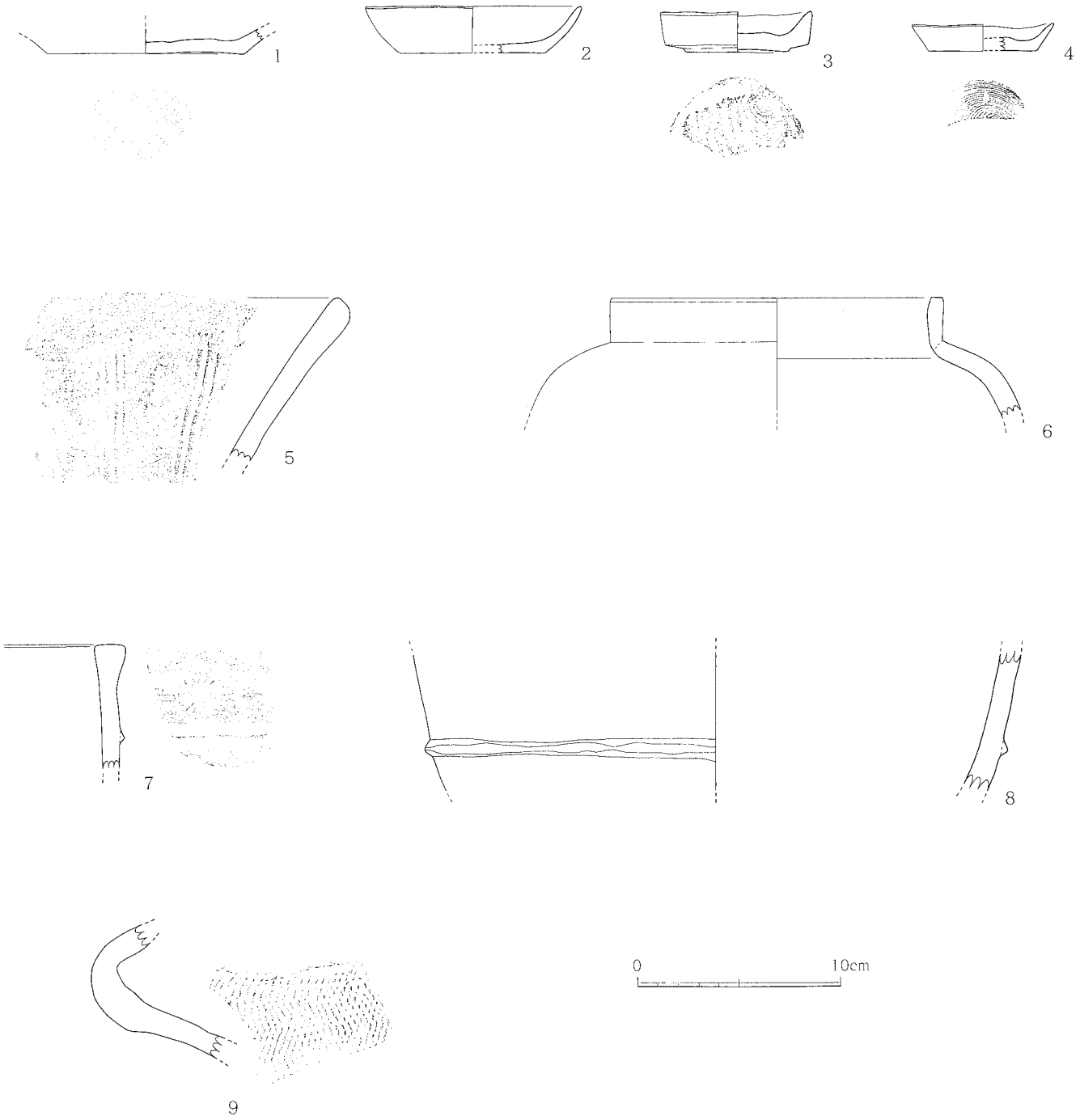




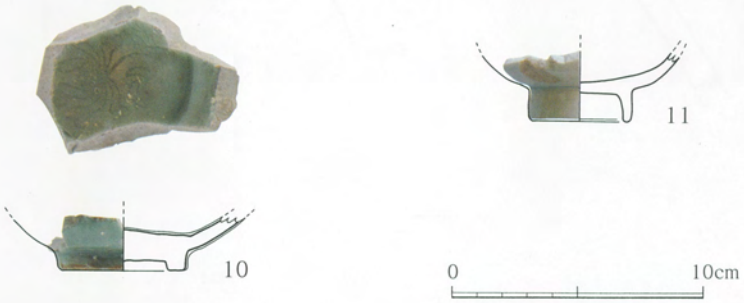


第34図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(4)

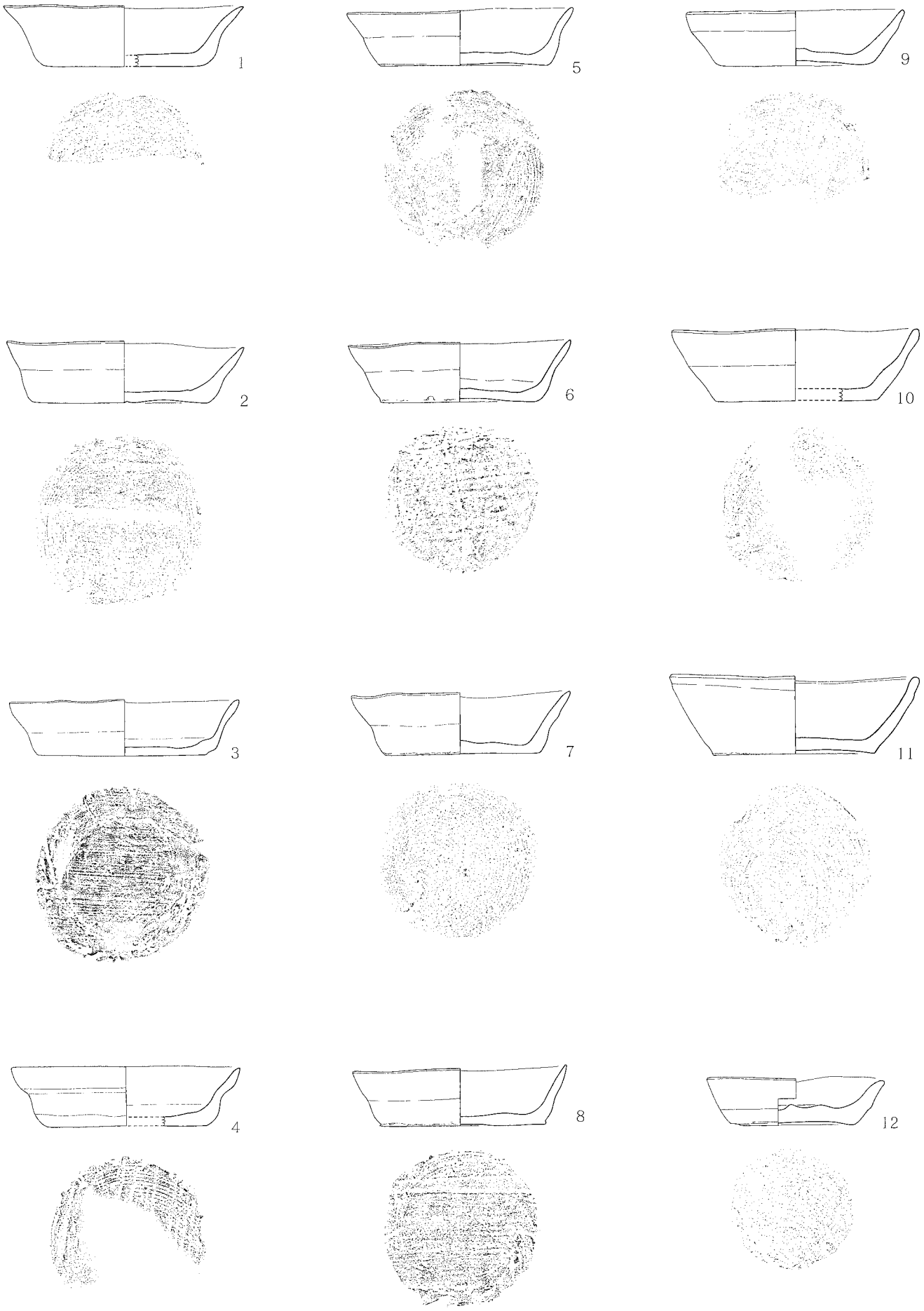
第35図　1号円形遺構内出土遺物実測図　(5)



第36図　SD－06内出土遺物実測図　（1）

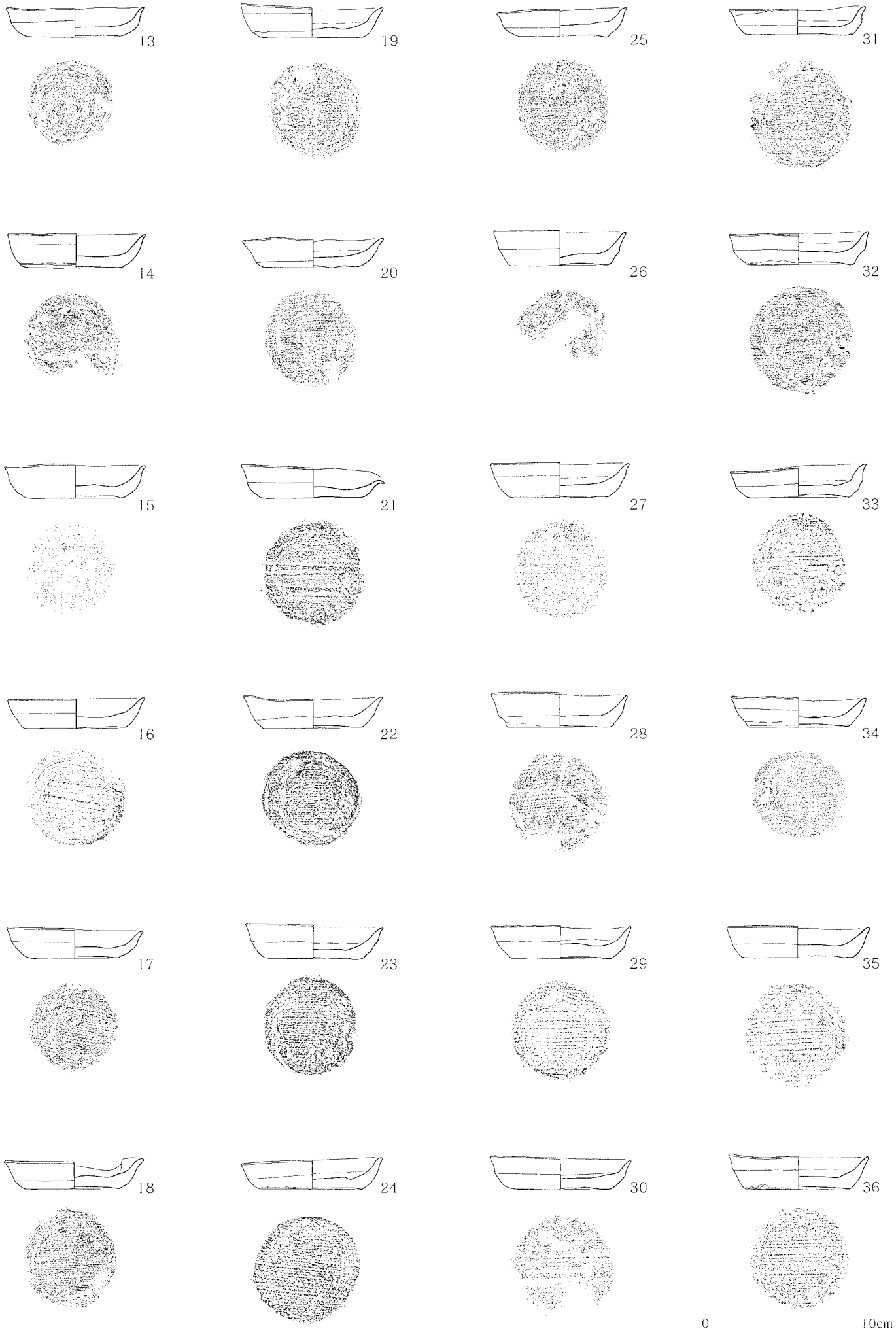


第37図　SD－06内出土遺物実測図　（2）

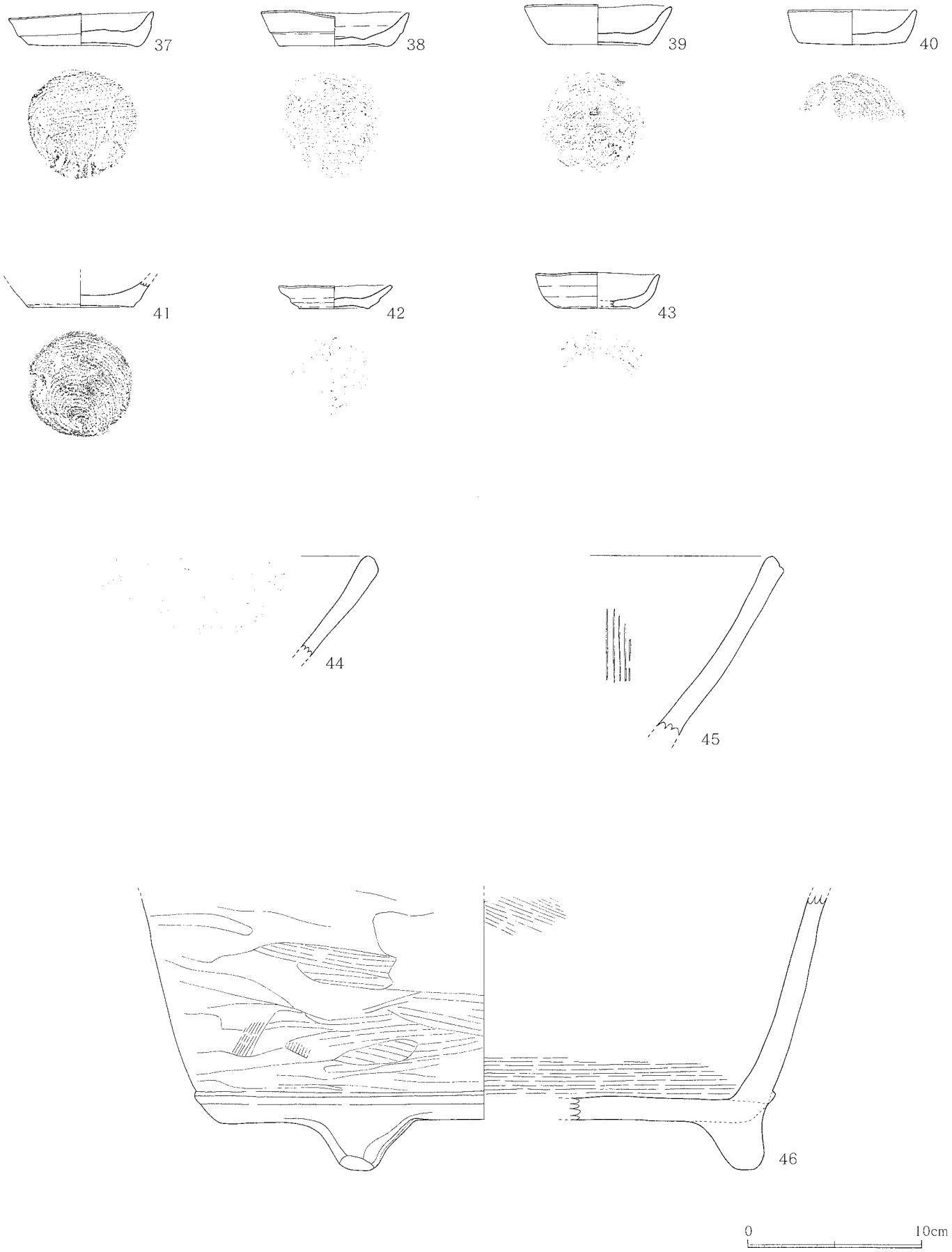


第38図　SD－13内出土遺物実測図　（1）

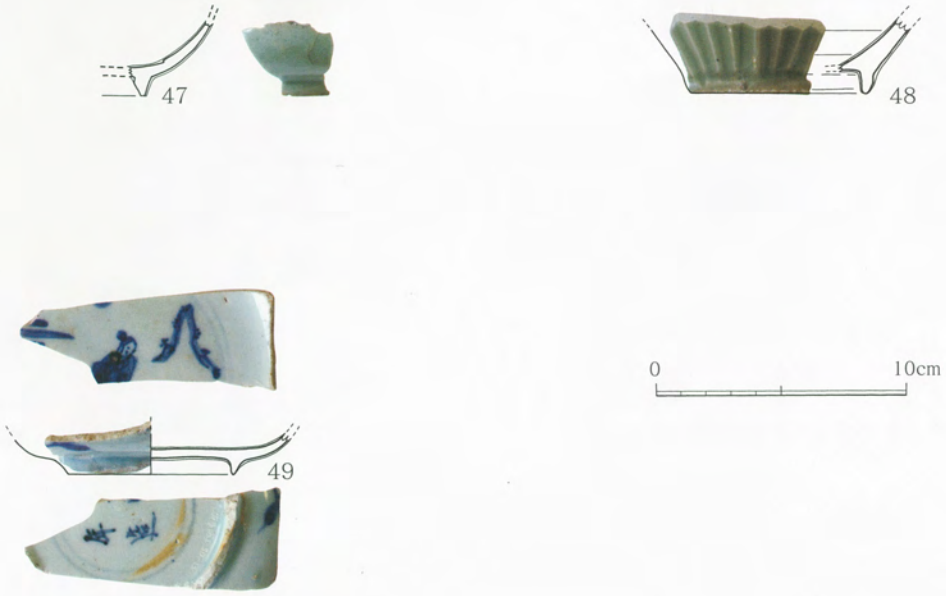
0　10cm



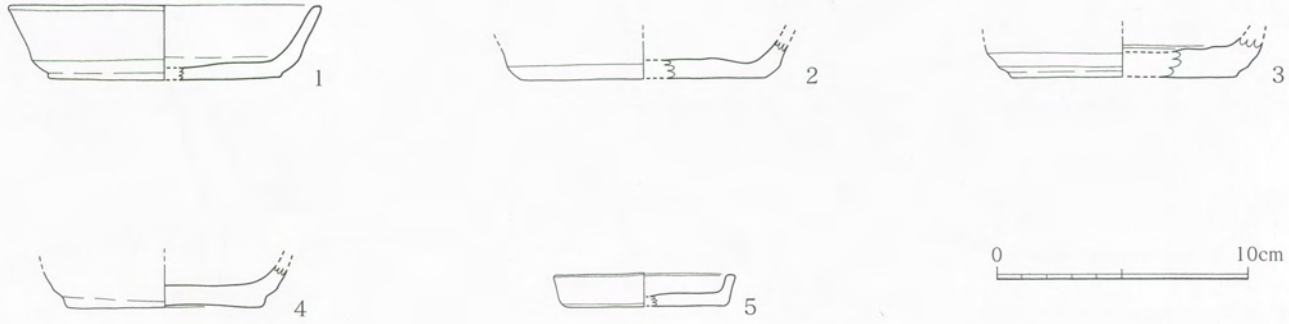
第39図　SD－13内出土遺物実測図　（2）



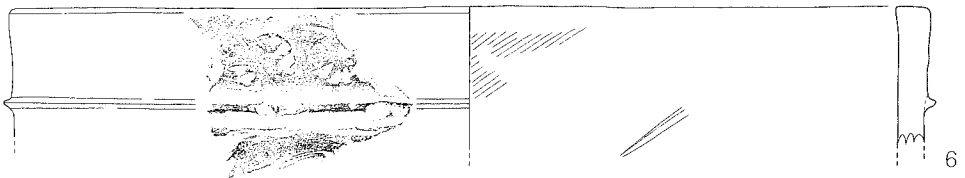
第40図　SD－13内出土遺物実測図　(3)

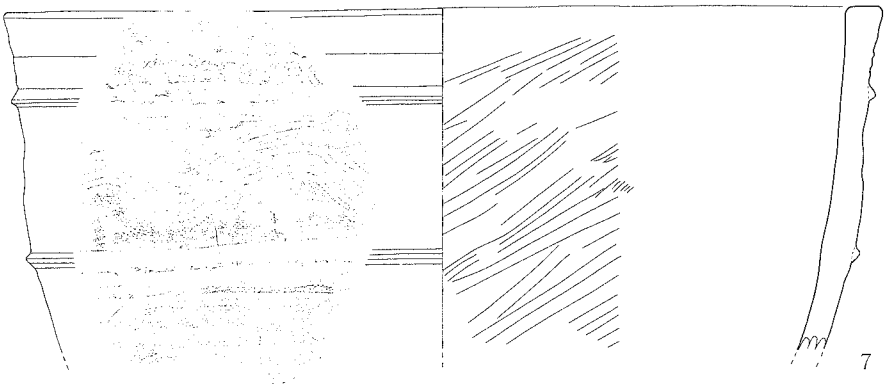


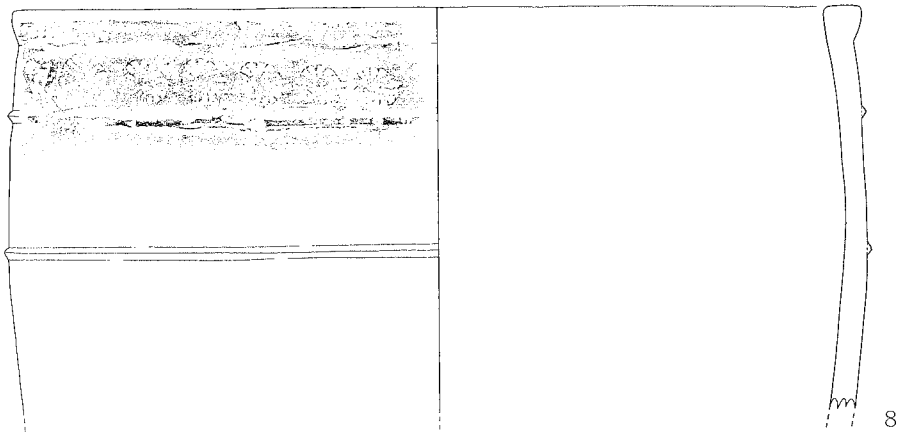
第41図　SD－13内出土遺物実測図　（4）

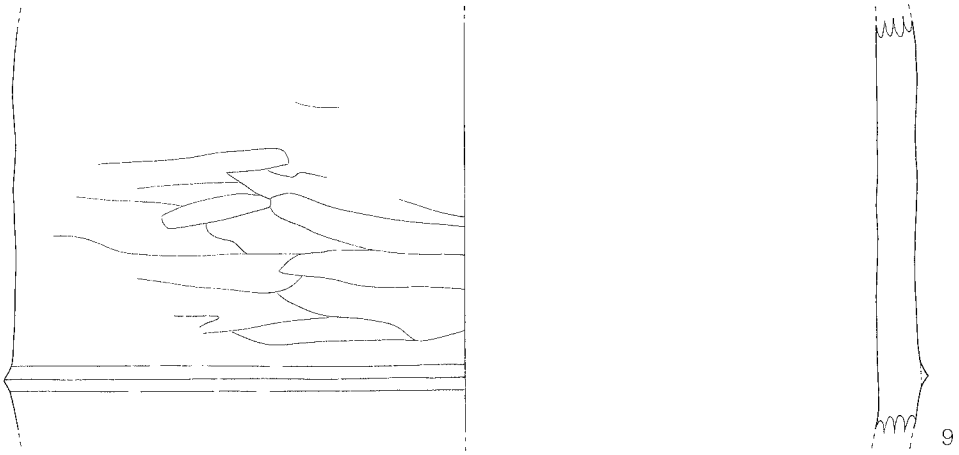


第42図　SX－01内出土遺物実測図　（1）

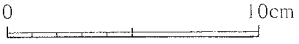


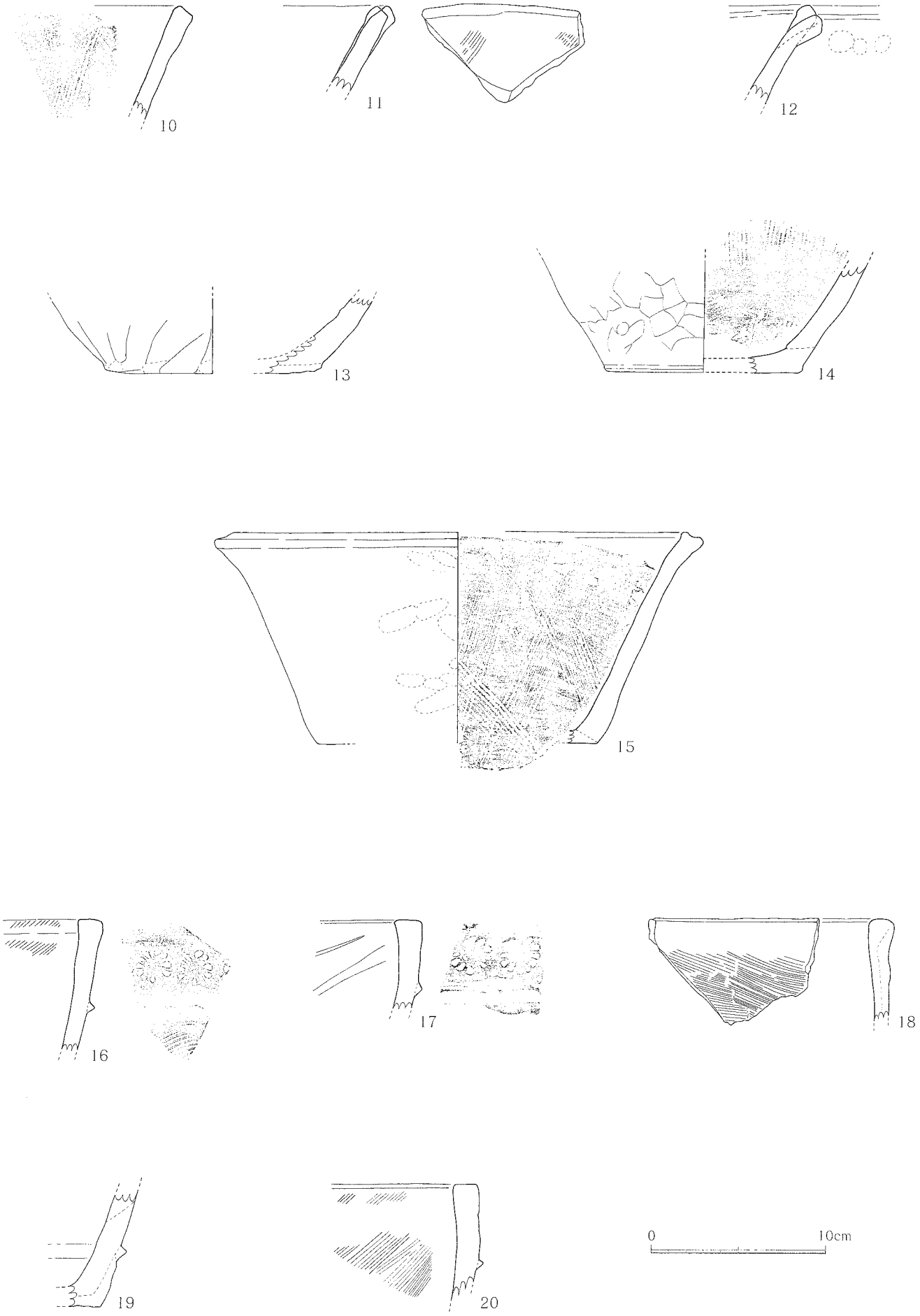




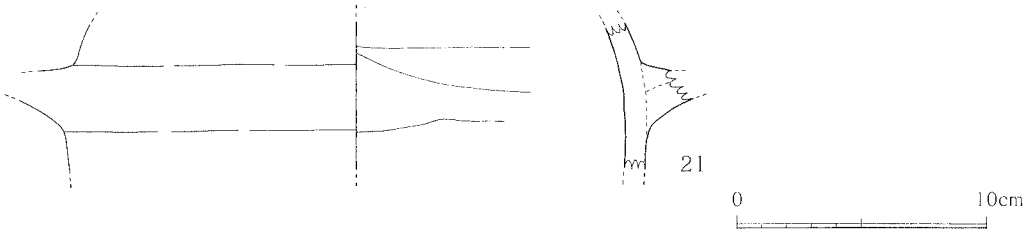


第43図　SX－01内出土遺物実測図　(2)

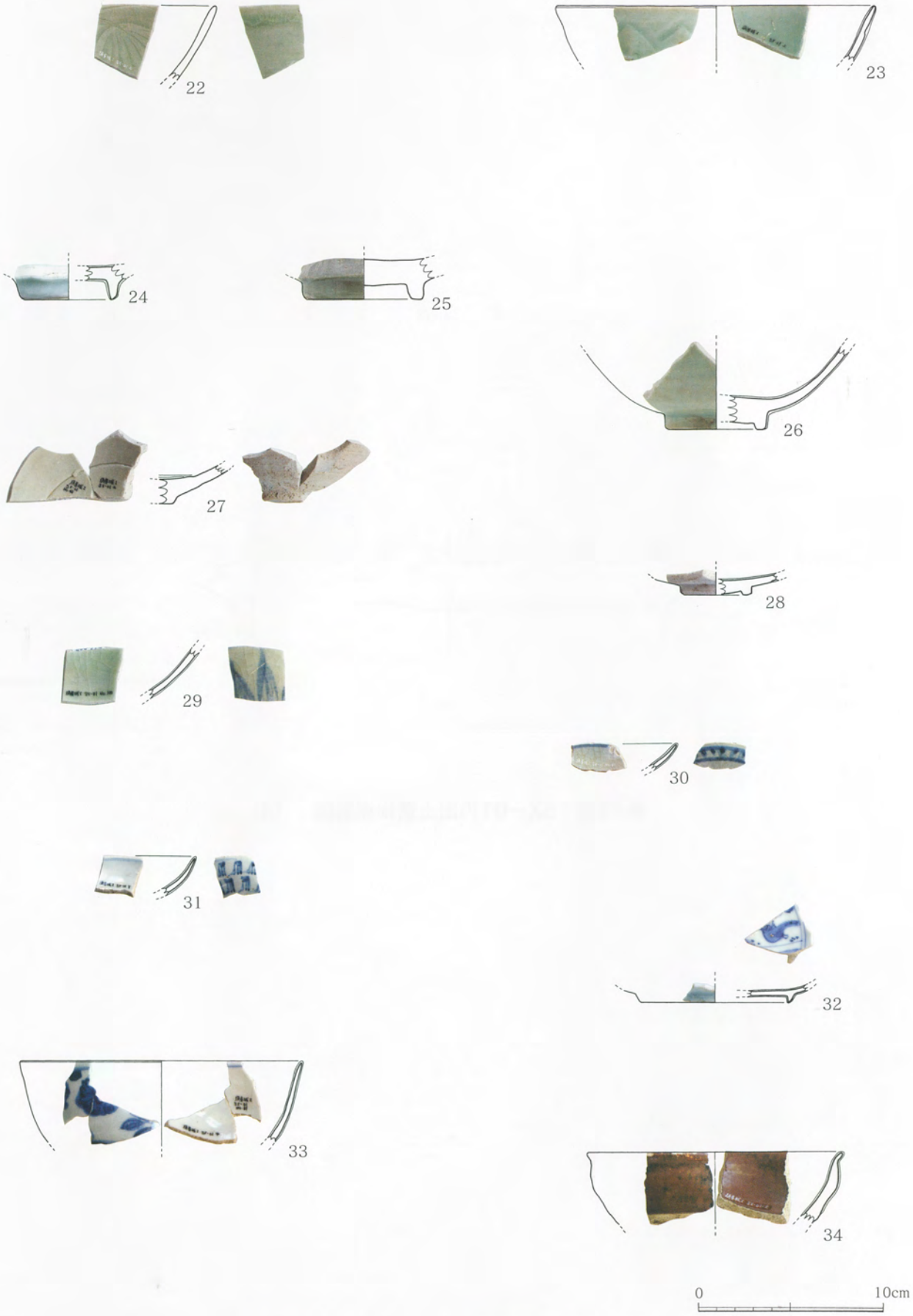




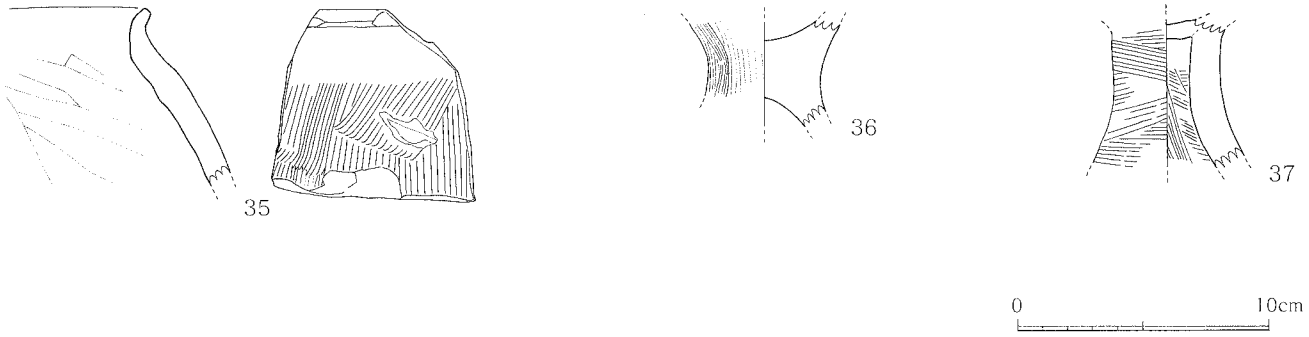
第44図　SX－01内出土遺物実測図　(3)



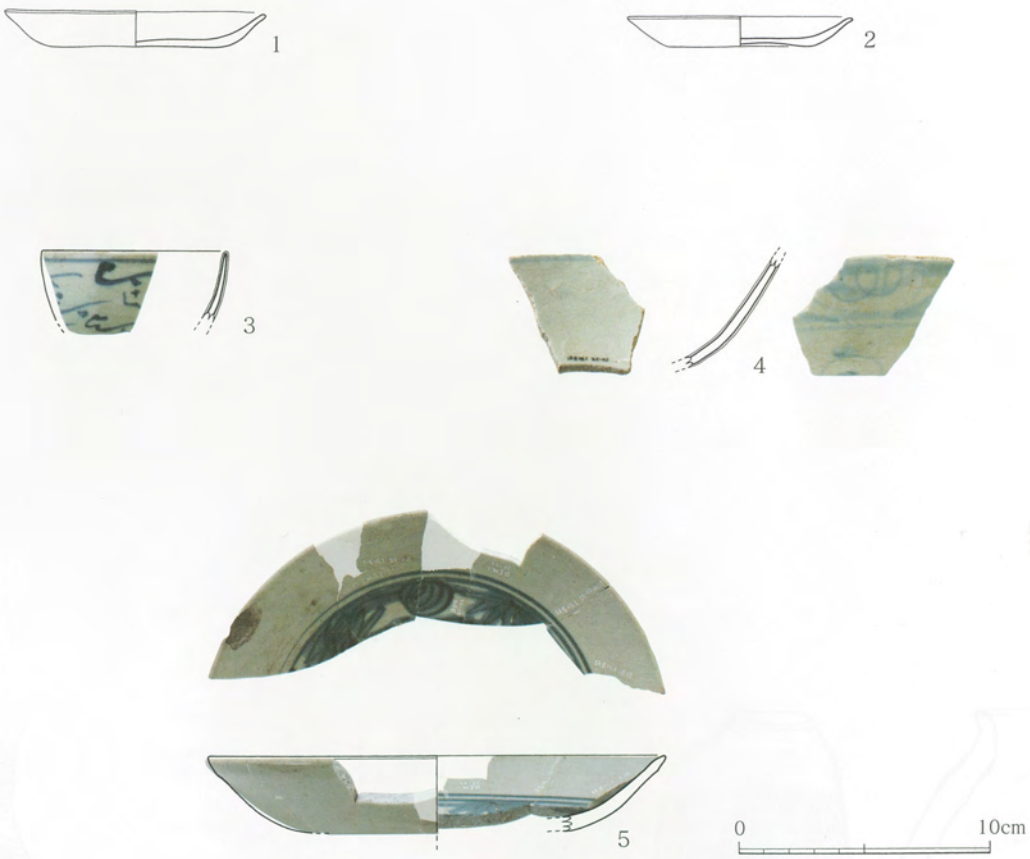
第45図　SX－01内出土遺物実測図　（4）



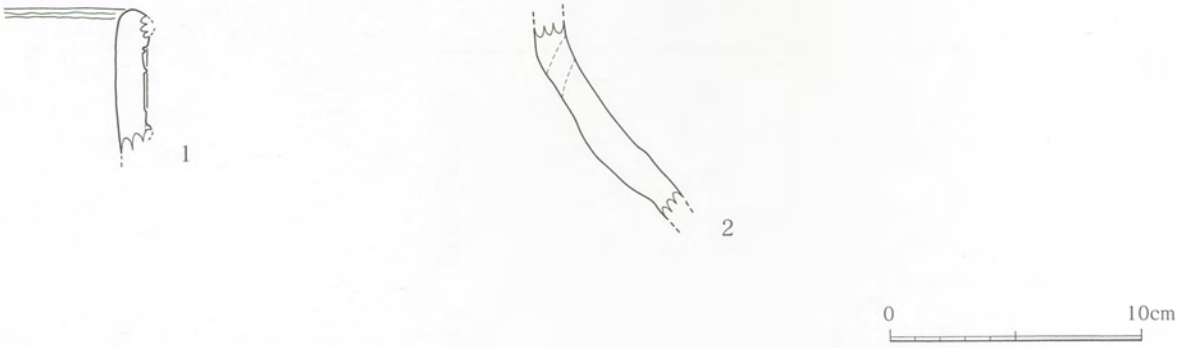
第46図　SX－01内出土遺物実測図　(5)



第47図　SX－01内出土遺物実測図　(6)

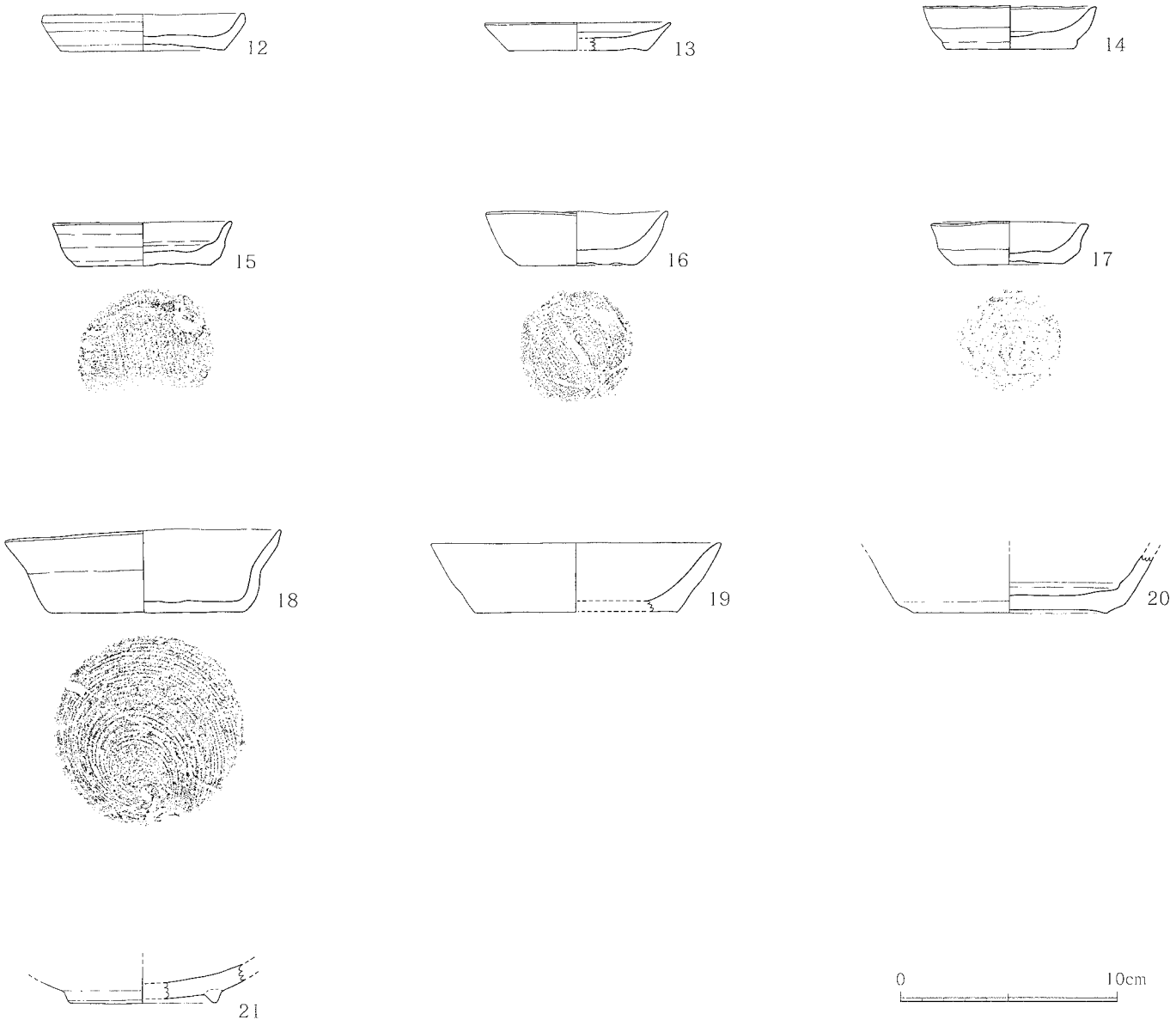


第48図　SX－02内出土遺物実測図

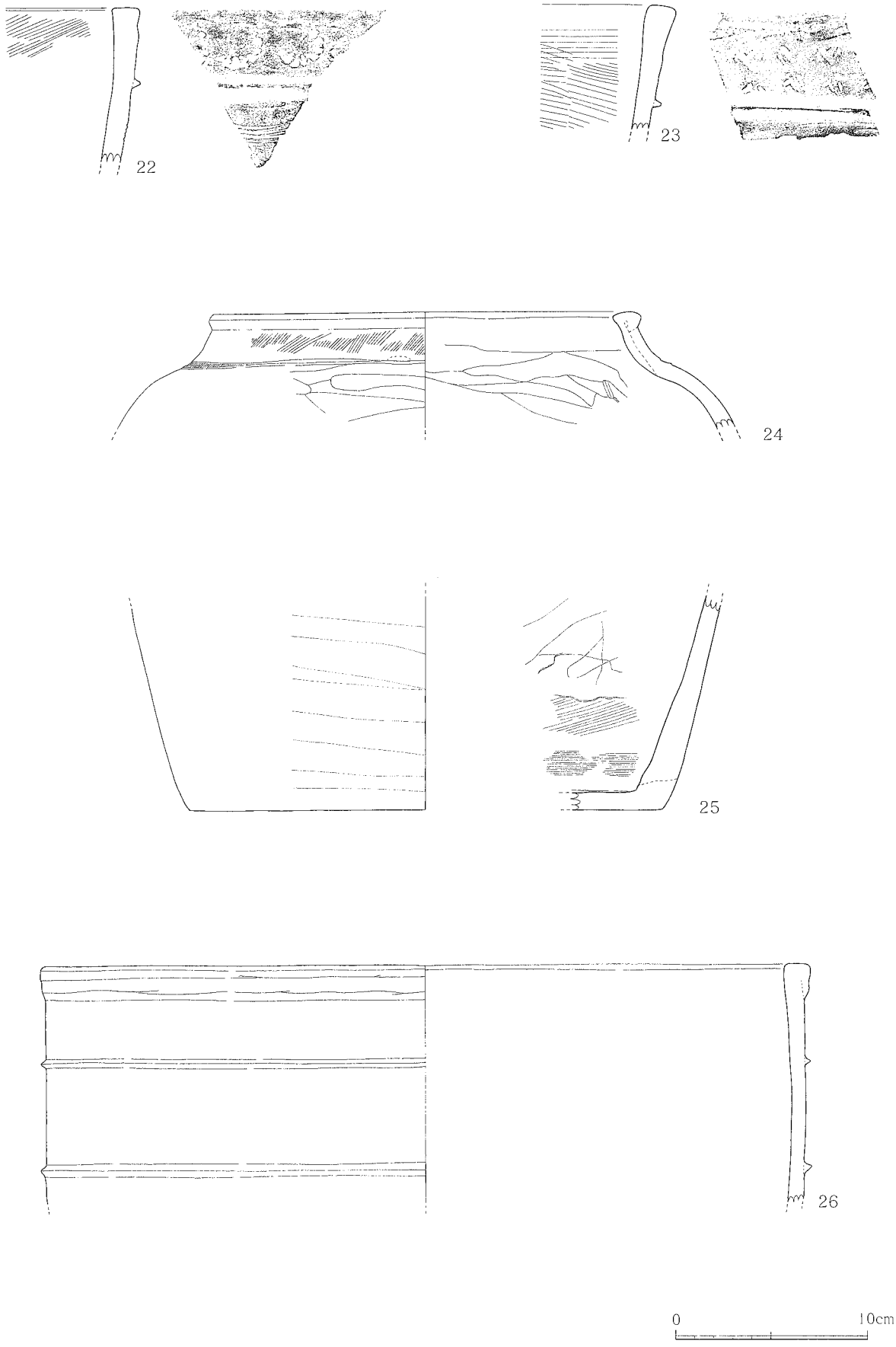


第49図　SK－01・SK－07内出土遺物実測図

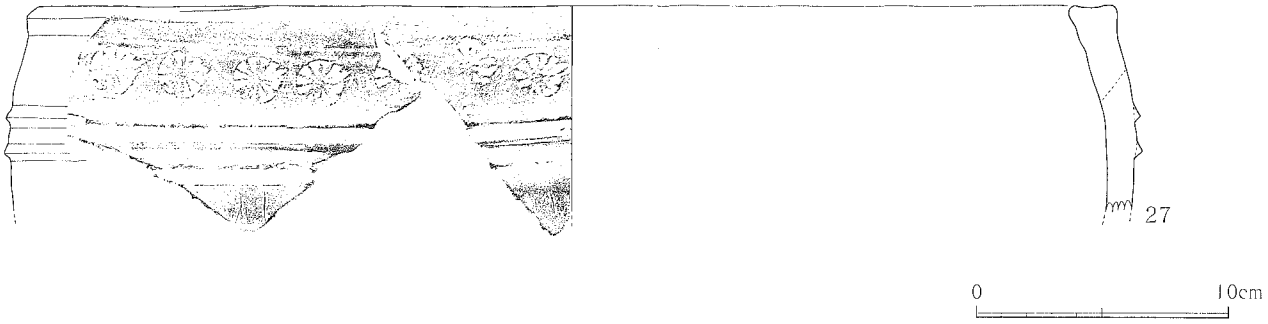
第50図　一括遺物実測図　（中世）



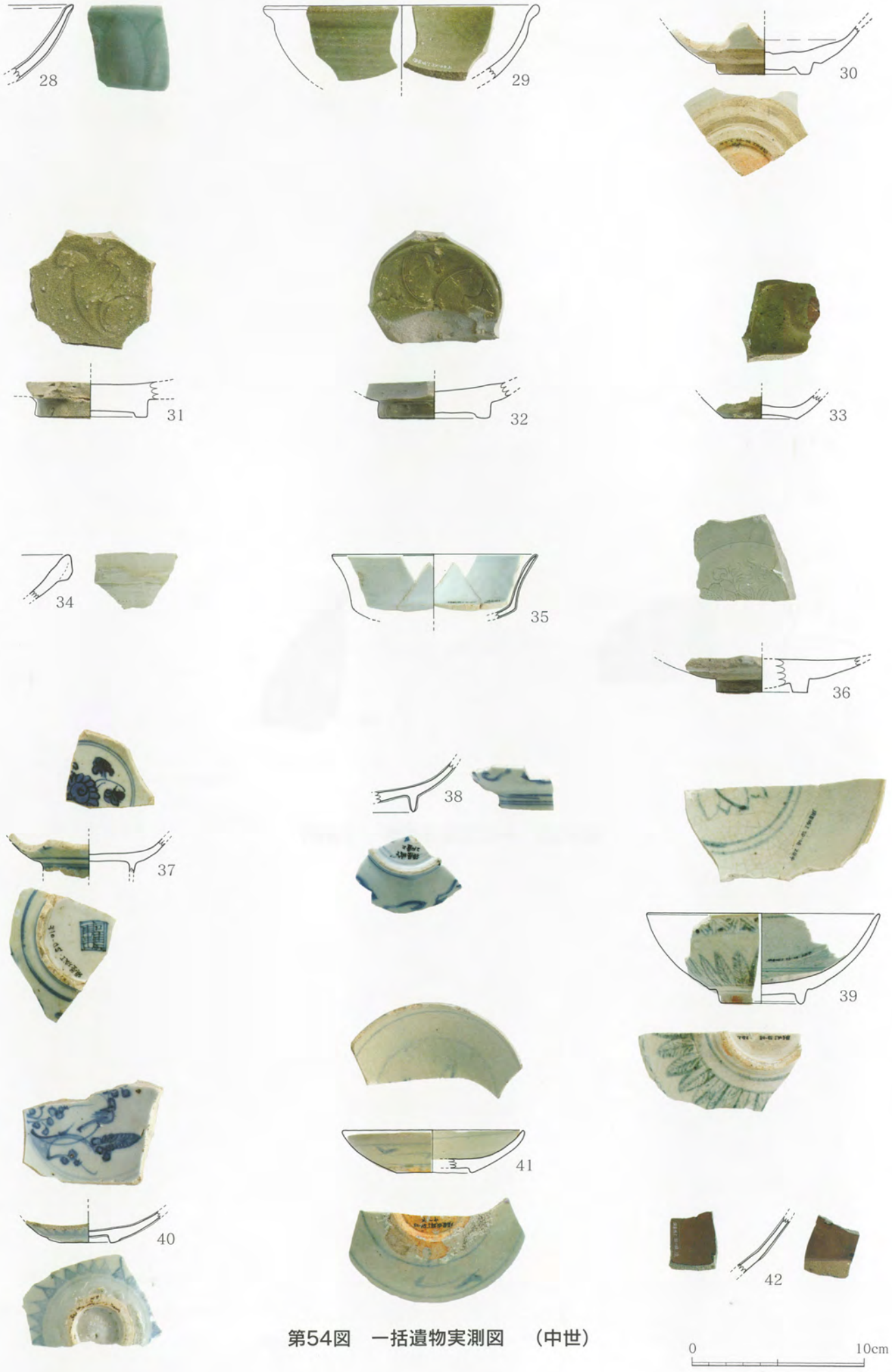
第51図　一括遺物実測図　（中世）



第52図　一括遺物実測図　（中世）

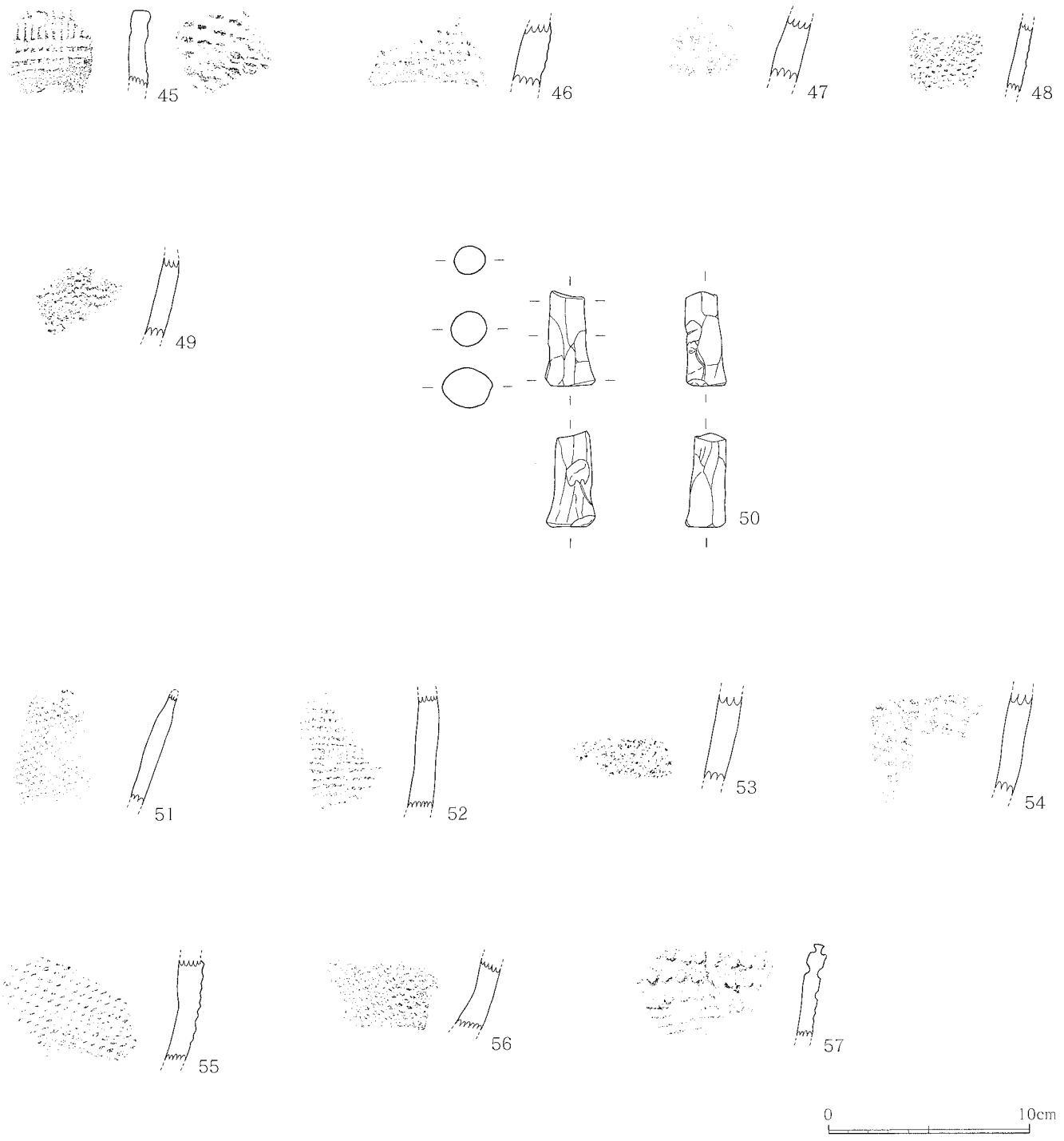


第53図　一括遺物実測図　（中世）



第54図　一括遺物実測図　（中世）

第55図　一括遺物実測図　（中世）



第56図　一括遺物実測図　（縄文）

須屋城跡遺跡遺物観察表

第2表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第18図 1 syj163	土師器 坏	口径　12.9 器高　2.9 底径　9.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。	砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ、底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	体部内面は回転ナデ。 見込みは一方向の軽いナデ。 にぶい橙色
第18図 2 syj33	土師器 坏	口径（13.4） 器高　2.9 底径（10.0）	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ後横ナデ。 浅黄橙色	回転ナデ後横ナデ。 浅黄橙色
第18図 3 syj48	土師器 坏	口径（13.4） 器高　3.4 底径　10.8	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多）	普通	体部上位は回転ナデ。 体部下位は回転ナデ後横ナデ。 浅黄橙色	回転ナデ後横ナデ。 浅黄橙色
第18図 4 syj187	土師器 坏	口径　11.8 器高　2.7 底径　10.2	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁端部は丸くなる。見込み周辺に少量のカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙
第18図 5 syj179	土師器 坏	口径（12.6） 器高　3.1 底径　9.8	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 浅黄橙色	体部内面は回転ナデ後斜め方向のナデ。見込みは一方向のナデ。 浅黄橙色
第18図 6 syj65	土師器 坏	口径　12.3 器高　3.4 底径　9.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。外面下位の一部に少量のカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ後横ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙	回転ナデ後横ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙
第18図 7 syj174	土師器 坏	口径（12.4） 器高　3.0 底径（9.5） 器高　3.5	体部は下位で屈折し、その後、直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリで指頭圧痕あり。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ後斜め方向のナデ。見込み周辺に指頭圧痕あり。 橙色
第18図 8 syj184	土師器 坏	口径　12.4 器高　3.5 底径　9.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 橙色
第18図 9 syj8	土師器 坏	口径　11.6 器高　2.9 底径　8.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁端部は丸味を持つ。内面に芯状にカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 黒色微粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、微量）	良	回転ナデ後部分的に斜め及び縦方向のナデ。 体部下位に指頭圧痕あり。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	体部内面は回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。 見込みは帯状に一方向のやや強いナデ。 橙色
第18図 10 syj9	土師器 坏	口径　12.1 器高　2.7 底径　8.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。丁寧な作りである。	細砂粒（多）砂粒（少） 黒色微粒子（多）雲母（多） 長石粒（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで数ケ所に指頭圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは未調整。 橙色
第18図 11 syj177	土師器 坏	口径　12.1 器高　3.0 底径　8.5	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 浅黄橙色
第19図 12 syj68	土師器 坏	口径　13.0 器高　3.7 底径　9.8	体部は中位で屈折し、その後、開きながら立ち上がる。体部外面上位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。全体的に歪んでいる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）	普通	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 浅黄橙色
第19図 13 syj160	土師器 坏	口径　13.0 器高　3.6 底径　9.3	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁部は歪み、端部は尖る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 黒色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 橙色
第19図 14 syj69	土師器 坏	口径　13.0 器高　3.7 底径　9.4	体部は中位で屈折し、その後、開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。全体的に歪んでいる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）	良	回転ナデ。体部下位に数ケ所に指頭圧痕あり。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ後一部斜め方向のナデ。見込みは未調整で成形痕が残る。 にぶい橙色
第19図 15 syj176	土師器 坏	口径　12.8 器高　3.5 底径　9.4	体部は中位で屈折し、その後、開きながら立ち上がる。体部外面上位と下位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。全体的に歪んでいる。作りは雑である。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後横ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第19図 16 syj186	土師器 坏	口径　12.5 器高　3.8 底径　9.2	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖る。全体的に大きく歪んでいる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向のやや強いナデ。 にぶい橙色
第19図 17 syj188	土師器 坏	口径（12.0） 器高　3.6 底径　8.8	体部は中位で屈折し、その後、開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。作りは雑である。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ後縦方向のナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色

第2表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第19図 18 syj10	土師器 坏	口径（11.9） 器高　3.5 底径　8.6	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多）	良	回転ナデ。下位に指頭圧痕あり。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 淡橙色	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。下位に指頭圧痕あり。見込みは一方向の強いナデ。 浅黄橙色
第19図 19 syj180	土師器 坏	口径（12.0） 器高　3.3 底径　8.2	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ後斜め方向のナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 橙色
第19図 20 syj185	土師器 坏	口径（11.4） 器高　3.5 底径　（8.0）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。残りが少ない為、切り離しの技法等は不明。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 灰褐色
第19図 21 syj168	土師器 坏	口径（12.9） 器高　3.4 底径　10.0	体部は下位で丸味を持ち、その後、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 黒色微粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 橙色
第19図 22 syj162	土師器 坏	口径　11.8 器高　4.0 底径　9.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。見込み周辺に少量のカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（少）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 橙色
第19図 23 syj167	土師器 坏	口径（12.2） 器高　4.0 底径　8.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は丸くなる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1程度、微量）	良	回転ナデ後横ナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 橙色
第20図 24 syj181	土師器 皿	口径　9.2 器高　2.1 底径　6.7	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。	細砂粒（少）白色粒子（少）	良	回転ナデ後ナデ。底部は回転糸切りで指頭圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは未調整で回転による成形時の凹凸を残す。 橙色
第20図 25 syj169	土師器 皿	口径　（9.2） 器高　2.0 底径　7.1	体部は中位で屈折し、その後、開き気味に上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第20図 26 syj173	土師器 皿	口径　（8.8） 器高　2.2 底径　（6.6）	体部は短く直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は厚みがあり、端部は丸くなる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1程度、多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで指頭圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは未調整で回転による成形時の凹凸を残す。見込み周辺に指頭圧痕あり。 橙色
第20図 27 syj61	土師器 皿	口径　8.4 器高　1.9 底径　5.7	体部は下位で屈折し、その後、直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁部は厚みがあり、端部は丸くなる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多） 黒色微粒子（多） 角閃石（0.1程度、少）	良	回転ナデ後一部縦方向のナデ。底部は回転糸切りで指頭圧痕あり。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。指頭圧痕あり。 浅黄橙色
第20図 28 syj43	土師器 皿	口径　（9.0） 器高　1.3 底径　（7.6）	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）白色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 橙色
第20図 29 syj178	土師器 皿	口径　9.4 器高　1.5 底径　5.5	体部は内湾気味に大きく開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 浅黄橙色	回転ナデ。 浅黄橙色
第20図 30 syj26	土師器 皿	口径　（8.6） 器高　1.7 底径　（6.4）	体部は下位に丸味を持ち、その後、外反気味に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は尖る。内面は体部と見込みの境が明瞭ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多） 角閃石（0.1～0.3、少）	良	回転ナデ後横ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ後横ナデ。見込みはナデ。 橙色
第20図 31 syj165	土師器 皿	口径　7.9 器高　1.9 底径　5.8	体部は下位に丸味を持ち、その後、内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位と下位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は尖り気味になる。体部内面に薄くカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多）赤褐色斑（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。底部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向のナデ。成形痕を残す。 にぶい橙色
第20図 32 syj27	土師器 皿	口径　（8.3） 器高　1.4 底径　（6.2）	体部は下位に丸味を持ち、その後、開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色微粒子（多） 黒色微粒子（多） 角閃石（0.1程度、少） 長石粒（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは軽いナデ。成形痕を残す。 にぶい橙色
第20図 33 syj25	土師器 皿	口径　（6.0） 器高　2.1 底径　（6.0）	体部は中位で屈折し、その後、開きながら上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。小型の皿である。体部内外面に薄くカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後一方向の軽いナデ。 にぶい橙色

第2表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第20図 34 syj164	土師器 皿	口径　8.4 器高　2.1 底径　6.2	体部は下位で屈折し、その後、開きながら直線的に立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 角閃石（0.1程度、微量）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 底部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。見込み周辺に指頭圧痕あり。 にぶい橙色
第20図 35 syj166	土師器 皿	口径　8.2 器高　2.0 底径　6.2	体部は中位で屈折し、その後、開きながら上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。底部に指頭圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。見込み周辺に指頭圧痕あり。 橙色
第20図 36 syj64	土師器 皿	口径　8.2 器高　1.8 底径　6.9	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁部は厚みがあり、端部は丸くなる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少） 白色微粒子（少） 角閃石（0.1程度、微量）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。底部に指頭圧痕あり。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。成形痕を残す。見込み周辺に指頭圧痕あり。 浅黄橙色
第20図 37 syj62	土師器 皿	口径　8.1 器高　1.9 底径　6.8	体部は厚く、直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は厚みがあり、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。成形痕を残す。見込み周辺に指頭圧痕あり。
第20図 38 syj172	土師器 皿	口径　(7.6) 器高　1.6 底径　(6.7)	体部は厚味があり、開き気味に立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。内面にカーボンが付着。灯明皿	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデと下位に回転ヘラケズリ。底部は回転糸切り。 にぶい赤褐色	回転ナデ。 明赤褐色
第20図 39 syj67	土師器 皿	口径　8.2 器高　1.9 底径　6.2	体部は内湾し、開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多） 角閃石（0.1程度、少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。底部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向のナデ。見込み周辺に指頭圧痕あり。 にぶい橙色
第20図 40 syj189	土師器 皿	口径　8.0 器高　1.8 底径　5.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は尖る。内外面にカーボンが付着。熱を受けたと思われる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ後ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 黒褐色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 黒褐色
第20図 41 syj60	土師器 皿	口径　7.0 器高　1.4 底径　5.7	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。内面は体部と見込の境は明瞭ではない。小型の皿である。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少） 白色微粒子（少）	良	回転ナデ後一部斜め方向の軽いナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。成形痕を残す。 橙色
第20図 42 syj182	土師器 皿	口径　(7.4) 器高　1.8 底径　(5.3)	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸味を持つ。小型の皿である。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデと回転ヘラケズリ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第20図 43 syj63	土師器 皿	口径　7.0 器高　1.7 底径　5.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁部は厚く、端部は丸くなる。内面は体部と見込みの境は明瞭ではない。外面底部は歪んでいる。小型の皿である。全体的に雑な作りである。	細砂粒（多）赤褐色斑（多）	良	回転ナデ後横ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ後軽いナデ。 見込みは成形痕を残す。 にぶい橙色
第20図 44 syj59	土師器 皿	口径　7.3 器高　2.0 底径　2.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位と下位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。小型の皿である。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少） 角閃石（0.1～0.2、少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 橙色
第20図 45 syj171	土師器 皿	口径　(7.2) 器高　1.5 底径　(5.0)	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。小型の皿である。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ　底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 橙色
第20図 46 syj183	土師器 皿	口径　6.8 器高　1.0 底径　5.8	体部は直線的に立ち上がる。口縁端部は丸くなる。器高は低い。小型の皿である	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第21図 47 syj66	土師器 皿	口径　7.9 器高　2.3 底径　5.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖る。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 橙色
第21図 48 syj587	土師器 皿	口径　7.8 器高　1.6 底径　5.5	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面はクシ状工具で横方向に沈線を施す。口縁端部は丸味を持つ。内面の一部にカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多）赤褐色斑（多）	良	回転ナデ後クシ状工具で横方向に沈線を施す。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。 橙色
第21図 49 syj11	土師器 皿	現存高　2.0 底径　(6.3)	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位と下位に稜が入る。口縁部は欠損。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 黒色微粒子（多） 角閃石（0.1程度、少）	普通	回転ナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。見込みに成形痕を残す。 橙色
第21図 50 syj590	土師質 鍋	現存高　2.4	口縁部に粘土帯を貼りつけてあり、端部は丸くなる。残りが少ないため、詳細は不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.5程度、微量） 白色微粒子（多） 角閃石（0.1程度、多）	良	ナデ。 にぶい黄橙色	ヘラ状工具使用の横方向への調整。 暗褐色

第2表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第21図 51 syj35	瓦質土器 風炉	現存高 8.8	体部は直線的に立ち上がり、その後、上位で内側に屈曲する。外面に二条の凸帯を貼り付け、凸帯の間に雷文状のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）白色粒子（多） 雲母（多）	良	横ナデ。 にぶい橙色	横方向のクシ状工具使用の調整。 にぶい橙色
第22図 52 syj198	瓦質土器 火鉢	現存高 4.3	口縁部に断面三角の凸帯を貼り付け、肥厚させる。体部外面に凸帯を貼り付け、凸帯間に斜め格子状のスタンプを連続して押し、凸帯の下にも連子状のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.3～0.8、多） 赤褐色斑（多）雲母（多）	良	横ナデ。 褐灰色	縦方向のハケ目後斜め方向のハケ目。 褐灰色
第22図 53 syj199	瓦質土器 火鉢	現存高 4.5	体部は直線的に立ち上がる。口縁部に断面三角の凸帯を貼り付け、肥厚させる。体部外面に凸帯を貼り付け、口縁部間に連続文のスタンプを押す。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色微粒子（多）雲母（多）	良	横ナデ。 灰黄色	横及び斜め方向のナデ。 黒褐色
第22図 54 syj46	瓦質土器	現存高 1.8 底径（17.8）	体部下位より、直線的に立ち上がる。残りが少ない為、器種等は不明。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多）	普通	横ナデ後縦方向のハケ目。 浅黄色	欠損の為不明。
第22図 55 syj42	瓦質土器 火鉢	現存高 3.2	体部は開き気味に立ち上がる。外面下位に凸帯を貼り付ける。脚部は欠損。	砂粒（少）白色粒子（少）	普通	横ナデ。 灰色	横ナデ。 暗灰黄色
第22図 56 syj191	瓦質土器 擂鉢	現存高 7.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（多）	良	横及び斜め方向のナデと指押さえ。 灰黄色	斜め方向のナデと擂目を施す。 灰黄色
第22図 57 syj194	瓦質土器 擂鉢	現存高 8.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、端部は平坦になる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）雲母（多）	良	縦方向のハケ目後斜め方向のナデ。 灰色	斜め方向のナデ後擂目を施す。 灰色
第22図 58 syj193	瓦質土器 擂鉢	現存高 7.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）白色粒子（多） 雲母（多）	良	横及び斜め方向のナデと一部にハケ目を施す。 灰色	斜め方向のナデ後擂目を施す。 灰色
第22図 59 syj196	瓦質土器 擂鉢	現存高11.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに内湾する。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）雲母（多）	良	ナデ。 灰色	横ナデと擂目を施す。 黄灰色
第22図 60 syj239	瓦質土器 擂鉢	現存高 9.9	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（少） 白色微粒子（少）雲母（多）	良	縦横にナデ。 灰白色	不定方向のナデと擂目を施す。 褐灰色
第22図 61 syj195	瓦質土器 擂鉢	現存高 6.1	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、端部は平坦になる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多） 白色粒子（多）雲母（少）	普通	横及び斜め方向のナデ。 灰黄色	ナデと擂目を施す。 灰黄色
第22図 62 syj23	瓦質土器 擂鉢	現存高 7.3	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）白色粒子（多） 長石粒（少）	良	指押さえ後ナデ。 灰黄色	ナデと擂目を施す。 黄灰色
第22図 63 syj24	瓦質土器 擂鉢	現存高 4.8	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.3、少） 白色粒子（多）雲母（多）	良	ナデとハケ目。最下部は指押さえ。 褐灰色	擂目を施した後軽いナデ。 灰白色
第22図 64 syj19	瓦質土器 擂鉢	現存高 4.3	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による擂目を施す。	細砂粒（多）長石粒（微量）	良	ナデ。最下部指押さえ。 灰黄褐色	擂目を施す。 黒褐色
第23図 65 syj208	瓦質土器 香炉	口径 （9.6） 脚高 1.3 器高 7.8	体部は内湾気味にやや開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。脚部は外方に張り出す。口縁部下に、菊花文を押す。脚が何本あったのかは不明。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色微粒子（多）	良	回転ナデ後横及び斜め方向のヘラミガキ。 灰白色	回転ナデ後縦方向のナデ。 灰白色
第23図 66 syj200	瓦質土器 茶釜	口径（15.8） 現存高 4.3	体部は膨らみ、頸部で屈折し、その後、上方へ立ち上がる。口縁端部は水平になる。肩部に菊花文を押す。粘土に金雲母を混入させている。	細砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、多） 白色粒子（多） 角閃石（0.2程度、微量） 雲母（多）	良	回転ナデ後横方向のヘラミガキ。 灰色	口縁部は回転ナデ。肩部は回転ナデ後横方向のヘラミガキ。 灰色
第23図 67 syj29	須恵質 壺	口径（15.6） 現存高 7.0	体部は内湾気味に窄まりながら立ち上がる。頸部に凸帯を一条巡らし、口縁部は短く開く。口縁端部は平坦になる。	細砂粒（多） 小石粒（0.3～0.7、少） 白色粒子（多）雲母（多）	良	口縁部は回転ナデ。体部は回転ナデ後格子目文叩きと縦方向のハケ目。 灰白色	回転ナデ後横ナデと縦横のハケ目。 灰黄色
第23図 68 syj584	瓦質土器 羽釜	胴径（24.2） 現存高 6.5	体部は丸味を持ち、外面に鍔を貼り付けてある。	細砂粒（少）雲母（多）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデとナデ。鍔部分はヘラケズリ後回転ナデ。 暗灰黄色	横ナデと斜め方向のハケ目、一部ヘラミガキ。指頭圧痕あり。 黒褐色
第23図 69 syj37	瓦質土器 鉢	現存高 6.6	体部は直線的に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少）雲母（多）	良	横及び斜め方向のナデと指押さえ。 にぶい黄橙色	横ナデ。上位に指頭圧痕あり。 にぶい黄橙色

第2表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅰ次調査　SD－02内出土遺物 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第24図 70 syj211	瓦質土器	現存高12.5 底径（15.4）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。残りが少ない為、器種等は不明。	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 白色粒子（少）雲母（少）	良	ヘラケズリ後ハケ目とナデ。 褐灰色	横方向のハケ目後ナデ。 灰白色
第25図 71 syj57	須恵質 壺	口径（25.6） 現存高　5.2	口縁部は短く屈曲し、端部は尖り気味になる。頸部に僅かな段が付く。	細砂粒（多） 白色微粒子（多）	良	口縁部は回転ナデ。肩部は格子目文叩き後ナデ。 灰色	口縁部は回転ナデ。肩部は回転ナデ後横方向のヘラケズリ。 灰色
第25図 72 syj597	須恵質 壺or甕	現存高　5.2 底径　（6.0）	体部下位より直線的に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多） 小石粒（0.3、微量）	良	回転ナデ後ナデ。 灰黄色	回転ナデ後ナデ。 灰黄色
第25図 73 syj16	須恵質 壺	口径（14.3） 胴径（20.7） 現存高10.0	口縁部は外反し屈曲する。口唇部は下端が尖り、口縁上端は丸味を持つ。胴部は膨らむ。山形の叩き目などから、肥後新型と思われる。	細砂粒（多）雲母（多）	良	口縁部は回転ナデ。体部は山形の叩き調整。 灰白色	口縁部は回転ナデ。体部は横方向のハケ目。指頭圧痕あり。 灰白色
第25図 74 syj36	須恵質 壺or甕	現存高　6.3 底径（12.6）	体部下位より直線的に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）	良	横ナデ。 褐灰色	横ナデ。 灰褐色
第25図 75 syj39	須恵質 東播焼の捏鉢	現存高　2.8	口縁部は三角に肥厚し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）白色粒子（少）	良	回転ナデ。 灰白色。口唇部は黒褐色	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。 灰白色
第25図 76 syj38	須恵質 東播焼の捏鉢	現存高　2.6	口縁部は三角に肥厚し、端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）	良	回転ナデ。 灰色。口唇部は濃い灰色	回転ナデ。 灰色
第25図 77 syj40	須恵質 東播焼の捏鉢	現存高　4.3 現存高　2.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は三角に肥厚し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）白色粒子（多）	良	回転ナデ。 灰白色、口唇部は濃い灰色	回転ナデと口縁部下は指押さえ。 灰色
第25図 78 syj596	須恵質 鉢？	現存高　5.1	体部は直線的に立ち上がる。	細砂粒（多）砂粒（多）	良	回転ナデと横方向のヘラケズリ。 灰黄色	不定方向のナデ。指頭圧痕あり。 灰黄色
第26図 79 syj228	青磁碗 輸入磁器	現存高　1.6	口縁部は尖り気味になる。片切り彫りによる幅広の蓮弁を施す。上田氏分類の青磁碗B類。14世紀～16世紀。	灰褐色 白色微粒子（少） 良質	良	施釉。 灰オリーブ色	施釉 灰オリーブ色
第26図 80 syj231	青磁碗 輸入磁器	現存高　2.3	口縁端部は丸くなる。片切り彫りによる蓮弁を施す。上田氏分類の青磁碗B類。14世紀～16世紀。	白色 良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感がある。細かい貫入が入る。 明青緑色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。 明青緑色
第26図 81 syj222	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.7	口縁部は僅かに外反する。端部は尖り気味になる。片切り彫りによる鎬蓮弁を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－b類。13世紀前後～前半。	灰黄色 粗質	良	施釉。釉はガラス質で透明感がある。貫入が入る。 青白色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。貫入が入る。 青白色
第26図 82 syj89	青磁盤 輸入磁器	現存高　3.7	体部は内湾気味に大きく開きながら立ち上がる。内面に片切り彫りとクシ状工具による牡丹唐草を施す。残りが少ない為、器形は不明。	灰白色 白色微粒子（多） 黒色微粒子（多） 粗質	良	施釉。釉は厚く掛かり、ガラス質で透明感がある。大きめの貫入が入る。 明青緑色	施釉。釉は厚く掛かり、ガラス質で透明感がある。大きめの貫入が入る。 明青緑色
第26図 83 syj91	青磁碗 輸入磁器	高台径　5.2 高台高　0.7 現存高　2.2	高台内の刳りは浅く、中央部が凸状になる。底部は厚く、高台は断面四角になる。体部外面下位に片切り彫りによる鎬蓮弁を施し、内面見込みに陰圏線とその内側に草花文の印刻を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－c類。13世紀前後～前半。	灰白色 白色微粒子（少） 黒色微粒子（微量） やや粗質	良	施釉。釉は厚く掛かり、ガラス質で透明感がある。 明青緑色	施釉。釉は厚く掛かり、ガラス質で透明感がある。 明青緑色
第26図 84 syj73	青磁皿 輸入磁器	高台径　6.9 高台高　0.4 現存高　1.5	高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台貼付けは斜めに削られている。残りが少ない為、詳細は不明。	白色	良	施釉。釉は貫入が多い。回転ヘラケズリ。釉は高台内側まで流れ込む。 灰緑色	施釉。釉は貫入が多い。見込みは螺旋状の成形痕を残す。 青緑色
第26図 85 syj213	青磁碗 輸入磁器	口径（14.6） 現存高　4.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部はやや外反し、端部は丸味を持つ。体部外面に片切り彫りによる鎬蓮弁を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－b類。13世紀前後～前半。	灰白色 白色微粒子（少） 黒色微粒子（少） やや良質	良	施釉。釉はくすむ。 明青緑色	施釉。釉はくすむ。 明青緑色
第26図 86 syj74	青磁碗 輸入磁器	高台径　5.7 現存高　4.0	腰が張り、高台内の刳りはやや浅く、底部は厚くなる。高台は角高台で外端を斜めに面取りしている。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類。14世紀初頭～後半。	黄灰白色 白色微粒子（多） 黒色微粒子（多） 粗質	良	施釉。回転ヘラケズリ。高台外端から高台内の釉を掻き取る。釉は薄く、くすむ。 灰緑色	施釉。見込みは円形に釉を掻き取る。釉は薄く、くすむ。 灰緑色
第26図 87 syj93	青磁 小型壺 輸入磁器	胴径（13.4） 現存高　4.5	胴部は膨らみ、頸部は直線的に上方へ立ち上がる。胴部外面に丸ヘラ彫りによる蓮弁を巡らせている。『首里城跡－京の内発掘調査報告書Ⅰ（Ⅰ）の青磁小型壺Ⅰ群B類に該当する物と思われる。外面はツヤが無く、やや荒れている。	灰白色 黒色微粒子（微量） 良質	良	施釉。貫入が入る。 灰オリーブ色	施釉。大きめの貫入が入る。 オリーブ灰色

第2表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅰ次調査　SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第26図 88 syj229	青磁碗 輸入磁器	現存高　2.2	体部外面に縦方向の櫛目文、内面に櫛の先端を利用した点描文を施す。大宰府編年の同安窯系青磁碗Ⅰ－1b類。残りが少ない為、詳細は不明。12世紀中頃～後半。	灰黄白色 黒色微粒子（多） やや粗質	良	施釉。釉は薄く、透明感がある。 浅黄色	施釉。釉は薄く、透明感がある。 浅黄色
第26図 89 syj238	青磁 鍔縁盤 輸入磁器	口径（18.0） 高台径　7.2 高台高　1.0 器高　　5.0	体部下位は腰が張り、内湾気味に大きく開く。口縁部は鍔を持ち、鍔を後花状に成形している。高台内の削りは浅く、中央が凸状になる。体部内面に片切り彫りの花弁と、見込みに花樹文を施し、鍔上面に二叉線状の工具で鍔端に沿うように後花を施す。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（Ⅰ）の青磁盤Ⅱ群に該当する物と思われる。	不明	良	施釉。釉は厚く掛かり、貫入が入る。全面施釉後高台内の釉を円形に掻き取る。畳付けに砂粒溶着。 濃青緑色	施釉。釉は厚く掛かり、貫入が入る。 濃青緑色
第26図 90 syj95	青磁盤 輸入磁器	現存高　2.0 底径　　8.0	外面は体部と高台の境が無い。残りが少ない為、詳細は不明。	灰白色 白色微粒子（多） 黒色微粒子（多） 粗質	良	施釉。釉は厚くガラス質で透明感がある。大きめの貫入が入る。全面施釉後高台内の釉を円形に掻き取る。 オリーブ灰色	施釉。釉は厚くガラス質で透明感がある。大きめの貫入が入る。 オリーブ灰色
第26図 91 syj70	青磁碗 輸入磁器	口径（15.2） 現存高　4.5	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに肥厚し、端部は丸くなる。体部外面上位に片切り彫りによる雷文帯を施す。上田氏分類の青磁碗C類。14世紀～15世紀初頭。	白色 白色微粒子（微量） 黒色微粒子（微量） やや良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感がある。大きめの貫入が入る。 明青緑色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。大きめの貫入が入る。 明青緑色
第27図 92 syj232	白磁 四耳壺 輸入磁器	現存高　3.1	肩部外面に横耳を貼り付けてあったと思われる。内面に施釉されていることから、大宰府編年の白磁四耳壺Ⅲ類の可能性がある。正確な傾き等は不明。	灰白色 白色微粒子（多） 黒色微粒子（多） 粗質	良	施釉。 明白青色	施釉。 明白青色
第27図 93 syj215	白磁水注 輸入磁器	径 1.8～2.0	水注の口の部分。	灰白色 黒色微粒子(多) やや粗質	良	施釉。細かい貫入が入る。 薄い青白色	無釉。 胎土と同色
第27図 94 syj87	白磁 四耳壺or 水注 輸入磁器	高台径（8.0） 高台高　1.9 現存高　4.3	高台端部外面を広く面取りしている。断面は逆台台形状になる。大宰府編年の白磁四耳壺or水注Ⅲ－2類。13世紀に出現。	灰黄白色 白色微粒子（少） やや良質	良	釉が途中まで垂れている。回転ヘラケズリ。 白灰色	無釉。 にぶい褐色
第27図 95 syj546	白磁皿 輸入磁器	口径　（9.2） 現存高　2.0	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は口禿げになる。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類。13世紀後半～14世紀前半に増加。	灰白色 黒色微粒子（多） 粗質	良	施釉。回転ヘラケズリ。 灰白色	施釉。 灰白色
第27図 96 syj548	白磁皿 輸入磁器	現存高　3.0	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は口禿げになる。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類。	灰白色 黒色微粒子（多） 粗質	良	施釉。 灰白色	施釉。 灰白色
第27図 97 syj631	染付碗 輸入磁器	現存高　1.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面に葉の文様を描く。残りが少ない為、正確な傾き等、詳細は不明。	白色 黒色微粒子（微量） やや良質	良	施釉。 明青白色。染付は薄い藍色	施釉。 明青白色
第27図 98 syj561	黒釉陶器 碗 中国陶器		体部下位で湾曲し、その後、開きながら立ち上がる。残りが少ない為、正確な傾き等、詳細は不明。	灰色 白色微粒子（少）	良	施釉。回転ヘラケズリ。 黒褐色。下位は暗オリーブ褐色	施釉。回転ヘラケズリ。 黒褐色
第27図 99 syj205	陶器壺 浙江青	現存高　4.5 底径　（8.8）	体部は直線的にやや開きながら立ち上がる。高台内の削りは浅く、高台畳付けは幅が広くなる。13世紀の物と思われる。	灰色と橙色 黒色微粒子（多）	良	施釉。回転ナデ。釉は気泡が多い。体部に砂粒が多く付着している。高台畳付けは無釉。 オリーブ灰色	施釉。回転ヘラケズリ。釉は気泡があり、砂粒が付着している。 灰黄色
第27図 100 syj227	古瀬戸 皿 国産陶器	口径（14.0） 器高　　1.4 底径（11.0）	口縁部は反り返り、端部は波状に成形され花弁を表す。灰釉古瀬戸。	灰黄白色	良	施釉。細かな貫入が入る。 薄い黄緑色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。細かな貫入が入る。 薄い黄緑色
第28図 101 syj13	常滑焼 甕 国産陶器	現存高　8.4	頸部は外反気味にやや窄まりながら立ち上がる。口縁部は「N」字状になり、上端は丸味を持つ。常滑6a型式1250年～1275年。	灰白色 細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.1～0.2、多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少） 長石（0.2～0.3、少） 長石粒（多）	良	横ナデ。 浅黄色と黄灰色	横ナデ。 にぶい赤褐色と浅黄色
第28図 102 syj58	常滑焼 甕 国産陶器	現存高　8.5	口縁部は「N」字状になり、口縁部上端は丸味を持つ。頸部は内傾する。常滑5型式1220年～1250年。	灰褐色 細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.3、多） 白色粒子（多）	良	横ナデ。 灰黄褐色	横ナデ。 灰黄褐色
第28図 103 syj41	甕 国産陶器	現存高　5.7	口縁部は「N」字状になる。頸部は内傾する。中世。傾きは正確ではない。	明褐灰色 細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少）	良	横ナデ。 灰白色	横ナデ。 灰黄褐色
第28図 104 syj204	備前焼 擂鉢 国産陶器	現存高　4.8	口縁部は肥厚し、口唇部を外側に張り出させている。体部内面にクシ状工具による八条の擂目を施す。乗岡編年の備前焼擂鉢、中世3期。14世紀中頃～15世紀前半。	灰色 細砂粒（多）白色粒子（多）	良	回転ナデ。 赤褐色	回転ナデ後擂目を施す。 赤褐色

第2表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第28図 105 syj203	備前焼 甕or壺 国産陶器	現存高 6.1 底径 (5.0)	底部より直線的にやや開きながら立ち上がる。底部は平底と思われる。	黒褐色 細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少） 白色微粒子（多）	良	体部は不定方向のナデ。体部下位は横ナデ。 にぶい赤褐色	体部は横ナデ。体部下位はヘラ状工具使用の横方向の調整。 褐灰色
第28図 106 syj209	備前焼 甕or壺 国産陶器	現存高16.5 底径 (17.8)	底部より直線的にやや開きながら立ち上がる。底部は平底と思われる。	褐灰色 細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 白色微粒子（多）	良	体部はヘラケズリ後縦方向のナデ。体部下位はヘラケズリ後横ナデ。縦方向のヘラ状工具の痕が数箇所にある。 灰赤色	体部は横及び斜め方向のナデ。体部下位は横方向のヘラケズリ。横方向のヘラ状工具の痕が数箇所にある。 褐灰色
第28図 107 syj210	備前焼 擂鉢 国産陶器	口径 (30.0) 器高 11.5 底径 (16.7)	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに肥厚し、口唇部を外側に張り出させている。体部内面にクシ状工具による八条の擂目を施す。底部は平底になる。乗岡編年の備前焼擂鉢、中世3期。14世紀中頃～15世紀前半。	灰色 細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）	良	回転ナデ。 灰赤色	回転ナデ後擂目を施す。 灰赤色
第29図 108 syj175	黒色土器 椀	口径 (9.4) 高台径 (5.4) 高台高 0.7 器高 3.8	体部下位は腰が張り、その後、開き気味に立ち上がる。口縁部は外反し、端部は尖り気味になる。高台を持つ。黒色土器B類。内外面にカーボンを吸着。両黒。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	横方向のヘラミガキ。 黒色	体部内面は横方向のヘラミガキ。見込みは不定方向のヘラミガキ。 黒色
第29図 109 syj22	土師器 高坏	現存高 2.5	高坏の脚部破片。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（多）	良	ヘラケズリ後横ナデ。 褐灰色	指押さえ後ナデ。 褐灰色
第29図 110 syj161	土師器 坏	口径 12.3 器高 4.5 器高 1.6	体部は内湾気味に開きながら立ち上がり、上位で屈折する。口縁部は直線的に内傾し、端部は丸くなる。底部は丸底で体部外面上位に段が付く。手持ち成形。古代。7世紀後半～8世紀前半位。	細砂粒（多）砂粒（少）	良	体部は横方向のヘラミガキ。口縁部は横ナデ。 にぶい黄橙色	体部は不定方向のヘラミガキ。口縁部は横ナデ。 にぶい橙色
第29図 111 syj14	土師器 高坏	現存高 5.0	脚部は窄まりながら立ち上がる。坏部は大きく開く。坏部内面に赤色顔料が少量残る。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少） 黒色微粒子（多） 長石（0.6、1個）	良	坏部はナデ。脚部はヘラケズリ。 浅黄橙色	坏部はナデ。脚部はヘラケズリ。 浅黄橙色
第29図 112 syj602	土師器 高坏	現存高 7.7	脚部は内湾気味に窄まりながら立ち上がる。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多）長石粒（多）	良	縦方向のハケ目後縦及び斜め方向のナデ。 にぶい橙色	ハケ状工具使用の横及び斜め方向の調整後横及び斜め方向のナデ。 にぶい橙色
第29図 113 syj7	土師器 甑	口径 (28.8) 器高 29.9 底径 (12.6)	体部は直線的に開き気味に立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面に取っ手が付く。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.5、多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（多）	良	ハケ目後ナデ。口縁部付近は横ナデ。取っ手部分はヘラケズリ。 浅黄橙色	ヘラケズリ。口縁部付近は横ナデ。 浅黄橙色
第30図 114 syj21	須恵器 鉢？	現存高 1.8	体部は開きながら立ち上がると思われる。高台付きか？残りが少ない為、詳細は不明。古代。	細砂粒（多）白色粒子（多）	良	回転ナデ。 灰色	見込みは不定方向のナデ。 灰白色
第30図 115 syj51	須恵器 高坏？	現存高 2.0	体部は大きく開く。残りが少ない為、詳細は不明。 古代	細砂粒（少）白色粒子（少）	良	回転ナデ。 灰色	見込み中心部はナデ。 灰色
第30図 116 syj17	須恵器 大甕？	現存高 5.3	体部下位より大きく開きながら立ち上がる。底部は平底と思われる。残りが少ない為、詳細は不明。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）長石粒（多）	良	縦方向のナデ。 にぶい赤褐色	横ナデ。 灰白色
第30図 117 syj34	須恵器 高坏？	脚部径 2.6 現存高 5.6	脚部は外反気味に上方に伸びる。中位に二条の稜が入る。高坏の脚部と思われる。残りが少ない為、詳細は不明。古代。	細砂粒（少）白色粒子（多）	良	回転ナデ。 灰白色	しぼり痕 灰黄色
第30図 118 syj15	弥生 甕棺	現存高 5.8	体部上位は内傾しながら立ち上がり、凸帯を貼り付けている。口唇部は三角になり肥厚する。口縁部上端に赤色顔料が僅かに残る。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.3、多） 雲母（多）	良	横ナデ。 にぶい黄橙色	横ナデ。 浅黄橙色
第30図 119 syj12	弥生 甕？	底径 (10.0) 現存高 4.6	甕の脚台部と思われる　残りが少ない為、詳細は不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	叩き後横ナデ。 淡黄色	ナデ。 淡黄色

第3表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　1号円形遺構内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第31図 1 syj520	土師器 坏	口径　(8.0) 器高　1.9 底径　(7.2)	体部下位は開きながら立ち上がり、中位で屈折し、上方へ伸びる。口縁端部は横方向へ張り出し平坦になる。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。 にぶい橙色
第31図 2 syj572	土師器 坏	口径（10.0） 器高　2.7 底径　(6.2)	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。内面にカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込み中心付近をナデ窪める。 にぶい橙色
第31図 3 syj570	土師器 坏	口径（10.0） 器高　2.6 底径　6.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。内面にカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。部分的に斜め方向のナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込み中心付近をナデ窪める。 にぶい橙色
第31図 4 syj574	黒色土器 椀	高台径　8.4 高台高　1.0 現存高　3.3	体部は開きながら立ち上がる。高台は外反し、端部は尖る。黒色土器A類。内面にカーボンを吸着。内黒。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 角閃石（少）雲母（少）	良	体部はヘラミガキ。体部下位から高台までは回転ナデ。切り離しは回転ヘラ切り。 にぶい橙色	ヘラミガキ。 黒色
第32図 5 syj702	瓦質土器 香炉	口径（14.0） 最大径15.2 現存高　6.6 底径（12.8）	体部は直線的にやや開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。底部は平底で、脚が数箇所に貼り付けてあったと思われる。小型鉢形土器。脚の痕跡がある。	細砂粒（少） 白色微粒子（少）雲母（少）	良	体部上位は回転ナデ。中位より下は回転ナデ後部分的な横及び斜め方向のヘラミガキ。 灰白色	回転ナデ。見込みはナデ。 灰白色
第32図 6 syj511	瓦質土器 香炉	口径（13.0） 最大　14.4 器高　6.4 底径（13.4）	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁端部は水平になる。口縁部下に円管状の竹管文が三ツ一組で数箇所に押されている。底部に脚が付いていたかは不明。	細砂粒（少）雲母（少）	良	回転ナデ後横方向のヘラミガキ。底部は不定方向のナデ。 灰白色	回転ナデ後横ナデ。体部下位に指頭圧痕あり。 灰白色
第32図 7 syj601	瓦器椀	高台径（6.2） 高台高　0.6 現存高　1.3	底部は押し出しにより丸底になる。高台は低く逆三角形になる。	細砂粒（多） 白色微粒子（少） 角閃石（0.2程度、少）	良	高台部は横ナデ。底部はナデ。 にぶい黄橙色	見込みはナデ。 浅黄橙色
第32図 8 syj521	瓦質土器 火鉢	現存高　8.5	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚し、上端は平坦になる。外面に二条の凸帯を貼り付ける。口縁部下の凸帯間に斜格子状文、二条目の凸帯間に連子状文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、多） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1程度、多） 長石（0.2～0.3、多） 雲母（多）植物の炭化物を含有。	良	横ナデ。 灰黄色	横及び斜め方向のハケ目と横ナデと思われる。 黄灰色
第32図 9 syj523	瓦質土器 火鉢	現存高　8.7	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁部は折り返して肥厚し、上端は平坦になる。外面に二条の凸帯を貼り付ける。口縁部下の凸帯間に菊花文、二条目の凸帯間に連子状文のスタンプを連続して押す。外面に赤色顔料塗布。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2程度、少） 赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少）雲母（多）	良	横ナデ。 にぶい暗赤褐色とにぶい橙色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第32図 10 syj524	瓦質土器 火鉢	現存高　8.4	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚し、上端は水平になる。外面に二条の凸帯を貼り付けている。口縁部下の凸帯間に菊花文、二条目の凸帯間に連子状文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）雲母（少）	良	横ナデ。 にぶい黄橙色	口縁部は横ナデ、その下は斜め方向のナデ。 にぶい黄橙色
第32図 11 syj595	瓦質土器 火鉢	現存高　6.1	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚し、上端は水平になる。外面に二条の凸帯を貼り付けている。口縁部下の凸帯間に菊花文、二条目の凸帯間に連子状文のスタンプを連続して押す。外面に赤色顔料塗布	細砂粒（少） 白色微粒子（少）	良	横ナデ。 灰黄褐色とにぶい黄橙色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第32図 12 syj525	瓦質土器 火鉢	現存高　9.3	体部下位より直線的にやや開きながら立ち上がる。外面下位に凸帯を貼り付ける。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少） 長石（0.5程度、微量）	普通	横及び斜め方向のナデ。底部近くは横ナデ。 にぶい黄橙色	斜め方向のナデ。見込み近くは横ナデ。 灰白色とにぶい赤褐色
第32図 13 syj593	瓦質土器 捕鉢	現存高　6.6	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による六条の櫛目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少） 白色微粒子（多） 雲母（多）長石粒（少）	良	回転ナデ後布を使用したと思われるナデ痕がある。 にぶい赤褐色	丁寧な斜め方向のナデ後櫛目。 灰黄褐色
第32図 14 syj578	瓦質土器 捕鉢	現存高　5.7	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による八条の櫛目を施す。	細砂粒（多）雲母（少）	良	回転ナデ。指頭圧痕が複数ある。 灰色	斜め方向のナデ後櫛目。 灰色
第32図 15 syj594	瓦質土器 捕鉢	現存高6.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による櫛目を施す。外面にカーボンが付着。内面は器面荒れの為、詳細は不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.4程度、微量） 赤褐色斑（多） 白色粒子（少） 白色微粒子（多）雲母（多） 長石粒（微量）	普通	回転ナデ後縦及び斜め方向のナデ。 黒褐色	ナデ。 黒褐色

第3表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 1号円形遺構内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第32図 16 syj522	瓦質土器 擂鉢	口径（30.6） 現存高 8.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による六条の擂目を施す。外面にカーボンが付着。	細砂粒（多）白色粒子（少） 雲母（多）	良	部分的なハケ目後不定方向のナデ。口縁部は横ナデ。 灰色と黒褐色	斜め方向のナデ後擂目。 灰色
第33図 17 syj586	須恵質 壺or甕	現存高 3.6	体部下位より開きながら立ち上がる。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.4程度、微量） 白色微粒子（少） 黒色粒子（多）	良	格子目文叩き後不定方向の粗いナデ。底部は板目圧痕？ 暗灰黄色	横及び斜め方向のナデ。 オリーブ褐色
第33図 18 syj591	須恵質 擂鉢	現存高 4.4	体部は開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による七条の擂目を施す。	細砂粒（多） 小石粒（0.5～0.6、少）	不良	不定方向のナデと指押さえ。底部は未調整。 灰黄褐色	横及び斜め方向のナデ。 黄褐色
第33図 19 syj592	須恵質 擂鉢	現存高 3.3 底径（12.0）	体部は開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による六条の擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3程度、微量） 白色粒子（多） 白色微粒子（多）雲母（多）	良	ナデと部分的にハケ目。底部はハケ目。体部下位に指頭圧痕が複数ある。 黒褐色	横ナデ。 暗灰黄色
第33図 20 syj703	須恵質 甕	口径（28.3） 現存高 6.3	頸部は内傾する。口縁部は短く屈折し、口縁端部は丸くなる。	細砂粒（多）白色粒子（少） 雲母（少）	良	口縁部から頸部は横ナデ。体部は格子目文叩き。 褐灰色	口縁部周辺は横ナデ。体部内面は横方向のハケ目と横ナデ。 灰褐色
第33図 21 syj512	備前焼 甕 国産陶器	口径（34.4） 現存高 8.6	頸部は上方へ立ち上がる。口縁部は折り返す為、丸く肥厚する。	橙色 細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多） 白色粒子（多）	良	口縁部は回転ナデ。体部は回転ナデ後不定方向のナデ。 灰褐色と黄灰色	回転ナデと横ナデ後不定方向のナデ。 褐灰色
第33図 22 syj579	備前焼 擂鉢 国産陶器	現存高 4.4	口縁部は三角に肥厚する。乗岡編年の備前焼擂鉢、中世3期～5期、14世紀～15世紀。	灰色 細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、多） 白色粒子（多）	良	口唇部は回転ナデ後横ナデ。体部は回転ナデ後横方向のヘラミガキと縦方向のナデ。 口縁部は褐色と体部は灰色	回転ナデ後口縁部は斜め方向にナデ上げる。 オリーブ黒色
第34図 23 syj379	瓦質土器 火鉢	現存高10.2	体部は直線的にやや内傾しながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、上端は水平に近くなる。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.21～0.8、多） 白色粒子（少）	良	横及び斜め方向のナデ。 黄灰色	横及び斜め方向のナデ 黄灰色
第34図 24 syj513	瓦質土器 羽釜	口径（27.6） 鍔径（31.6） 現存高 6.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部下に鍔が貼り付けられており、穿孔部分が二箇所以上に施されていると思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2程度、少） 白色粒子（少）雲母（微量）	良	横ナデ。ヘラ状工具使用の痕がある 灰黄色	横及び斜め方向のナデ 灰黄色
第34図 25 syj526	瓦質土器 火鉢	胴径（42.4） 現存高15.9	体部は直線的に僅かに開きながら立ち上がる。外面に一条の凸帯を貼り付け、凸帯の上にクシ状工具による波状の文様を描く	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	横及び斜め方向のナデ。 灰色とオリーブ黒色	横及び斜め方向のナデ 灰色とオリーブ黒色
第35図 26 syj515	青磁碗 輸入磁器	口径（16.6） 現存高 3.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は輪花を有していると思われる。体部外面に片切り彫りによる蓮弁を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－a類、13世紀前後～前半	黄灰褐色 緻密	良	施釉。回転ヘラケズリ 釉は薄く均等に掛かる。貫入が入る。 オリーブ黄色	施釉。 オリーブ黄色
第35図 27 syj517	青磁碗 輸入磁器	口径（16.7） 現存高 4.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部内面に片切り彫りによる蓮花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2類、12世紀中頃～後半	灰色 白色微粒子（少） 良質	良	施釉。回転ヘラケズリ 貫入が入る。 オリーブ灰色	施釉。大きい貫入が入る。 オリーブ灰色
第35図 28 syj514	青磁 外反口縁皿 輸入磁器	高台径 4.9 高台高 0.9 現存高 3.0	体部は腰が張り「く」字状に屈折する。高台内の刳りは浅く、中央は凸状になる。底部は厚く、高台は直に削られる。体部は外反気味に開きながら立ち上がる。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（Ⅱ）の青磁外反口縁皿の1群に該当する物と思われる。14世紀～15世紀？	黄灰白色 白色粒子（多） やや良質	良	施釉。釉は気泡が多く、全面施釉後、高台際付けから高台内は釉を掻き取り露胎とする オリーブ灰色	施釉。見込みは円形に釉を掻き取る。 オリーブ灰色
第35図 29 syj83	青磁 稜花皿 輸入磁器	口径（12.2） 高台径 6.0 高台高 0.9 器高 3.3	体部下位で腰が張り「く」字状に屈折する。その後、体部は外反し、開きながら立ち上がる。口唇部はラマ式蓮弁の弁先様に浅く抉りを入れる。体部内面には口唇のラマ式蓮弁に合わせて、叉線彫り工具で、ラマ式蓮弁と牡丹唐草文と思われる文様を施し、見込みに陰圏線と印花と思われる文様を施す。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（Ⅱ）の青磁稜花皿に類似する。14世紀～15世紀？	灰色 白色粒子（多） 白色微粒子（多） やや良質	良	施釉。釉は気泡が多く、貫入が入る。全面施釉後、高台内は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。 青緑色（艶が無く、くすんだ色で湿った感じ）	施釉。釉は気泡が多く、貫入が入る。 青緑色（艶が無く、くすんだ色で湿った感じ）
第35図 30 syj551	青白磁 合子蓋 輸入磁器	口径（4.8） 現存高 1.4	体部は内湾し、窄まりながら立ち上がる。体部外面に型起こしによる蓮弁文を施す。	灰白色	良	施釉。口縁端部の釉を掻き取り露胎とする。 明緑灰色	無釉 にぶい黄橙色
第35図 31 syj557	白磁皿 輸入磁器	現存高 2.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外側に屈折し、端部は丸くなる。大宰府編年の白磁皿Ⅴ－2類と思われる。11世紀後半～12世紀前半。	灰白色 緻密	良	施釉。釉は均等に掛かる。 灰白色	施釉。釉は均等に掛かる。 灰白色

第3表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 1号円形遺構内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第35図 32 syj556	白磁碗 輸入磁器	現存高 3.8	口縁部は外側に屈折し端部は尖る。口縁部上端は水平に近くなる。体部内面に稜が有る。大宰府編年の白磁碗Ⅴ－4類と思われる。12世紀中頃～後半。	浅黄色 黒色粒子（少） 粗質	良	施釉。回転ヘラケズリ。釉は気泡が多い。細かい貫入が入る。 浅黄色	施釉。釉は気泡が多い。細かい貫入が入る。 浅黄色
第35図 33 syj519	白磁碗 輸入磁器	高台径 5.9 高台高 1.0 現存高 2.0	高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台は内外面共斜めに削られており、畳付けはやや幅広で平坦になる。見込みに草花文（印刻？）を施す。体部欠損の為、詳細は不明。	灰黄褐色 白色微粒子（多） 黒色微粒子（多）	良	高台及び高台内は露胎となる。 にぶい黄橙色	見込みは施釉。釉は薄く掛かる。透明感は無い。 灰白色
第35図 34 syj518	白磁碗 輸入磁器	口径（16.0） 現存高 4.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部はやや肉厚な玉縁を持つ。大宰府編年の白磁碗Ⅳ1類と思われる。11世紀後半～12世紀前半。	黄灰白色 黒色微粒子（少） 粗質	良	施釉。回転ヘラケズリ。釉は薄く掛かる。透明感は無い。 灰白色	施釉。釉は薄く掛かる。透明感は無い。 灰白色
第35図 45 syj603	染付碗 輸入磁器	現存高 2.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面は口縁部に雷文帯、胴部に界線を二本と唐草文を描き、内面は口縁部に界線を二本描く。残りが少ない為、詳細は不明。傾きは正確ではない。小野氏分類の染付碗E群の可能性が有る。16世紀。	白色 緻密	良	施釉。 黄青白色。染付は藍色	施釉。 黄青白色。染付は薄い藍色
第35図 36 syj626	染付碗 輸入磁器	現存高 1.9	口縁部は僅かに外反する。内外面とも葉の文様を描く。残りが少ない為、詳細は不明。傾きは正確ではない。	白色 黒色微粒子（少） 良質	良	施釉。 明青白色。染付は藍色	施釉。 黄青白色。染付は薄い藍色
第35図 37 syj623	染付碗 輸入磁器	現存高 1.8	口縁部は外反する。外面は口縁部に界線を二本と胴部に唐草文、内面は口縁部に界線を二本描く。残りが少ない為、詳細は不明。傾きは正確ではない。小野氏分類の染付碗B群。14世紀後半～15世紀後半。	白色	良	施釉。 黄青白色。染付は薄い藍色	施釉。 黄青白色。染付は薄い藍色
第35図 38 syj516	染付碗 輸入磁器	高台径 （5.2） 高台高 0.8 現存高 2.5	腰は丸味を持つ。高台は直に削られ、畳付は丸くなる。高台内の刳りは深く水平になる。見込みは緩やかに盛り上がる「饅頭心」となる。見込みに牡丹唐草文、高台内に「大明年造」と思われる銘を描く。小野氏分類の染付碗E群16世紀	白色 黒色微粒子（少）	良	施釉。 明青白色。染付は藍色	施釉。 明青白色。染付は藍色
第35図 39 syj567	染付碗 輸入磁器	口径（14.8） 現存高 3.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。口縁部は内外面共、太目の界線を描く。残りが少ない為、詳細は不明。漳州窯系染付碗。16世紀末～17世紀初頭。	淡黄色 陶器質の胎土、粗質	良	施釉。回転ヘラケズリ。釉は貫入が入り、気泡がある。 黄灰白色。染付は薄い藍色	施釉。釉は貫入が入り、気泡がある。 黄灰白色。染付は薄い藍色

第4表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査SD－06内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第36図 1 syj307	土師器 坏	現存高 1.2 底径 （9.6）	体部下位は開きながら立ち上がる。器形は不明。二次焼成を受けている。	細砂粒（多）雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 灰白色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙色
第36図 2 syj308	土師器 坏	口径 （10.5） 器高 2.3 底径 （7.0）	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。二次焼成を受けている。	細砂粒（多） 白色微粒子（多）雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 灰白色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 灰白色
第36図 3 syj309	土師器 皿	口径 （7.3） 器高 2.0 底径 （7.0）	体部は直線的に僅かに開きながら立ち上がる。体部は厚みがあり、口縁端部は丸くなる。見込み部分が一段高くなる。体部内面と見込みにカーボンが付着。小型の灯明皿。二次焼成を受けている。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい褐色	ナデ。 灰褐色
第36図 4 syj306	土師器 皿	口径 （7.0） 器高 1.4 底径 （5.4）	小型の皿である。体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖る。見込み部分が一段高くなる。	細砂粒（多）雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 浅黄橙色	回転ナデ。 浅黄橙色
第36図 5 syj291	瓦質土器 捕鉢	現存高 7.9	体部は僅かに外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。体部内面にクシ状工具による三条の捕目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、多） 白色粒子（多）	良	横ナデ。 灰白色と淡黄色	横ナデ。 灰色
第36図 6 syj357	瓦質土器 釜類	口径 （15.5） 現存高 6.0	体部は内湾し口縁部は直口する。口縁端部は水平になる。羽釜or茶釜。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少）	良	横ナデ後横及び斜め方向のヘラミガキ。 灰色	横ナデ。 灰白色と灰黄色
第36図 7 syj358	瓦質土器 火鉢	現存高 6.0	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁部は三角に肥厚する。外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に菊花文のスタンプを押す。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多）雲母（多）	良	横ナデ。 灰白色と灰黄色	横ナデ後斜め方向のナデ。 灰黄色

第4表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 SD－06内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第36図 8 syj360	瓦質土器 火鉢	胴径（28.2） 現存高 6.7	体部は直線的に僅かに開きながら立ち上がる。外面下位に凸帯を貼り付ける。傾きは正確ではない。	細砂粒（多） 白色微粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）	良	横及び斜め方向のナデ後横方向のヘラミガキ。 にぶい黄色	横及び斜め方向のナデ。 にぶい黄色
第36図 9 syj356	須恵質 壺	現存高 7.4	頸部で屈曲した後、口縁部は外反する。肥後新型。口唇部は欠損。傾きは正確ではない。	細砂粒（多） 白色微粒子（多）	良	口縁部は回転ナデ。体部は山型の叩き調整。 灰白色	口縁部は回転ナデ。体部は横及び斜め方向のハケ目。 灰白色
第37図 10 syj85	青磁碗 輸入磁器	高台径 5.2 高台高 0.7 現存高 2.1	高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台は低く、断面は四角になる。見込みは陰圏線と、その内側に印刻で草花文を施し、体部外面に片切り彫りによる鎬連弁を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－c類。13世紀前後～14世紀初頭前後。	灰白色 白色粒子（多） 白色微粒子（多） 黒色微粒子（多） やや粗質	良	施釉。釉は均等に掛かり、ガラス質で透明感がある。高台畳付けから高台内は露胎となる。 青緑色	施釉。釉は均等に掛かり、ガラス質で透明感がある。 青緑色
第37図 11 syj297	白磁小碗 輸入磁器	高台径（4.0） 高台高 1.3 現存高 2.8	高台内の刳りは深く、底部は薄い。高台は細く高い。体部下位は腰が張り、内湾気味に開きながら立ち上がる。大宰府編年の白磁小碗Ⅰ－3類。	白色 緻密	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。艶があり滑らか。 薄い青白色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。艶があり滑らか。 薄い青白色

第5表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 SD－13内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第38図 1 syj151	土師器 坏	口径（13.4） 器高 3.4 底径（9.0）	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖る。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 橙色
第38図 2 syj145	土師器 坏	口径 13.3 器高 3.5 底径 10.0	体部は開きながら中位で僅かに外方へ屈折し、その後、直線的に立ち上がる。口縁部はやや歪み、端部は尖る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 黒色微粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向のやや強いナデ。 にぶい橙色
第38図 3 syj135	土師器 坏	口径 12.9 器高 3.2 底径 9.6	体部は開きながら中位で僅かに外方へ屈折し、その後、外反気味に立ち上がる。口縁部はやや歪み、端部は尖る。体部内面にカーボンが付着。灯明皿	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 橙色
第38図 4 syj146	土師器 坏	口径（13.0） 器高 3.4 底径 9.0	体部は下位で丸味を持ち、中位で外方へ屈折し、上位は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖る。体部外面にカーボンが付着。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ後ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第38図 5 syj104	土師器 坏	口径 12.6 器高 3.3 底径 9.4	体部は開きながら中位で僅かに外方へ屈折し、その後、直線的に立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ、 浅黄橙色
第38図 6 syj133	土師器 坏	口径 12.4 器高 3.5 底径 8.8	体部は開きながら中位で僅かに外方へ屈折し、その後、直線的に立ち上がる。口縁部はやや歪み、端部は尖る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第38図 7 syj132	土師器 坏	口径 12.3 器高 3.5 底径 8.7	体部は開きながら中位で僅かに外方へ屈折し、その後、直線的に立ち上がる。口縁部はやや歪み、端部は尖る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 黒色微粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで底部外縁に僅かに板目圧痕が残る。 にぶい橙色	回転ナデ後指ナデ。見込みは未調整で回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙色
第38図 8 syj143	土師器 坏	口径 12.0 器高 3.4 底径 9.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位は僅かに窪んでいる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第38図 9 syj150	土師器 坏	口径（12.1） 器高 3.1 底径 8.3	体部は直線的に開きながら立ち上がり、上位で僅かに内方へ屈折する。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みは部分的に一方向の軽いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい黄橙色
第38図 10 syj141	土師器 坏	口径 13.6 器高 4.1 底径 9.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部はやや歪み、端部は丸くなる。体部内面と見込みに薄くカーボンが付着。灯明皿	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少） 黒色微粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。体部下位に指頭圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ。 にぶい橙色
第38図 11 syj134	土師器 坏	口径 13.6 器高 4.5 底径 9.1	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部はやや歪み、端部は丸くなる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。体部下位に指頭圧痕あり。 橙色	回転ナデ後横ナデ。見込みは中央に一方向の軽いナデ、回転による成形時の凹凸を残す。 橙色
第38図 12 syj144	土師器 坏	口径 9.8 器高 2.7 底径 7.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は丸味を持つ。体部内外面にカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多）砂粒（少） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。下位に指頭圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みは未調整で回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙色

第5表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量(cm)	1次調査 SD−13内出土遺物 特徴	胎土 ( )内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第39図 13 syj112	土師器 皿	口径 8.2 器高 1.8 底径 5.7	体部は下位で丸味を持ち、その後、開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 にぶい橙色
第39図 14 syj111	土師器 皿	口径 8.3 器高 2.0 底径 6.4 器高 2.0	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面上位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。内面見込みに薄くカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少） 角閃石（0.2程度、微量）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 15 syj147	土師器 皿	口径 8.5 器高 2.1 底径 2.1	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は尖る。体部内面にカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 16 syj109	土師器 皿	口径 8.2 器高 1.8 底径 6.8	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 17 syj120	土師器 皿	口径 8.1 器高 1.9 底径 5.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は外反し、端部はやや尖る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 18 syj114	土師器 皿	口径 8.4 器高 1.9 底径 5.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面下位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は丸味を持つ。口縁部は大きく歪む。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 19 syj110	土師器 皿	口径 8.5 器高 2.1 底径 6.5	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面上位と下位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）黒色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙色
第39図 20 syj116	土師器 皿	口径 8.5 器高 1.8 底径 5.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部上位より僅かに外反し、口縁部へ続く。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 21 syj131	土師器 皿	口径 8.7 器高 2.1 底径 6.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖る。大きく歪む部分がある	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。体部近くの底部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みはナデ にぶい橙色
第39図 22 syj117	土師器 皿	口径 8.4 器高 2.0 底径 6.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り、口縁部は歪む。	細砂粒（多）	良	回転ナデ後下位はナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 23 syj126	土師器 皿	口径 8.3 器高 2.1 底径 6.0	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は僅かに外反し、端部は尖る。体部内面全体にカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 24 syj129	土師器 皿	口径 8.3 器高 1.9 底径 6.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は丸味を持つ。内面見込み部分が一段高くなる。体部内面に少量のカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 25 syj123	土師器 皿	口径 7.9 器高 1.8 底径 5.4	体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は尖る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 26 syj139	土師器 皿	口径 (7.9) 器高 2.0 底径 (5.8)	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は丸味を持つ。残りが少ない為、詳細は不明。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。 にぶい橙色	ナデ。 にぶい橙色
第39図 27 syj125	土師器 皿	口径 8.4 器高 2.1 底径 5.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部はやや外反し、端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ にぶい橙色
第39図 28 syj136	土師器 皿	口径 8.2 器高 2.1 底径 6·2	体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位から下位にかけて稜が入る。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みはナデ にぶい橙色
第39図 29 syj115	土師器 皿	口径 8.4 器高 2.0 底径 6.0	体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は尖る。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。 にぶい橙色
第39図 30 syj121	土師器 皿	口径 (8.4) 器高 1.8 底径 (6.0)	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部はやや外反し、端部は尖る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部の切り離し痕は板目圧痕の為に、確認できない。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第39図 31 syj106	土師器 皿	口径 8.2 器高 1.7 底径 6.5	体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部は外反し、端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色

第5表

syj・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 SD－13内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第39図 32 syj127	土師器 皿	口径 8.3 器高 2.0 底径 6.3	体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部はやや外反し、端部は尖り気味になる。体部外面下位と体部内面から見込みにかけてカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第39図 33 syj119	土師器 皿	口径 8.3 器高 2.0 底径 6.2	体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁部はやや外反し、端部は尖り気味になる。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第39図 34 syj108	土師器 皿	口径 8.0 器高 1.9 底径 6.2	体部は僅かに内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第39図 35 syj113	土師器 皿	口径 8.4 器高 1.9 底径 6.6	体部は僅かに内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は丸味を持つ	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第39図 36 syj130	土師器 皿	口径 8.3 器高 2.1 底径 6.3	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第40図 37 syj118	土師器 皿	口径 8.2 器高 2.0 底径 6.2	体部は開きながら立ち上がる。体部外面中位に段が付く。口縁端部は尖り気味になる。全体的に歪む。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。体部近くの底部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。体部と見込みの境に指頭圧痕あり。 にぶい橙色
第40図 38 syj105	土師器 皿	口径 8.3 器高 2.0 底径 6.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部外面中位に段が付く。口縁部は歪み、端部は尖り気味になる。体部内面から見込みにかけてカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。体部近くの底部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙色
第40図 39 syj138	土師器 皿	口径 8.4 器高 2.3 底径 5.8	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第40図 40 syj137	土師器 皿	口径 (7.2) 器高 2.0 底径 (6.1)	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。小型の皿である。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり にぶい橙色	回転ナデ。見込みはナデ にぶい橙色
第40図 41 syj128	土師器 皿	現存高 1.4 底径 6.0	体部は開きながら立ち上がる。口縁部欠損の為、器形は不明。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第40図 42 syj149	土師器 皿	口径 (6.3) 器高 1.4 底径 4.0	体部は外面中位で屈折し、その後、内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部は高台状になる。小型の皿である。	細砂粒（多）雲母（少）	良	回転ナデ。ヘラ状工具使用の痕がある。底部は回転糸切り にぶい橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙色
第40図 43 syj148	土師器 皿	口径 (6.9) 器高 2.0 底径 (4.5)	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。小型の皿である。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り にぶい橙色	回転ナデ にぶい黄橙色
第40図 44 syj158	瓦質土器 捕鉢	現存高 5.8	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚し端部は丸味を持つ。体部内面にクシ状工具による櫛目を施す。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（多）雲母（多）	良	口縁部は回転ナデ。体部はナデと指押さえ。 灰黄色	櫛り目を施す 灰色
第40図 45 syj159	瓦質土器 捕鉢	現存高10.2	体部は直線的に開きながら立ち上がる内面にクシ状工具による櫛目を施す。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.5、少） 白色粒子（多）雲母（少）	良	口縁部は回転ナデ。体部はナデと指押さえ。 灰色	斜め方向のナデ。櫛目を施す。 灰黄色
第40図 46 syj478	瓦質土器 火鉢	現存高15.5 底径（30.4）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。下位に一条の凸帯を貼り付けている。底部に脚を持つ。残りが少ない為、現存している脚は一本だけになる。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.3、少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少） 長石（0.2～0.7、少）	良	ナデと横及び斜め方向のヘラミガキ。部分的にハケ目がある。脚はヘラケズリ後ナデ 褐色と浅黄色	体部はナデと下位に横方向のハケ目。内底は一方向のナデ。 灰黄色と褐色
第41図 47 syj156	青磁碗 輸入磁器	高台高 0.7 現存高 3.0	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。高台は細く逆三角に近い形をしている。体部内面に陰圏線を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅲ類？	灰白色 白色微粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。高台畳付けと高台内の釉を掻き取る。釉はガラス質で透明感がある。 明青緑色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。 明青緑色
第41図 48 syj72	青磁 輸入磁器	高台径（7.8） 高台高 0.8 現存高 3.0	体部下位は直線的に開きながら立ち上がる。高台内の削りはやや深く、底部は薄い。高台畳付けは丸味を持つ。体部外面はヘラ状工具による鎬蓮弁を施す。残りが少ない為、器種は不明。	灰白色 緻密	良	施釉。全面施釉後、高台畳付けの釉を掻き取る。釉はガラス質で透明感がある。高台外面に細かい貫入が入る。 灰緑色	施釉。大きめの貫入が入る。釉はガラス質で透明感がある。 緑灰色
第41図 49 syj153	染付皿 輸入磁器	高台径（7.6） 高台高 0.6 現存高 1.6	体部は内湾気味に大きく開きながら立ち上がる。高台は逆三角になり、畳付けは尖る。見込みに界線二本と人物画、高台内に界線二本と「・・・年造」の銘が入る。小野氏分類の染付皿B2群Ⅸ類と思われる。16世紀中頃～後半。	白色 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。 青白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。 青白色。染付は藍色と薄い藍色

第6表

syj･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	1次調査SX－01内出土遺物 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第42図 1 syj244	土師器 坏	口径（12.5） 器高　3.0 底径　（9.2）	体部下位で屈折し、その後、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。体部内面から見込みにかけてカーボンが付着。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）	良	回転ナデとヘラ状工具による調整。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 明赤褐色	回転ナデ。 明赤褐色
第42図 2 syj441	土師器 坏	現存高　1.5 底径　（9.8）	体部下位で屈折し、その後、開きながら立ち上がる。器形は不明。体部外面は器面荒れの為、調整痕等は不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ？底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。 にぶい橙色
第42図 3 syj443	土師器 坏	現存高　1.6 底径　（8.9）	体部下位で屈折し、その後、開きながら立ち上がると思われる。口縁部が欠損の為、器形は不明。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。下位はヘラ状工具による調整。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。 にぶい橙色
第42図 4 syj442	土師器 坏	現存高　1.7 底径　（7.8）	体部下位より内湾気味に立ち上がる。口縁部が欠損の為、器形は不明。内外面共器面が荒れている。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ？底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。 にぶい橙色
第42図 5 syj445	土師器 皿	口径　（7.0） 器高　1.3 底径　（6.2）	体部は直線的に開き気味に立ち上がる。口縁端部は丸くなる。小型の皿である。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は板目圧痕あり。切り離し技法は不明。 灰黄褐色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 にぶい黄橙色
第43図 6 syj435	瓦質土器 火鉢	口径（36.3） 現存高　5.6	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁上端は水平になる。外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に菊花文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（少） 雲母（多）	良	回転ナデ。 黄灰色	口縁部は回転ナデ。体部は横ナデと斜め方向のナデで、一部にハケ目がある。 黄灰色
第43図 7 syj653	瓦質土器 火鉢	口径（34.8） 現存高13.5	体部は内湾気味に僅かに開きながら立ち上がる。外面に二条の凸帯を貼り付ける。口縁部は肥厚し、上端は水平になる。口縁部下に菊花文のスタンプを連続して押し、二条の凸帯間に、クシ状工具で波状の文様を描く	細砂粒（多） 白色微粒子（多）雲母（多）	良	横ナデと横及び斜め方向のヘラミガキ。 灰黄色	口縁部は横ナデ。体部は斜め方向のハケ目。 灰黄色
第43図 8 syj333	瓦質土器 火鉢	口径（32.0） 現存高16.0	体部は内湾気味に上方へ立ち上がる。口縁部は逆三角に肥厚し、上端は水平になる。外面に二条の凸帯を貼り付け、口縁部と上側の凸帯の間に、菊花文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（多）	良	横ナデ。 にぶい黄橙色	口縁部は横ナデ。体部は不定方向のナデ。 にぶい黄橙色
第43図 9 syj381	瓦質土器 火鉢	胴径（35.8） 現存高16.2	体部は直線的に立ち上がる。外面に凸帯を貼り付ける。内外面にカーボンが付着。口縁部と底部は欠損。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.5、少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）雲母（少）	良	横及び斜め方向のヘラミガキ 暗灰黄色と灰黄褐色	横及び斜め方向のナデ。 にぶい橙色
第44図 10 syj506	瓦質土器 擂鉢	現存高　6.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに肥厚し、端部は平坦になる。体部内面にクシ状工具による七条の擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）雲母（多） 長石（0.1～0.3、多）	良	口縁部は横ナデ。体部は横及び斜め方向のナデ。 灰色	斜め方向のナデ。 灰色
第44図 11 syj505	瓦質土器 擂鉢	現存高　5.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は指押さえにより注口部を作る。体部内面にクシ状工具による擂目が数条確認できる。内面は器面荒れの為、詳細は不明。	細砂粒（多）白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、微量） 雲母（多） 長石（0.4～0.5、少）	良	口縁部は回転ナデ。体部は縦横にナデと、一部にハケ目がある。 灰色	口縁部に注口部を作った際の指頭圧痕がある。 灰色
第44図 12 syj581	瓦質土器 擂鉢	現存高　5.1	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は指押さえにより注口部を作る	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色微粒子（少）雲母（少）	良	口縁部は横ナデ。体部は縦方向のハケ目をナデ消している。口縁部に注口部を作った際の指頭圧痕がある。 口唇部は灰オリーブ色と体部は灰色	斜め方向のナデ。 灰黄色
第44図 13 syj509	瓦質土器 擂鉢	現存高　4.3 底径（12.4）	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。 内外面共、器面荒れの為、詳細は不明。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）雲母（多）	良	下位に僅かに指頭圧痕が確認できる。 にぶい黄橙色と褐灰色	僅かに擂目の痕跡が確認できる。 にぶい黄橙色
第44図 14 syj508	瓦質土器 擂鉢	現存高　6.3 底径（11.0）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。内面にクシ状工具による七条の擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.3、少）	良	下位は横ナデ。その他はヘラケズリと不定方向のナデ。 灰黄色と黄灰色	体部は横ナデ。その他はナデ。 にぶい黄色と黄灰色
第44図 15 syj568	瓦質土器 擂鉢	口径（27.8） 現存高12.0	体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、端部はナデにより僅かに窪む。体部内面にクシ状工具による六条の交差した擂目を施す。肥後型擂鉢。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.8、少） 白色粒子（多） 黒色粒子（多）	良	口縁部は回転ナデ。体部は不定方向のナデと指押さえ、下位はヘラケズリ。 黄灰色	口縁部は横ナデ。体部は横及び斜め方向のナデ。 灰白色
第44図 16 syj438	瓦質土器 火鉢	現存高　8.0	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は僅かに肥厚し、上端は丸味を持つ。体部外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に菊花文のスタンプを連続して押す。凸帯の下にはクシ状工具で波状の文様を描く。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）雲母（多）	良	横ナデ。 黄灰色	口縁部とその周辺はハケ目後横ナデ。体部は横及び斜め方向のナデ。 黄灰色

第6表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査 SX－01内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第44図 17 syj439	瓦質土器 火鉢	現存高 5.0	体部は内湾気味に上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚し、上端は平坦になる。体部外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に菊花文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多）雲母（多）	良	横ナデ。 灰黄褐色	横ナデ。 灰黄褐色
第44図 18 syj507	瓦質土器 火鉢	現存高 5.7	体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁部は僅かに肥厚し、上端は丸味を持つ。内面にカーボンが付着。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（多）	良	回転ナデ後横方向のヘラミガキ。 褐灰色	口縁部は回転ナデ。体部は横及び斜め方向のハケ目。 にぶい黄橙色
第44図 19 syj434	瓦質土器 火鉢	現存高 6.5	体部下位より直線的に開きながら立ち上がる。外面に凸帯を貼り付ける。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、微量） 雲母（少）	良	下位は横ナデ。凸帯より上側は横方向のヘラミガキ。 にぶい黄橙色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第44図 20 syj376	瓦質土器 火鉢	現存高 6.5	体部は内湾気味に上方へ立ち上がる。外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に斜格子文のスタンプを連続して押す。口縁上端は水平になる。	細砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、少） 雲母（多） 長石（0.2～0.4、少） 長石粒（少）	良	回転ナデ。 にぶい黄橙色	口縁部は回転ナデ。体部は回転ナデ後斜め方向のハケ目。 にぶい褐色
第45図 21 syj436	瓦質土器 茶釜	胴径（22.6） 現存高 5.9	体部は内湾気味に上方へ立ち上がる。外面に鍔を貼り付けている。口縁部と底部は欠損。鍔の下面にカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多） 白色粒子（多）雲母（多）	良	体部上位は回転ナデと横方向のヘラミガキ。下位は縦方向のハケ目。鍔は横ナデ。 褐灰色	回転ナデと横及び斜め方向のナデ。 黄灰色
第46図 22 syj430	青磁碗 輸入磁器	現存高 4.0	体部は僅かに内湾し、開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部内面に先の尖ったクシ状工具とヘラ状工具による、片切り彫りの劃花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類。12世紀中頃～後半。	白灰色	良	施釉。大きめの貫入が入る。 青緑色	施釉。大きめの貫入が入る。 青緑色
第46図 23 syj429	青磁碗 輸入磁器	口径（17.1） 現存高 3.0	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。体部外面に片切り彫りによる鎬蓮弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－b類。13世紀中頃～14世紀初頭前後。	灰白色 黒色微粒子（少） 良質	良	施釉。釉はガラス質で半透明、均等に掛かる。 明白緑色	施釉。釉はガラス質で半透明、均等に掛かる。 明白緑色
第46図 24 syj427	青磁碗 輸入磁器	高台径（5.8） 高台高 1.0 現存高 1.9	高台内の刳りは深く、高台は高い。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類。14世紀初頭～後半。	白色 緻密	良	施釉。釉は厚く均等に掛かる。透明感は無い。全面施釉後、高台畳付けの釉を削る。 明白緑色	施釉。釉は厚く均等に掛かる。透明感は無い。 明白緑色
第46図 25 syj426	青磁碗 輸入磁器	高台径 6.6 高台高 0.9 現存高 2.2	高台内の刳りはやや浅く、底部は厚い。高台畳付けは丸味を持つ。上田氏分類の青磁碗B類。b－Ⅲ及びB－Ⅳ－bと思われるが、体部欠損の為、器種を確定できない。	灰色 白色粒子（少）	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。全面施釉後、高台内は釉を環状に掻き取る。蛇の目釉剥ぎを施す。 灰オリーブ色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 灰オリーブ色
第46図 26 syj90	青磁碗 輸入磁器	高台径（5.5） 高台高 0.9 現存高 4.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは浅く、底部は厚い。内面見込みは陰圏線とその内側に、幾何学花文の印文を施す。体部外面に連弁は無い。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－1c類か？	白灰色 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。全面施釉後、高台内と畳付けの釉を掻き取る。体部は回転ヘラケズリ。 薄い青緑色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。 薄い青緑色
第46図 27 syj547	白磁碗 輸入磁器	高台高 0.4 現存高 1.8 現存高 6.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。残りが少ない為、器種を確定できない。	白灰色 細かな穴が多くやや粗質	良	無釉。回転ヘラケズリ。 白灰色	施釉。見込みと体部の境に細い沈線があり、見込みは段が付き、僅かに高くなる。 灰白色
第46図 28 syj563	白磁小皿 輸入磁器	高台径（3.8） 高台高 0.5 現存高 1.2	高台内の刳りは浅く、高台外面は直に削れる。底部は厚い。森田氏分類の白磁小皿。D群か？	灰白色 黒色微粒子（多） やや良質	良	高台内外面から体部下位は無釉。 やや黄色味を帯びた灰白色	施釉。釉は透明感は無く、気泡が多い。やや黄色味を帯びた灰白色
第46図 29 syj628	染付碗 輸入磁器	現存高 2.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面に種別不明の草花文を描く。残りが少ない為、詳細は不明。	白色 黒色微粒子（少） やや良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感がある。貫入が入る。 青緑白色。染付は薄い藍色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。貫入が入る 青緑白色
第46図 30 syj609	染付碗 輸入磁器	現存高 1.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面口縁部に文様（波濤文？）、内面口縁部に界線を一本描く。漳州窯系染付碗。16世紀末～17世紀初頭。	にぶい橙色 陶器質の胎土、粗質	低温焼成	施釉。釉はガラス質で透明感がある。細かな貫入が入る。 青灰白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。細かな貫入が入る。 青灰白色。染付は藍色と薄い藍色
第46図 31 syj606	染付碗 輸入磁器	現存高 2.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面に界線を一本と梵字文、内面口縁部に界線を一本描く。連子碗。小野氏分類の染付碗C群Ⅱ類。15世紀後半～16世紀前半。	白色 やや良質	良	施釉。透明感は無い。 青白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。透明感は無い。 青白色。染付は藍色と薄い藍色

第6表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　SX－01内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第46図 32 syj571	染付皿 輸入磁器	高台高　0.5 現存高　1.0 底径　(8.0)	高台は低く、外面は斜めに削れ、端部は尖る。底部は薄い。内面見込みに文様と高台外面付け根に界線を描く。小野氏分類の染付皿B1群と思われる。15世紀中頃～16世紀中頃。高台畳付けに砂粒が付着。	白色 黒色微粒子（微量） やや良質	良	施釉。透明感は無い。 青白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。透明感は無い。 青白色。染付は藍色と薄い藍色
第46図 33 syj604	染付碗 輸入磁器	口径（13.4） 現存高　4.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面口縁部に界線一本と胴部に花文（牡丹？）を描き、内面口縁部に界線一本を描く。小野氏分類の染付碗E群か？残りが少ない為、確定できない。	白色 良質	良	施釉。透明感は無い。 青白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。透明感は無い。 青白色。染付は藍色と薄い藍色
第46図 34 syj650	天目碗 輸入陶器	口径（13.8） 現存高　3.8	体部下位は開きながら立ち上がり、中位で屈曲し、その後上方へ伸びる。口縁部は外方へ屈折し、端部は丸くなる。残りが少ない為、詳細は不明であるが、釉の状況から中国産天目碗と思われる。	にぶい黄橙色	良	施釉。中位以下は無釉と思われる。 黒色の釉の上に暗赤褐色の釉を掛けている。	施釉。 黒色の釉の上に暗赤褐色の釉を掛けている。
第47図 35 syj437	土師器 甕	現存高　6.9	口縁部は短く屈曲し、僅かに開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.5～1.0、少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、少）	普通	口縁部付近は横ナデ。体部は縦及び斜め方向のハケ目。 にぶい黄橙色	口縁部付近は横ナデ。体部は二方向のヘラケズリ。 黄灰色と黒褐色
第47図 36 syj433	弥生 甕	脚部径　4.5 現存高　4.2	脚部は外反しながら立ち上がる。甕の脚部。口縁部から胴部は欠損。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（0.1、微量） 長石（0.2～0.4、多） 長石粒（多）	良	縦方向のハケ目。 にぶい浅黄橙色	ナデ。 にぶい黄橙色
第47図 37 syj432	弥生 高坏	脚部径　4.3 現存高　5.9	脚部は外反しながら立ち上がる。高坏の脚部。坏部は欠損。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多）	普通	横及び斜め方向のハケ目。 にぶい黄橙色とにぶい浅黄橙色	脚部内面は縦及び斜め方向のハケ目とナデ。 にぶい黄橙色

第7表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　SX－02内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第48図 1 syj409	土師器 皿	口径（10.4） 器高　1.5 底径　(7.0)	体部下位で丸味を持ち、その後、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。器肉は薄く、丁寧な作りである。内面見込みにカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り後ナデ。 にぶい黄橙色	回転ナデ後一方向のナデ。 にぶい黄橙色
第48図 2 syj410	土師器 皿	口径　(9.0) 器高　1.2 底径　(5.6)	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。器肉は薄く、丁寧な作りである。体部内面にカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 淡黄色	回転ナデ。 淡黄色
第48図 3 syj615	染付碗 輸入磁器	口径　(7.2) 現存高　2.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は細く丸味を持つ。外面口縁部に界線を一本、胴部に文様を描く。胴部外面の文様は、残りが少ない為、何が描かれているのか判らない。	白色 良質	良	施釉。貫入が入る。 青白色。染付は濃い藍色	施釉。貫入が入る。 青白色
第48図 4 syj621	染付碗 輸入磁器	現存高　4.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面に文様、内面に界線を一本描く。漳州窯系染付碗。口縁部と底部が欠失している為、器形は不明。外面の文様は何が描かれているのか判らない。	にぶい橙色 陶器質で粗質	良	施釉。細かい貫入が入る。 青灰白色。染付は薄い藍色	施釉。細かい貫入が入る。 青灰白色。染付は薄い藍色
第48図 5 syj258	染付皿 輸入磁器	口径（18.0） 現存高　3.0	体部は直線的に大きく開きながら立ち上がる。内面見込みに草花文を描く。漳州窯系染付碗。	灰色 陶器質で粗質	良	施釉。貫入が入る。 濃い灰白色。染付は濃い藍色	施釉。貫入が入る。 濃い灰白色。染付は濃い藍色

第8表

syj･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	1次調査　SK−01、SK−07内出土遺物 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第49図 1 syj490	瓦質土器 火鉢	現存高　5.7	SK−01内出土 体部は直線的に上方へ立ち上がる。口縁上端は丸味を持つ。口縁部外面に連子状文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2〜0.5、多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 雲母（多） 長石（0.2〜0.3、多）	不良	横ナデ。 黒褐色	横ナデ。 灰色
第49図 2 syj504	備前焼 壺or甕 国産陶器	現存高　8.0	SK−07内出土 肩部は内傾する。	黄灰色 細砂粒（多）白色粒子（少）	良	横ナデ。 灰褐色。黄ゴマと呼ばれる黄色の粒状の斑点がある。	不定方向のやや荒いナデ。 灰黄褐色

第9表

syj･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	1次調査　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第50図 1 syj638	土師器 坏	口径（12.3） 器高　2.9 底径　（8.0）	J−14〜16グリッド 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。丁寧な作りである。全体に粒子状の雲母を多く含む。内面にカーボンが付着。灯明皿	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 長石粒（多）雲母（多）	良	回転ナデと中位に横方向のヘラケズリ。底部は回転糸切り。 にぶい黄橙色	回転ナデ。 にぶい橙色
第50図 2 syj562	土師器 坏	口径　（9.8） 器高　2.4 底径　（6.2）	L−8、9グリッド 体部は僅かに外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（少）黒色粒子（少） 雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい褐色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 明褐色
第50図 3 syj637	土師器 皿	口径　（5.6） 器高　1.5 底径　（4.0）	G−9グリッド 体部は僅かに内湾気味に開きながら立ち上がる。底部は厚く、口縁端部は尖り気味になる。小皿より小さく、特殊な物と思われる。口縁部内面にカーボンが付着。	細砂粒（少） 黒色微粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り 橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す 橙色
第50図 4 syj640	須恵質 壺or甕	現存高　8.6 底径　（12.8）	L−8、9グリッド 体部下位より僅かに内湾気味に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少）雲母（少）	良	体部は格子目文押き後横及び斜め方向のナデ。体部下位は縦方向のハケ目。 オリーブ黒色	回転ナデ後ナデ。 にぶい黄褐色
第50図 5 syj529	白磁 四耳壺or 水注 輸入磁器	口径（10.4） 現存高　6.6	J−14グリッド 頸部は外反気味に上方へ立ち上がる。口縁部は屈折する。大宰府編年の白磁四耳壺、水注皿類。	灰色 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。回転ナデ。 青灰白色	施釉。回転ヘラケズリ。 青灰白色
第50図 6 syj635	染付碗 輸入磁器	現存高　3.5	V−19グリッド 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反する。外面に渦状の文様と界線、内面に草花文を描く。	白色 良質	良	施釉。 青白色。染付は薄い藍色	施釉。 青白色。染付は藍色と薄い藍色
第50図 7 syj564	染付壺 輸入磁器	現存高　5.0	L−8、9グリッド 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面に縦方向に凸帯を施す。景德鎮。16世紀代。残りが少ないため、器形等は不明。	白色 黒色微粒子（少） やや良質	良	施釉。 青白色。染付は藍色と濃い藍色	施釉。無釉の部分がある。 青白色
第50図 8 syj566	染付碗 輸入磁器	口径（10.6） 現存高　4.5	表採 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。口縁部外面に界線、胴部に宝相華唐草文を描く。漳州窯系染付碗。	にぶい黄橙色 陶器質で粗質	良	施釉。細かい貫入が入る。 青灰白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。細かい貫入が入る。 青灰白色
第50図 9 syj560	壺 輸入磁器	口径（13.2） 現存高　2.9	L−8、9グリッド 口縁部は僅かに開きながら立ち上がる。端部は丸味を持つ。器肉は薄い。磁北窯系と思われる。	にぶい黄橙色 陶器質で粗質	良	施釉。回転ナデ。 黄茶褐色	口縁部は施釉。肩部は無釉。回転ナデ。肩部に釉が垂れている。 黄茶褐色
第50図 10 syj649	常滑焼 甕 国産陶器	現存高（5.5）	表採 口縁部は「N」字状になる。14世紀〜15世紀。	細砂粒（少）砂粒（少） 赤褐色斑（少）長石粒（少）	良	自然釉が掛かる。回転ナデ。 暗赤褐色とオリーブ色	自然釉が掛かる。回転ナデと横ナデ。指頭圧痕あり。 にぶい赤褐色
第50図 11 syj642	備前焼 捕鉢 国産陶器	現存高　6.3	K−9グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、口端上角と下角が尖り気味になる。内面にクシ状工具による捕目を施す。乗岡編年の備前焼捕鉢、中世3期〜5期。内面は酸化炎焼成による赤褐色化。14世紀〜15世紀。	細砂粒（多）小石粒（少） 赤褐色斑（多）	良	回転ナデ。一箇所に指頭圧痕あり。 灰褐色	回転ナデ後捕目。 にぶい赤褐色

第9表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第51図 12 syj399	土師器 皿	口径　(9.3) 器高　1.7 底径　(7.6)	調査区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部外面は僅かに内側に削れる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは指押さえ。 にぶい橙色
第51図 13 syj406	土師器 皿	径　(8.4) 器高　1.3 底径　(6.4)	調査区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。内面は体部と見込みの境は明瞭ではない。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）白色粒子（少） 角閃石（0.1程度、多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデと一方向のナデ。 にぶい橙色
第51図 14 syj364	土師器 皿	口径　(8.0) 器高　2.0 底径　4.2	調査区一括 体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	口縁部は回転ナデ。体部から見込みは一方向の軽く粗いナデ。 にぶい橙色
第51図 15 syj636	土師器 皿	口径　(8.3) 器高　2.0 底径　(6.2)	調査区一括 体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は丸味を持つ。内面にカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。一部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ後ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 橙色
第51図 16 syj242	土師器 皿	口径　8.2 器高　2.5 底径　5.4	調査区一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。一部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 浅黄橙色
第51図 17 syj241	土師器 皿	口径　7.0 器高　2.0 底径　5.0	調査区一括 体部は中位で屈折し、その後、開きながら斜め上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は平坦になる。小型の皿である。内外面にカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転ナデ。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい橙色
第51図 18 syj639	土師器 坏	口径　(12.8) 器高　4.8 底径　8.9	調査区一括 体部は下位で丸味を持ち、中位で外方へ屈折し、上位は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖る。内面口縁部に少量のカーボンが付着	細砂粒（少）砂粒（少） 赤褐色斑（少）雲母（少）	良	回転ナデ。 橙色	回転ナデ。 橙色
第51図 19 syj401	土師器 坏	口径　(13.3) 器高　3.2 底径　(9.4)	調査区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）砂粒（少） 雲母（多）	普通	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 にぶい橙色
第51図 20 syj400	土師器 坏	現存高　2.6 底径　(8.8)	調査区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、微量）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは未調整。 にぶい橙色
第51図 21 syj404	瓦器椀	高台径（6.8） 高台高　0.6 現存高　1.8	調査区一括 底部は押し出しの技法の為、丸底となる。底部外面に逆台形の高台を貼り付け、畳付けは平坦になる。内面から断面にかけてカーボンが付着。	細砂粒（少） 角閃石（0.1～0.2、微量） 雲母（少）	良	回転ナデ。高台内はナデ。 浅黄橙色	体部は横方向のヘラミガキ 黒色
第52図 22 syj449	瓦質土器 火鉢	現存高　8.1	調査区一括 体部は僅かに内湾気味に上方へ立ち上がる。外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に菊花文のスタンプを連続して押す。また凸帯の下にもクシ状工具による波状の文様を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少）	普通	横ナデ。 灰色	口縁部付近は斜め方向のハケ目後横ナデ。体部は斜め方向のナデ。 灰色
第52図 23 syj6	瓦質土器 火鉢	現存高　6.5	調査区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に斜格子文のスタンプを二列に連続して押す。	細砂粒（多）白色粒子（多） 雲母（少）	良	回転ナデ。 暗灰黄色	口縁部付近は横方向のハケ目後ナデ。体部は斜め方向のハケ目。 黄灰色
第52図 24 syj288	瓦質土器 壺or湯釜	口径　(21.8) 現存高　6.1	調査区一括 肩部は膨らみ、頸部は内傾しながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、上端は平坦になる。	細砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少）	良	口縁部は横ナデ。頸部は斜め方向のハケ目後横ナデ。肩部は横方向のミガキ調整。 褐灰色とにぶい橙色	口縁部は横ナデ。頸部は横方向のヘラケズリ。肩部は強めの横及び斜め方向のナデ。 灰黄褐色とにぶい橙色
第52図 25 syj492	瓦質土器 火鉢	現存高11.1 底径（24.6）	調査区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.3、少） 雲母（多）	良	横及び斜め方向のナデ。底部はヘラケズリ後ナデ。 灰色	ハケ目とナデとヘラケズリ。 灰色
第52図 26 syj611	瓦質土器 火鉢	口径（39.6） 現存高12.4	調査区一括 体部は僅かに内湾気味に上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚する。外面に二条の凸帯を貼り付け、口縁部と上側の凸帯との間に斜格子文のスタンプを連続して押す	細砂粒（多） 小石粒（0.3程度、微量） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（多）	良	横ナデ。 オリーブ黒色と暗灰黄色	斜め方向及び横方向のハケ目。 オリーブ褐色

第9表

syj･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	1次調査　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第53図 27 syj610	瓦質土器 火鉢	口径（42.6） 現存高　8.2	調査区一括 体部は内湾気味に上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚する。外面に二条の凸帯を貼り付け、口縁部と上側の凸帯との間に菊花文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（多） 長石（0.2～0.3、少）	良	回転ナデ。二条の凸帯の間はヘラ状工具使用の横方向の調整。 にぶい黄色	回転ナデ。口縁部の下方に指頭圧痕あり。 黄褐色
第54図 28 syj549	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.4	調査区一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。外面に片切り彫りによる鎬蓮弁を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－b類。13世紀前後～前半。	白灰色 良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。 明青緑色	施釉。釉は均等に掛かる。 明青緑色
第54図 29 syj421	青磁碗 輸入磁器	口径（15.7） 現存高　4.3	調査区一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸くなる。上田氏分類の青磁碗D類。14世紀後半～15世紀前後。	黄灰色 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無く、気泡が多い。胴部は回転ヘラケズリ。 オリーブ灰色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無く、気泡が多い。 オリーブ灰色
第54図 30 syj311	青白磁皿 輸入磁器	高台径（5.4） 現存高　2.8	調査区一括 高台内の刳りは浅く高台も低い。外面の高台付け根部分は水平になる。内面見込み中央は凸状に盛り上がる。	黄灰色 白色粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	体部は施釉。細かい貫入が入る。体部下位から高台内を露胎とし、高台内は橙色となる。体部は丁寧な回転ヘラケズリ。 薄い青緑白色	施釉。細かい貫入が入る。見込みは環状に釉を掻き取る蛇の目釉剥を施す。無釉部分は橙色となる。 薄い青緑白色
第54図 31 syj390	青磁碗 輸入磁器	高台径　6.5 現存高　2.1	調査区一括 高台内の刳りが浅い為、底部は厚い。高台外面は直に削れる。内面見込みに片切り彫りによる劃花文を施す。見込みに砂粒が多く付着。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類。12世紀中頃～後半。	黄灰色 良質	良	全面施釉後、高台畳付けから高台内の釉を掻き取る。釉は細かい貫入が入る。 灰オリーブ色	施釉。見込みに細かい貫入が入る。 灰オリーブ色
第54図 32 syj391	青磁碗 輸入磁器	高台径　6.5 現存高　2.1	調査区一括 高台内の刳りが浅い為、底部は厚い。高台外面は直に削れる。内面見込みは僅かに高くなり、片切り彫りによる劃花文を施す。高台畳付けに砂粒が多く付着。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類。12世紀中頃～後半	灰色 緻密	良	全面施釉後、高台内の釉を雑に掻き取る。 灰オリーブ色	施釉。見込みに大きめの貫入が入る。 灰オリーブ色
第54図 33 syj553	青磁坏？ 輸入磁器	現存高　1.4 底径　（4.2）	調査区一括 体部下位は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面底部は上げ底になる。越州窯系青磁。底部外周に白色の目跡がある。小型の坏と思われるが口縁部欠損の為、詳細は不明	黄灰色 白色粒子（少） 黒色微粒子（少） 粗質	良	施釉。釉に黒色微粒子を多く含む。 暗オリーブ色	施釉。釉に黒色微粒子を多く含む。見込みに無釉部分がある。貫入が入る。 暗オリーブ色
第54図 34 syj550	白磁碗 輸入磁器	現存高　2.5	調査区一括 口縁部は玉縁になる。大宰府編年の白磁碗Ⅳ類。11世紀後半～12世紀前半。	灰白色 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。貫入が入る。 薄い灰白色	施釉。貫入が入る。 薄い灰白色
第54図 35 syj545	白磁坏 輸入磁器	口径（11.6） 現存高　3.8	SD－08、E－6グリッド 体部下位で大きく屈折し、その後、外反気味に開きながら立ち上がる。内面に刻文で繊細な宝相華唐草文を施す。大宰府編年の白磁坏B類。福府系。14世紀初頭～後半。	白色 緻密	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。回転ヘラケズリ。 白色に近い青白色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。 白色に近い青白色
第54図 36 syj329	白磁碗 輸入磁器	高台径（5.4） 高台高　0.8 現存高　2.1	調査区一括 高台外面は直に削れ、高台付け根部分は水平になる。内面見込みに陰圏線と草花文の印刻を施す。森田氏分類の白磁碗B群。14世紀。	灰白色 白色の含有物を一個 黒色微粒子（少） 粗質	良	施釉。体部下位から高台内は露胎となる。体部は丁寧な回転ヘラケズリ。 灰白色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。 灰白色
第54図 37 syj270	染付碗 輸入磁器	高台径（5.3） 現存高　2.1	調査区一括 体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がる。体部外面に界線と文様、高台外面付け根に界線、高台内に銘、内面見込みに花文を描く。	白色 良質	良	施釉。 青白色。染付は藍色と濃い藍色	施釉。 青白色。染付は藍色と濃い藍色
第54図 38 syj565	染付碗 輸入磁器	現存高　2.8	調査区一括 体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がる。内面見込みは高台内に凹む。体部外面に文様、高台外面に界線を描く。高台内に銘が描かれていると思われる。	白色 良質	良	施釉。 青白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。 青白色。染付は藍色と薄い藍色
第54図 39 syj249	染付碗 輸入磁器	口径（13.4） 高台径（5.2） 高台高　0.8 器高　5.2	調査区一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。内面見込みは高台内に凹む。外面口部縁部に波濤文、胴部に芭蕉葉文、内面口縁部に界線、見込みに界線と蓮花文を描く。蓮子碗。小野氏分類の染付碗C群Ⅰ類。15世紀～16世紀。	白色 粗質	良	施釉。細かい貫入が入る。 濁った青白色	施釉。細かい貫入が入る。 濁った青白色

第9表

syj･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	1次調査　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第54図 40 syj420	染付皿 輸入磁器	現存高　1.8 底径　2.6	調査区一括 体部は内湾気味に大きく開きながら立ち上がる。高台内の刳りは浅く、碁笥底になる。体部外面に芭蕉葉文、内面見込みに花鳥を描く。小野氏分類の染付皿C群1類。15世紀～16世紀。	白色 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。全面施釉後、底部の釉を掻き取る。 青白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。気泡がある。 青白色。染付は藍色と薄い藍色
第54図 41 syj425	染付皿 輸入磁器	口径（10.4） 器高　2.5 底径　（4.3）	調査区一括 体部は内湾気味に大きく開きながら立ち上がる。高台内の刳りは浅く、碁笥底になる。体部内外面に界線と文様を描く。小野氏分類の染付皿C群。	黄灰白色 粗質	良	施釉。細かい貫入が入る。高台内は露胎となり橙色になる。 黄青白色	施釉。細かい貫入が入る。 黄青白色
第54図 42 syj559	天目碗 輸入陶器	現存高　3.4	調査区一括 体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。残りが少ない為、詳細は不明であるが、釉の状況からみて中国産天目碗と思われる。	褐灰色 白色微粒子（少）	良	施釉。体部下位は無釉。 黒色の釉に暗赤褐色の釉を二度掛け	施釉。 黒色の釉に暗赤褐色の釉を二度掛け
第55図 43 syj326	古瀬戸 瓶子 国産陶器	現存高　5.7	調査区一括 外面に菊の印花文と植物の画花文を施す。古瀬戸中期様式。13世紀～14世紀の物と思われる。正確な傾きは不明。	灰白色 白色微粒子（微量）	良	施釉。細かい貫入が入る。 暗オリーブ色とオリーブ黒色	無釉。回転ナデ後横方向の指ナデと指押さえ。 灰白色
第55図 44 syj325	古瀬戸 瓶子 国産陶器		調査区一括 外面に菊の印花文と植物の画花文を施す。古瀬戸中期様式。13世紀～14世紀の物と思われる。正確な傾きは不明。 syj326と同一個体か？	灰白色 白色微粒子（微量）	良	施釉。細かい貫入が入る。 暗オリーブ色とオリーブ黒色	無釉。回転ナデ後指押さえ。 灰白色

第9表

syj･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	1次調査　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第56図 45 syj663	縄文早期 深鉢	現存高　3.9	調査区一括 外面に楕円文。内面は口縁部に原体条痕文、上端に刻み目、口縁部下に三本単位の横位沈線を施す。押型文土器。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）石英（少）	良	にぶい橙色	ナデ。 黄褐色
第56図 46 syj678	縄文早期 深鉢	現存高　3.2	調査区一括 外面に楕円文を施す。押型文土器。胴部。傾きは正確ではない。	砂粒（多） 赤褐色礫（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）雲母（少）	良	にぶい黄橙色	ナデ。 にぶい橙色
第56図 47 syj676	縄文早期 深鉢	現存高　3.2	調査区一括 外面はナデ後貝殻条痕文を施す。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）白色粒子（多） 角閃石（少）長石（少）	良	ナデ。 橙色	横ナデ。 灰褐色
第56図 48 syj655	縄文早期 深鉢	現存高　3.5	調査区一括 外面と内面の一部に楕円文を施す。押型文土器。口縁部付近。傾きは正確ではない。	砂粒（多）白色粒子（少） 角閃石（少）	良	灰黄褐色	ナデ。 にぶい黄橙色
第56図 49 syj657	縄文早期 深鉢	現存高　4.0	調査区一括 外面に山形文を施す。押型文土器。胴部。傾きは正確ではない。	砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、少） 角閃石（少） 雲母（少） 長石（0.6程度、少）	良	橙色	ナデ にぶい黄橙色
第56図 50 syj338	縄文	長　　4.8 最大幅　2.5	土偶及び動物型土製品？の脚部。 出土場所は不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（多）	良	指による成形及び調整。 褐灰色とにぶい橙色	
第56図 51 syj664	縄文早期 深鉢	現存高　5.5	表採 外面に楕円文を施す。押型文土器。口縁部付近と思われる。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）角閃石（多） 長石（多）	良	にぶい黄褐色と黒褐色	ナデ。 暗褐色
第56図 52 syj665	縄文早期 深鉢	現存高　5.5	B－10グリッド 外面は貝殻条痕文を施す。円筒土器。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）白色粒子（多） 雲母（多）	良	暗灰黄色	ナデ。 にぶい黄橙色

第9表

syj･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	1次調査　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第56図 53 syj677	縄文早期 深鉢	現存高　4.3	表採 外面に楕円文を施す。押型文土器。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多）角閃石（多） 長石（少）	良	にぶい黄橙色	ナデ。 黒褐色
第56図 54 syj679	縄文早期 深鉢	現存高　5.2	表採 外面はナデ後楕円文を施す。押型文土器。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多） 白色微粒子（多） 角閃石（多）	良	明赤褐色	ナデ。 赤褐色
第56図 55 syj666	縄文早期 深鉢	現存高　5.0	J－14グリッド 外面に楕円文を施す。押型文土器。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.4程度、少） 角閃石（多）雲母（少）	良	にぶい黄橙色	ナデ。 にぶい黄橙色
第56図 56 syj667	縄文早期 深鉢	現存高　3.7	表採 外面に楕円文を施す。押型文土器。底部近く。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3程度、少） 角閃石（少）雲母（少）	良	黒褐色	ナデ。 黒褐色
第56図 57 syj659	縄文前期 鉢型土器	現存高　4.6 現存高　1.8	K－8グリッド 外面に三段の刺突文と横位沈線、内面に二段の刺突文と貝殻条痕、口縁上端に斜めの刻み目を施す。曽畑、沈線文土器。口縁部。傾きは正確ではない。	砂粒（少）小石粒（少） 褐色斑（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	褐色と黒褐色	貝殻条痕の後ナデ。 にぶい黄褐色

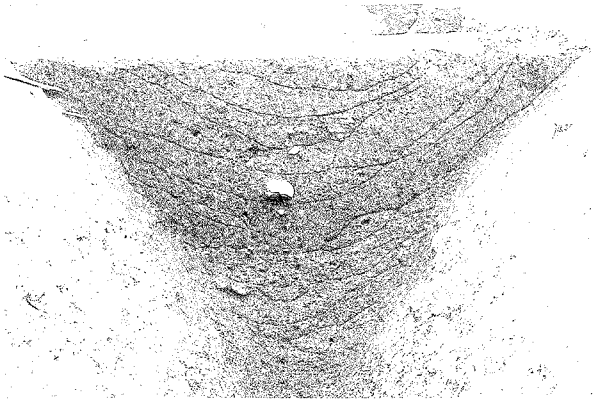
写 真 图 版

(1) 調査前

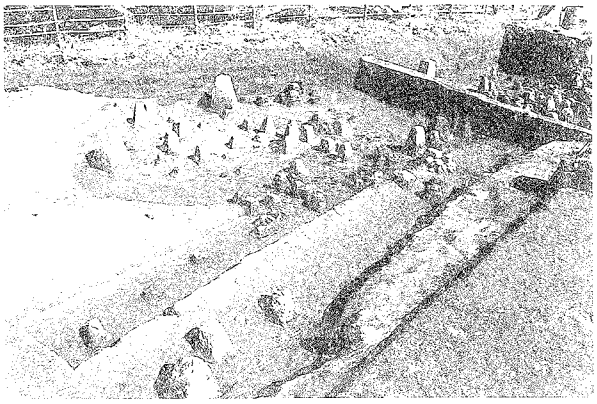
(2) SD－02検出状況

(3) SD－02遺物出土状況

(4) SD－02完掘

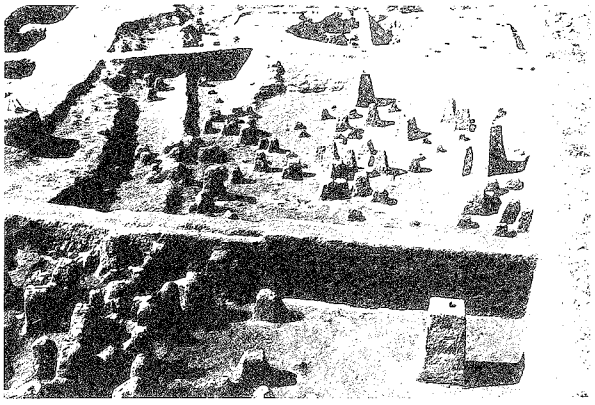


(5) SD－02土層断面

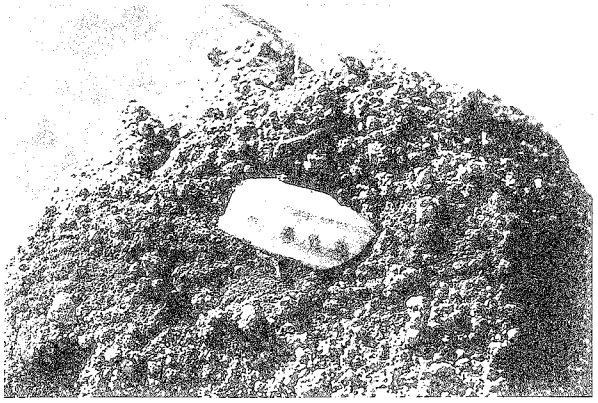


(6) SX－01検出状況

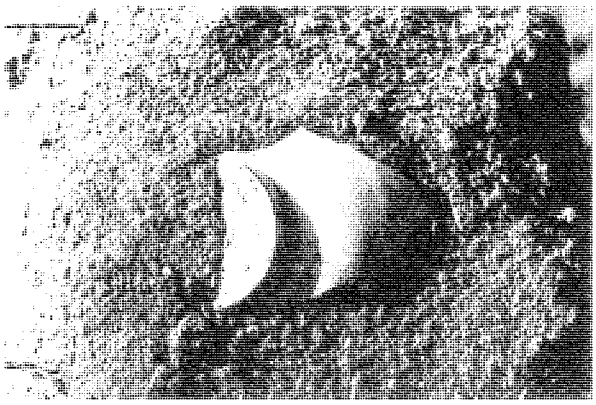
図版2



(1) SX−01遺物出土状況

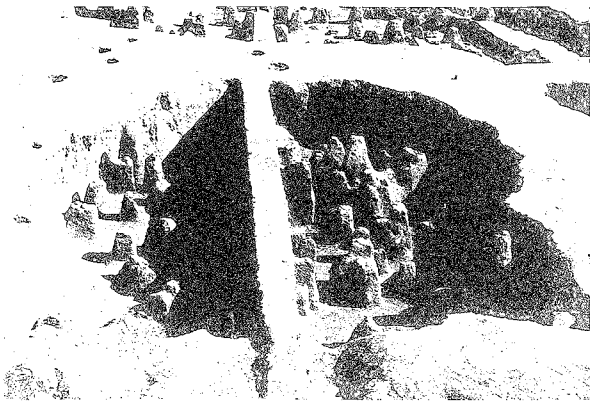


(2) SX−01出土遺物



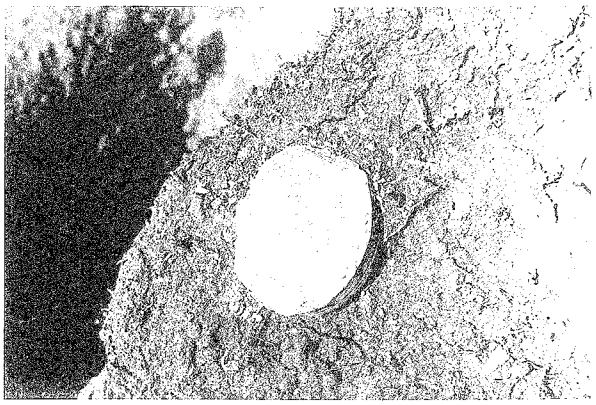
(3) SX−01出土遺物

(4) SX−01完掘

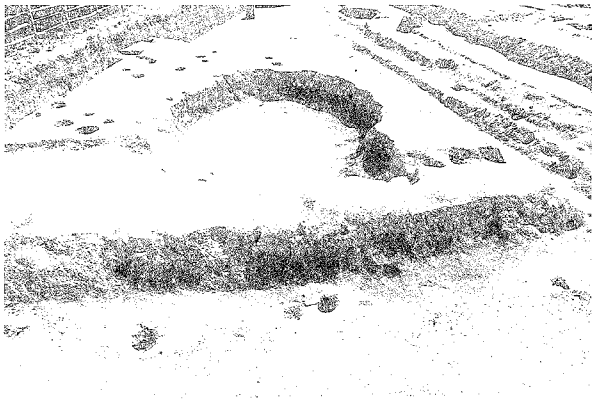


(5) 1号円形遺構遺物出土状況

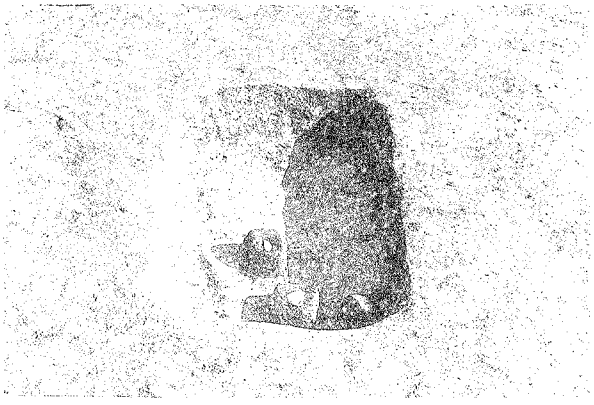
(6) 1号円形遺構出土遺物



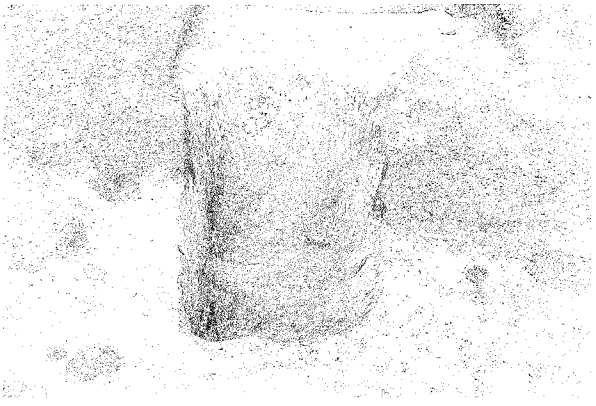
(1) 1号円形遺構出土遺物



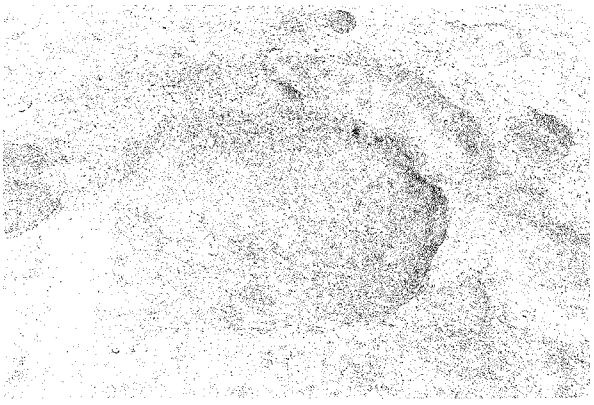
(2) 1号円形遺構完掘



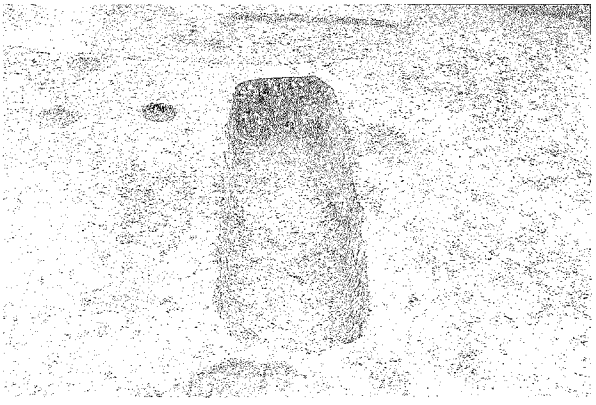
(3) SK−01



(4) SK−02

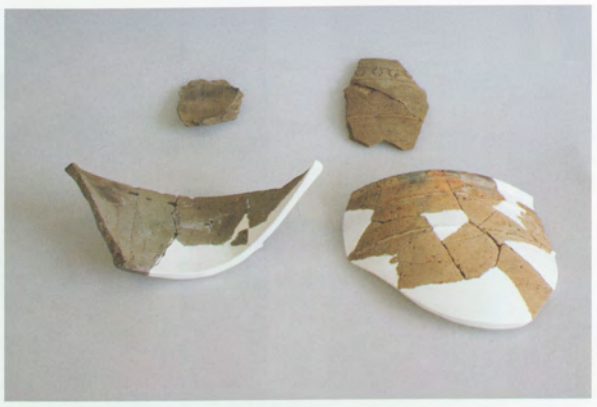


(5) SK−05



(6) SK−06

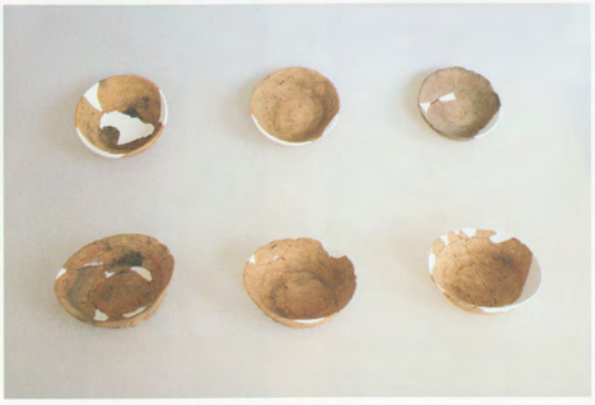
図版4



(1) SX－01内出土遺物

(2) SD－13内出土遺物　1

(3) SD－13内出土遺物　2



(4) SD－13内出土遺物　3

(1) SD－06内出土遺物

(2) 1号円形遺構内出土遺物

(3) SD－02内出土遺物　1

(4) SD－02内出土遺物　2

図版6

(1) SD－02内出土遺物　3

(2) SD－02内出土遺物　4

第2節　II次(2002年度)調査の成果

1．調査の概要と経過（調査日誌抄）

II次（02年度）調査は、I次調査と同様に中世期の調査とその下層の縄文期までの調査を行った。調査地区は、昨年に行ったI次調査区の西側部分で、本年度調査を行ったグリッドは、東西がMからZの間で南北が17から32の間である。調査面積は、上層の中世期約3,500㎡と、更に下の縄文期の層まで掘り下げての調査が約2,500㎡の合計約6,000㎡である。昨年度の調査区に比べ本年度の調査区は、縄文期の包含層が広範囲にわたって良好に残っており、調査は、02年6月10日から03年3月25日までの期間で実施した。

2．調査の成果

SD—02（2号溝）

遺構（第58図）　遺物（第69図～第72図）　第10表

L～R－12～14のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、調査区の中央よりやや南側部分をほぼ東西の方向に掘られており、長さ34.1m分を検出した。溝の東側は、I次（01年度）調査区の同溝とつながる。西側部分については、直行した状態で掘られた18号溝の東側4.6m手前で完結している。溝の幅は、1.3mから広い部分で2.6mを測る。深さは、1.34mを測る。溝の断面は底の部分が狭いV字形を呈している。

遺構内からは、溝の中位ぐらいから中世期の遺物が多量に出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

SD－06（6号溝）

遺構（第59図）　遺物（第73図）　第11表

K～R－13～16のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、2号溝の北側に並行して東西に掘られており、2号溝との間隔は6mを測る。遺構は、長さ35.1m分を検出しており、溝の東側はI次（01年度）調査区の同溝とつながる。西側部分については、直行した状態で掘られた18号溝の東側6.6m手前で完結している。溝の幅は、1.57mから広い部分で2.3mを測る。深さは、0.63mから深い部分で1.33mを測る。溝の断面は、上方に向かってやや開いていくU字形を呈している。

遺構内からは、中世期の遺物が多く出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

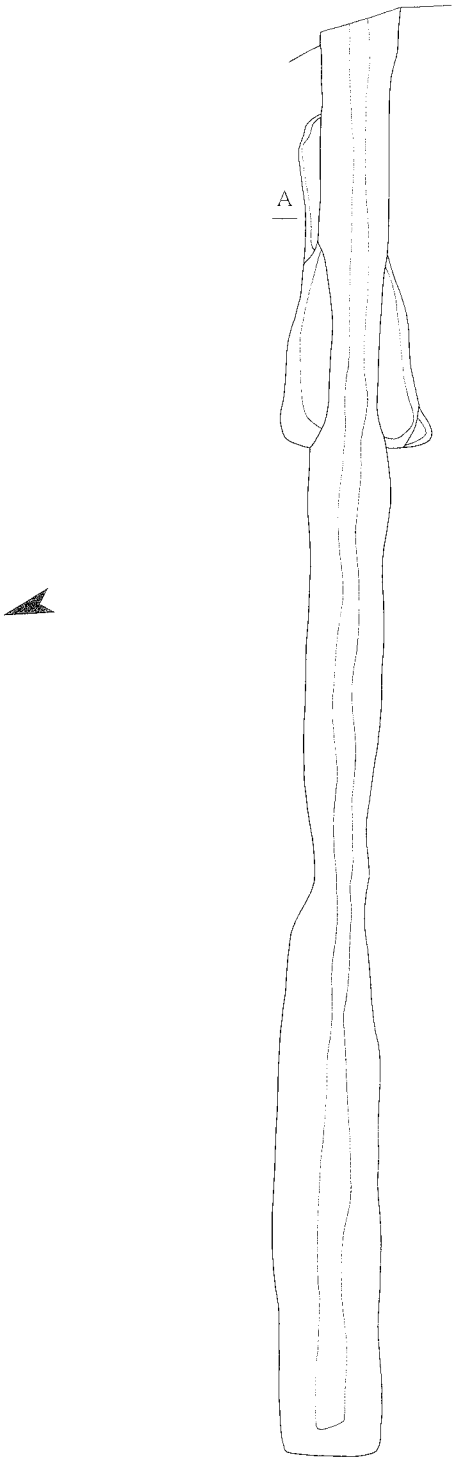
SD－16（16号溝）

遺構（第60図）　遺物（第74図）　第12表

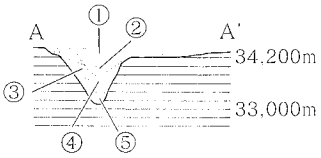
M－9～11のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、長さ8.6m分を検出しており、東側部分は削平を受けている。溝の幅は、0.45mから広い部分で0.55mを測る。深さは、0.1mを測る。溝の断面は、上方に向かってやや開いていくU字形を呈している。

遺構内からは、中世期の遺物が出土している。

第57図　Ⅱ次調査区遺構配置図及びグリッド図

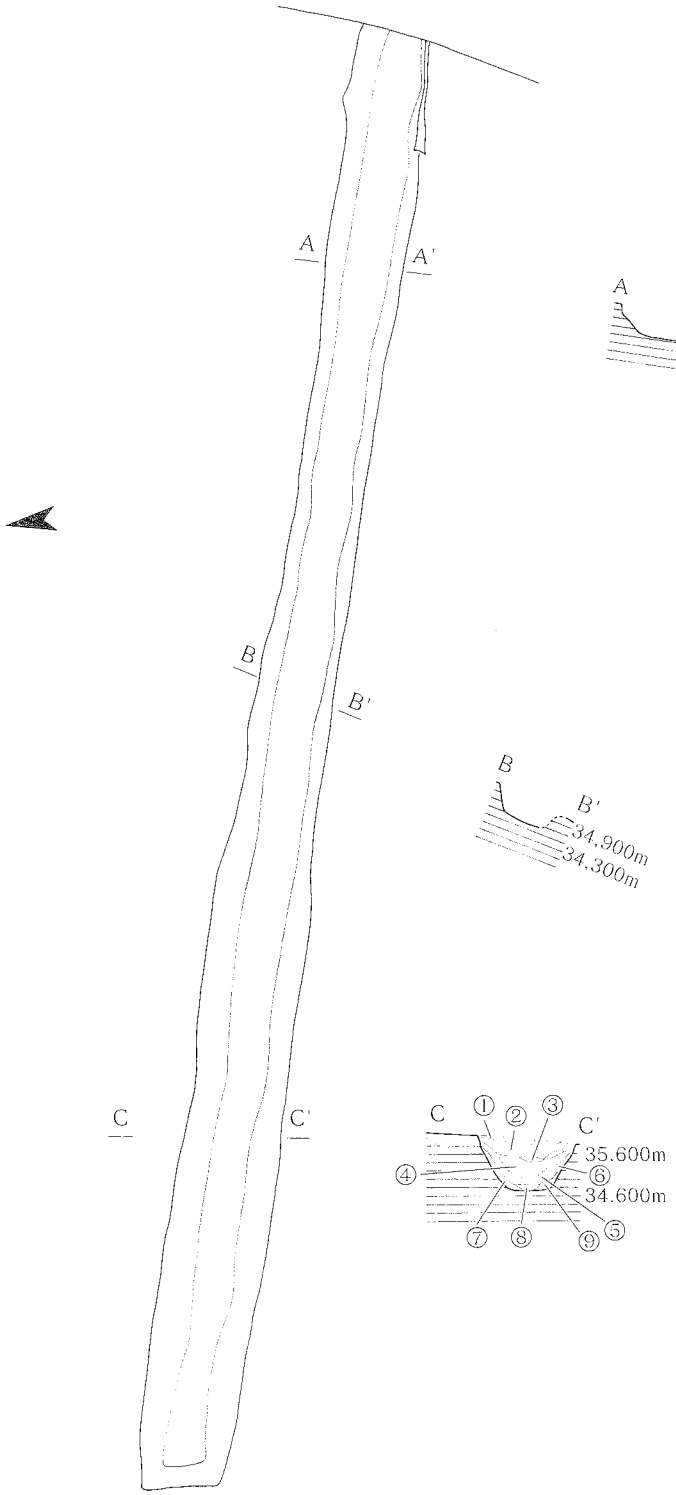


①7.5YR黒褐3/2、ローム粒、少量混入。小石少量流入。
②7.5YR黒褐3/2、ローム粒、多量混入。小石流入。
③10YR黒褐3/2、①②よりやや黄味をおびている。
ローム粒、ブロック多量混入。
④①②と③が混合。ローム粒、小石粒が多量混入。
⑤10YR黒褐3/2、小石とローム粒がこの土層中最も多い。



0 3 6m

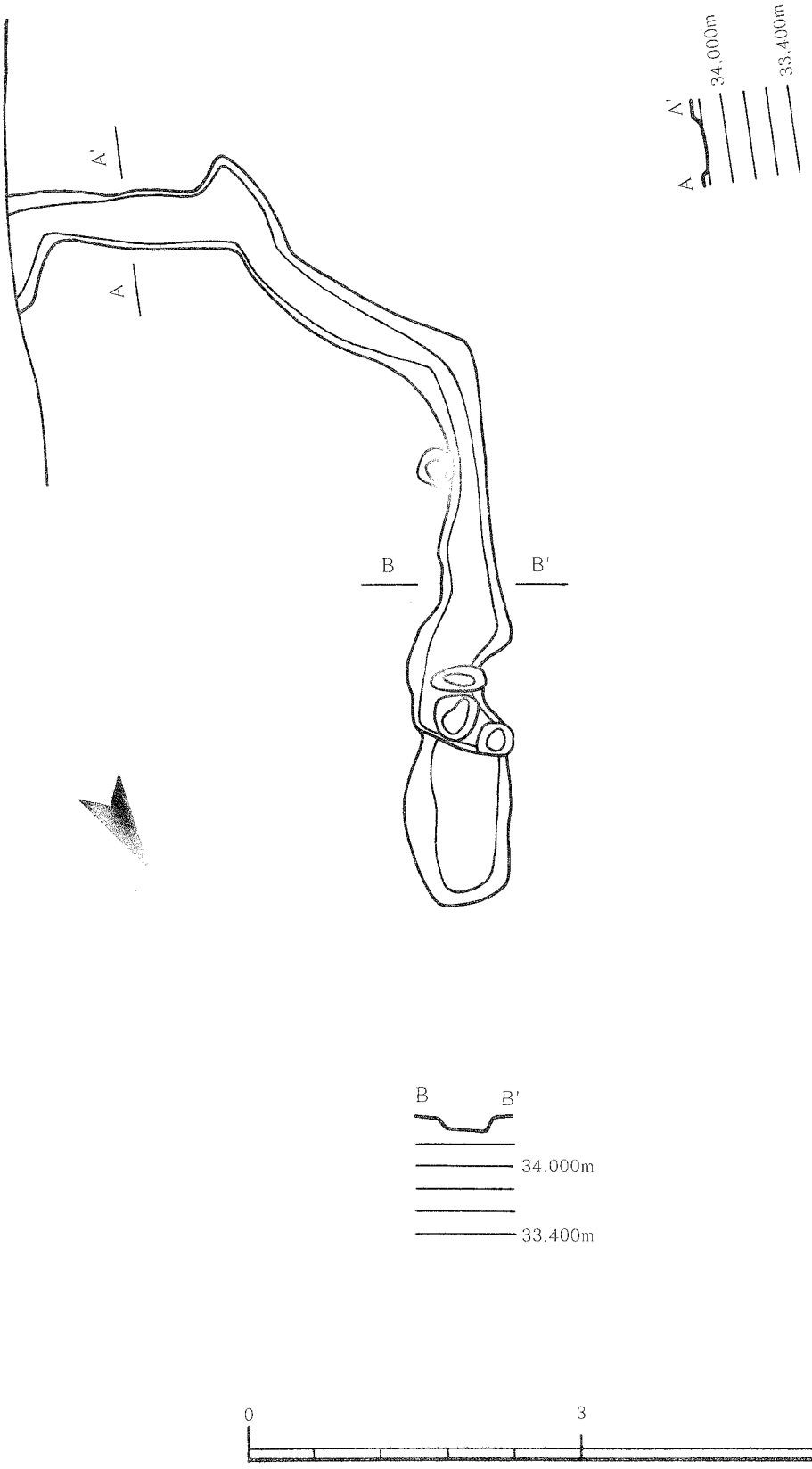
第58図　SD－02実測図



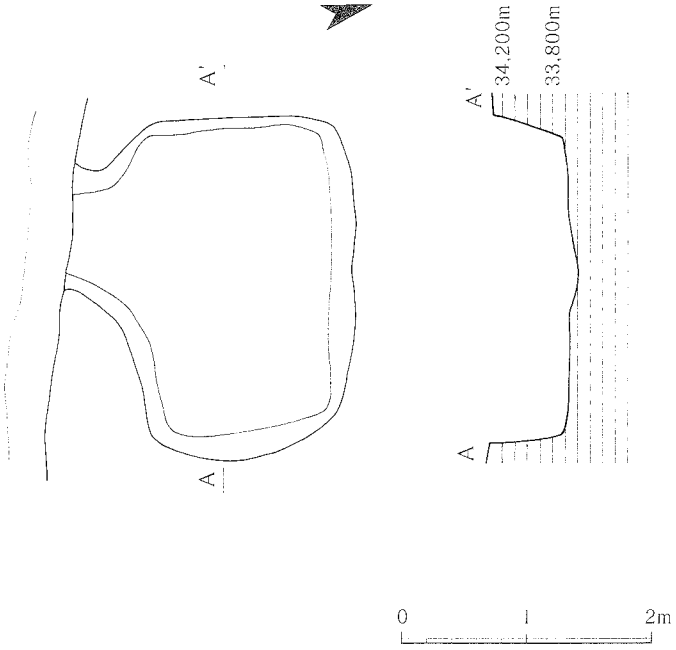
①7.5YR黒褐3/2、ローム粒、ブロック多。
②7.5YR黒褐3/2、ローム粒、多。
③7.5YR黒2/1。
④7.5YR黒褐3/2、少。
⑤7.5YR暗褐3/3、ローム粒、ブロック多。
⑥7.5YR暗褐3/3、ローム粒、この土層中最も多い。
⑦7.5YR暗褐3/3、ローム混入、壁土の流入。
⑧7.5YR黒褐3/2、ローム粒、ブロック多、ゴリ混入。
⑨7.5YR褐4/3、やや砂質。

0　3　6m

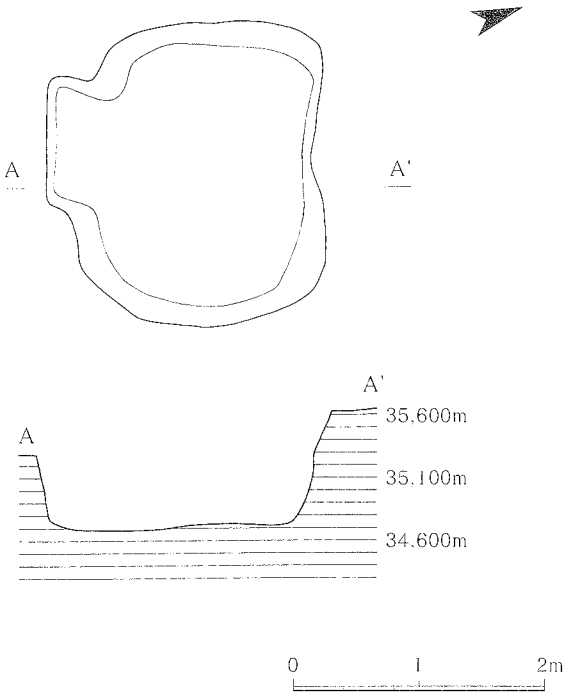
第59図　SD－06実測図



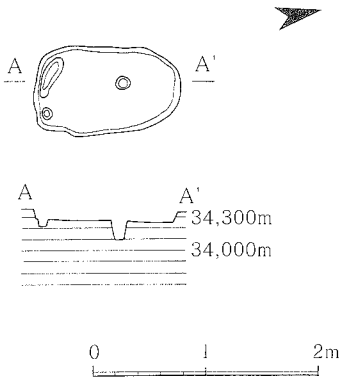
第60図　SD－16実測図



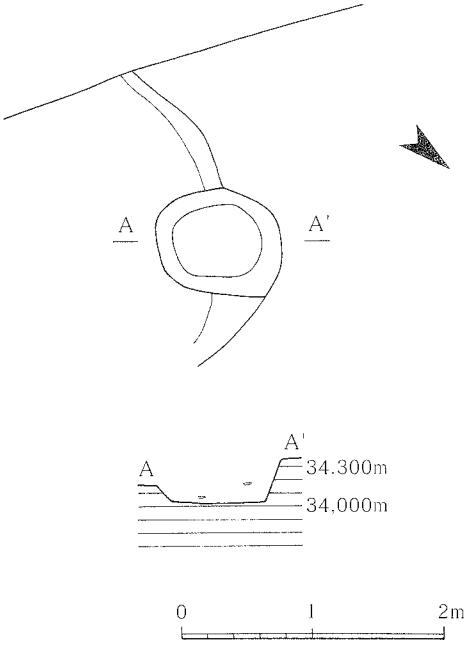
第61図　SK－34実測図



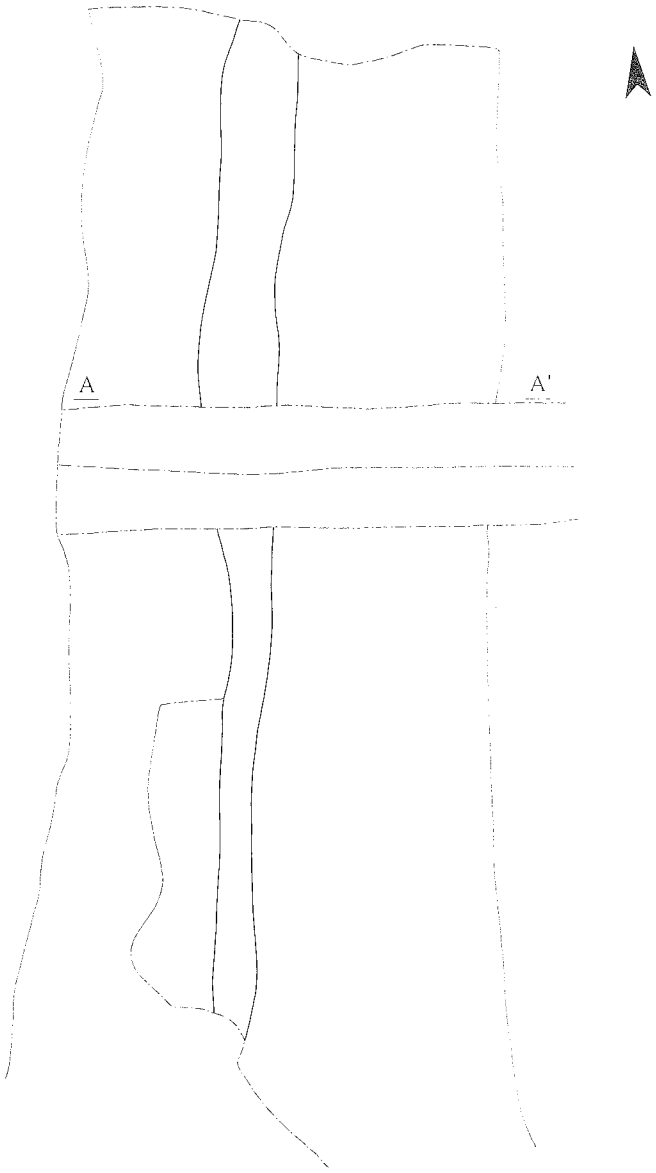
第62図　SK－38実測図

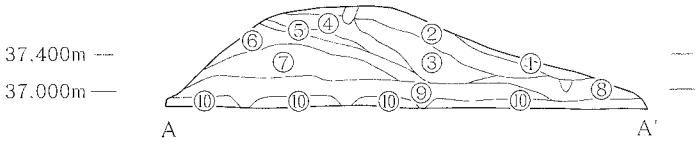


第63図　SK－47実測図



第64図　SK－53実測図





①7.5YR褐4/4。
②7.5YR明褐5/6（ローム）。
③7.5YR褐4/3。
④7.5YR黒褐3/2。
⑤②層と④層が混合。
⑥④層と同色。ニガ混入。
⑦7.5YR黒褐2/2。
⑧②層と⑨層が混合。
⑨7.5YR黒2/1。
⑩⑦層と同色。

0 2 4m

第65図　1号土墓実測図

SK－34（34号土坑）

遺構（第61図）　遺物（第75図）　第13表

M－15グリッドに検出した土坑である。遺構は、主軸を東西方向に取り掘られ、形状は隅丸長方形を呈している。規模は、長辺が2.72mで、短辺が1.8mで、深さは0.62mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土している。

SK－38（38土坑）

遺構（第62図）　遺物（第75図）　第13表

N－15グリッドに検出した土坑である。遺構は、主軸を東西方向に取り掘られ、形状は不整隅丸長方形を呈している。規模は、長辺が2.9mで、短辺が2.1mで、深さは0.9mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

遺構内からは、少量ではあるが中世期の遺物が出土している。

SK－47（47号土坑）

遺構（第63図）

L－11グリッドに検出した土坑である。遺構は、主軸を南北方向に取り掘られ、形状は不整隅丸長方形を呈している。規模は、長辺が1.28mで、短辺が0.8mで、深さは0.1mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。中に、ピットが認められたがこの遺構に伴うかは確認できなかった。

遺構内からは、少量の中世期の遺物が出土しているが、小片のため図化できなかった。

SK－53（53号土坑）

遺構（第64図）

N－9グリッドに検出した土坑である。遺構は、主軸を東西方向に取り掘られ、形状は不整円形を呈している。規模は、長径が0.95mで、短径が0.8mで、深さは0.33mを測る。断面は、上方が緩やかに開くU字形を呈している。

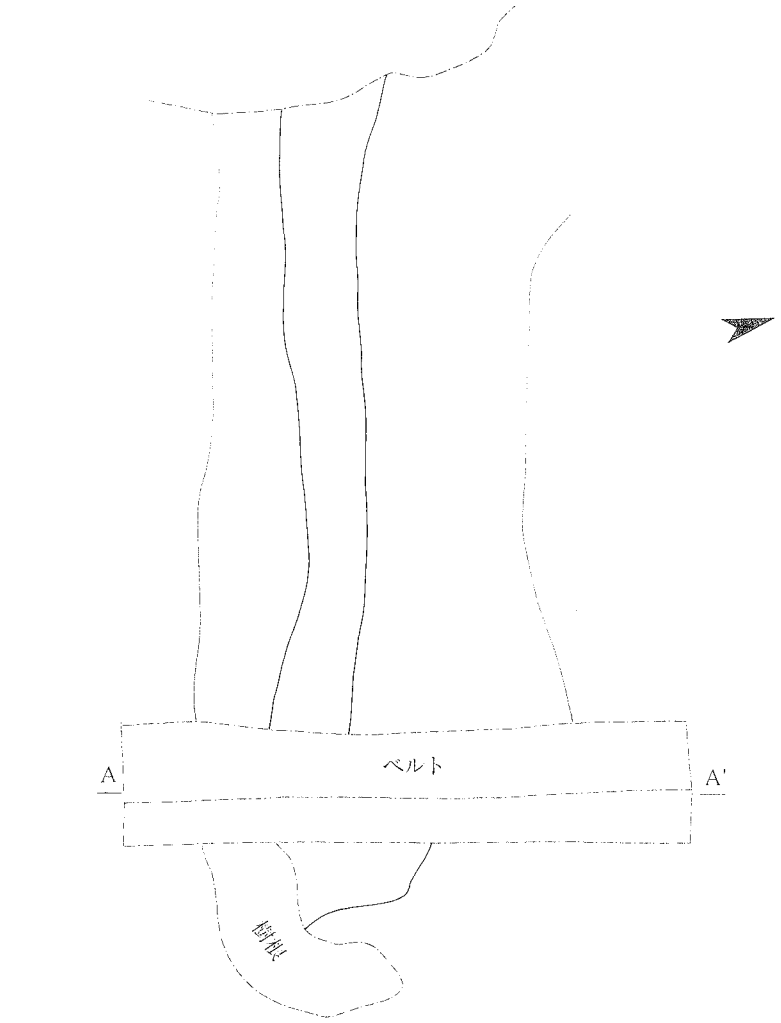
遺構内からは、少量の中世期の遺物が出土しているが、小片のため図化できなかった。

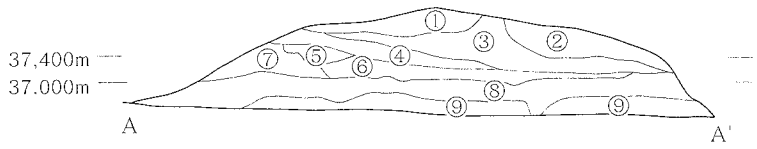
1号土塁

遺構（第65図）　遺物（第76図～第81図）　第14表

Q～R－12～21のグリッドにかけて検出した遺構である。遺構は、ほぼ南北方向に築かれており、18号溝と並行している。土塁は、北側と南側の一部が削平により消滅しているが17.5m分を検出しており、18号溝に直行する6号溝のすぐ北で、ほぼ直角に近く東側に曲がっている（2号土塁）。本来は、同じ時期に築造された土塁であると考えられるが、便宜上別の遺構番号を付けている。土塁は、高さが1.56mで幅が6.76mから広い部分で7.68mを測る。断面の形状は、溝がある西側の傾斜は急に、東側が傾斜を緩やかに築かれている。

土塁の内部からは、遺物の出土はほとんど無いが、基底面と考えられる部分からは中世期の遺物が多量に出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。





①7.5YR黒褐3/2、ローム粒少量混入。
②7.5YR暗褐3/3。
③7.5YR黒褐2/2。
④①と同色。小石粒少量混入。
⑤7.5YR暗褐3/4、5～10cmの石混入。
⑥7.5YR明褐5/6（ローム）。
⑦①と同色。
⑧7.5YR黒2/1。
⑨③と同色。

0　2　4m

第66図　2号土壁実測図

2号土墨

遺構（第66図）　遺物（第82図～第83図）　第15表

O～P－16～17のグリッドにかけて検出した遺構である。遺構は、1号土墨から東に向かってほぼ直角に曲がり東西方向に築かれており、6号溝と並行している。土墨は、東側と西側の一部が削平により消滅しているが13.2m分を検出しており、18号溝と平行する1号土墨と本来は同じ時期に築造された土墨であると考えられるが、便宜上別の遺構番号を付けている。土墨は、高さが1.8mで幅が5.18mから広い部分で5.98mを測る。断面の形状は、溝がある南側の傾斜は急に、北側が傾斜を緩やかに築かれている。

土墨の内部からは、遺物の出土はほとんど無いが、基底面と考えられる部分からは中世期の遺物が多量に出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

SD－18（18号溝）

遺構（第67図）　遺物（第84図～第86図）　第16表

Q～S－14～25のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、ほぼ南北に取り掘られており、北側と南側部分については調査区外に延びていくため、正確な長さは不明であるが57m分を検出した。この溝のすぐ東側には、同じ方向に作られた土墨の一部が残っており、溝の廃土を利用して同時期に土墨を築いたと考えている。溝の幅は、2.75mから広い部分で4.6mを測る。深さは、0.7mから深い部分で1.95mを測る。溝の断面は、上方に向かって緩やかに広がるU字形を呈している。

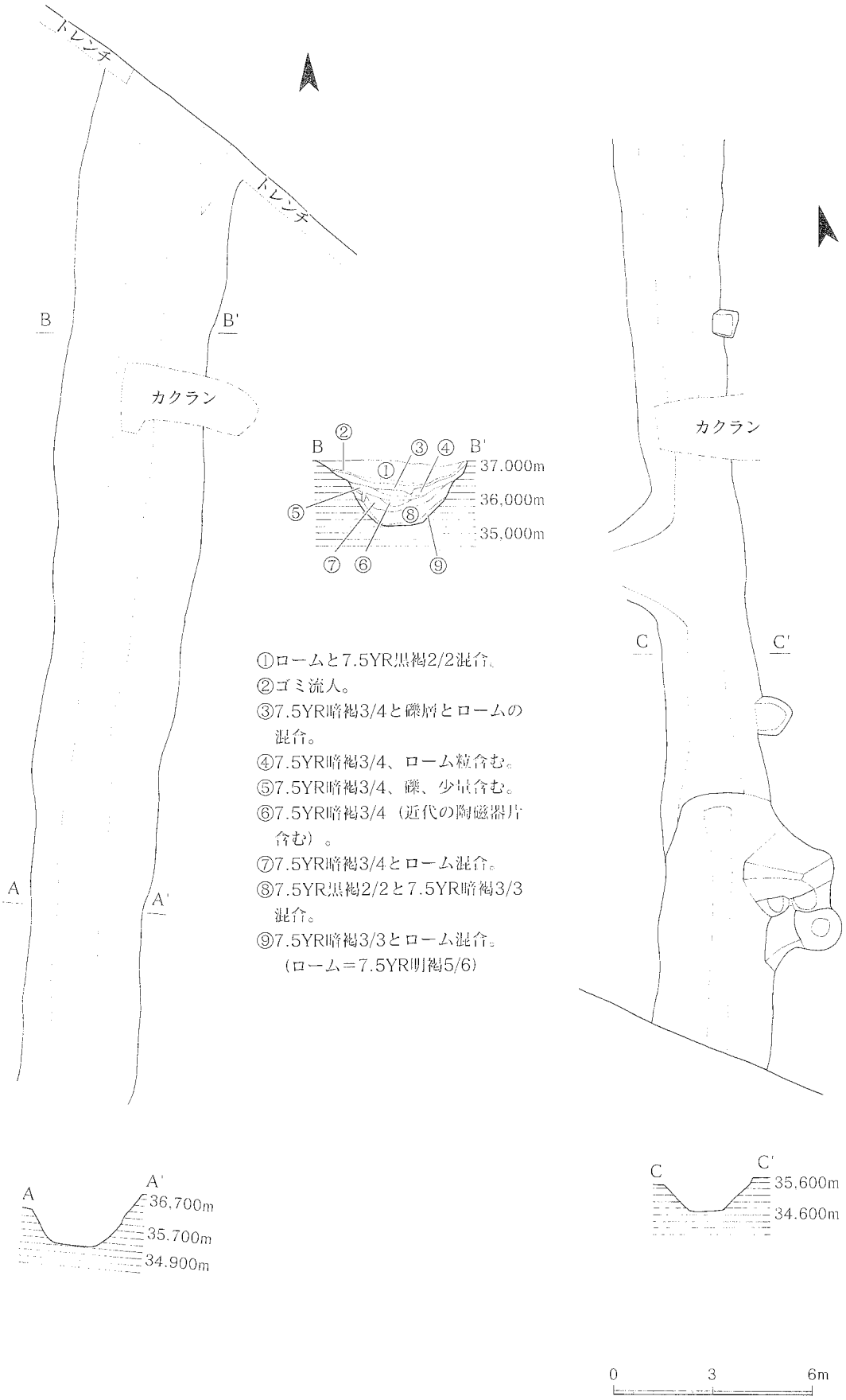
遺構内からは、溝の中位ぐらいから中世期の遺物が多量に出土している。

SI－01（1号住居跡）

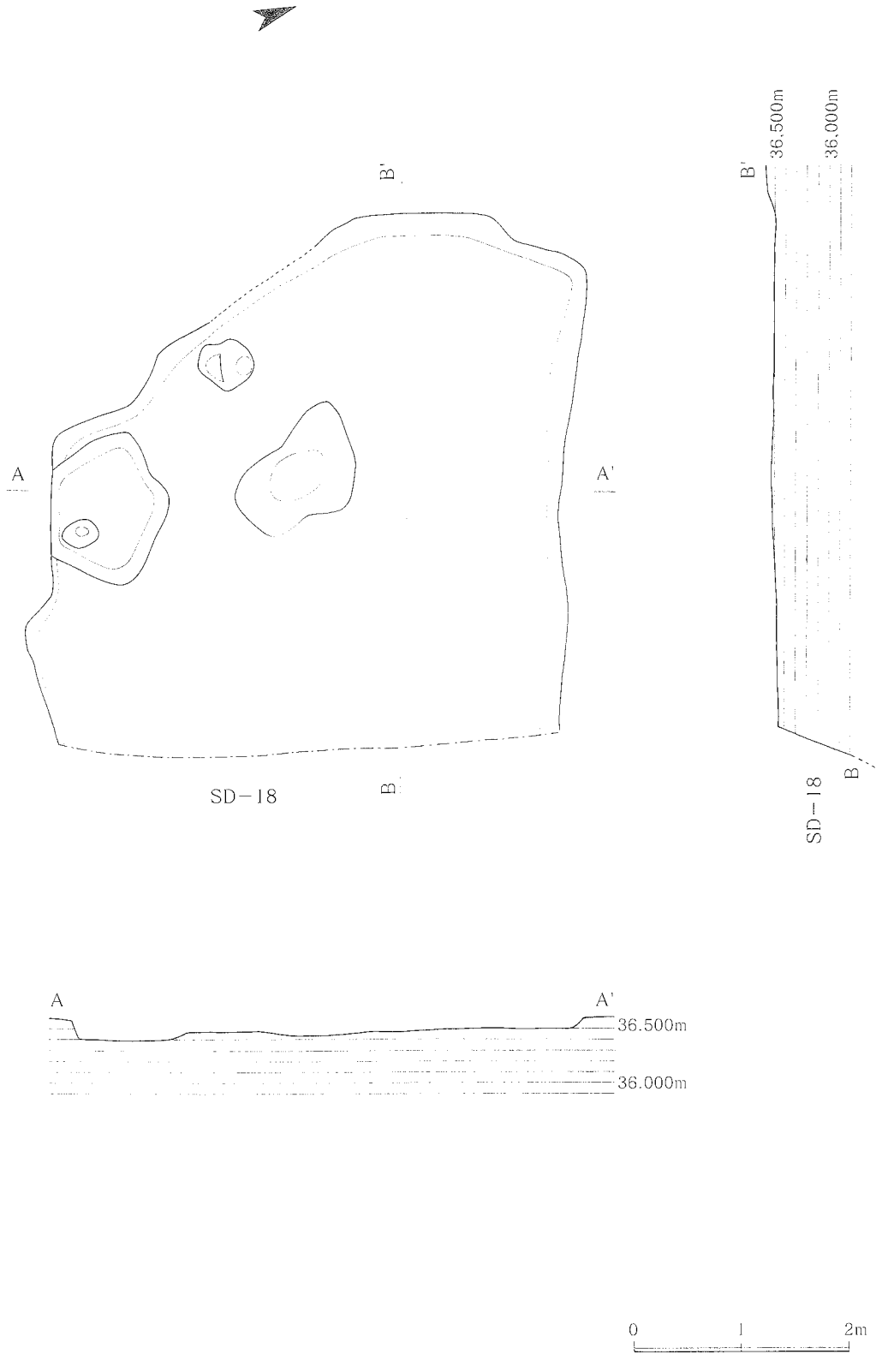
遺構（第68図）　遺物（第87図～第88図）　第17表

R～S－23～25のグリッドにかけて検出した竪穴住居跡である。遺構は、東側を18号溝により切られていることや全体的に残存状態も悪いことから、形状や正確な規模が不明であるが、長辺が4.97m＋αで短辺が5.05mの隅丸長方形の住居跡と考えられる。深さは、0.05mと浅くかなり削平を受けている。遺構のほぼ中央には、長径1.18mで短径0.82m、深さ0.03mの不整楕円形の炉跡と考えられる掘り込みがあるが、中からは焼土や炭化物などは検出されていない。南側壁際には、長辺1.38mで短辺1.1m、深さ0.08mの不整長方形の貯蔵穴と考えられる掘り込みも確認されている。柱穴は、検出できなかった。また、床の硬化面も残っていなかった。

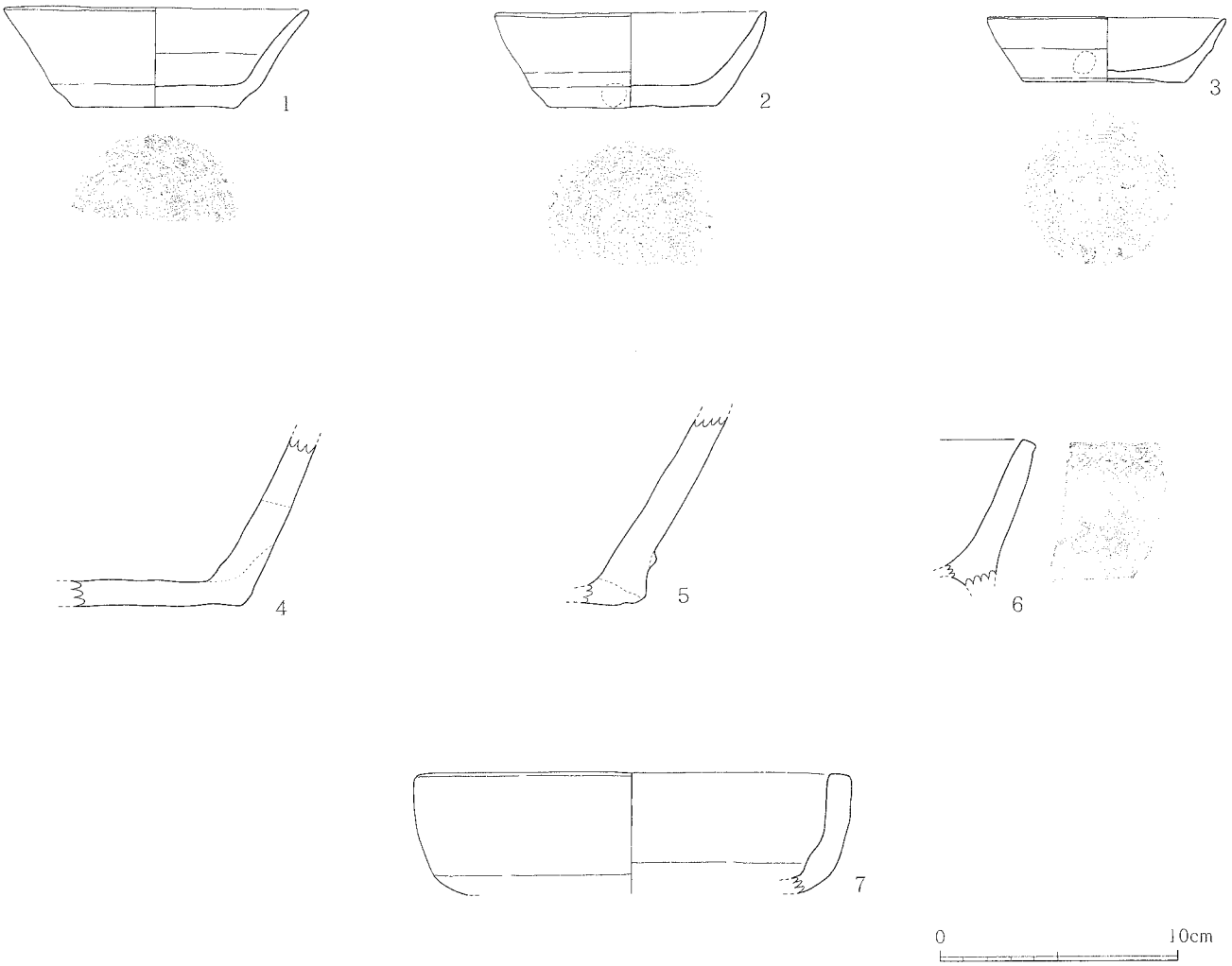
遺構内からは、弥生式土器や土師器の高杯や甕などが出土しており、遺物や住居跡の特徴から弥生時代終末から古墳時代初頭の住居跡と考えられる。



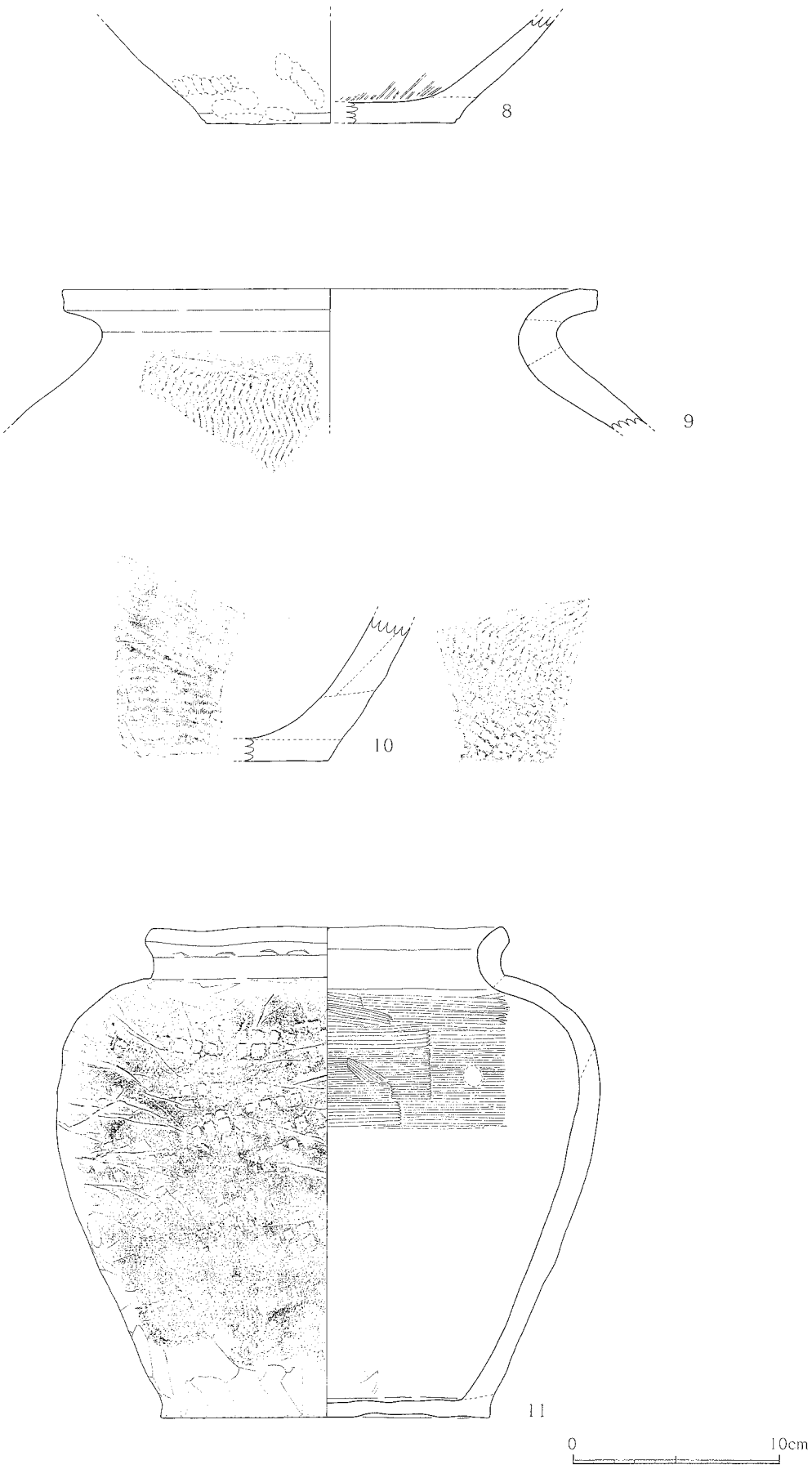
第67図　SD－18実測図



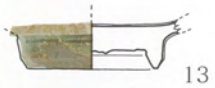
第68図　SI−01実測図

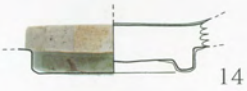


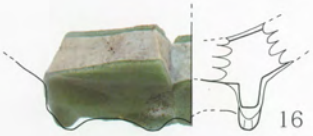
第69図　SD－02内出土遺物実測図　（1）

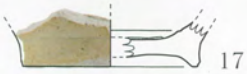


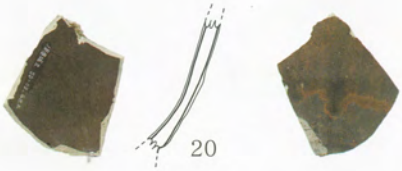
第70図　SD－02内出土遺物実測図　(2)



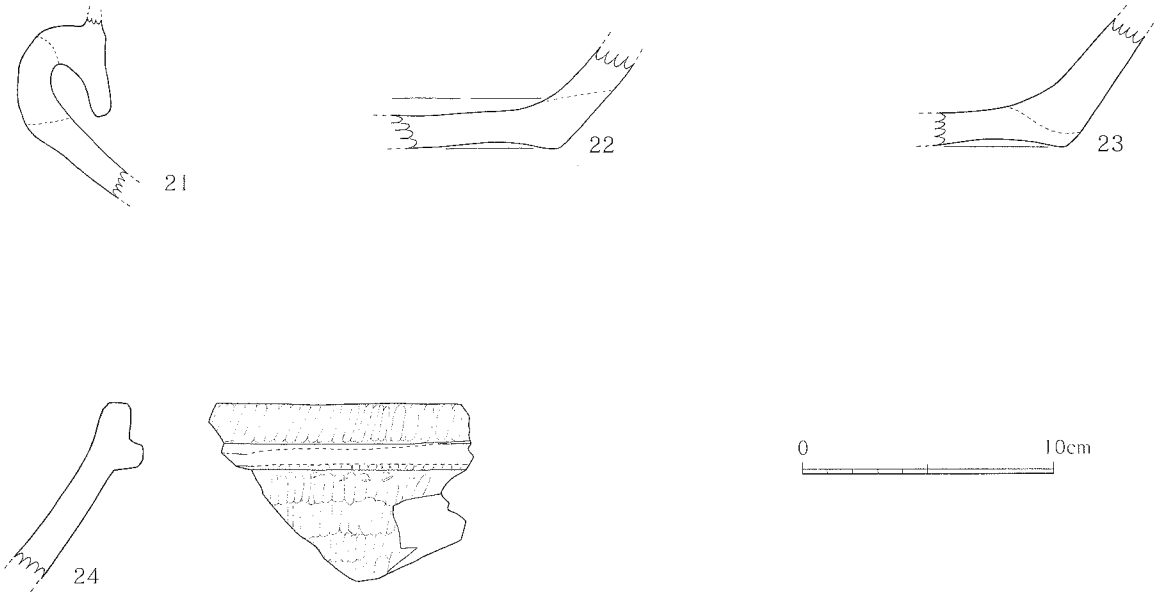




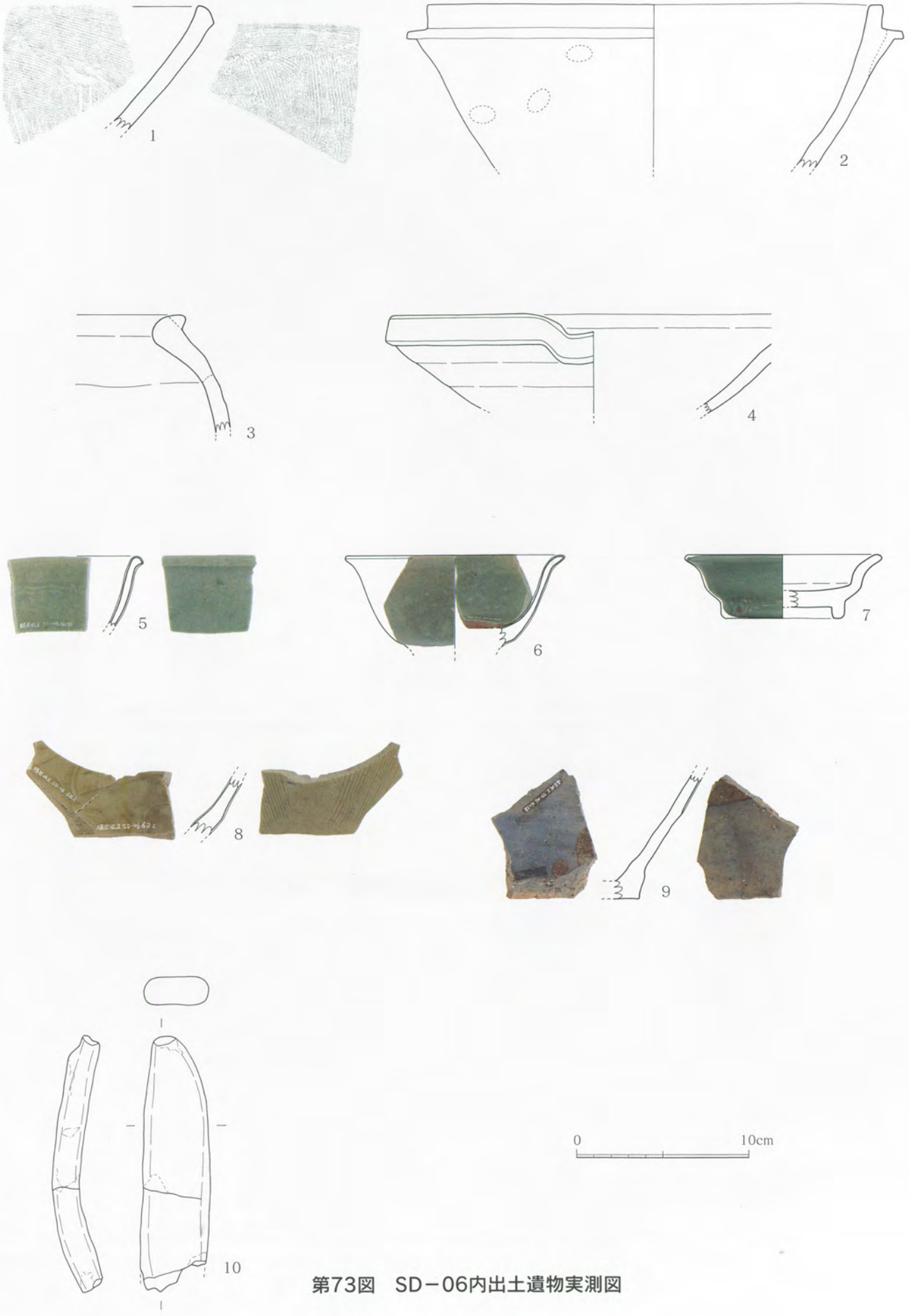




第71図　SD－02内出土遺物実測図　（3）



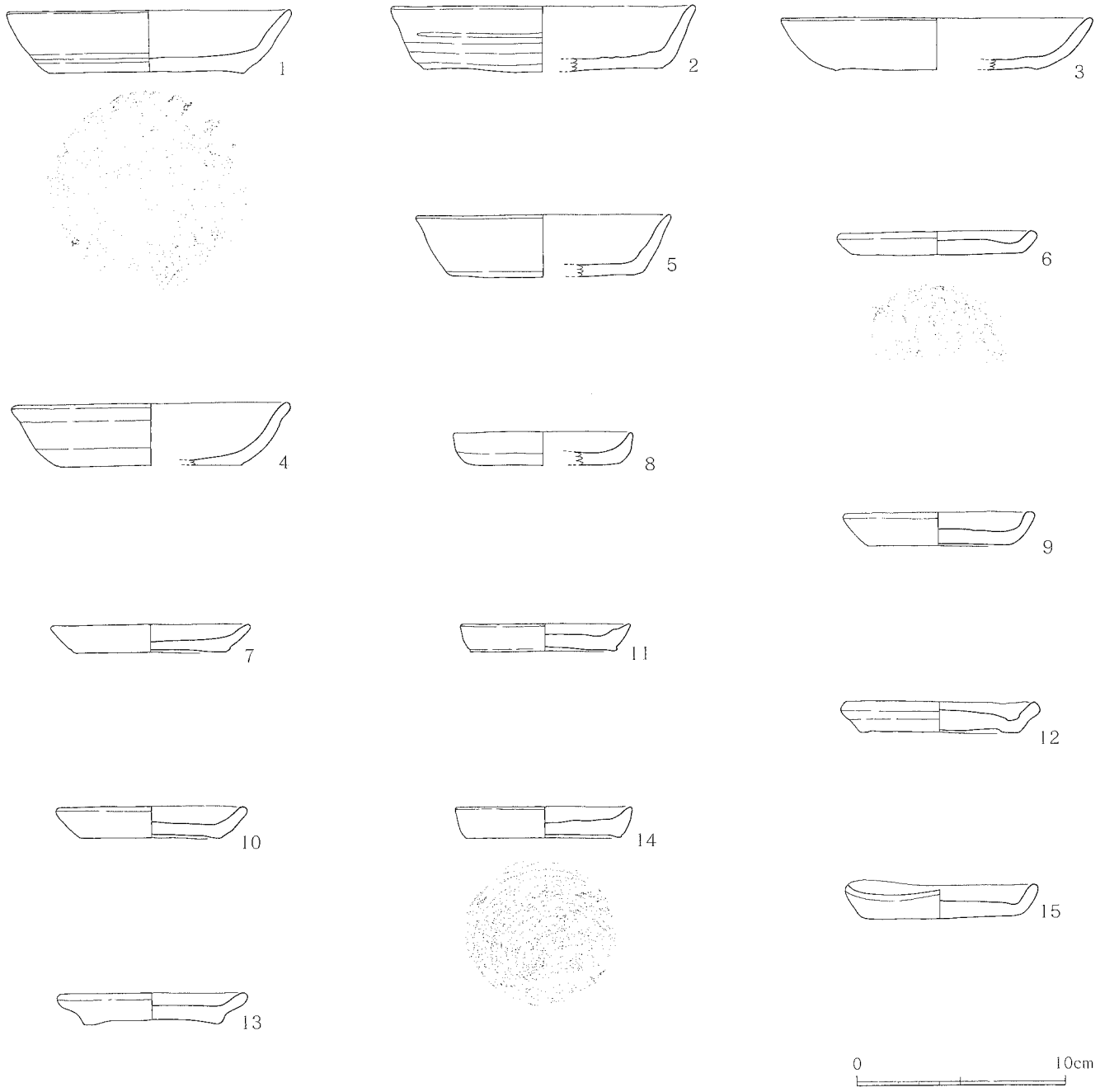
第72図　SD－02内出土遺物実測図　(4)



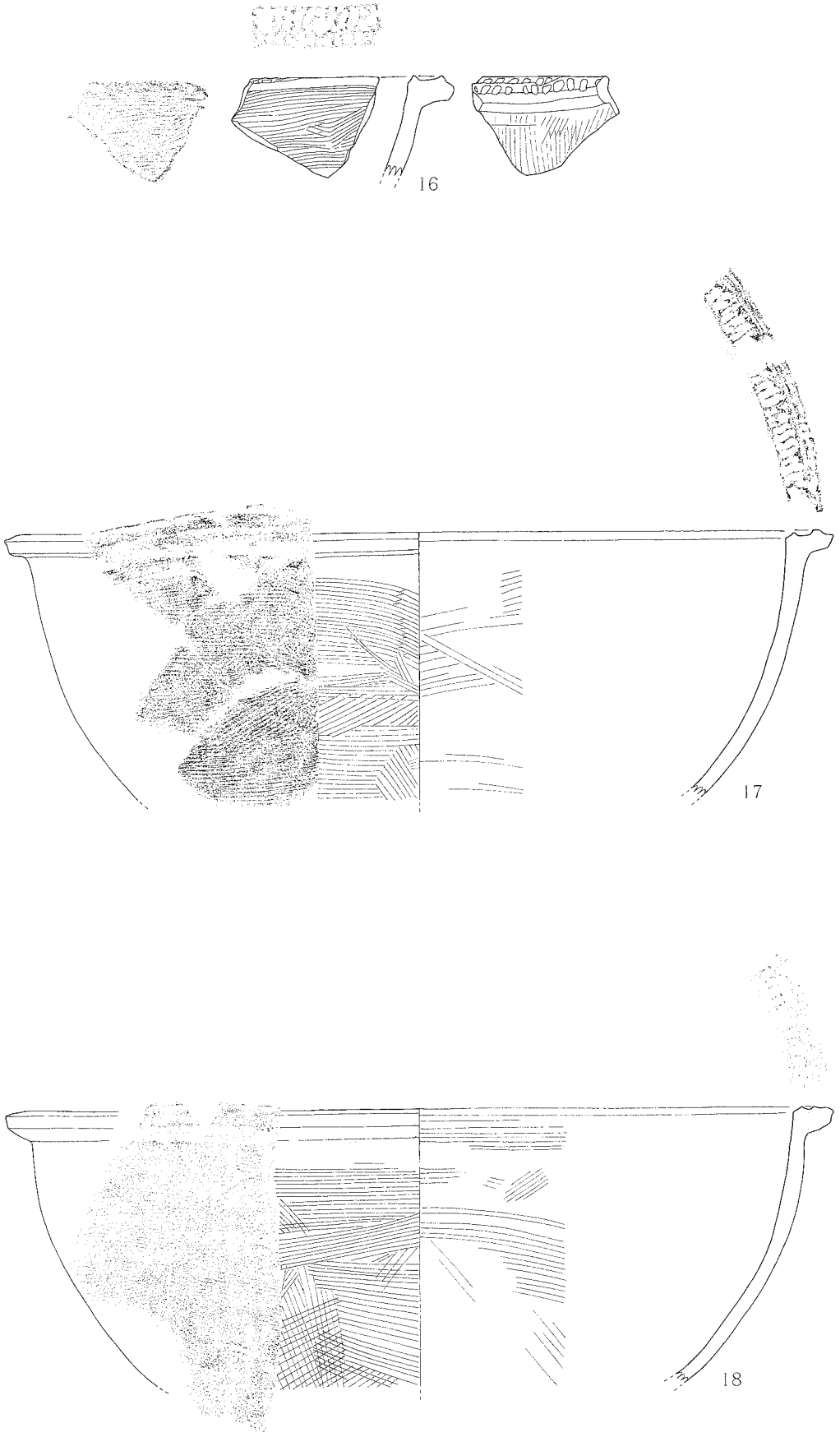
第73図　SD－06内出土遺物実測図

第74図　SD－16内出土遺物実測図

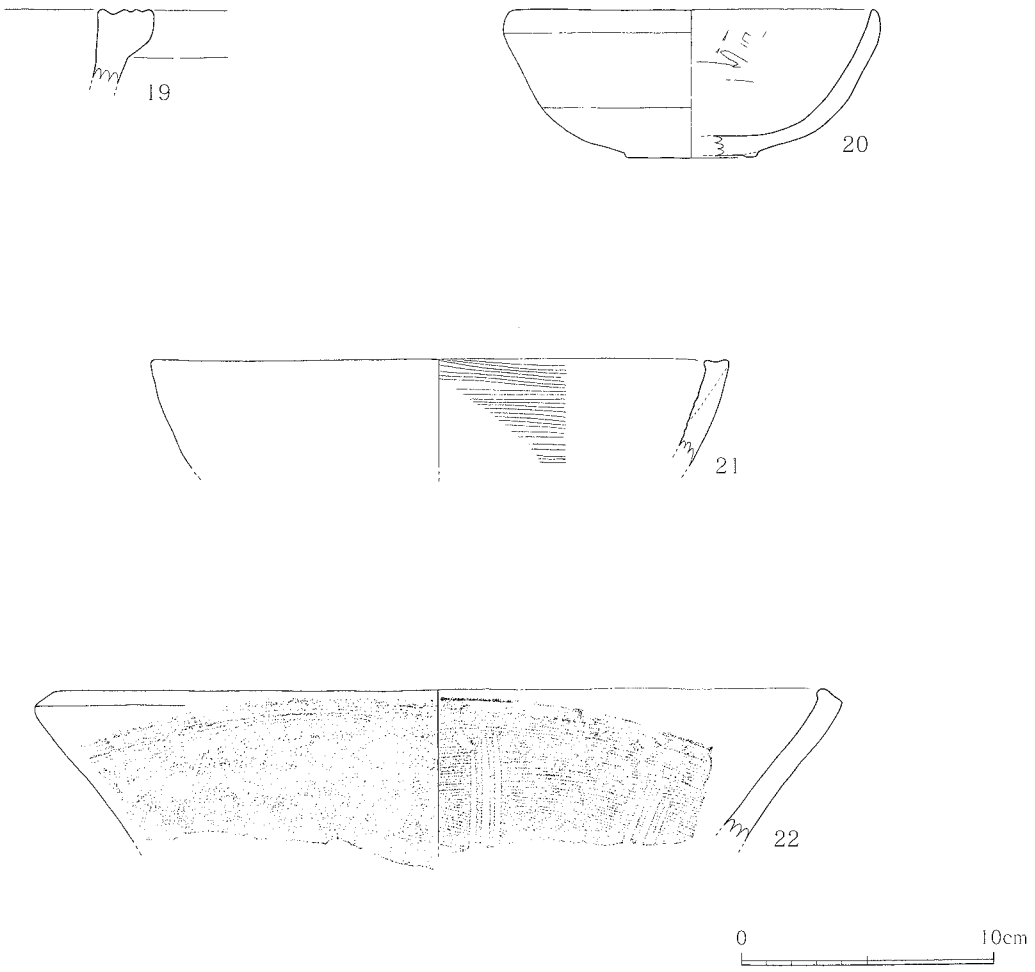
第75図　SK－34・SK－38内出土遺物実測図



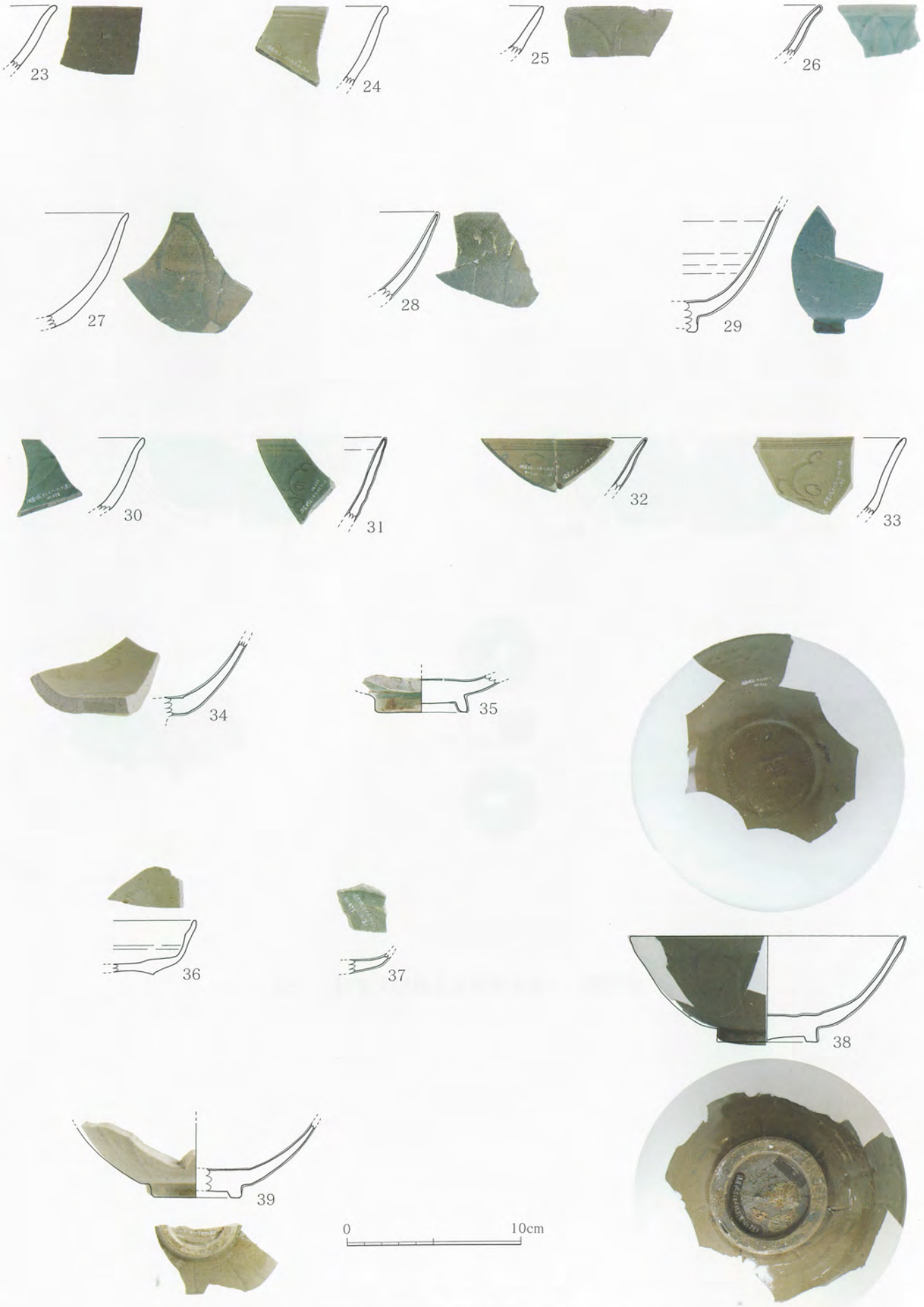
第76図　1号土墓内出土遺物実測図　（1）



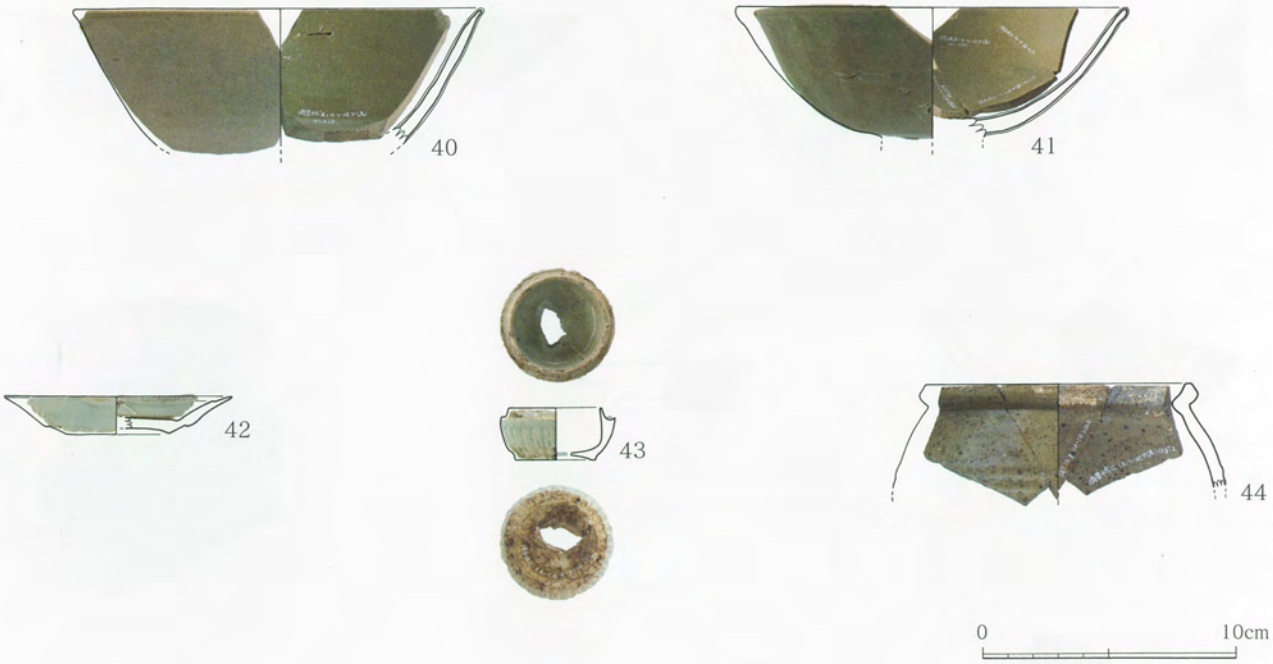
第77図　1号土墓内出土遺物実測図　(2)



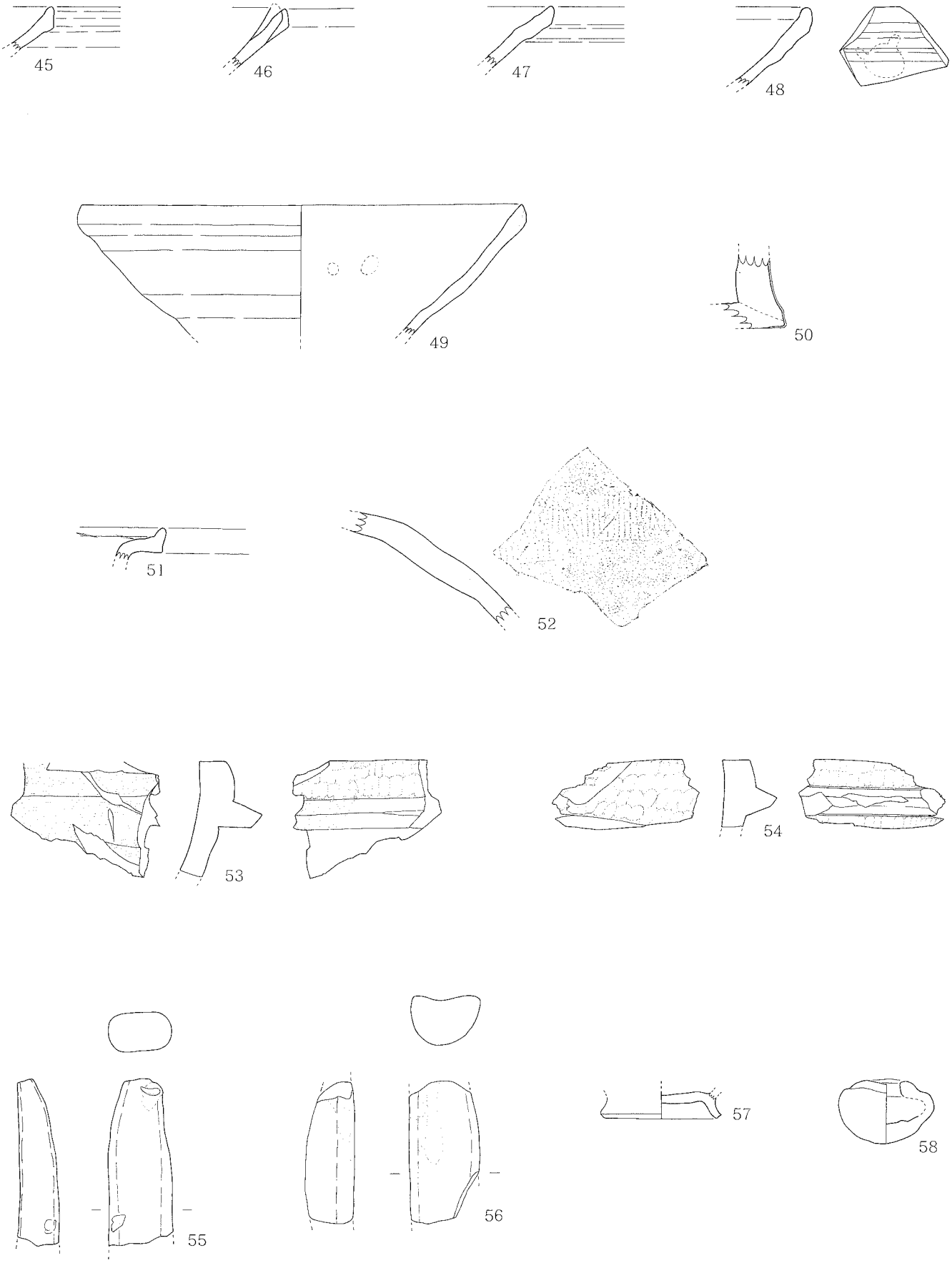
第78図　1号土墓内出土遺物実測図　(3)



第79図　1号土墓内出土遺物実測図　(4)

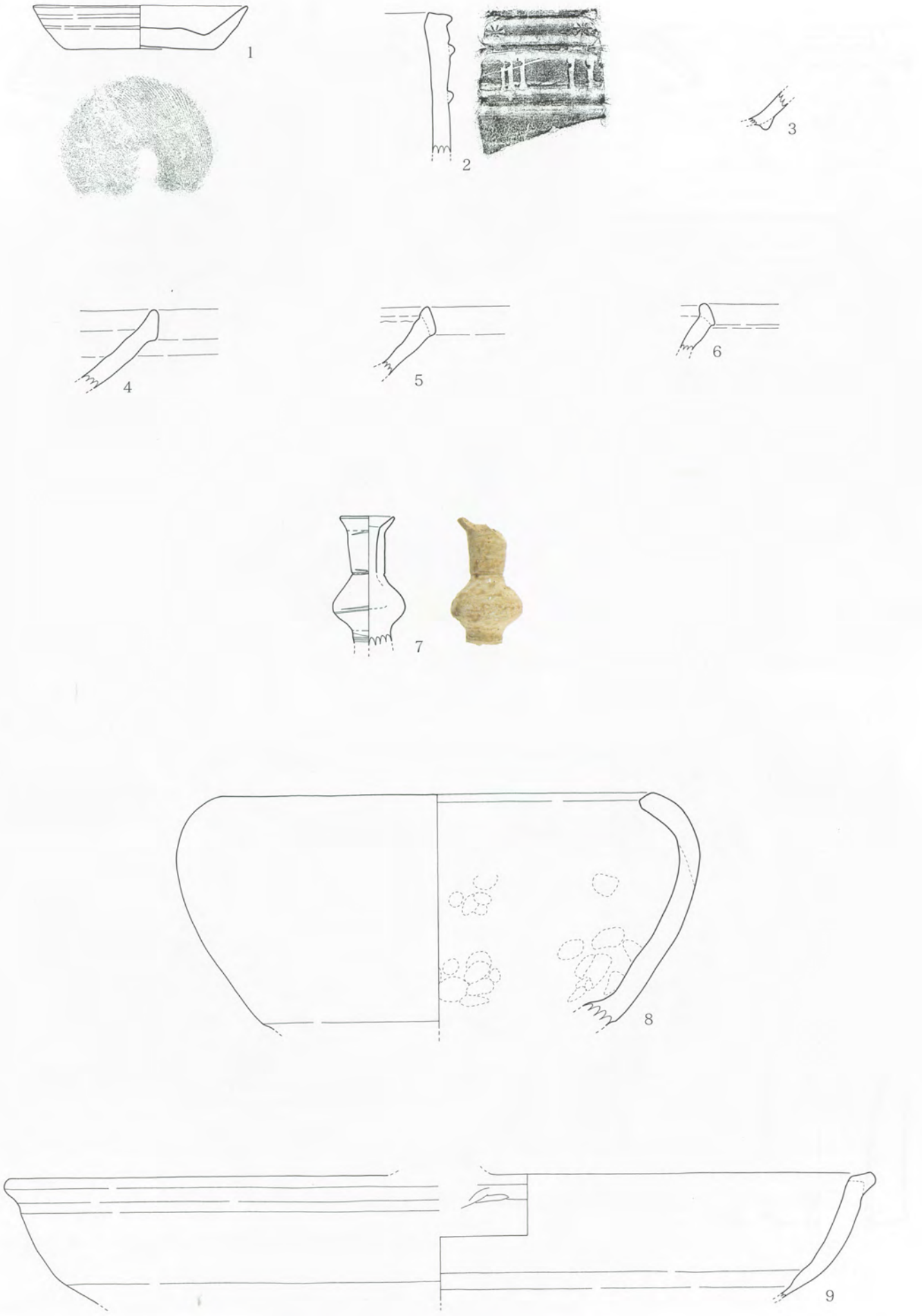


第80図　1号土塁内出土遺物実測図　(5)

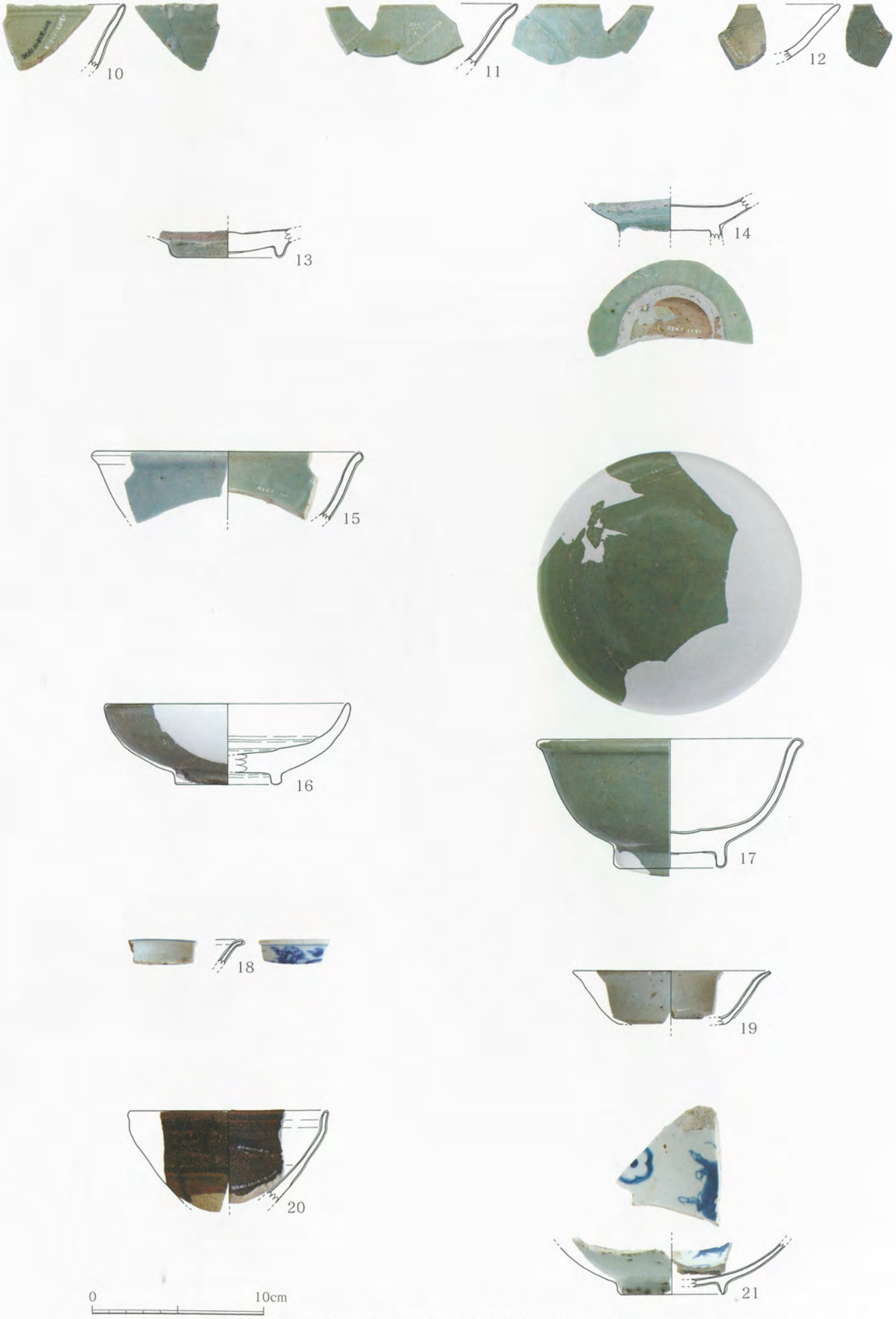


第81図　1号土墓内出土遺物実測図　(6)

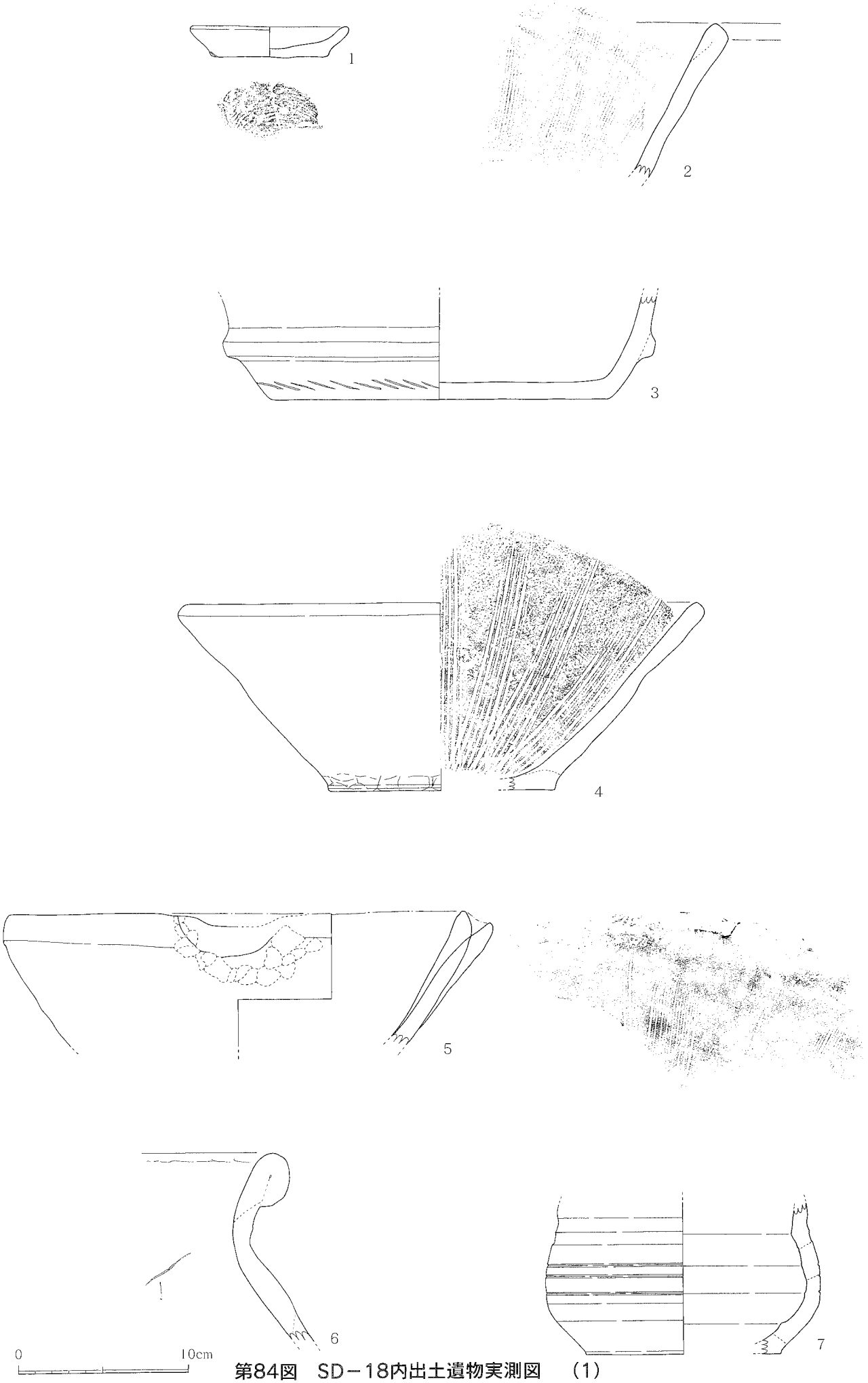
0　10cm



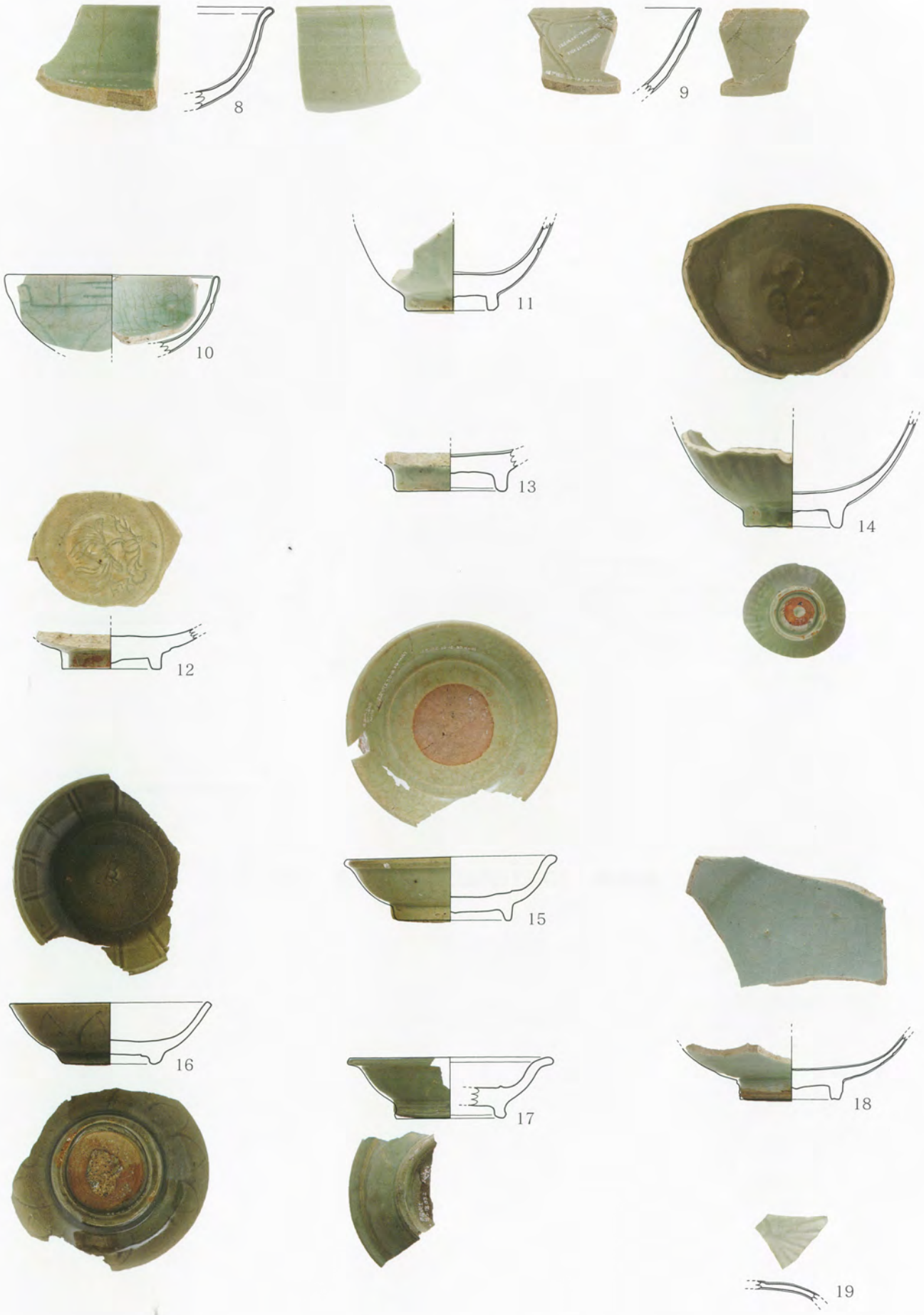
第82図　2号土墨内出土遺物実測図　（1）



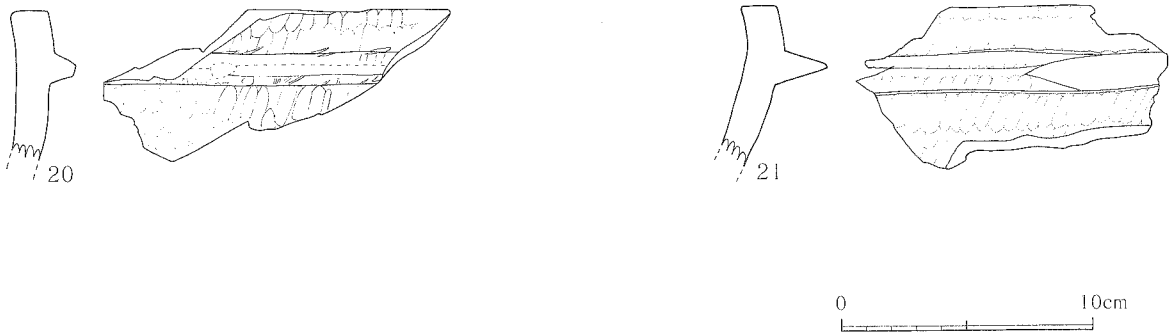
第83図　2号土塁内出土遺物実測図　(2)



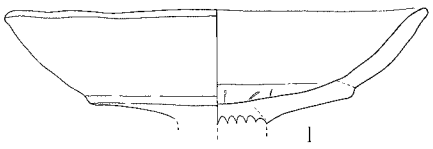
第84図　SD－18内出土遺物実測図　（1）

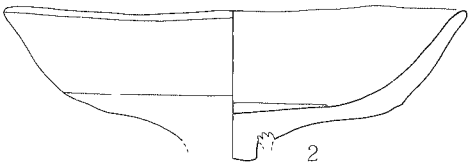


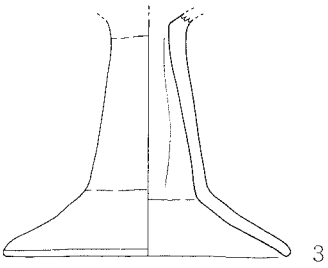
第85図　SD－18内出土遺物実測図　（2）

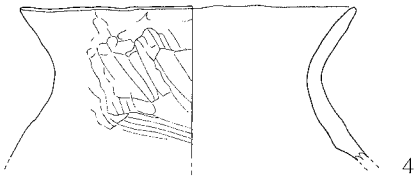


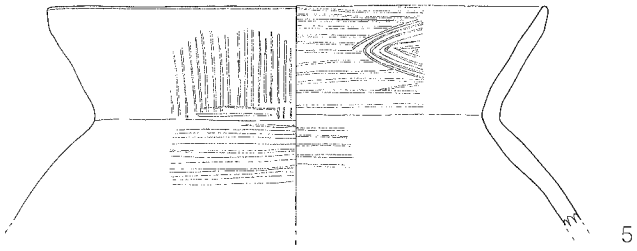
第86図　SD－18内出土遺物実測図　（3）

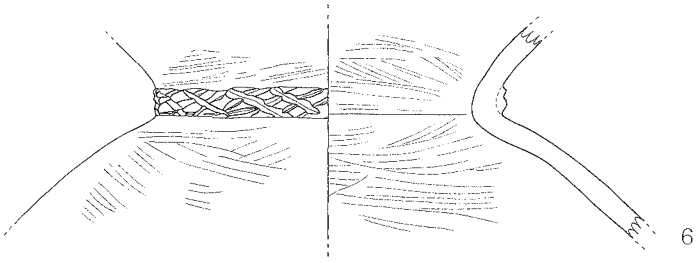






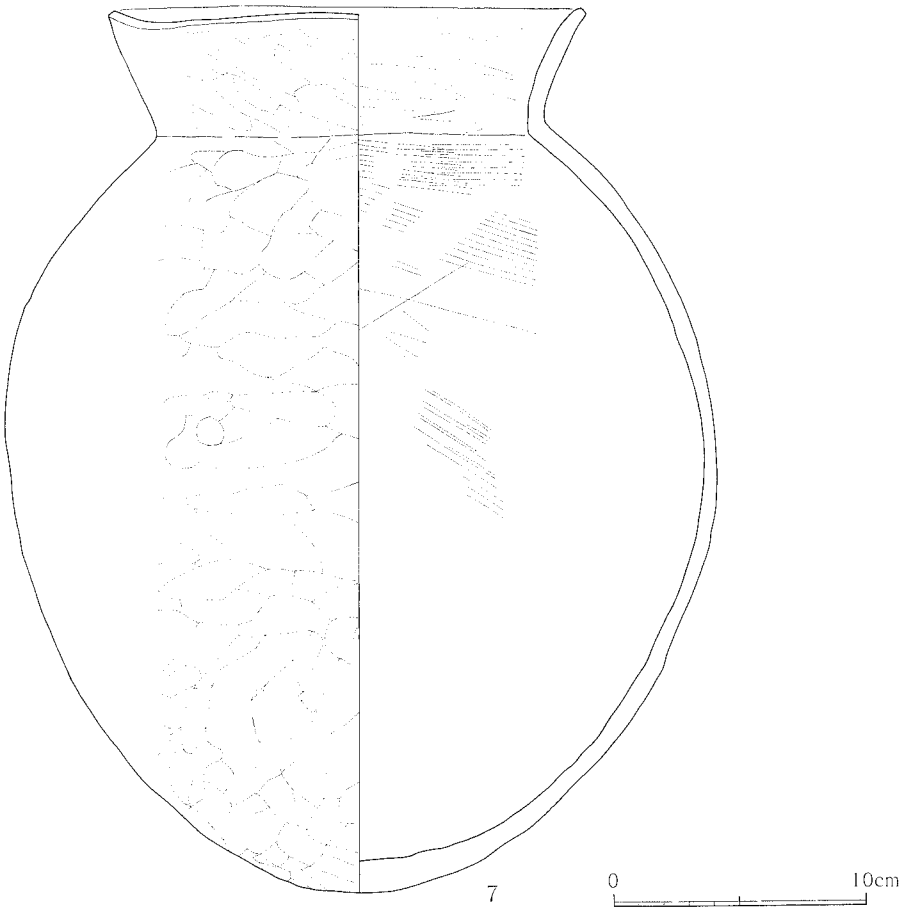




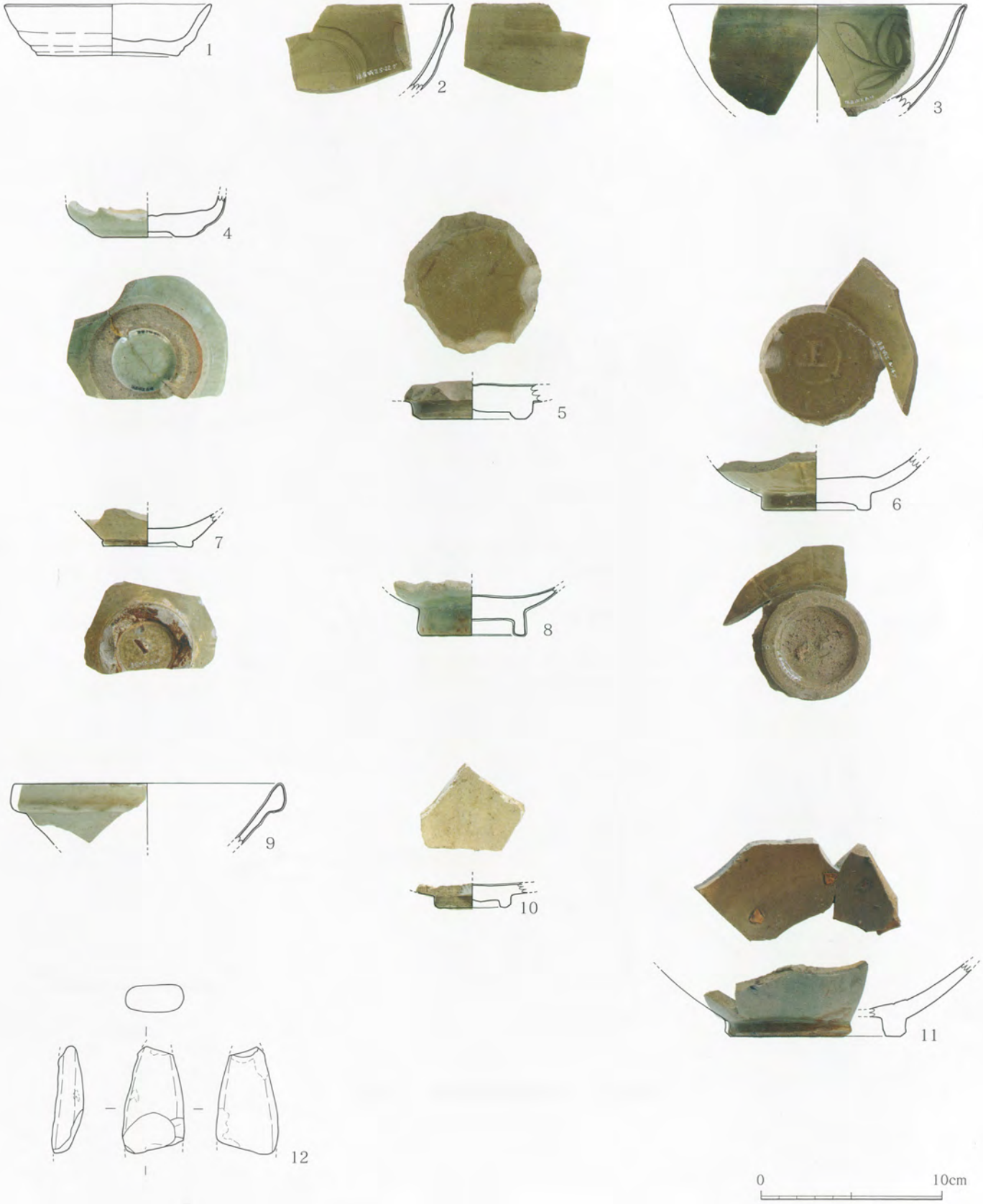


第87図　SI－01内出土遺物実測図　（1）

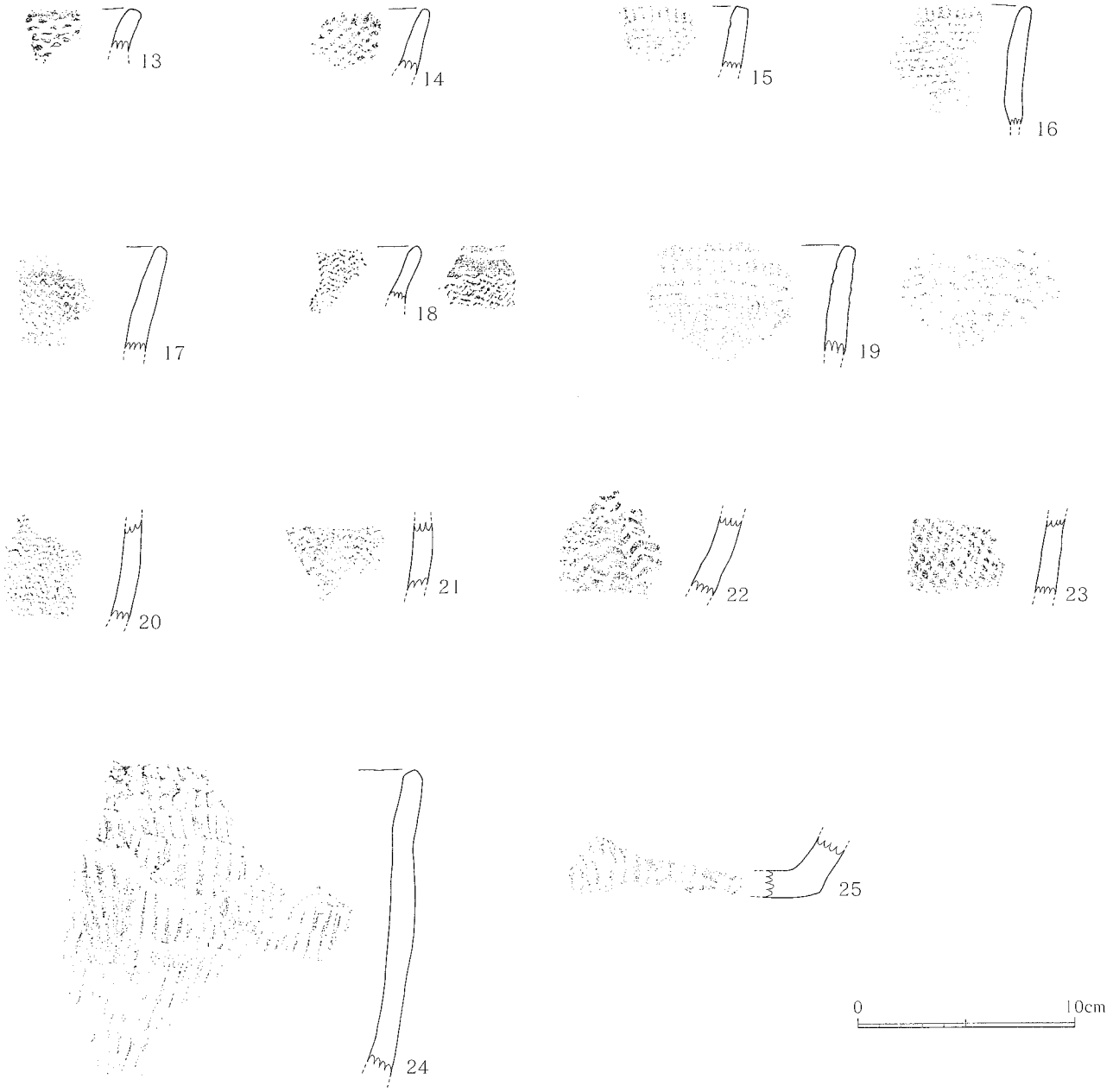
0　10cm



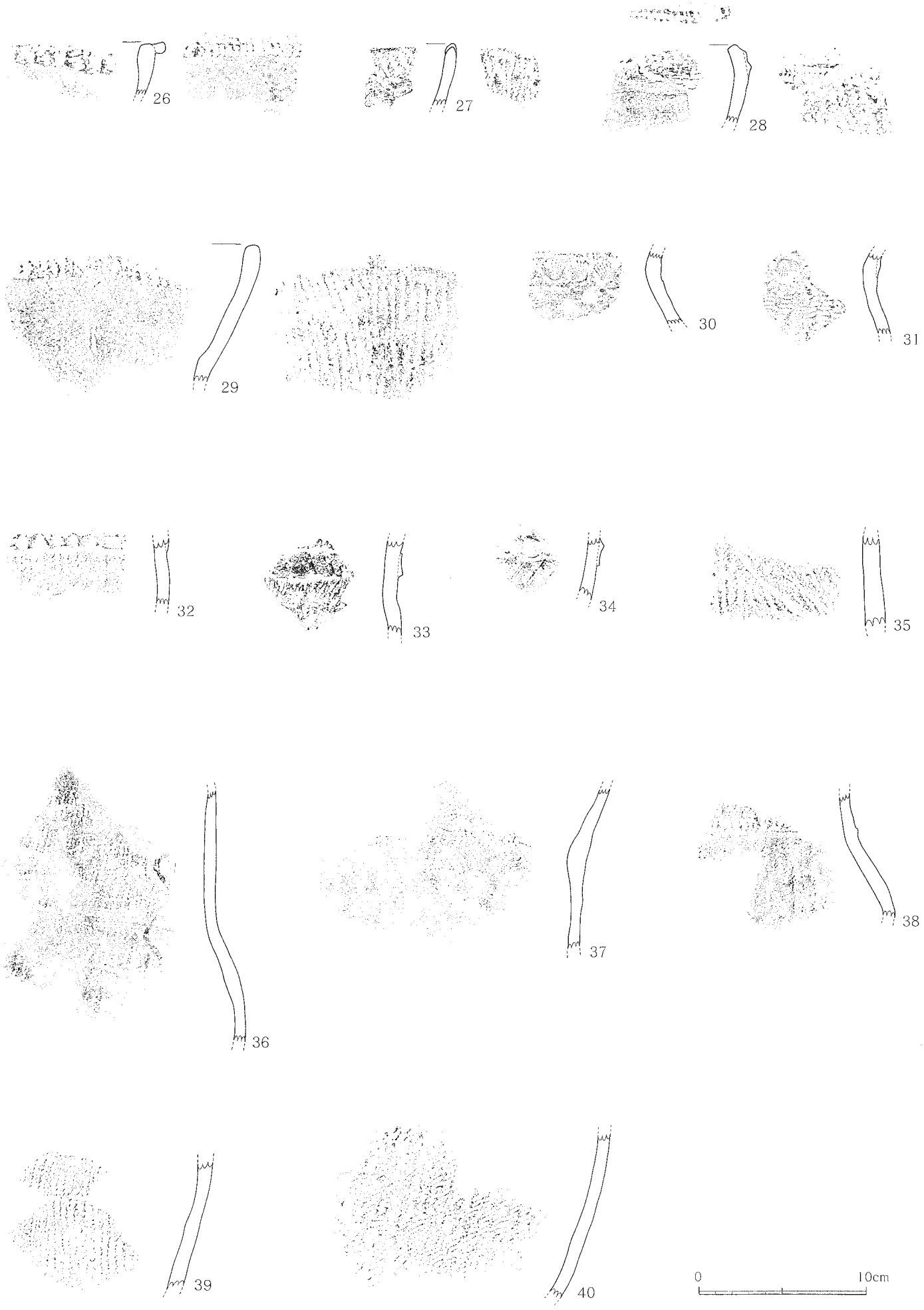
第88図　SI－01内出土遺物実測図　（2）



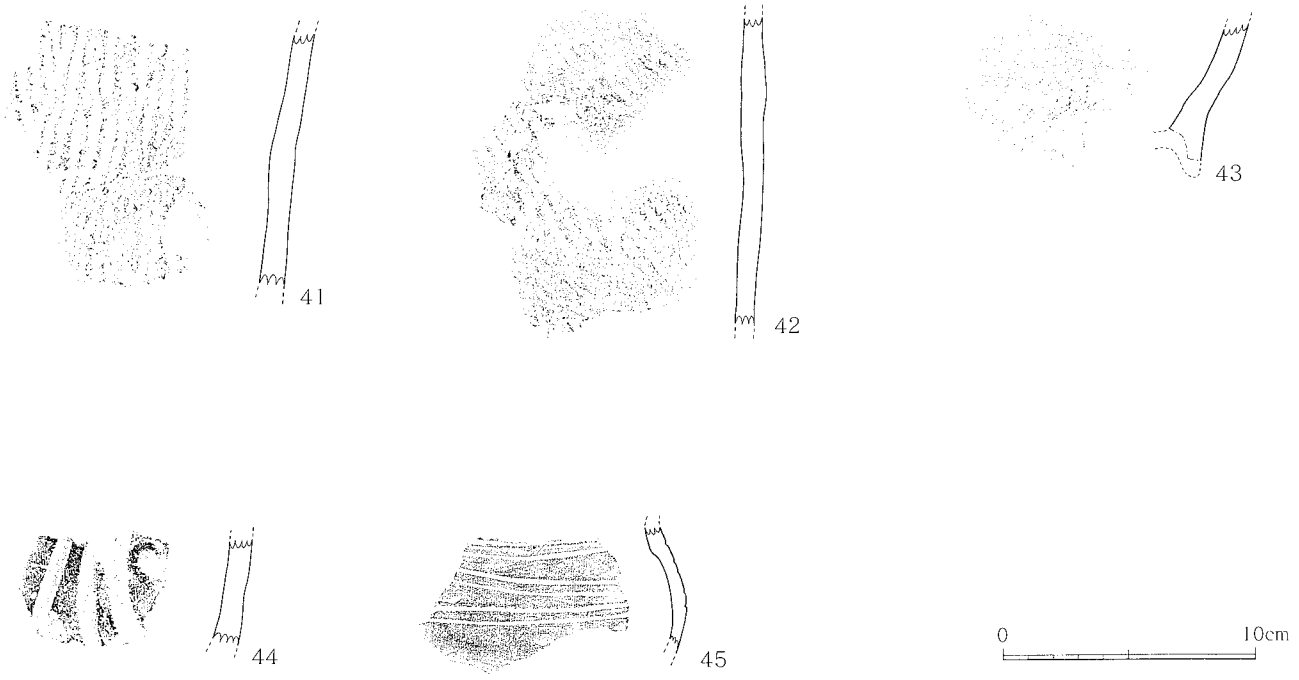
第89図　一括遺物実測図　（中世）



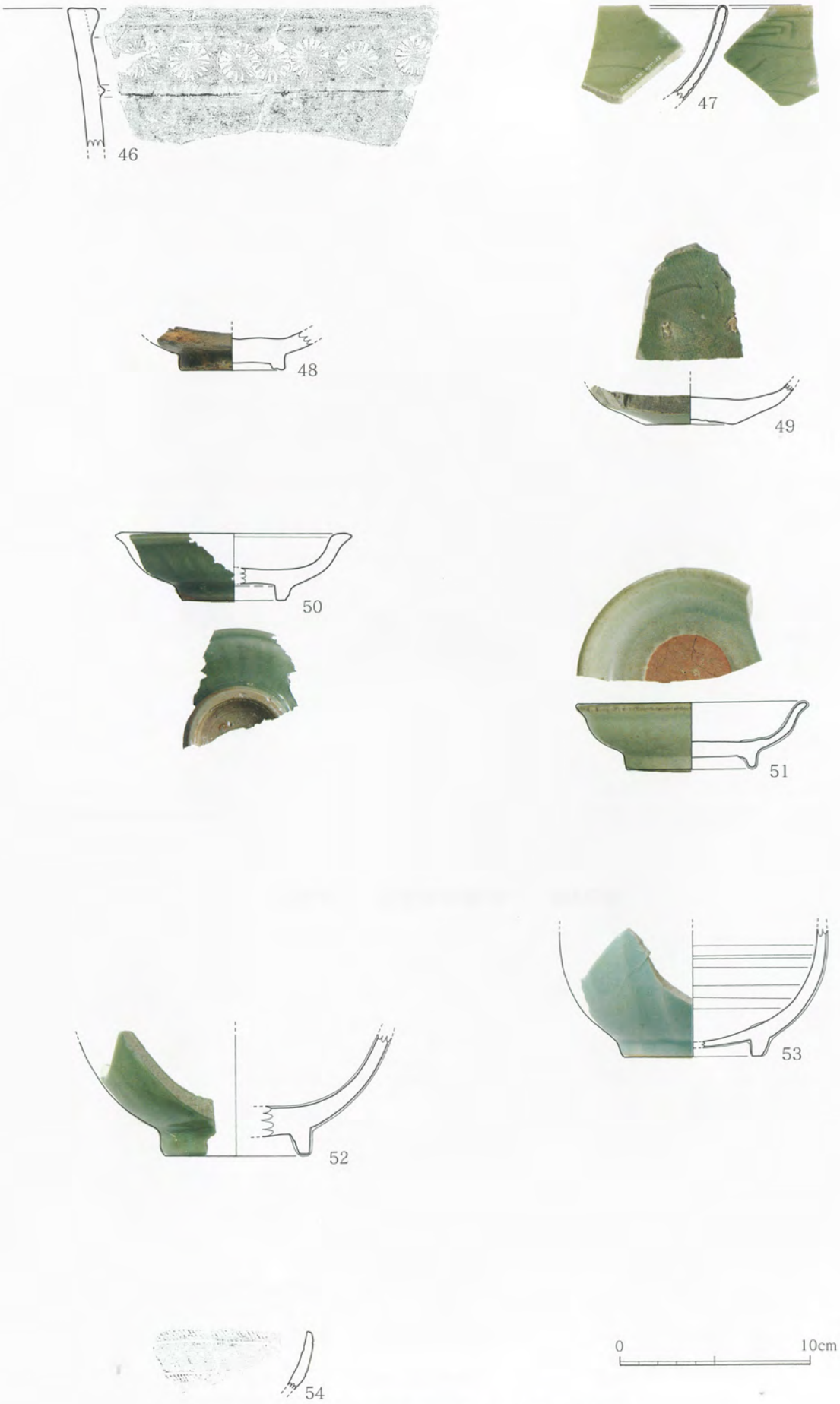
第90図　一括遺物実測図　（縄文）



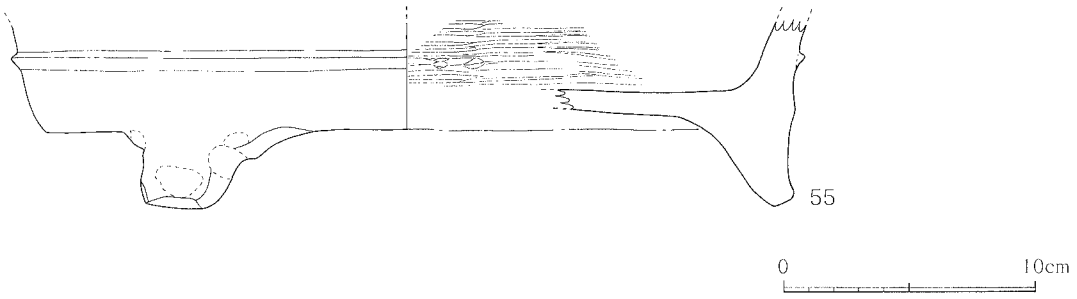
第91図　一括遺物実測図　（縄文）



第92図　一括遺物実測図　（縄文）



第93図　一括遺物実測図　（中世・縄文）



第94図　一括遺物実測図　（中世）

第10表

syjⅡ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査 SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第69図 1 syjⅡ193	土師器 坏	口径（12.5） 器高 4.3 底径 7.0	体部はやや外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面下位に稜が入る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色微粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 にぶい橙色
第69図 2 syjⅡ191	土師器 坏	口径 11.2 器高 4.1 底径 7.1	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面下位に稜が入る。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色微粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 橙色
第69図 3 syjⅡ221	土師器 坏	口径 10.0 器高 2.7 底径 6.8	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。体部外面中位に稜が入る。二次焼成を受けている為、外面にカーボンが付着。	細砂粒（少）赤褐色斑（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 黒褐色	回転ナデ。見込みは不定方向の軽く粗いナデ。 浅黄橙色
第69図 4 syjⅡ197	瓦質土器 鉢or甕	現存高 7.1	体部は直線的に開きながら立ち上がる。二次焼成を受けている為、内外面にカーボンが付着。	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 白色粒子（少）雲母（多）	良	回転ナデ後横及び斜め方向のヘラケズリ。 にぶい黄褐色	回転ナデ後斜め方向のナデ。底部は回転ナデ。 灰白色
第69図 5 syjⅡ202	瓦質土器 火鉢	現存高 7.9	体部は直線的に開きながら立ち上がる。体部下位に凸帯を貼り付ける。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 白色粒子（多） 黒色粒子（多）雲母（多） 長石（0.2～0.5、多）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。底部に板目圧痕と思われる痕跡がある。 オリーブ黒色	回転ナデ後不定方向のナデ。指頭圧痕あり。 にぶい黄色
第69図 6 syjⅡ189	瓦質土器 香炉or 火鉢	現存高 6.1	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部下に花文のスタンプを連続して押す。口縁端部は平坦になる。底部に脚が付いていた可能性がある。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色粒子（少）雲母（多） 長石粒（少）	良	回転ナデ後ナデ。 灰黄色	回転ナデ後ナデ。 灰黄色
第69図 7 syjⅡ204	瓦質土器 香炉？	口径（16.6） 器高 5.1 底径（13.8）	体部下位で屈曲し、その後、僅かに内湾気味に上方へ立ち上がる。口縁上端は水平になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）	良	回転ナデ。体部下位は横方向のヘラケズリ。 暗灰黄色	回転ナデ。 暗オリーブ色
第70図 8 syjⅡ203	須恵質 捕鉢	底径（12.0）	体部下位より大きく開きながら立ち上がる。体部内面にクシ状工具による櫛目を施す。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色粒子（多）雲母（多） 長石（0.2～0.3、少）	良	ナデ。体部に指頭圧痕あり 黄灰色	横ナデ。 灰黄色
第70図 9 syjⅡ199	須恵質 壺	口径（27.0） 現存高 6.8	頸部で屈曲した後、口縁部は外反する。肥後新型。	細砂粒（多）白色粒子（少） 角閃石（0.1程度、微量）	良	口縁部は回転ナデ。体部は山形の叩き調整。 灰色	口縁部は回転ナデ。体部は横方向のハケ目。 灰色
第70図 10 syjⅡ208	須恵質 壺	現存高 7.0	体部下位より直線的に開きながら立ち上がる。肥後新型。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少）雲母（少） 長石粒（少）	良	体部下位は格子目文叩き、下位より上は山形の叩き調整。 灰色	横及び斜め方向のハケ目。 灰色
第70図 11 syjⅡ47	須恵質 壺	口径（17.0） 胴径 26.5 底径（16.2）	胴部上半で最も膨らみ、肩部は内傾する。頸部は上方へ短く立ち上がり、口縁部は屈曲し、外反する。口縁端部は平坦になる。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.3、少） 白色粒子（多）	良	口縁部は指押さえ後横ナデ。胴部はヘラケズリ後部分的なハケ目、その後格子目文叩き。 灰色	口縁部は横ナデ。胴部上半は横方向のハケ目、下半は横ナデ。 灰白色
第71図 12 syjⅡ49	青磁坏 輸入磁器	現存高 2.9	体部下位で屈折し、その後、大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。大宰府編年の龍泉窯系青磁坏Ⅲ類？13世紀中頃～14世紀初頭前後？	灰白色 黒色微粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉は均等に掛かり、ガラス質で半透明。高台畳付けの釉を丁寧に掻き取る。 緑青色	施釉。釉は均等に掛かり、ガラス質で半透明。 緑青色
第71図 13 syjⅡ3	青磁碗 輸入磁器	高台径 5.7 現存高 1.9 底径 5.2 底径（12.0）	やや高目の角高台で、高台外端を斜めに面取りする。高台内の刳りは深く、中央が凸状になる。内面見込みに渦状の成形痕が残る。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類。14世紀初頭～後半。	灰白色 赤褐色斑（多） 白色微粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。高台外面途中まで釉が垂れている。畳付けから高台内は露胎となる。 緑青色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。 緑青色
第71図 14 syjⅡ4	青磁碗 輸入磁器	高台径 6.6 現存高 2.1 底径 6.0	高台内の刳りは浅く、底部は厚い。内面見込みに片切り彫りによる花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2a類。12世紀中頃～後半。	灰白色 黒色微粒子（多） 良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。全面施釉後、高台内の釉を雑に掻き取る。 緑青色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。 緑青色
第71図 15 syjⅡ6	青磁碗 輸入磁器	高台径（5.8） 現存高 3.5 底径（5.4）	高台内の刳りは深く、底部は厚い。高台は角高台で、高台外端を斜めに面取りする。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類。14世紀初頭～後半。	灰色 白色微粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。釉は高台畳付けを越え、底部外面は露胎となる。 青緑色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。 青緑色
第71図 16 syjⅡ19	青磁鉢 輸入磁器	高台径（8.7） 高台高 1.9 現存高 4.2 底径（7.8）	高台内の刳りは深く、高い高台を持つ。高台は弧状の刳りが入り、畳付けの部分は釉の厚みで成形される。底部は厚くなる。優品。14世紀～15世紀。	白色 黒色微粒子（多） 良質	良	施釉。釉はガラス質で半透明、全体に厚く掛かる。全面施釉後、高台内の釉を円形に丁寧に掻き取る。高台内は露胎となり橙色に変色する。 緑色	施釉。釉はガラス質で半透明、全体に厚く掛かる。 緑色

第10表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第71図 17 syjⅡ54	白磁碗 輸入磁器	高台径（7.2） 高台高　1.0 現存高　1.8 底径　（7.0）	高台内の削りは浅く、底部は厚めになる。高台外端を斜めに削る。大宰府編年の白磁碗Ⅶ類。12世紀中頃～後半。	灰白色 黒色微粒子（多） 細かな穴が多くやや粗質	良	体部下位から高台内を露胎とする。 露胎部分は黄白色	見込み部分は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥を施す。 露胎部分は灰白色、施釉部分は青白色
第71図 18 syjⅡ132	染付碗 輸入磁器	高台高　0.7 現存高　2.9 底径　（5.0）	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。見込みは高台内に凹む。外面胴部に唐草文、腰に略化した蓮弁帯を描き、内面見込みに花弁文と思われる文様を描く。小野氏分類の染付碗C群Ⅴ類。蓮子碗。15世紀中頃～16世紀後半。	白色 白色微粒子（少） 黒色微粒子（少） やや良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。気泡がある。 青白色。染付は藍色と薄い藍色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。 青白色。染付は藍色と薄い藍色
第71図 19 syjⅡ74	白磁碗 輸入磁器	口径　（7.8） 高台径　3.2 器高　3.3 底径　2.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反する。高台内の削りは浅く、中央が凸状になる。高台外端を斜めに面取りする。森田氏分類の白磁碗E群。16世紀	白色 黒色微粒子（多） 良質	良	体部下位から高台内を露胎とする。施釉部分は大きめの貫入が入る。 露胎部分は白色、施釉部分は青白色	施釉。大きめの貫入が入る。 青白色
第71図 20 syjⅡ222	黒釉天目茶碗 輸入陶器	現存高　5.2	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。残りが少ない為、詳細は不明。	灰白色 黒色微粒子（多）	良	施釉。黒色の釉に黒褐色の釉と茶褐色の釉を二度掛け。体部下位は回転ヘラケズリで無釉の部分がある。 黒褐色と茶褐色	施釉。黒褐色の釉に茶褐色の釉を二度掛け。 黒褐色と茶褐色
第72図 21 syjⅡ186	常滑焼 甕 国産陶器	現存高　7.3	口縁部縁帯は下方に垂下し、4cmを越えると思われる。口縁上端に砂粒が多く溶着。常滑6b型式～8型式。1275年～1400年	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）長石粒（多）	良	回転ナデ。 にぶい褐色	回転ナデ。 にぶい赤褐色とにぶい黄褐色
第72図 22 syjⅡ213	備前焼 甕？ 国産陶器	現存高　4.0	体部は開きながら立ち上がる。残りが少ない為、詳細は不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.7、多）	良	回転ナデ。 にぶい赤褐色	横ナデ。 にぶい赤褐色
第72図 23 syjⅡ200	備前焼 甕？ 国産陶器	現存高　5.1	体部は開きながら立ち上がる。残りが少ない為、詳細は不明	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.5～0.7、少） 白色粒子（多）	良	縦及び斜め方向のナデ。 にぶい赤褐色	ナデ。 褐色
第72図 24 syjⅡ192	滑石製 石鍋	現存高　7.0	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面口縁部下に鍔を持つ。鍔は小さい。口縁部と体部の厚みは変わらない。外面にカーボンが付着。石鍋編年のⅢ－b類。13世紀。			縦方向のノミ削り。 明褐灰色	黒色

第11表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　SD－06内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第73図 1 syjⅡ210	瓦質土器 擂鉢	現存高　7.6	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多） 白色微粒子（少）雲母（多）	良	回転ナデ後縦方向のハケ目。 にぶい黄橙色	斜め方向のハケ目後クシ状工具による擂目を施す。 浅黄色
第73図 2 syjⅡ207	瓦質土器 羽釜	口径（26.2） 鍔径（28.8） 現存高　9.5	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。 外面口縁部下に鍔を貼り付ける。口縁上端は水平になる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多）雲母（多）	良	回転ナデ後縦方向のハケ目後再度ナデ。胴部に指頭圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ後斜め方向のハケ目後再度斜め方向のナデ。 にぶい黄橙色
第73図 3 syjⅡ216	須恵質 壺	現存高　6.8	体部は内湾気味に内傾する。口縁部は外反し肥厚する。内外面共、器面が荒れている為、詳細は不明。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色微粒子（少）雲母（多）	良	格子目文叩きと思われる。 灰褐色	口縁部は回転ナデ。 黒褐色
第73図 4 syjⅡ233	須恵質 東播焼の捏鉢	口径（23.4） 最大径 径　（24.0） 現存高　5.7	体部は大きく開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、指押さえで注口部を作る。	細砂粒（多） 白色微粒子（少）	良	回転ナデ。 黄灰色	回転ナデ。 黄灰色
第73図 5 syjⅡ12	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.1	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部を丸くおさめて玉縁状とする。体部内面にヘラ状工具による文様を施す。土田氏分類の青磁碗D類。14世紀中頃～15世紀前後。	灰白色 白色粒子（少） 黒色粒子（少） やや粗質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。 青緑色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。 青緑色
第73図 6 syjⅡ9	青磁碗 輸入磁器	口径（12.4） 現存高　5.3	体部は開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸くなる。土田氏分類の青磁碗D類。14世紀中頃～15世紀前後。	灰色 白色微粒子（多） やや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。 灰オリーブ色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。 灰オリーブ色

第11表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　SD－06内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第73図 7 syjⅡ22	青磁 外反口縁 皿 輸入磁器	口径（11.0） 高台径（7.2） 高台高　0.9 器高　3.7 底径　（6.8）	腰下部で丸味を持ち、その後、外反しながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。高台内の刳りはやや浅く、底部は厚い。高台は直に削れ、畳付けは釉の厚みで丸くなる。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（1）の青磁外反口縁皿に類似している。14世紀～15世紀。	復元の為、胎土の内容物は不明。	良	施釉。釉は厚く掛かる。透明感は無い。大きめの貫入が入る。全面施釉後、高台内の釉を円形に丁寧に掻き取る。高台内は露胎となり橙色に変色する。 青緑色	施釉。釉は厚く掛かる。透明感は無い。大きめの貫入が入る。 青緑色
第73図 8 syjⅡ88	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.3	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。外面に細い縦方向の櫛目文、内面にクシ状工具の先端を使った点描文と片切り彫りによる文様を施す。大宰府編年の同安窯系青磁碗Ⅰ－b類。12世紀中頃～12世紀後半。	淡黄灰色 やや良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。 オリーブ黄色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。 オリーブ黄色
第73図 9 syjⅡ107	輸入陶器	現存高　7.2	体部外面下位で外方に屈折した後、直線的に開きながら立ち上がる。残りが少ない為、詳細は不明。	灰色 細砂粒（少）白色粒子（多） 黒色粒子（少）	良	回転ナデ。施釉部分がある。 黄灰色と施釉部分は黄褐色	回転ナデ。施釉部分がある。 灰色と施釉部分は黄褐色
第73図 10 syjⅡ144	柱状土製品	長さ　14.8 幅　3.9 厚さ　1.6	用途不明。	細砂粒（多）白色粒子（少）	良	ナデ。 灰白色	

第12表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　SD－16内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第74図 1 syjⅡ48	土師器 皿	口径　8.6 器高　2.8 底径　5.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。口縁部の4箇所にカーボンが付着。	細砂粒（少） 白色微粒子（少）雲母（少）	良	体部上位は回転ナデ。体部下位は横方向のヘラケズリ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 にぶい橙色
第74図 2 syjⅡ119	染付皿 輸入磁器	口径　（9.6） 高台径（5.8） 高台高　0.5 器高　2.4 底径　（5.0）	体部下位より開きながら立ち上がり、口縁部は外反する。高台外面は内傾し畳付けは尖る。外面に界線と宝相華唐草文、内面に界線と不明文様を描く。釉は荒れて艶がない。小野氏分類の染付皿B1群（皿Ⅵ類）。15世紀後半～16世紀後半に多い。	灰白色 やや良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。気泡がある。 青灰白色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。気泡がある。 青灰白色

第13表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　SK－34、SK－38内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第75図 1 syjⅡ30	青磁碗 輸入磁器	高台径　6.4 高台高　0.8 現存高　3.2 底径　6.2	SK－34内出土 体部下位は腰が張り、やや内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは浅く、底部は厚くなる。やや高い角高台で高台外端を斜めに面取りする。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類。14世紀初頭～後半。	灰黄褐色 やや粗質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。全面施釉後、高台畳付けから高台内の釉を掻き取る。気泡が多い。回転ヘラケズリ。 オリーブ黄色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。気泡が多い オリーブ黄色
第75図 2 syjⅡ7	青磁碗 輸入磁器	高台径　6.2 高台高　0.8 現存高　3.9 底径　5.3	SK－38内出土 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台は角高台で外端を斜めに面取りする。体部外面に片切り彫りによる、やや不明瞭な、幅の広い連弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類。14世紀初頭～後半。	黄灰色 やや良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。全面施釉後、畳付けから高台内の釉を雑に掻き取る。 オリーブ黄色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。 オリーブ黄色

第14表

syjⅡ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査 1号土器内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第76図 1 syjⅡ126	土師器 坏	口径 13.6 器高 3.1 底径 10.0	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面下位は僅かに歪む。外面は黒褐色に変色、二次焼成を受けた可能性がある。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（少）	良	体部下位は横方向のヘラケズリ後回転ナデ。上位は回転ナデ後一部縦方向のナデ。底部は回転糸切りで外縁に指頭圧痕が三箇所にある。 黒褐色	回転ナデ。見込みは渦巻き状の成形痕を軽くナデている。 浅黄橙色
第76図 2 syjⅡ125	土師器 坏	口径（14.4） 器高 3.2 底径（11.6）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面下位は丸味を持つ。内外面に赤色顔料塗布の痕跡がある。少量のカーボンが付着。	細砂粒（多）	良	横方向のヘラケズリ後回転ナデ。底部は回転糸切り。 褐色	回転ナデ。見込みは渦巻き状の成形痕を軽くナデている。 褐色
第76図 3 syjⅡ112	土師器 坏	口径（14.8） 器高 2.6 底径（9.6）	体部外面下位は丸味を持ち、その後、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部は上げ底状に歪む。体部外面から底部にかけてカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（多）	良	回転ナデ後縦方向のナデ。底部は一方向のナデ。底部は残りが少ない為、切り離しの技法は不明。 暗黄灰色	回転ナデ。見込みは一方向の強いナデ。 浅黄色
第76図 4 syjⅡ108	土師器 坏	口径（14.8） 器高 2.6 底径（9.6）	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くなる。内外面に赤色顔料を塗布。カーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ。底部は残りが少ない為、切り離しの技法は不明。 明赤褐色	回転ナデ後斜め方向のナデ。 明赤褐色
第76図 5 syjⅡ141	土師器 坏	口径（10.2） 器高 3.0 底径（6.8）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くなる。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。口縁部に指で摘んだ様な痕がある。 橙色	回転ナデ後斜め方向のナデ。見込みは成形痕が残る。 橙色
第76図 6 syjⅡ116	土師器 皿	口径（9.2） 器高 1.1 底径（8.2）	体部は低く開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。内面見込みは盛り上がる。底部にヘラ状工具による窯印の様なものが施されている。内外面に赤色顔料塗布の痕跡がある。	細砂粒（多）砂粒（少） 角閃石（0.1～0.2、多）	普通	横及び縦方向のナデ。底部は回転糸切り後不定方向のナデで指頭圧痕あり。 黄橙色	回転ナデ。見込みは不定方向のナデ。 浅黄橙色
第76図 7 syjⅡ142	土師器 皿	口径（9.6） 器高 1.3 底径（7.4）	体部は低く開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。	細砂粒（多） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは成形痕を消す為、二方向のナデを施す。 浅黄橙色
第76図 8 syjⅡ117	土師器 皿	口径（8.4） 器高 1.6 底径（7.4）	体部は低く中位で屈曲し、その後、直線的に上方へ立ち上がる。体部外面中位に稜が入る。口縁端部は尖り気味になる。内外面に赤色顔料塗布の痕跡が僅かに残る。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みは不定方向のナデ。 にぶい黄橙色
第76図 9 syjⅡ111	土師器 皿	口径（9.0） 器高 1.6 底径（6.8）	体部は低く開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる	細砂粒（多）白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。底部は回転糸切り後一方向のナデと思われる。 灰白色に変色	回転ナデ。見込みは成形痕を消す為、不定方向のナデを施す。 灰白色に変色
第76図 10 syjⅡ114	土師器 皿	口径（9.0） 器高 1.5 底径（6.8）	体部は低く大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。内面見込みにカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（多） 角閃石（0.1程度、多）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みは成形痕を消す為、不定方向の粗いナデを施す。 にぶい黄橙色
第76図 11 syjⅡ110	土師器 皿	口径（8.2） 器高 1.3 底径（7.1）	体部は低く開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多） 小石粒（0.3、一個） 赤褐色斑（多） 角閃石（0.1程度、少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 明赤褐色	回転ナデ。見込みは成形痕を消す為、不定方向の粗いナデを施す。 明赤褐色
第76図 12 syjⅡ113	土師器 皿	口径（9.0） 器高 1.5 底径（7.6）	体部は低く大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。見込みは盛り上がる。	細砂粒（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。底部外縁に指頭圧痕あり。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは成形痕を消す為、不定方向の粗いナデを施す。中心部は凸状になる。体部に指頭圧痕あり。 浅黄橙色
第76図 13 syjⅡ118	土師器 皿	口径（9.0） 器高 1.5 底径（7.6）	体部は低く外反気味に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部は上げ底状に歪む。内外面に赤色顔料塗布の痕跡がある。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ。底部は不定方向のナデ。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは軽いナデ。 浅黄橙色
第76図 14 syjⅡ129	土師器 皿	口径（8.2） 器高 1.5 底径（7.5）	体部は低く開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多） 小石粒（0.3～0.4、微量） 赤褐色斑（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは成形痕を消す為、不定方向の粗いナデを施す。 橙色
第76図 15 syjⅡ120	土師器 皿	口径（8.8） 器高 1.6 底径（7.8）	体部は低く開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。見込みは盛り上がる。口縁部は大きく歪む。内外面に赤色顔料塗布の痕跡がある。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.4～0.5、微量） 角閃石（0.1～0.2、多）	普通	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。底部外縁に指頭圧痕あり。 浅黄色	回転ナデ。見込みは不定方向のナデ。 浅黄色
第77図 16 syjⅡ166	土師質 鍋	現存高 4.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は「L」字状になり、上端は回転鈍文を施す。徳永貞紹氏分類の肥前鍋Ⅱ－b類に該当すると思われる。13世紀。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色微粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、多） 長石粒（少）	良	体部は縦及び斜め方向のハケ目が交差する。口唇部は横ナデ。 にぶい橙色	体部は横方向のハケ目。 明赤褐色

第14表

syjⅡ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査 1号土墓内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第77図 17 syjⅡ151	土師質 鍋	口径（38.0） 現存高12.9	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は「L」字状になり、上端は押圧縄文を施す。体部内面にカーボンが付着。徳永貞紹氏分類の肥前鍋Ⅱb類に該当すると思われる。13世紀。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 白色微粒子（少） 角閃石（0.1～0.3、多） 雲母（少）	良	体部は縦及び斜め方向のハケ目が交差する。 口唇部は横ナデ。 にぶい橙色	体部は横及び斜め方向のハケ目。 にぶい橙色
第77図 18 syjⅡ165	土師質 鍋	口径（38.0） 現存高13.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は断面台形状になり、上端は押圧文を施す。徳永貞紹氏分類の肥前鍋Ⅱa類に該当すると思われる。12世紀～13世紀。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 白色微粒子（少）	良	体部は縦横及び斜め方向のハケ目が交差する。口唇部は横ナデ。 にぶい橙色	体部は横及び斜め方向のハケ目。 にぶい橙色
第78図 19 syjⅡ169	土師質 鍋？	現存高 3.0	口縁部は断面台形状になり、上端にヘラ状工具で二本の溝を作る。この溝の数箇所に刺突痕がある。粘土に雲母を混ぜ込んでいる。残りが少ない為、詳細は不明であるが、鍋の口縁部の様な形状をしている。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（多）	良	口唇部は横方向のヘラケズリ後横ナデ。体部は横ナデ。口縁上端はナデ。 にぶい黄橙色	横及び斜め方向のヘラミガキ。 灰黄褐色
第78図 20 syjⅡ152	瓦器椀	口径（14.2） 器高 6.8 底径（5.2）	体部下位で屈曲し、その後、開きながら立ち上がる。口縁部は直下で屈曲し、直立気味に立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。底部に低い高台を貼り付ける。	雲母（多） 長石（0.2～0.4、少）	良	口縁部は回転ヘラケズリ後横ナデ。体部は横方方向のヘラミガキ後横及び縦方向のナデ。 灰白色	口縁部から体部上位にコテ当て痕が残る。体部は横方向のヘラミガキ後横ナデ。 灰白色
第78図 21 syjⅡ153	須恵質 鉢	口径（22.8） 現存高 4.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁上端は窪む。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色微粒子（少）	良	体部は回転ナデ。 黄灰色	体部は横方向のハケ目。 黄灰色
第78図 22 syjⅡ170	瓦質土器 擂鉢	口径（30.4） 現存高 6.1	体部は直線的に開きながら立ち上がる。内面にクシ状工具による三条の擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 長石粒（0.1～0.3、多）	良	口縁部は横方向のハケ目、体部は斜め方向のハケ目。 橙色	体部は横及び斜め方向のハケ目。 橙色
第79図 23 syjⅡ77	青磁碗 輸入磁器	現存高 3.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くなる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－1類。12世紀中頃～後半。	灰色 緻密	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。貫入が入る。体部は回転ヘラケズリ。 暗オリーブ色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。貫入が入る。 暗オリーブ色
第79図 24 syjⅡ80	青磁碗 輸入磁器	現存高 4.6	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くなる。口縁部内面に二又片刀による文様を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類。12世紀中頃～後半。	灰色 良質 黒色微粒子（少）	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。 オリーブ黄色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。 オリーブ黄色
第79図 25 syjⅡ67	青磁碗 輸入磁器	現存高 2.8	口縁部は直口となり、端部は丸味を持つ。外面に片切り彫りによ蓮弁文を施す。上田氏分類の青磁碗B類。14世紀～15世紀。	暗灰黄色 良質	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。体部は回転ヘラケズリ。 灰オリーブ色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。体部は灰オリーブ色
第79図 26 syjⅡ81	青磁碗 輸入磁器	現存高 2.9	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸味を持つ。外面に片切り彫りによる鎬蓮弁文を施す。上田氏分類の青磁碗B－1類。13世紀後半～14世紀前半。	白色 良質 黒色微粒子（少）	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。貫入が入る。 明青緑色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。貫入が入る。 明青緑色
第79図 27 syjⅡ78	青磁碗 輸入磁器	現存高 6.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸味を持つ。外面に片切り彫りによる蓮弁文を施す。上田氏分類の青磁碗B類。14世紀～15世紀。	黄灰色 良質 黒色微粒子（少）	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無く、気泡が多い。細かい貫入が入る。 灰黄色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無く、気泡が多い。細かい貫入が入る。 灰黄色
第79図 28 syjⅡ76	青磁碗 輸入磁器	現存高 5.1	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。外面に片切り彫りによる蓮弁文を施す。上田氏分類の青磁碗B類。14世紀～15世紀。	黄褐色 やや粗質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。細かい貫入が入る。回転ヘラケズリ。 暗灰黄色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。細かい貫入が入る。 暗灰黄色
第79図 29 syjⅡ188	青磁碗 輸入磁器	現存高 7.2	体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がり、上位で僅かに外反する。高台外面は直に削れる。上田氏分類の青磁碗D類。14世紀～15世紀。	灰褐色 良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無く気泡が多い。高台は釉を掻き取る部分がある。回転ヘラケズリ。 灰オリーブ色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無く気泡が多い。 灰オリーブ色
第79図 30 syjⅡ91	青磁碗 輸入磁器	現存高 4.2	体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸味を持つ。体部内面に片切り彫りによる劃花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2類。12世紀中頃～後半。	灰色 緻密	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。 濁った青緑色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。 濁った青緑色
第79図 31 syjⅡ73	青磁碗 輸入磁器	現存高 4.9	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。体部内面に二又片刀による施文と、片切り彫りによる飛雲文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類。12世紀中頃～後半。	灰色 良質	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。体部は回転ヘラケズリ。 オリーブ灰色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。 オリーブ灰色

第14表

syjⅡ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	日次調査　1号土壇内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第79図 32 syjⅡ62	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.0	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。内面に三叉状工具による施文と、片切り彫りによる飛雲文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類、12世紀中頃～後半。	黄灰色 良質	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。気泡が多い。 灰オリーブ色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。口縁部に気泡がある。 灰オリーブ色
第79図 33 syjⅡ70	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。内面はクシ状工具による横方向の施文と、片切り彫りによる飛雲文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類、12世紀中頃～後半。	黄灰色 良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。 オリーブ黄色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。 オリーブ黄色
第79図 34 syjⅡ187	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.2	体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がる。体部内面に片切り彫りによる飛雲文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類、12世紀中頃～後半。	黄灰色 良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。体部は回転ヘラケズリ。 灰オリーブ色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。 灰オリーブ色
第79図 35 syjⅡ5	青磁碗 輸入磁器	高台径　5.3 現存高　2.1	高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台外端を斜めに面取りする。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類、14世紀初頭～後半。	灰色 黒色微粒子（少） 粗くはないが、細かな穴が少しある。やや良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。高台畳付けから高台内のの釉を雑に掻き取る。露胎部分は灰赤褐色に変色。 青緑色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。 青緑色
第79図 36 syjⅡ94	青磁皿 輸入磁器	現存高　3.2	体部下位で屈曲し、その後、やや開きながら直線的に立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。外面底部は上げ底状になる。内面見込みに櫛目文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁皿Ⅰ類、12世紀中頃～後半。	灰色 黒色微粒子（少） 良質	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。体部は回転ヘラケズリ。体部下位から底部の釉を掻き取る。 灰白緑色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。 灰白緑色
第79図 37 syjⅡ92	青磁皿 輸入磁器	現存高　1.2	内面見込みに櫛目文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁皿Ⅰ類、12世紀中頃～後半。	灰色 黒色微粒子（少） 良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。 青緑色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。貫入が入る。 青緑色
第79図 38 syjⅡ93	青磁碗 輸入磁器	口径（15.8） 高台径　5.8 高台高　0.8 器高　6.1	体部は腰が張り、内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。高台内の刳りは浅く、底部は厚い。体部外面に片切り彫りによる蓮弁文を施し、内面見込みには「王」の文字印刻を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－d類、13世紀前後～前半。	良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。体部は回転ヘラケズリ。高台畳付けから高台内の釉を雑に掻き取る。 灰オリーブ色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。数箇所に気泡がある。 灰オリーブ色
第79図 39 syjⅡ35	青磁碗 輸入磁器	高台径（5.2） 高台高　0.7 現存高　4.3	体部下位で小さく腰が張り、内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは浅く、底部は厚い。体部外面に片切り彫りによる蓮弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－a類、13世紀前後～前半。	灰黄色 良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。体部は回転ヘラケズリ。高台畳付けから高台内の釉を雑に掻き取る。 オリーブ黄色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。 オリーブ黄色
第80図 40 syjⅡ53	青磁碗 輸入磁器	口径（16.2） 現存高　5.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くなる。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－1類、12世紀中頃～後半。	灰褐色 緻密	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。気泡が多い。体部は回転ヘラケズリ。口縁部下まで釉が垂れている。 にぶい黄色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。気泡が多い。 にぶい黄色
第80図 41 syjⅡ37	青磁碗 輸入磁器	口径（15.4） 現存高　5.1	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は肥厚し、端部は丸くなる。外面に不明瞭な鎬蓮弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－b類、13世紀前後～前半。	黄灰色 良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。気泡がある。 オリーブ黄色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。 オリーブ黄色
第80図 42 syjⅡ58	白磁皿 輸入磁器	口径（10.0） 器高　1.5 底径　5.0	体部は直線的に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り、口縁部内面は口禿げになる。底部は上げ底状になる。大宰府編年の白磁皿Ⅸ－1a類、13世紀中頃～14世紀前半。	白色 赤褐色微粒子（少） 黒色微粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。数箇所に気泡がある。体部下位に釉垂れの部分がある。底部は板状工具で釉を伸ばしている。 青白色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。 青白色
第80図 43 syjⅡ11	青白磁 輸入磁器	口径　3.7 器高　2.1 底径　3.2	体部外面は丸味を持ち、型押しで菊花弁を施す。口縁部に蓋との合わせ目となる受けを削り出す。底部は上げ底状になる。青白磁合子の身	白色 やや良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。蓋との合わせ目（受け）部分と、体部下位から底部は露胎となる。 明青白色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。蓋との合わせ目部分は露胎となる。 明青白色
第80図 44 syjⅡ105	陶器 壺or耳壺 輸入陶器	口径（10.6） 現存高　4.3	体部は膨らむ。口縁部は屈折し、短く開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。大宰府編年の陶器耳壺Ⅳ類or壺Ⅵ類？残りが少ない為、断定は出来ない。13世紀。	灰色 黒色粒子（多）	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。砂粒を多く含む。体部は回転ヘラケズリ。 灰オリーブ色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。砂粒を多く含む。 灰オリーブ色

第14表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　1号土壙内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第81図 45 syjⅡ156	須恵質 東播焼の 鉢類	現存高　2.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚する。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）	良	回転ナデ。 口唇部は灰褐色、体部は灰色	回転ナデ後斜め方向のナデ。 灰色
第81図 46 syjⅡ155	須恵質 東播焼の 片口鉢	現存高　3.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚し、指押さえで注口部を作る	細砂粒（多）	良	回転ナデ後注口部は縦方向のナデ。 暗灰色	回転ナデ後注口部は斜め方向のナデ。 暗灰色
第81図 47 syjⅡ157	須恵質 東播焼の 鉢類	現存高　3.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに肥厚する。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、少） 白色粒子（少） 白色微粒子（多）	良	回転ナデ。 灰色	回転ナデ後斜め方向のナデ。 灰色
第81図 48 syjⅡ154	須恵質 東播焼の 鉢類	現存高　4.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚する。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.3、少） 白色微粒子（多）	良	回転ナデ。指頭圧痕あり。 口唇部は灰褐色、 体部は白灰色	回転ナデと斜め方向のナデ。 白灰色
第81図 49 syjⅡ164	須恵質 東播焼の 捏鉢	口径（24.5） 現存高　7.3	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は肥厚する。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（多）	良	強めの回転ナデ。一部縦方向のナデ。 口唇部は灰褐色、体部は白灰色	回転ナデと斜め方向のナデ。数箇所に指頭圧痕あり。 口唇部は灰褐色、体部は白灰色
第81図 50 syjⅡ86	古瀬戸 瓶子 国産陶器	現存高　4.2	底部より外反気味に窄まりながら立ち上がる。古瀬戸編年の瓶子Ⅰ類、13世紀～14世紀。	白灰色	良	回転ナデ後施釉。釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。細かい貫入が入る。 オリーブ黄色と灰白色がマダラ状になる	回転ナデ。無釉。 薄い灰褐色
第81図 51 syjⅡ167	常滑焼 甕 国産陶器	現存高　1.8	口縁部は「L」字状になる。常滑5型式1220年～1250年。	灰褐色 白色粒子（多）	良	回転ナデ。 暗赤褐色	回転ナデ。口唇部を指で曲げた時の指頭圧痕がある。 暗赤褐色
第81図 52 syjⅡ168	常滑系 甕 国産陶器		外面に押印文（装飾性の強い叩き目）を施す。常滑5型式1220年～1250年。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.4、少） 白色粒子（多） 黒色粒子（多）	良	ナデ。叩き目。 にぶい黄色	ナデ。指頭圧痕あり。 にぶい黄橙色
第81図 53 syjⅡ219	滑石製 石鍋	現存高　6.4 口縁部 厚さ　2.0	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面口縁部下に鍔を持つ。鍔の張り出しは大きい。口縁部は体部より厚くなる。外面鍔下にカーボンが付着。石鍋編年のⅢ－a－1類、12世紀	灰褐色		縦方向のノミ削り。 灰白色と黒色	横方向のノミ削り。 灰黄色
第81図 54 syjⅡ223	滑石製 石鍋	現存高　3.7	体部は内湾気味に立ち上がる。外面口縁部下に鍔を持つ。SyjⅡ219と比べると鍔の張り出しは小さい。口縁部と体部の厚みは変わらない。石鍋編年のⅢ－a－2類、12世紀。	銀灰色		縦方向のノミ削り。 口縁部上端は銅色と銀色、体部は銀灰色	斜め方向のノミ削り 銀灰色
第81図 55 syjⅡ150	柱状土製 品	現存長　9.3 幅　3.5 厚さ　2.2	用途不明。	細砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少）	良	ナデ。 灰白色とにぶい橙色	ナデ。
第81図 56 syjⅡ163	柱状土製 品	現存長　7.9 幅　3.8 厚さ　2.8	用途不明。	細砂粒（多） 白色微粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、微量）	良	ナデ。 灰白色	ナデ。
第81図 57 syjⅡ140	須恵器 台付坏	高台径　6.8 現存高　1.5	高台はやや外反する。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色微粒子（少）	良	回転ナデ。 暗灰黄色	回転ナデ。見込みは渦状の成形痕を軽くナデ消す。見込みに黒色砂粒が溶着。 暗灰黄色
第81図 58 syjⅡ10	弥生？	口径　2.3 胴径　5.3 器高　3.6	体部は膨らむ。手づくね成形による小型の壺。手づくね土器、用途不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（0.1程度、多）	普通	ナデ。 淡黄色	ナデ。 淡黄色

第15表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　2号土壙内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第82図 1 syjⅡ238	土師器 坏	口径（12.2） 器高　2.5 底径（8.4）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。全体的に肉厚で、内面見込みは盛り上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色粒子（少）雲母（多）	良	回転ナデ後体部上位は回転ヘラミガキ。底部は回転糸切り。 明褐色	回転ナデ。見込みは成形痕を残す。 明褐色

第15表

syjⅡ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	日次調査　2号土壌内出土遺物 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第82図 2 syjⅡ171	瓦質土器 火鉢	現存高　8.1	体部は直線的に立ち上がる。口縁部は肥厚する。外面に二条の凸帯を貼り付け、口縁部と上側の凸帯間に菊花文のスタンプを連続して押し、二条の凸帯間に連子状文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1程度、微量） 雲母（多） 長石粒（0.2～0.3、微量）	良	回転ナデ。 にぶい黄橙色	回転ナデ後斜め方向のナデ。 にぶい黄橙色
第82図 3 syjⅡ172	瓦器椀	現存高　2.2	低部に逆三角の高台を貼り付ける。	細砂粒（少）	良	回転ナデ。 灰白色	ヘラミガキ。 灰白色
第82図 4 syjⅡ160	須恵質 鉢類	現存高　4.4	体部は開きながら立ち上がる。口唇部を上方に引き上げ、口縁部を肥厚させる。東播焼の鉢類。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少）	良	回転ナデ。 にぶい黄色	回転ナデ。 にぶい黄色
第82図 5 syjⅡ161	須恵質 鉢類	現存高　3.9	体部は開きながら立ち上がる。口唇部を斜め上方に引き上げ、口縁部を肥厚させる。東播焼の鉢類。	細砂粒（多） 小石粒（0.7、一粒）	良	回転ナデ。 体部は暗灰色、口縁部は灰オリーブ色に変色	回転ナデ。 暗灰色
第82図 6 syjⅡ162	須恵質 鉢類	現存高　2.7	体部は開きながら立ち上がる。口唇部を斜め上方に引き上げ、口縁部を「く」字状に成形する。東播焼の鉢類。	細砂粒（多）白色粒（多）	良	回転ナデ。 体部は灰色、口縁部は濃い灰色に変色	回転ナデ。 暗灰黄色
第82図 7 syjⅡ8	古瀬戸 花瓶 国産陶器	口径　(3.0) 胴径　4.2 現存高　7.3	胴部は大きく膨らみ、頸部は直線的に長く伸び、上位で「く」字状に屈折する。口縁部は開きながら立ち上がる。小型仏花瓶。古瀬戸編年の花瓶Ⅰ類。14世紀。	黄灰白色	良	施釉。釉は灰釉。回転ナデ。 黄灰白色	黄灰白色
第82図 8 syjⅡ174	瓦質土器 風炉or 火鉢	口径（24.6） 最大 径　(30.0) 現存高13.4	体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がる。体部上位で屈曲し、その後、窄まりながら口縁部へ続く。口縁端部は平坦になる。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.3～1.0、少） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.3、多） 雲母（多）	良	回転ナデ後横及び斜め方向の丁寧なナデ。 灰黄褐色	回転ナデ後指で外側に押し出し、体部を膨らませる。指頭圧痕あり。 濃い灰黄褐色
第82図 9 syjⅡ158	瓦質土器 片口鉢or 鍋	口径（49.4） 現存高　7.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外側へ屈折し、上端部は平坦になる。外面にカーボンが付着。口縁部に注口部と思われる部分があるが残りが少ない為、詳細は不明。	細砂粒（多） 黒色微粒子（少） 角閃石（0.1～0.3、微量）	良	回転ナデ。 浅黄橙色	回転ナデ後斜め方向のナデ。 淡黄色
第83図 10 syjⅡ84	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.8	体部中位より外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。体部内面は二又片刀による分割線を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－4類。12世紀中頃～後半。	灰白色 良質 黒色微粒子（少）	良	施釉。釉はガラス質で透明感がある。 薄い灰緑色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。 薄い灰緑色
第83図 11 syjⅡ57	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.6	体部上位は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面に片切り彫りによる鎬連弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ－b類。13世紀前後～14世紀初頭前後。	灰色 良質	良	施釉。釉はガラス質で半透明。貫入が入る。 青緑色	施釉。釉はガラス質で半透明。貫入が入る。 青緑色
第83図 12 syjⅡ79	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.3	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面に片切り彫りによる蓮弁文を施す。上田氏分類の青磁碗B類。14世紀中頃～15世紀中頃。	灰色 良質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。 灰オリーブ色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。 黄褐色
第83図 13 syjⅡ83	青磁碗 輸入磁器	高台径（7.0） 高台高　0.8 現存高　1.7	高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台外端を斜めに面取りする。高台畳付けは尖り気味になる。残りが少ない為、詳細は不明。	にぶい赤褐色 白色微粒子（多） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。高台内は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。 灰オリーブ黄色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。見込みは釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。 灰オリーブ黄色
第83図 14 syjⅡ41	青磁碗 輸入磁器	高台径（6.0） 現存高　2.4	底部は厚く、体部外面に片切り彫りによる蓮弁文を施す。上田氏分類の青磁碗B類。14世紀中頃～15世紀中頃。	灰白色 小石粒（0.3程度、微量） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多） 穴が多く粗質	良	施釉。釉は厚めに掛かる。半透明。高台内の釉を雑に掻き取る。 青緑色	施釉。釉は厚めに掛かる。半透明。見込みは成形痕が認められる。 青緑色
第83図 15 syjⅡ45	青磁碗 輸入磁器	口径（49.4） 現存高　7.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸くなる。体部内面に片切り彫りによる施文を施す。上田氏分類の青磁碗D－Ⅱ類。14世紀中頃～15世紀前後。	白色 黒色微粒子（多） 良質	良	施釉。釉は厚めに掛かる。透明感は無い。口縁部付近に黒色微粒子が付着する。 青緑色	施釉。釉は厚めに掛かる。透明感は無い。大きめの貫入が入る。 青緑色
第83図 16 syjⅡ34	青磁 浅型碗or 坏 輸入磁器	口径（14.2） 高台径　6.2 高台高　0.7 器高　4.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。全体的に肉厚で、高台内の刳りは浅めになる。	不明	良	施釉。釉は厚めに掛かる。透明感は無い。高台外面まで施釉し、高台内を露胎とする。体部は回転ヘラケズり後指押さえ 灰緑色	施釉。釉は厚めに掛かる。透明感は無い。見込みは円形に釉を掻き取る。 灰緑色
第83図 17 syjⅡ95	青磁碗 輸入磁器	口径（14.2） 高台径　6.2 高台高　0.7 器高　4.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸くなる。上田氏分類の青磁碗D－Ⅱ－b類。14世紀中頃～15世紀前後。	不明	良	施釉。釉は透明感は無く、貫入が入り、気泡がある。高台内は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。 青緑色	施釉。釉は透明感は無く、貫入が入り、気泡がある。 青緑色

第15表

syjⅡ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　2号土塁内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第83図 18 syjⅡ143	染付 碗or皿 輸入磁器	現存高　1.5	体部は開きながら立ち上がり、口縁部は外反する。体部外面上位に草花文と界線、内面口縁部に界線を描く。	白色 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。 青白色	施釉。 青白色
第83図 19 syjⅡ97	白磁皿 輸入磁器	口径（11.4） 現存高　3.2	体部は開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部を口禿げにする。大宰府編年の白磁皿Ⅸ－2類。13世紀後半～14世紀前半に増加。	灰色 黒色微粒子（少） 良質	良	施釉。気泡が多い。体部下位は無釉となる。 灰白色	施釉。気泡が多い。 灰白色
第83図 20 syjⅡ136	天目碗 輸入陶器	口径（11.5） 現存高　5.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部で緩く屈折し、その後、やや内湾気味に上方へ伸びる。口縁端部は尖り気味になる。中国浙江省。13世紀～14世紀。	浅黄色 黒色微粒子（少） やや良質	焼成不足	施釉。暗茶褐色の釉に茶色の釉を二度掛け。体部下位は無釉となる。 暗茶褐色と茶色	施釉。暗茶褐色の釉に茶色の釉を二度掛け。 暗茶褐色と茶色
第83図 21 syjⅡ139	染付皿 輸入磁器	高台径（6.4） 現存高　3.0	体部は内湾気味に大きく開きながら立ち上がる。高台内の削りはやや浅く、高台畳付けは尖り気味になる。内面見込みに花文と牛と思われる動物を描く。16世紀。	白色 黒色微粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。気泡がある。高台畳付けの釉を掻き取る。高台内外面に砂粒が付着する。 青白色	施釉。気泡がある。 青白色

第16表

syjⅡ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　SD－18内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第84図 1 syjⅡ196	土師器 皿	口径　（9.0） 器高　1.8 底径　（6.8）	体部は開きながら立ち上がる。口縁部は厚みがあり、端部は丸くなる。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい褐色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデで成形痕が残る。 にぶい褐色
第84図 2 syjⅡ205	瓦質土器 擂鉢	現存高　9.1	体部は直線的に開きながら立ち上がる。内面にクシ状工具による十一条の擂目を施す。内面はやや器面が荒れている。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多）雲母（多）	良	回転ナデ後縦及び斜め方向のナデ。 にぶい黄褐色	回転ナデ後斜め方向のナデと擂目。 にぶい黄橙色
第84図 3 syjⅡ217	瓦質土器 火鉢	現存高　6.0 底径　19.8	体部下位よりやや内湾気味に開きながら立ち上がる。外面下位に凸帯を貼り付ける。	細砂粒（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ。凸帯下にヘラ状工具で斜め方向の調整を連続で行う。底部は板目圧痕あり。 黒褐色	回転ナデ後ナデ。内底は不定方向のナデ。 黒褐色
第84図 4 syjⅡ206	瓦質土器 擂鉢	口径（29.8） 器高　11.0 底径（13.4）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。内面にクシ状工具による六条の擂目を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.8、多） 白色粒（少）	良	回転ナデ後ナデ。下位は指押さえ。 灰色	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ後擂目。 灰色
第84図 5 syjⅡ211	瓦質土器 擂鉢	口径（26.4） 現存高　7.7	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。内面にクシ状工具による九条の擂目を施す。口縁部を外方へ引っ張り出し、注口部を作る。内外面にカーボンが付着。二次焼成を受けている。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（微量） 白色粒子（微量）	良	ナデ。注口部周辺は指押さえ。体部下位はやや強いナデ。 浅黄色。体部上位は重ね焼の為、灰色に変色	体部上位は回転ナデ。下位は回転ナデ後横ナデ後擂目。 灰白色と灰色
第84図 6 syjⅡ198	備前焼 甕 国産陶器	現存高　11.0	肩部で内傾し、頸部はやや開きながら立ち上がる。口縁部は折り返す為、丸く肥厚する。乗岡編年の備前焼甕、中世3期a期～b期と思われる。14世紀。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 白色粒子（多）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデ。自然釉が掛かる。 黄褐色	口縁部は横及び斜め方向のナデ。体部は横及び斜め方向のハケ目後不定方向のナデ。 暗赤褐色
第84図 7 syjⅡ215	備前系？ 壺？ 国産陶器	最大 径　（16.0） 現存高　9.8 底径（11・4）	体部下位より強く内湾しながら立ち上がる。残りが少ない為、詳細は不明。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少）	良	回転ヘラケズリ。体部下位は回転ナデ。 黄茶褐色	回転ナデ。 茶褐色
第85図 8 syjⅡ69	青磁碗 輸入磁器	現存高　5.7	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部は丸くなる。上田氏分類の青磁碗D－1類。14世紀。	黄灰白色 やや粗質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。回転ヘラケズリ。大きめの貫入が入る。 灰緑色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。大きめの貫入が入る。 灰緑色
第85図 9 syjⅡ71	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。体部内面に二又片刀による分割線を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗1－4類。12世紀中頃～後半。	灰白色 やや良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。回転ヘラケズリ。貫入が入る。 青灰色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。 青灰色

第16表

syjⅡ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査 SD－18内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第85図 10 syjⅡ20	青磁碗 輸入磁器	口径（11.6） 現存高 4.8	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。口縁部外面にクシ状工具で雷文帯、その下、体部に片切り彫りによる幅の広い蓮弁文を施す。土田氏分類の青磁碗C－Ⅱ類、14世紀後半～15世紀前後。	白色 粗質	良	施釉：釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。貫入が入る。明青緑色	施釉：釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。貫入が入る。明青緑色
第85図 11 syjⅡ15	青磁碗 輸入磁器	高台径 5.2 高台高 0.9 現存高 4.8 底径 4.8	高台内の刳りはやや深く、中央は凸状になる。高台外端を斜めに面取りする。底部は厚い。体部外面に片切り彫りによる蓮弁と、その上に、雷文帯と思われる文様を施す。土田氏分類の青磁碗C-Ⅱ－a類、14世紀後半～15世紀前後。	白灰色 やや良質	良	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。釉は畳付けを越え、高台内面途中まで掛かる。高台内は無釉となる。青緑色	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。青緑色
第85図 12 syjⅡ24	青磁碗 輸入磁器	高台径 5.6 高台高 0.9 現存高 2.2 底径 5.6	高台内の刳りはやや浅く、中央は凸状になる。高台外面は直に、内面は斜めに削れる。内面見込みに片切り彫りによる陰圏線と、その内側に、型押による草花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類、14世紀初頭～後半。	黄白色 やや粗質	良	施釉：釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。貫入が入る。全面施釉後、畳付けと高台内の釉を掻き取る。灰緑白色	施釉：釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。貫入が入る。灰緑白色
第85図 13 syjⅡ18	青磁碗 輸入磁器	高台径 6.4 高台高 1.2 現存高 2.3 底径 6.0	高台内の刳りは深く、底部はやや厚くなる。高台は高く、外端を斜めに面取りする。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類 14世紀初頭～後半。	白色 やや粗質	良	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡が多い。全面施釉後、高台内の釉を雑に掻き取る。明るい青緑色	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡が多い。明るい青緑色
第85図 14 syjⅡ28	青磁碗 輸入磁器	高台径 5.5 高台高 1.1 現存高 5.9 底径 5.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは深く、底部はやや厚くなる。体部外面はヘラ状工具で蓮弁文、内面見込みから体部内面にヘラ状工具で草花文を施す。土田氏分類の青磁碗B-Ⅲ類、15世紀。	白色 黒色微粒子（微量） 良質	良	施釉：釉はガラス質で透透明感は無く、全体に厚く掛かる。大き目の貫入が入る。全面施釉後、高台内は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。青緑色と灰オリーブ色	施釉：釉はガラス質で透明感は無く、全体に厚く掛かる。大きめの貫入が入る。灰オリーブ色
第85図 15 syjⅡ27	青磁 外反口縁 皿 輸入磁器	口径 10.8 高台径 6.5 高台高 0.9 器高 3.6 底径 6.2	腰下部で丸味を持ち、その後、開きながら立ち上がる。口縁部は短く外反し、端部は丸くなる。高台内の刳りは浅く、底部はやや厚くなる。高台は外面は直に、内面は斜めに削れる。体部内面の露胎部分の外周に陽圏線を施す。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（Ⅰ）の青磁外反口縁皿に類似している。14世紀～15世紀。	灰白色 やや粗質	良	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。全面施釉後、畳付けから高台内の釉を掻き取る。露胎部分は橙色に変色する。白緑色	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。全面施釉後、見込みの釉を円形に掻き取る。露胎部分は橙色に変色する。白緑色
第85図 16 syjⅡ26	青磁 直口口縁 皿 輸入磁器	口径 10.9 高台径 5.7 高台高 0.7 器高 3.5 底径 5.0	腰の張りは弱く、体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は直口し、端部は丸味を持つ。高台内の刳りは浅く、底部はやや厚くなる。高台は内外面共斜めに削れ、外端を斜めに面取りする。体部外面にヘラ状工具による、略化された蓮弁文、内面に叉線彫り工具による弁先の無い花弁を施す。内面見込みは陽圏線と中央に印花花文を施す。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（Ⅰ）の青磁直口口縁皿に類似している。14世紀～15世紀。	白灰色 良質	良	施釉：釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。細かい貫入が入る。全面施釉後、高台内は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。露胎部分は橙色に変色する。灰オリーブ色	施釉：釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。細かい貫入が入る。灰オリーブ色
第85図 17 syjⅡ33	青磁 口折皿 輸入磁器	口径（11.0） 高台径（6.2） 高台高 0.8 器高 3.5 底径 （6.0）	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は横方向へ屈折し鍔となり、鍔上面は平坦になる。口縁端部は丸くなる。高台内の刳りは浅めで、底部は厚くなる。高台外面は僅かに外反し、外端は開き気味になる。体部外面に不明瞭な蓮弁文、内面見込みに陽圏線を施す。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（Ⅰ）の青磁口折皿に類似している。14世紀～15世紀。	復元の為、胎土の内容は不明	良	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。全面施釉後、高台内の釉を掻き取る。釉は高台内途中まで残る。露胎部分は茶褐色に変色する。明緑色	施釉：釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。明緑色
第85図 18 syjⅡ25	青磁碗 輸入磁器	高台径 5.5 高台高 1.1 現存高 5.9 底径 5.2	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは深く、高台は高めで、内外面共直に削れる。高台内は中央が凸状になる。底部は厚みがある。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類、14世紀初頭～後半。	白灰色 やや良質	良	施釉：釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。体部外面から高台外面はクシ状工具による、回転を利用した調整。釉は高台外面途中まで掛かる。明青緑色	施釉：釉はガラス質で透明感があり、薄く均等に掛かる。大きめの貫入が入る。明青緑色
第85図 19 syjⅡ128	青白磁 合子 輸入磁器	現存高 0.8	上面は菊花弁を型押しで作る。青白磁合子の蓋。	白色 やや粗質	良	施釉：釉は薄く均等に掛かる。青白色	施釉：釉は薄く均等に掛かる。青白色
第86図 20 syjⅡ194	滑石製 石鍋	現存高 6.0	体部は内湾気味に立ち上がる。外面口縁部下に小さい鍔を持つ。口縁部と体部の厚みは変わらない。体部外面の鍔下にカーボンが付着。			縦方向のノミ削り。黄灰色	黄灰色
第86図 21 syjⅡ195	滑石製 石鍋	現存高 6.4	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。外面口縁部下に鍔を持つ。鍔は大きく、端部は尖り気味になる。口縁部と体部の厚みは変わらない。			縦方向のノミ削り。にぶい黄橙色	にぶい黄橙色

第17表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　SI－01内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第87図 1 syjⅡ232	土師器 高坏	口径　16.4 現存高　4.6 現存高　1.8	坏部下位で屈折した後、内湾気味に大きく開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反する。端部は丸くなる。高坏の坏部分。1号住は古墳時代初期の住居址と思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色微粒子（多）雲母（少）	良	横ナデ。 橙色	横ナデ。 にぶい橙色
第87図 2 syjⅡ234	土師器 高坏	口径　18.2 現存高　6.1	坏部下位で屈折した後、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。高坏の坏部分。1号住は古墳時代初期の住居址と思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.7、微量） 赤褐色斑（多） 白色微粒子（少）	良	横ナデ。 橙色	横ナデ。 橙色
第87図 3 syjⅡ235	土師器 高坏	現存高　9.3 底径　11.4 器高　2.4	脚部は直線的に降りて行き、裾部はやや内湾気味に大きく開く。高坏の脚部。1号住は古墳時代初期の住居址と思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 白色微粒子（多） 長石（0.2～0.4、微量）	良	脚部は縦方向のハケ目。裾部はナデ。 橙色	脚部はシボリ痕とヘラケズリ。裾部はナデ。 浅黄橙色
第87図 4 syjⅡ236	弥生 甕	口径（13.4） 現存高　6.0	頸部で「く」字状に屈曲した後、口縁部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。1号住は古墳時代初期の住居址と思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多） 白色微粒子（多）	良	細いヘラ状工具によるやや強めの斜め方向のナデ。 橙色	細いヘラ状工具によるやや強めの横及び斜め方向のナデ。 橙色
第87図 5 syjⅡ237	弥生 甕	口径（19.6） 現存高　8.4	頸部で「く」字状に屈曲した後、口縁部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。1号住は古墳時代初期の住居址と思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多） 白色微粒子（多）	良	肩部は横方向のハケ目。頸部から口縁部は縦方向のハケ目。 にぶい赤褐色	肩部は横方向のハケ目。頸部から口縁部は横及び斜め方向のハケ目。 橙色
第87図 6 syjⅡ239	弥生 壺	頸部（14.0） 現存高　8.5	頸部で「く」字状に屈曲した後、口縁部は開きながら立ち上がる。頸部に斜格子文突帯を貼り付ける。1号住は古墳時代初期の住居址と思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多）	良	横及び斜め方向のハケ目。 にぶい黄橙色	横及び斜め方向のハケ目。 にぶい黄橙色
第88図 7 syjⅡ299	弥生 甕	口径　19.0 胴径　28.1 器高　35.2 底径　11.4	胴部は丸く膨らみ、口縁部は開きながら立ち上がる。底部は丸くなる。胴部外面にカーボンが付着。1号住は古墳時代初期の住居址と思われる。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、少） 白色粒子（多）	良	ヘラケズリ。 にぶい橙色	口縁部はヘラケズリ、胴部上位はハケ目、下位はナデ。 にぶい橙色と褐灰色

第18表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　一括遺物（中世） 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第89図 1 syjⅡ228	土師器 坏	口径（11.5） 器高　2.9 底径　7.8 底径　11.4	N－18グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は丸味を持つ。外面全体と内面は部分的にカーボンが付着。	細砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.3、多） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 黒褐色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 橙色と部分的に黒褐色
第89図 2 syjⅡ52	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.9	S－22グリッド 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。体部内面に片切り彫りによる劃花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2類。12世紀中頃～後半。	黄灰白色 良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。大きめの貫入が入る。回転ヘラケズリ。 オリーブ黄色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。大きめの貫入が入る。 オリーブ黄色
第89図 3 syjⅡ44	青磁碗 輸入磁器	口径（16.4） 現存高　5.8	表採 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し端部は丸味を持つ。体部内面に片切り彫りによる劃花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2類。12世紀中頃～後半。	黄灰白色 良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。大きめの貫入が入る。回転ヘラケズリ。 オリーブ灰色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。大きめの貫入が入る。 オリーブ灰色
第89図 4 syjⅡ38	青磁 香炉？ 輸入磁器	高台径　6.5 高台高　0.6 現存高　2.3 底径　5.0	表採 高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台は低く、内外面共斜めに削れる。体部下位で屈曲し、その後、上方へ立ち上がると思われる。特殊品。	灰白色 良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。全面施釉後、畳付けの釉を丁寧に掻き取る。 青緑色	無釉。僅かに釉が流れ込む。 青緑色
第89図 5 syjⅡ51	青磁碗 輸入磁器	高台径　6.7 高台高　0.9 現存高　1.9 底径　6.6	U－15グリッド 高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台は低く、内外面共斜めに削れる。内面見込みに片切り彫りによる花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ－2類。12世紀中頃～後半。	淡黄灰色 良質	良	施釉。釉は半透明で均等に掛かる。全面施釉後、高台畳付けから高台内の釉を掻き取る。 灰オリーブ色	施釉。釉は半透明で均等に掛かる。 オリーブ黄色

第18表

syjⅡ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　一括遺物（中世、縄文） 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第89図 6 syjⅡ31	青磁碗 輸入磁器	高台径 6.6 高台高 0.8 現存高 3.0 底径 5.6	S−23グリッド 高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台は低く、外面は直に、内面は斜めに削れる。体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。内面見込みに「正」の文字印刻と体部外面に鎬の無い、片切り彫りによる蓮弁文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ−d類。13世紀前後〜前半。	淡橙灰色 良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。全面施釉後、高台畳付けから高台内の釉を掻き取る。 灰オリーブ色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。 灰オリーブ色
第89図 7 syjⅡ42	青磁碗 輸入磁器	高台径 5.0 高台高 0.3 現存高 1.8 底径 4.8	Q−15グリッド 高台内の刳りは浅く、底部はやや厚い。高台は低く、外面は直に、内面は斜めに削れる。体部は直線的に開きながら立ち上がる。大宰府編年の越州窯系青磁碗Ⅰ−1b(1)類。8世紀末〜10世紀中頃。	淡黄灰色 良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡が多い。全面施釉後、高台畳付けから高台内の釉を掻き取る。 高台内に目跡が残る。 オリーブ黄色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。見込みに二箇所に目跡が残る。 オリーブ黄色
第89図 8 syjⅡ17	青磁碗 輸入磁器	高台径 (6.0) 高台高 1.2 現存高 2.7 底径 (5.8)	K・J−18グリッド 高台内の刳りは深く、底部は厚い。高台は高い角高台で、外端を斜めに面取りする。	白灰色 赤褐色微粒子（少） やや粗質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。高台内に溶着物（土）がある。全面施釉か? 青緑色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。 青緑色
第89図 9 syjⅡ100	白磁碗 輸入磁器	口径 (14.6) 現存高 3.4	M−11グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部に肉厚の玉縁を持つ。大宰府編年の白磁碗Ⅳ類。11世紀後半〜12世紀前半。	灰白色 黒色微粒子（少） やや良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。横ナデ。	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。
第89図 10 syjⅡ130	白磁 小型の台付き皿or坏類 輸入磁器	高台径 (4.2) 高台高 0.7 現存高 1.3 底径 (3.8)	P−19グリッド 高台内の刳りは浅く、中央は凸状になる。底部は厚い。高台は内外面共直に削れ、外端を広く斜めに面取りする。小型の台付き皿及び坏か多角坏と思われる。森田氏分類の白磁D群。16世紀。	白色 緻密	良	高台とその周辺は無釉。回転ヘラケズリ。 黄灰白色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。細かい貫入が入る。 黄白色
第89図 11 syjⅡ39	中国産鉢 輸入磁器	高台 径 (10.0) 高台高 1.0 現存高 4.0 底径 (9.4)	表採 体部は僅かに内湾し、大きく開きながら立ち上がる。高台内の刳りは深く、底部は薄い。高台は高めで僅かに開く。高台外端を斜めに面取りする。中国産の青磁か?	黄灰色 良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。高台外面途中まで釉が掛かり、面取りした外端から高台内まで露胎となる。 灰オリーブ色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。見込みに三箇所に台形状の目跡が残る。 灰オリーブ色
第89図 12 syjⅡ146	柱状土製品	長さ 5.9 幅 3.4 厚さ 1.5 底径 4.8	P−19グリッド 用途不明。	細砂粒（多）白色粒子（少）	良	ナデ。 灰白色	
第90図 13 syjⅡ284	縄文早期 深鉢	現存高 2.0	L−18グリッド、ピット1 内面に楕円文（横位施文）を施す。押し型文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3程度、少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多）雲母（少）	良	押し型文をナデ消す。 にぶい黄褐色	にぶい黄褐色
第90図 14 syjⅡ283	縄文早期 深鉢	現存高 3.0	L−18グリッド 内面に楕円文を施す。押し型文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2程度、少） 白色粒子（多）角閃石（少）	良	ナデ。 にぶい黄橙色	にぶい黄橙色
第90図 15 syjⅡ264	縄文早期 深鉢	現存高 2.9	L−16グリッド 口縁部内面に原体条痕、胴部内外面に楕円文（横位施文）を施す。押し型文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 雲母（少）長石（少） 石英（少）	良	口縁端部はナデ。 にぶい黄褐色	灰黄褐色
第90図 16 syjⅡ282	縄文早期 深鉢	現存高 5.4	M−15グリッド 口縁部内面に原体条痕、胴部内外面に楕円文を施す。押し型文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（多）	良	ナデ。 にぶい黄褐色	ナデ。 にぶい黄褐色
第90図 17 syjⅡ287	縄文早期 深鉢	現存高 4.5	M−19グリッド 外面に山形文を施す。押し型文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（少）雲母（少）	良	ナデ。 暗褐色と褐色	ナデ。 黄褐色と褐色
第90図 18 syjⅡ286	縄文早期 深鉢	現存高 2.6	O−21グリッド 内外面に山形文を施す。押し型文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）角閃石（少） 長石（少）	良	口縁部はナデ。 にぶい黄褐色	ナデ。 にぶい黄褐色
第90図 19 syjⅡ265	縄文早期 深鉢	現存高 5.0	M−18グリッド 口縁部は原体条痕、胴部内外面は楕円文を施す。押し型文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 黒色粒子（多）雲母（多）	良	ナデ後押し型文。 淡黄色	ナデ後押し型文。 淺黄橙色

第18表

syjⅡ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第90図 20 syjⅡ245	縄文早期 深鉢	現存高 4.8	O−21グリッド 外面に山形文（横位施文）を施す。押し型文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（少）雲母（少）	良	ナデ後押し型文。 褐色	ナデ。 にぶい黄褐色
第90図 21 syjⅡ247	縄文早期 深鉢	現存高 3.2	M−19グリッド 外面に山形文を施す。押し型文土器。胴部片（底部近く）傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（少）角閃石（少）	良	ナデ後押し型文。 にぶい黄褐色	ナデ。 にぶい黄褐色
第90図 22 syjⅡ257	縄文早期 深鉢	現存高 3.5	K−17グリッド 外面に山形文（横位施文）を施す。押し型文土器。胴部片（底部近く）傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（少）長石（多）	良	にぶい橙色	ナデ。 にぶい黄褐色
第90図 23 syjⅡ259	縄文早期 深鉢	現存高 3.5	K−17グリッド 外面に楕円文を施す。押し型文土器。胴部片（底部近く）傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.4程度、微量） 赤褐色斑（少）角閃石（少） 雲母（少）長石（少）	良	にぶい黄褐色	ナデ。 にぶい黄橙色
第90図 24 syjⅡ253	縄文前期 深鉢	現存高13.7	N−20、O−20グリッド 口縁部外面に押し引き文が二段、口唇部に刺突文、胴部に条痕文（貝殻条痕？）を施す。轟式土器系？条痕文土器。口縁部から胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（多） 雲母（多） 長石（0.2〜0.5、多）	良	褐色	ナデ。 黒褐色
第90図 25 syjⅡ285	縄文前期	現存高 2.8	N−20グリッド 外面に条痕文を施す。底部は平底になる。轟式土器系？条痕文土器。底部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3〜0.4、多） 角閃石（少）雲母（多） 長石（0.2〜0.4、多）	良	にぶい黄褐色	ナデ。 灰黄褐色
第91図 26 syjⅡ258	縄文中期	現存高 3.0	表採 口縁部の一部に凸帯を貼り付ける。口唇部に刺突文、外面と口縁部内面に縄文を施す。船元系竹崎式土器。口縁部の凸帯は一個残存。複数個あったのかは不明。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 角閃石（少）	良	黒褐色	ナデ。 にぶい黄橙色
第91図 27 syjⅡ293	縄文中期 深鉢	現存高 3.0	P−22グリッド 口縁は山形口縁。口縁部外面に縄文を施す。船元系竹崎式土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3〜0.4、少） 赤褐色斑（少） 白色粒子（多）角閃石（少）	良	ナデ後縄文。 黒褐色	ナデ。 にぶい橙色
第91図 28 syjⅡ270	縄文中期 深鉢	現存高 4.8	P−20グリッド 口唇部から口縁部外面にかけて刺突文、胴部外面と口縁部内面に縄文を施す。口縁は山形口縁。船元系竹崎式土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ後縄文。 黒褐色	ナデ。 黒褐色
第91図 29 syjⅡ273	縄文中期 深鉢	現存高 8.1	P−23グリッド 口縁は山形口縁。外面と口縁部内面に縄文を施す。船元系竹崎式土器。口縁部から胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ後縄文。 黒褐色	ナデ。 にぶい橙色
第91図 30 syjⅡ277	縄文中期 深鉢	現存高 4.1	N−21グリッド 頸部外面に、帯状に二枚貝の押圧による施文を施す。船元系竹崎式土器。胴部片（頸部付近）傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.5、少） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ。 にぶい黄褐色	ナデ。 黒褐色
第91図 31 syjⅡ266	縄文中期 深鉢	現存高 4.9	M−20グリッド 外面は括れた頸部に一条の凸帯を貼り付け、これに二枚貝の押圧による施文を施し、その下に、縄文を施す。船元系竹崎式土器。頸部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.5、少） 角閃石（少）雲母（少）	良	にぶい黄褐色と灰褐色	ナデ。 明褐色
第91図 32 syjⅡ279	縄文中期 深鉢	現存高 4.0	L−20グリッド 胴部外面に凸帯を貼り付け、これに刺突文を施し、その下に縄文を施す。船元系竹崎式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（少）砂粒（少） 小石粒（0.2〜0.5、少） 角閃石（少）雲母（少）	良	明褐色と灰褐色	ナデ。 明褐色と灰褐色
第91図 33 syjⅡ290	縄文中期 深鉢	現存高 5.5	表採 外面は頸部屈曲部上に一条の凸帯を指頭により貼り付け、その下に縄文を施す。船元系竹崎式土器。頸部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（少）砂粒（少） 小石粒（0.2〜0.6、多） 白色粒子（多）	良	ナデ後縄文。 にぶい黄褐色	ナデ。 暗褐色
第91図 34 syjⅡ294	縄文中期 深鉢	現存高 3.8	L−20グリッド 胴部外面に凸帯を貼り付け、これに二枚貝の押圧よる施文を施す。その下に斜め方向の沈線を施す。船元系竹崎式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3〜0.4、少） 白色粒子（多）	良	ナデ。 明赤褐色	ナデ。 赤褐色
第91図 35 syjⅡ289	縄文中期 深鉢	現存高 5.3	O−20グリッド 外面に縄文を施す。船元系竹崎式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3〜0.4、少） 白色粒子（多）角閃石（少）	良	明赤褐色	ナデ。 にぶい赤褐色

第18表

syjⅡ･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅱ次調査　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第91図 36 syjⅡ276	縄文中期 深鉢	現存高14.3	M－20グリッド 外面に縄文を施す。船元系竹崎式土器。頸部から胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、少） 角閃石（少）雲母（少）	良	ナデ。 黒褐色	ナデ。 暗褐色
第91図 37 syjⅡ255	縄文中期 ？深鉢	現存高 9.3	N－19グリッド 頸部外面に、帯状に半截竹管文を施す。頸部から胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.4、少） 角閃石（少）雲母（少）	良	ナデ。 黒褐色	板状工具によるナデ。 褐色
第91図 38 syjⅡ256	縄文中期 深鉢	現存高 7.5	M－20グリッド 外面に縄文を施した後、頸部に、帯状に半截竹管による押し引き文を施す。船元系竹崎式土器。頸部から胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、少） 角閃石（少）雲母（少）	良	にぶい黄褐色	ナデ。 灰褐色
第91図 39 syjⅡ296	縄文中期 深鉢	現存高 7.7	P～22グリッド 外面に斜め方向の縄文を施す。船元系竹崎式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多）	良	ナデ後縄文。 黒褐色	ナデ。 にぶい黄橙色
第91図 40 syjⅡ291	縄文中期 深鉢	現存高10.0	M－20グリッド 外面に縄文を施す。船元系竹崎式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.7、多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（多）雲母（少）	良	にぶい黄褐色	ナデ。 暗褐色
第92図 41 syjⅡ275	縄文中期 深鉢	現存高10.2	P－22グリッド 外面に縄文を施す。船元系竹崎式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.5、多）	良	黒褐色	ナデ。 オリーブ褐色
第92図 42 syjⅡ297	縄文中期 深鉢	現存高12.2	N－18、L－19、20グリッド 外面に斜め方向の縄文を施す。船元系竹崎式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ後縄文。 にぶい褐色	ナデ。 褐色
第92図 43 syjⅡ288	縄文中期 深鉢	現存高 5.4	P－23グリッド 外面に縄文を施す。底部に脚が付く。船元系竹崎式土器。底部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.5、少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.2～0.3、少）	良	ナデ後縄文。 にぶい橙色	ナデ。 褐色
第92図 44 syjⅡ299	縄文中期 深鉢	現存高 3.7	S－25グリッド 外面に凹線文を施す。阿高式土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ。 赤褐色と黒褐色	ナデ。 にぶい赤褐色
第92図 45 syjⅡ298	縄文後期 浅鉢	現存高 5.0	Q－16グリッド 二本単位の平行沈線を施す。西平式系？ 胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（少）雲母（少）	良	ミガキ。 黄褐色	ナデ。 にぶい黄色

第18表

syjⅡ･･･は実測番号

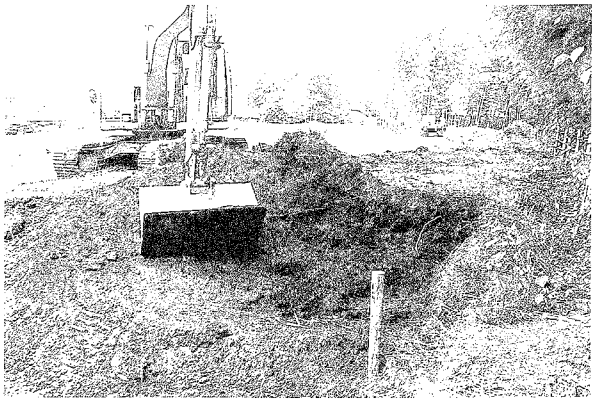
番　号	器　種	法量（cm）	Ⅱ次調査　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第93図 46 syjⅡ209	瓦質土器 火鉢	現存高 7.3	調査区一括 体部は内傾しながら立ち上がる。口縁部は三角に肥厚し、体部外面に凸帯を貼り付ける。口縁部と凸帯の間に菊花文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ後横ナデ。 灰色	斜め方向のナデ。 にぶい黄色
第93図 47 syjⅡ21	青磁碗 輸入磁器	現存高 5.0	調査区一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。口縁部外面に雷文帯を持ち、体部内外面にヘラ先による文様を施す。上田氏分類の青磁碗C類。15世紀前後。	白色 白色微粒子（少） 黒色微粒子（少） やや粗質	良	施釉。釉は半透明で均等に掛かる。 オリーブ灰色	施釉。釉は半透明で均等に掛かる。 オリーブ灰色
第93図 48 syjⅡ40	青磁碗 輸入磁器	高台径（5.5） 高台高 0.9 現存高 2.0 底径　（5.4）	調査区一括 高台内の削りは浅く、底部は厚い。高台外面は直に、内面は斜めに削れる。蛇の目釉剥ぎを施している可能性がある。残りが少ない為、詳細は不明。	黄灰色 白色粒子（少） やや粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。細かい貫入が入る。高台畳付けから高台内の釉を雑に掻き取る。露胎部分は赤褐色に変色。 オリーブ灰色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。気泡がある。細かい貫入が入る。 オリーブ灰色

第18表

syjⅡ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅱ次調査　一括遺物（中世、縄文） 特　　徴	胎　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第93図 49 syjⅡ43	青磁皿 輸入磁器	現存高　2.1 底径　(4.5)	調査区一括 体部下位より大きく開きながら立ち上がり、中位で屈折し、角度を変える。底部外面は凹状になる。内面見込みに、片切り彫りによる花文を施す。大宰府編年の龍泉窯系青磁皿Ⅰ類。12世紀中頃～後半。	灰色 やや粗質	良	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。細かい貫入が入る。底部外面の釉を掻き取る。露胎部分は灰茶色に変色。 オリーブ灰色	施釉。釉は半透明で薄く均等に掛かる。細かい貫入が入る。見込みに白い目跡が残る。 オリーブ灰色
第93図 50 syjⅡ23	青磁 口折皿 輸入磁器	口径（11.2） 高台径（6.2） 高台高　0.7 器高　3.5 底径　(5.4)	調査区一括 腰部で丸味を持ち、体部は開きながら立ち上がる。口縁部は横方向へ屈折し鍔を作る。口縁上端は丸味を帯び、端部は尖り気味になる。高台内の刳りは深く、高台はやや高い角高台となり、外端を広く斜めに面取りする。体部外面に片切り彫りによる蓮弁文、内面見込みに陽圏線を施す。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（1）の青磁口折皿に類似している。14世紀～15世紀。		良	施釉。釉は半透明で均等に掛かる。高台畳付けから高台内は露胎となる。 青緑色	施釉。釉は半透明で均等に掛かる。 青緑色
第93図 51 syjⅡ90	青磁 口折皿 輸入磁器	口径（11.6） 高台径（7.1） 高台高　0.8 器高　3.5 底径　(7.0)	調査区一括 腰部で丸味を持ち、体部は開きながら立ち上がる。口縁部は外反し端部は丸くなる。高台内の刳りは浅く、高台外面は直に、内面は斜めに削れる。高台畳付けは丸味を持つ。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（1）の青磁口折皿に類似している。14世紀～15世紀。	灰白色 白色粒子（少） 粗質	良	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。高台内の釉を円形に掻き取る。露胎部分は橙色に変色。 灰緑色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。見込みの釉を円形に掻き取る。露胎部分は橙色に変色。 灰緑色
第93図 52 syjⅡ16	青磁碗 輸入磁器	高台径（8.0） 高台高　1.3 現存高　6.2 底径　(7.6)	調査区一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは深く、底部は厚い。高台は高い角高台で、外面は直に、内面は斜めに削れる。高台畳付けは釉の厚みで丸味を帯びる。体部外面に釉の厚みで不明瞭な蓮弁文を施す。上田氏分類の青磁碗B類。15世紀前後。	灰白色 黒色微粒子（少） やや良質	良	施釉。釉は半透明、ガラス質で厚く均等に掛かる。大きめの貫入が入る。全面施釉後、高台内の釉を丁寧に掻き取る。露胎部分は橙色に変色。 青緑色	施釉。釉は半透明、ガラス質で厚く均等に掛かる。大きめの貫入が入る。 青緑色
第93図 53 syjⅡ29	青磁壺 輸入磁器	高台径（8.0） 高台高　0.9 現存高　6.5 底径　(7.2)	調査区一括 腰部で丸味を持ち、体部は上方へ立ち上がる。見込みは高台内に凹み、高台は外面は斜めに、内面は直に削れる。体部外面に幅の広いヘラ状工具による縦方向の施文（蓮弁？）を施す。残りが少ない為、詳細は不明。	白色 黒色微粒子（多） やや粗質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。高台畳付けの釉を丁寧に掻き取る。 青緑色	施釉。釉は薄く均等に掛かる。透明感は無い。気泡が多い。回転ヘラケズリ。 青緑色
第93図 54 syjⅡ242	縄文後期 浅鉢	現存高　3.1	調査区一括 外面に縄文と二本の平行沈線を施す。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）	良	ミガキ。 灰黄色	ミガキ。 にぶい黄橙色
第94図 55 syjⅡ218	瓦質土器 火鉢	底径（28.8） 現存高　7.4	調査区一括 体部下位に凸帯を貼り付ける。底部に脚を持つ。	細砂粒（少）砂粒（多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少）雲母（少） 長石（0.8程度、一個）	良	体部は回転ナデ。脚部は指押さえとナデ。 にぶい黄橙色	横方向のハケ目。見込みはナデ にぶい黄橙色

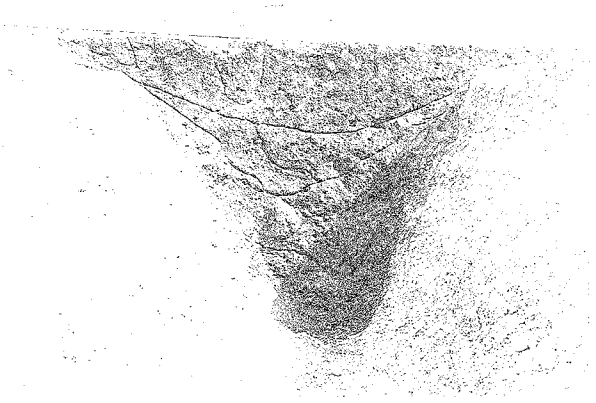
写 真 図 版



(1) 表土剥ぎ

(2) SI－01

(3) SD－02遺物出土状況

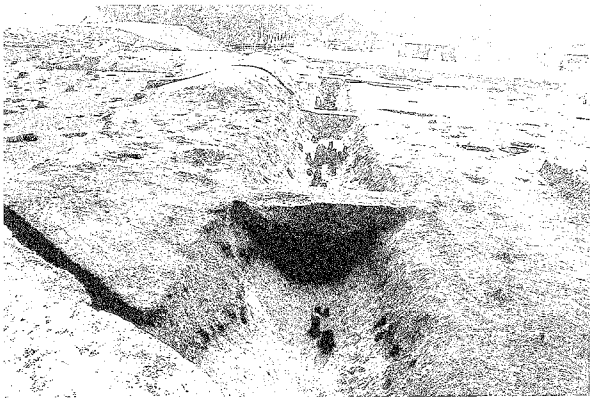


(4) SD－02土層断面

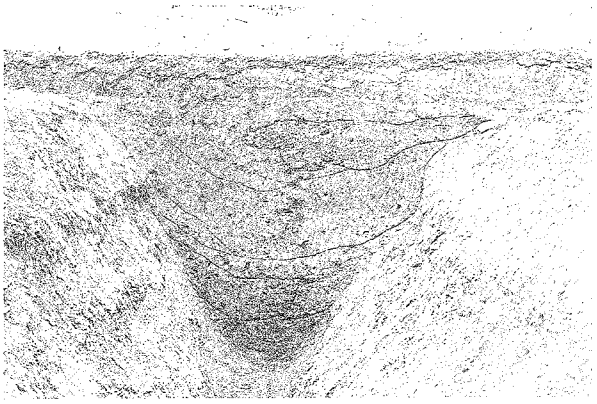
(5) SD－06遺物出土状況

(6) SD－02（左）・SD－06（右）

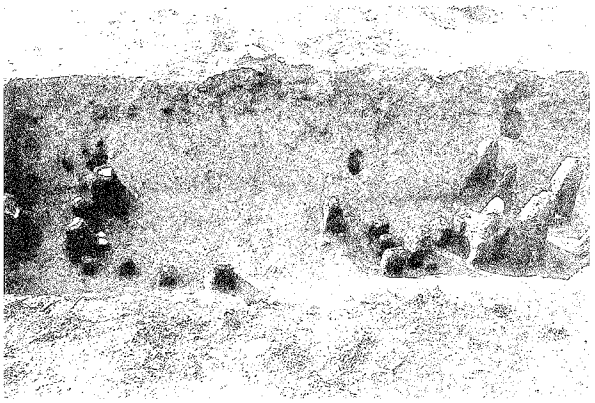
図版8



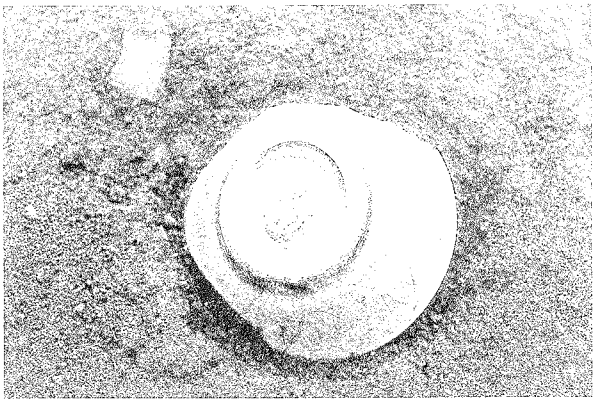
(1) SD－18



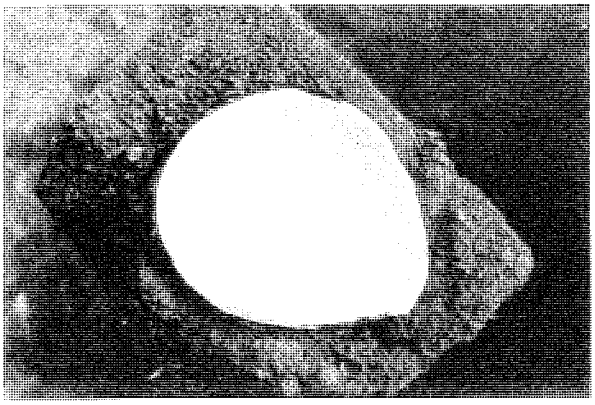
(2) SD－18土層断面



(3) SD－18遺物出土状況

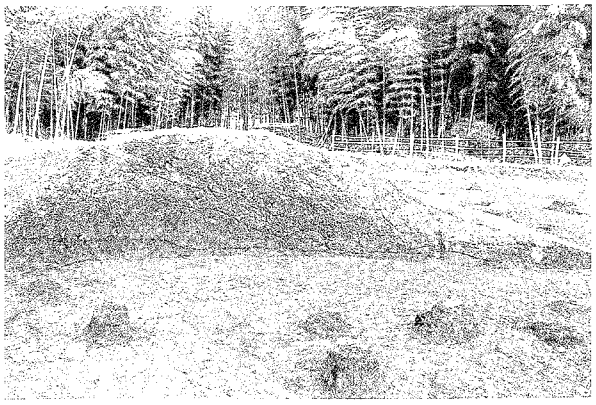


(4) SD－18内出土遺物

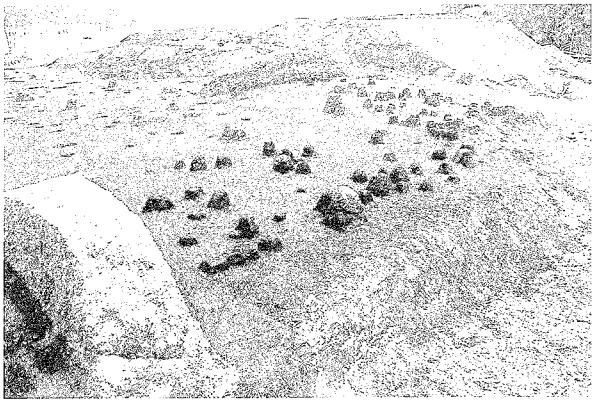


(5) SD－18内出土遺物

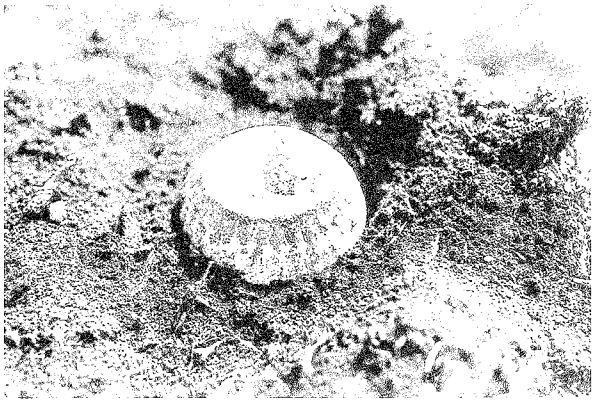
(6) SD－18完掘



（1）1号土墨土層断面

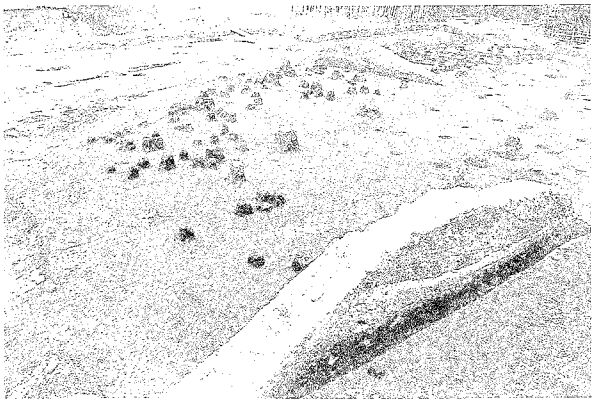


（2）1号土墨遺物出土状況



（3）1号土墨出土遺物

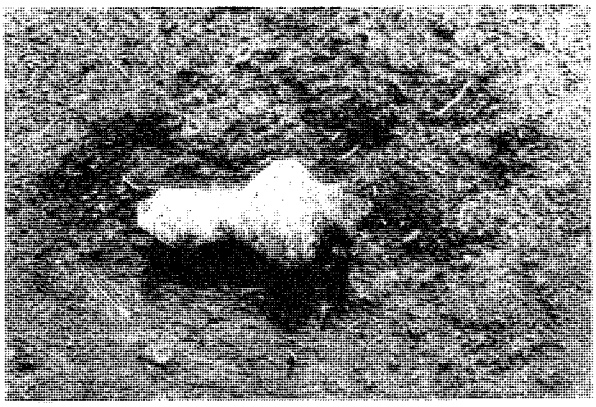
（4）2号土墨土層断面



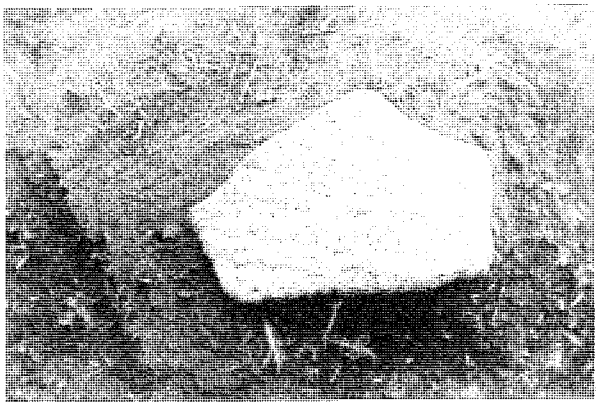
（5）2号土墨遺物出土状況

（6）2号土墨遺物出土状況

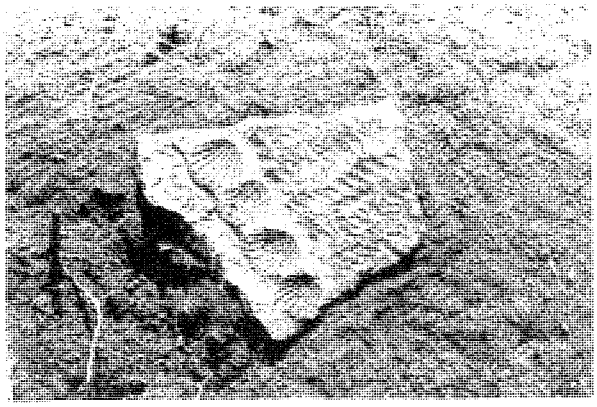
図版10



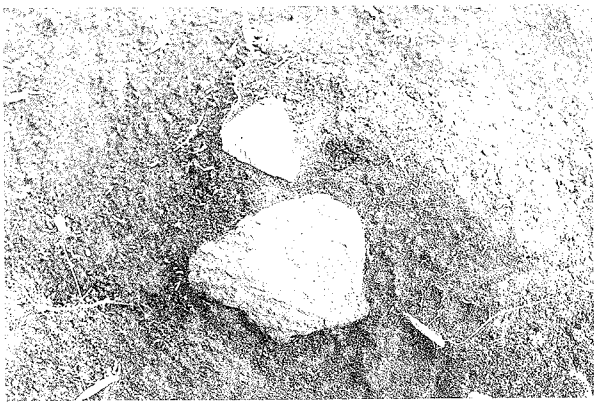
(1) 号土塁出土遺物



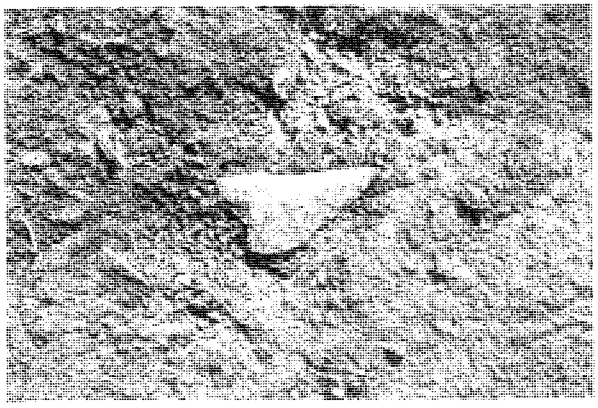
(2) 縄文調査　土器



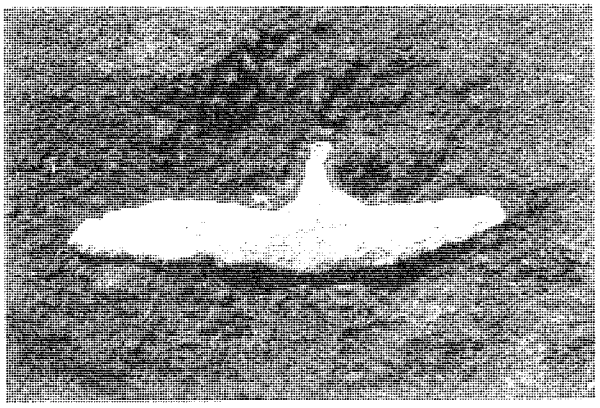
(3) 縄文調査　土器



(4) 縄文調査　土器



(5) 縄文調査　石器



(6) 縄文調査　石器

(1) 出土縄文式土器　1

(2) 出土縄文式土器　2

(3) SI－01内出土遺物　1

(4) SI－01内出土遺物　2

図版12

(1) 1号土墨出土遺物　1

(2) SD－18内出土遺物

(3) 1号土墨出土遺物　2

(4) 1号土墨出土遺物　3

(1) SD－16内出土遺物

(2) SD－02内出土遺物　1

(3) SD－02内出土遺物　2

第3節　Ⅲ次(2003年度)調査の成果

1.調査の概要と経過（調査日誌抄）

Ⅲ次調査である03年度調査は、道路建設予定地内の用地の取得が終わった部分から調査を実施した。また、調査地の中で縄文時代の包含層が残っている部分に関しては、縄文時代の層まで掘り下げての調査を実施した。本年度の調査区は、用地の取得状況により3ヵ所に分かれており、Ⅰ次調査区の東側で東西がAからDのグリッドの間、南北が1から8のグリッドの間の調査区をA調査区、Ⅱ次調査区の西側で東西がUからADのグリッドの間から南北が24から32のグリッドの間の調査区をB調査区、更にB調査区の西側で東西がAJからAUのグリッドの間から南北が28から39のグリッドの間の調査区をC調査区と調査区名を付けた。調査は、昨年度に調査が終了したⅡ次調査区が道路建設工事に入り、本年度調査予定地区のA調査区を工事車両の出入り口として使用しなければならないことから、最後に調査することとし、B・C調査区から先に調査を実施した。調査面積は、3調査区合わせて中世期が約3,800㎡と縄文期約1,400㎡の合計約5,200㎡である。

発掘調査は、03年8月6日より開始し、04年3月26日までの8ヶ月間実施した。

2.調査の成果

SD－02（2号溝）

遺構（第96図）　遺物（第102図）　第19表

A調査区のA～D－5～8のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、調査区の北側で検出され、直角ではなく鋭角に曲がって南側に掘られているのが確認された。溝の西側は、Ⅰ次（03年）調査区に検出された2号溝につながる。また、南側は調査区外に延びるため全体の規模は不明であるが、17.7m分を検出した。溝の幅は、2.3mから広い部分で2.7mを測る。深さは、2.55mを測り、断面は底の部分が狭いV字形を呈している。

遺構内からは、溝の中位ぐらいから中世期の遺物が多量に出土しており、新しい時期の遺物の出土は無い。

SI－02（2号住居跡）

遺構（第97図）　遺物（第104図）　第21表

B調査区のAB－32グリッドに検出した竪穴住居跡である。遺構は、全体的に残存状態も悪く硬化面だけの検出であることから、形状や正確な規模が不明である。硬化面が1.9m×2.5mの範囲で確認されており、規模はそれ以上ということになる。柱穴も、特定できなかった。

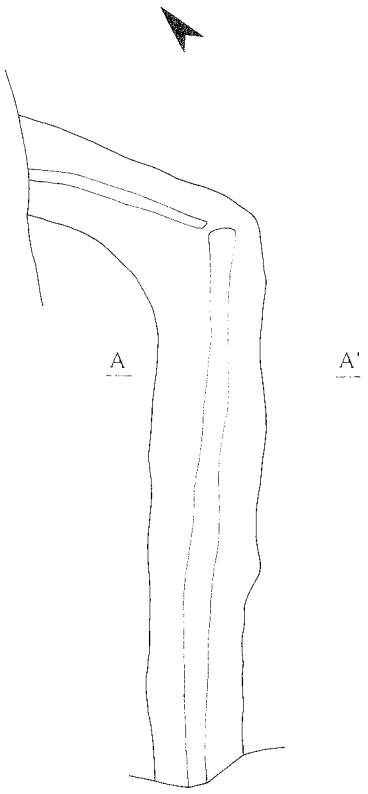
遺構内からは、少量ではあるが土師器や須恵器が出土しており、遺物の特徴から古代の住居跡と考えられる。

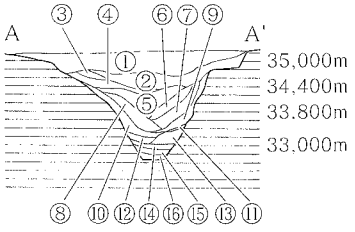
SI－03（3号住居跡）

遺構（第98図）

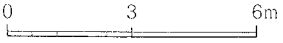
C調査区のAN～AO－30グリッドに検出した竪穴住居跡である。遺構は、南側部分を別の長方形状の不明遺構により切られており、形状や正確な規模は不明であるが、現存規模は長辺が4.92mで、短辺が3.34m＋αで、深さが0.18mを測る。形状は、隅丸長方形か方形と考えられる。住居跡の、柱穴の特定は

第95図　Ⅲ次調査区遺構配置図及びグリッド図

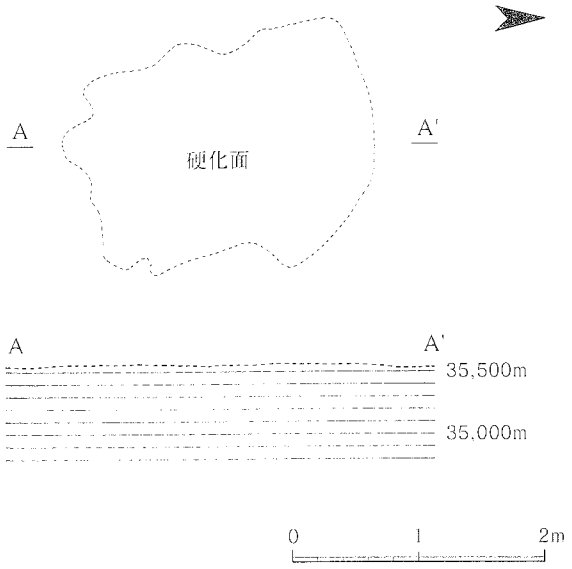




①客土
②7.5YR黒褐3/2、粒子ローム多。
③7.5YR黒褐3/2、ローム混。
④7.5YR黒褐2/2、粒子ローム多。
⑤7.5YR暗褐3/3、粒子ローム、礫を多く含む。
⑥7.5YR黒褐3/2、小石粒、粒子ローム多。
⑦④層と同じ。
⑧7.5YR暗褐3/3、粒子ローム多、礫少量。
⑨7.5YR黒褐2/2、粒子ローム、ロームブロック多量（やや砂質）。
⑩ロームに小石粒多く含む。
⑪7.5YR黒褐2/2、ローム粒多。
⑫ローム礫多。
⑬7.5YR黒褐2/2、礫多。
⑭7.5YR黒褐2/2、ローム粒多、礫少量。
⑮7.5YR黒褐3/2、礫多量。
⑯⑫層と同じ。



第96図　A区　SD－02実測図



第97図　B区　SI－02実測図

できなかった。また、硬化した床面も確認できなかった。

遺構内からは、少量ではあるが古代の土師器や須恵器が出土しており、遺物の特徴から古代の住居跡と考えられるが、殆どが小片のため図化できたものは無かった。

SI－04（4号住居跡）

遺構（第99図）

C調査区のAL～AM—30～31のグリッドにかけて検出した竪穴住居跡である。遺構は、長辺が1.94mで短辺が1.68mを測り、方形を呈している。深さは、0.08m～0.16mと浅くかなり削平を受けている。住居跡の、北側壁面の中央付近には、カマドが確認された。柱穴は、3本検出できたことから4本柱の住居跡と考えられる。また、床の硬化面も残っていなかった。

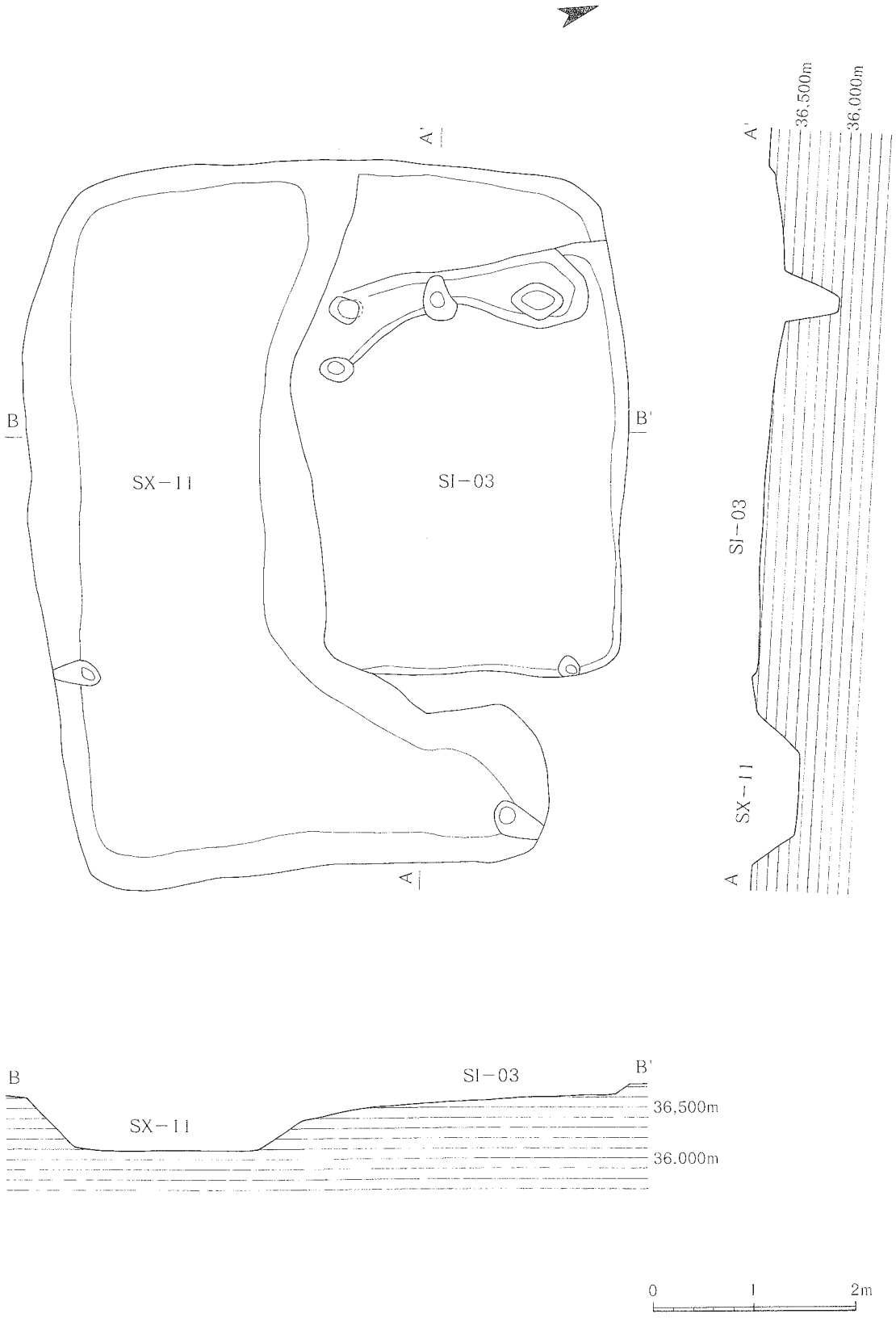
遺構内からは、少量ではあるが土師器や須恵器が出土しており、遺物の特徴から古代の住居跡と考えられるが、殆どが小片のため図化できたものは無かった。

SI－05（5住居跡）

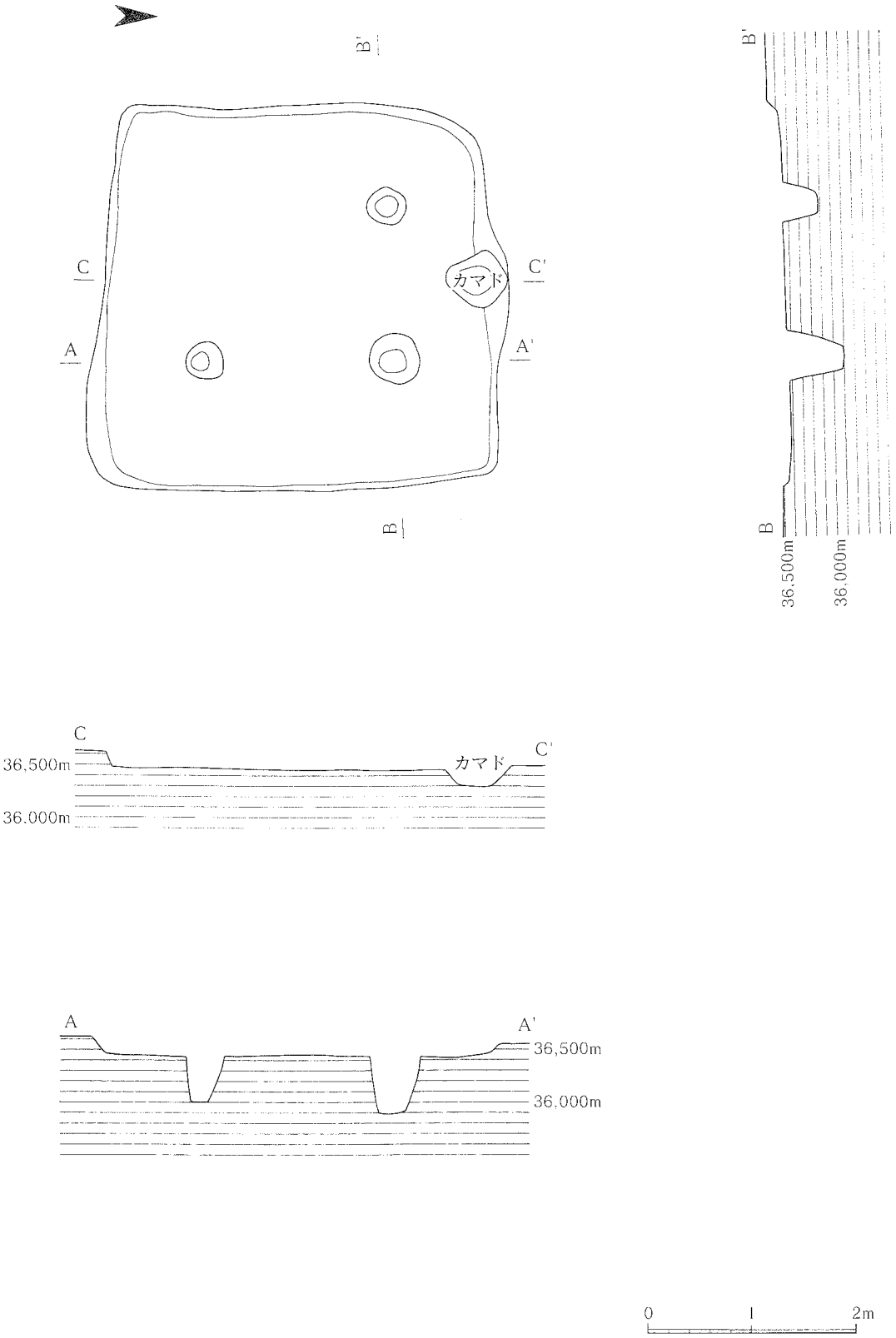
遺構（第100図）

C調査区のAL～AM－30～31のグリッドにかけて検出した竪穴住居跡である。遺構は、6号住居跡により切られていることから、形状や正確な規模が不明であるが、長辺が4.04m＋αで短辺が3.74mの隅丸長方形か方形の住居跡と考えられる。深さは、0.06mと浅くかなり削平を受けている。柱穴は、2本検出できたことから4本柱の住居跡と考えられる。カマドは確認できず、また床の硬化面も残っていなかった。

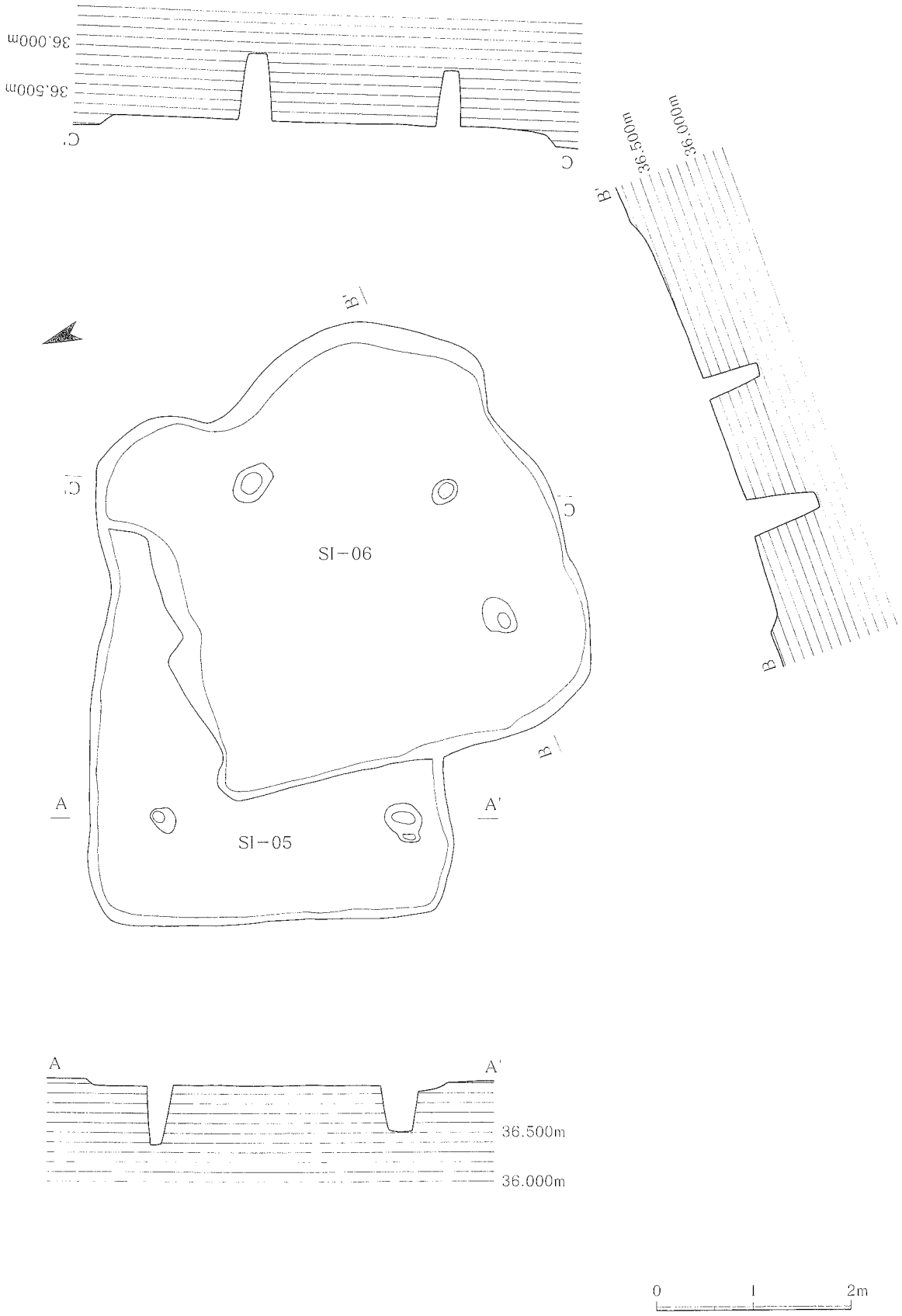
遺構内からは、少量ではあるが土師器や須恵器が出土しており、遺物の特徴から古代の住居跡と考えられるが、殆どが小片のため図化できたものは無かった。



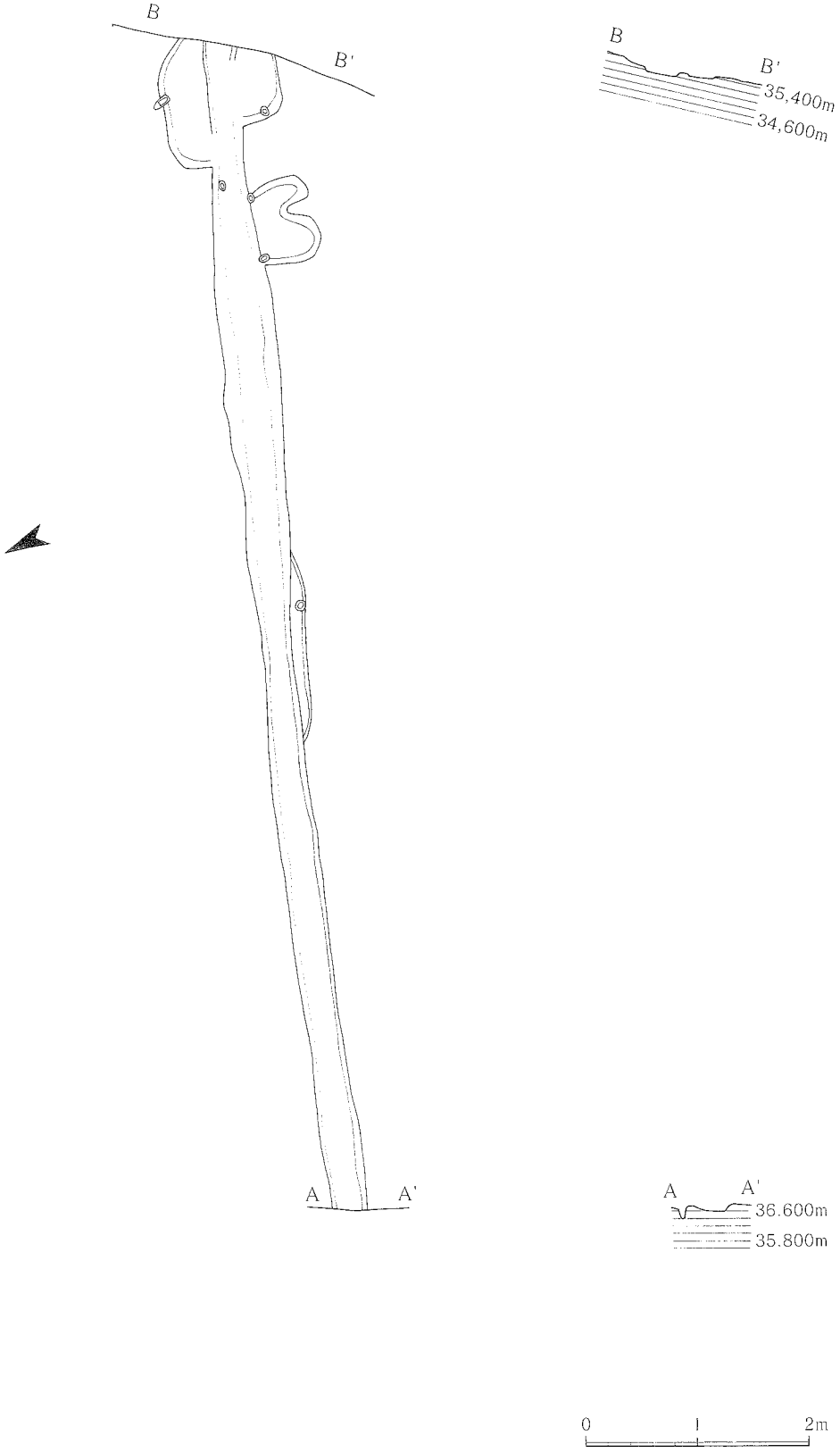
第98図　C区　SI－03実測図



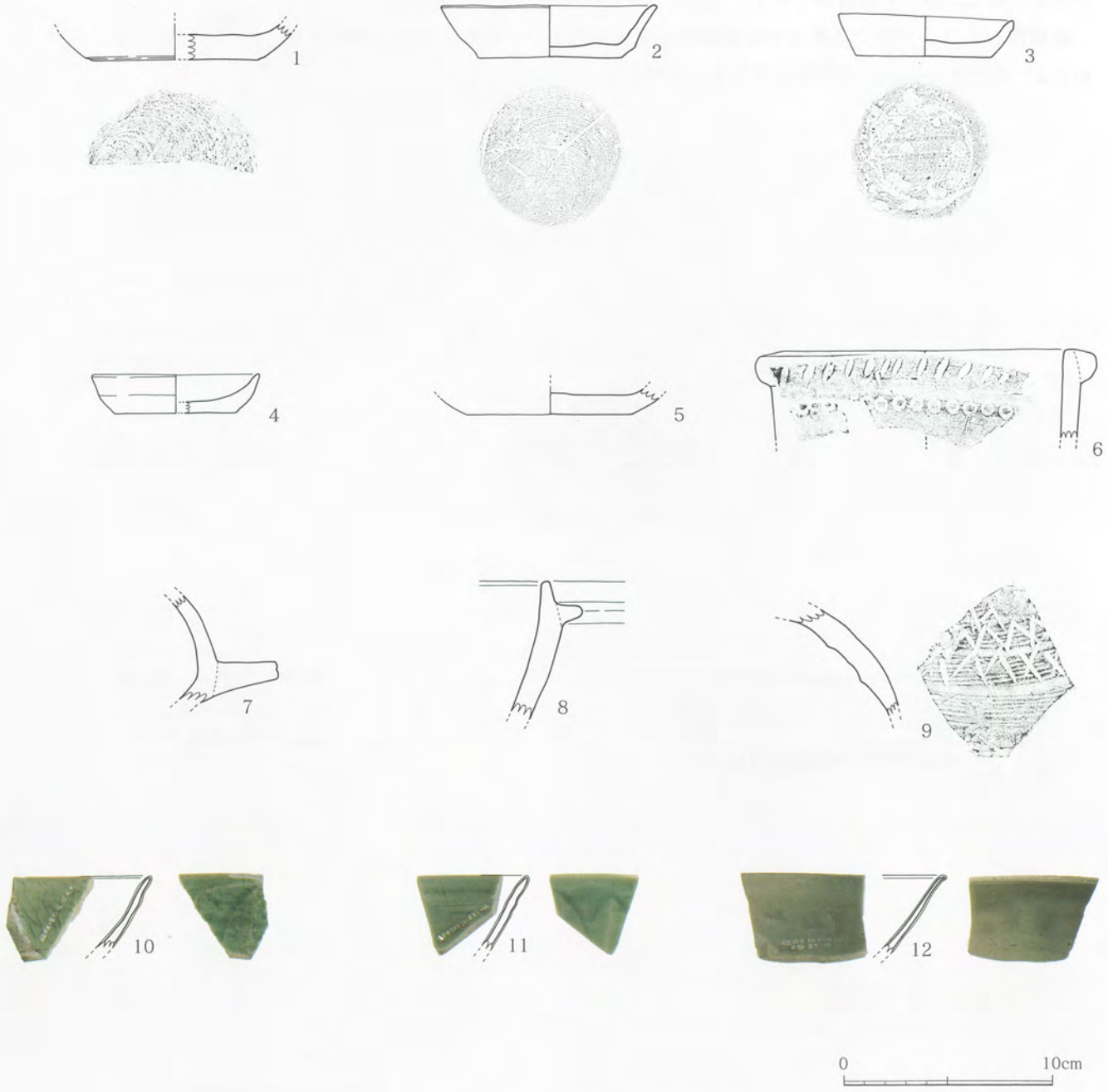
第99図　C区　SI－04実測図



第100図　C区　SI−05・SI−06実測図



第101図　C区　SD－64実測図



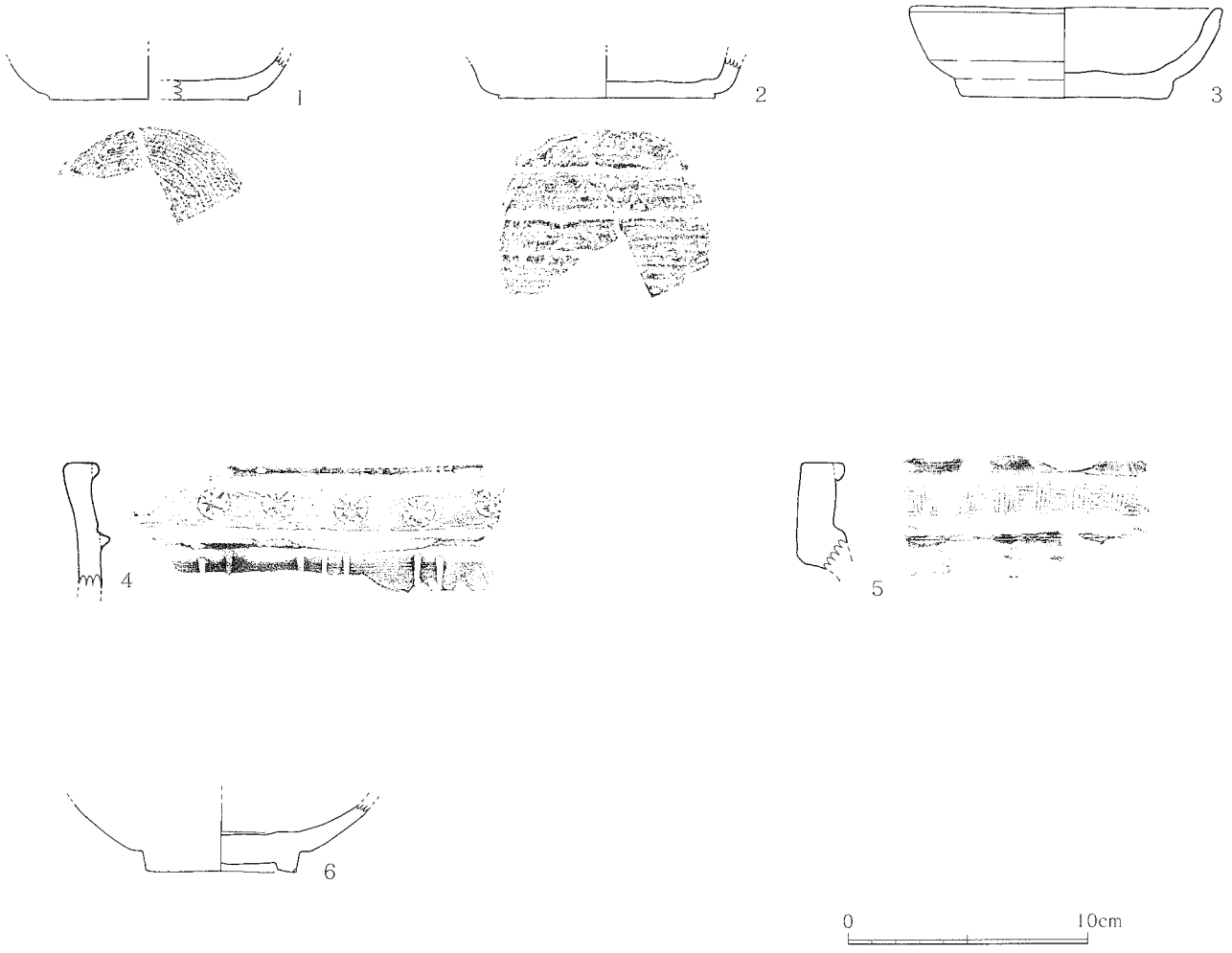
第102図　A区　SD－02内出土遺物実測図

SI－06（6住居跡）

遺構（第100図）

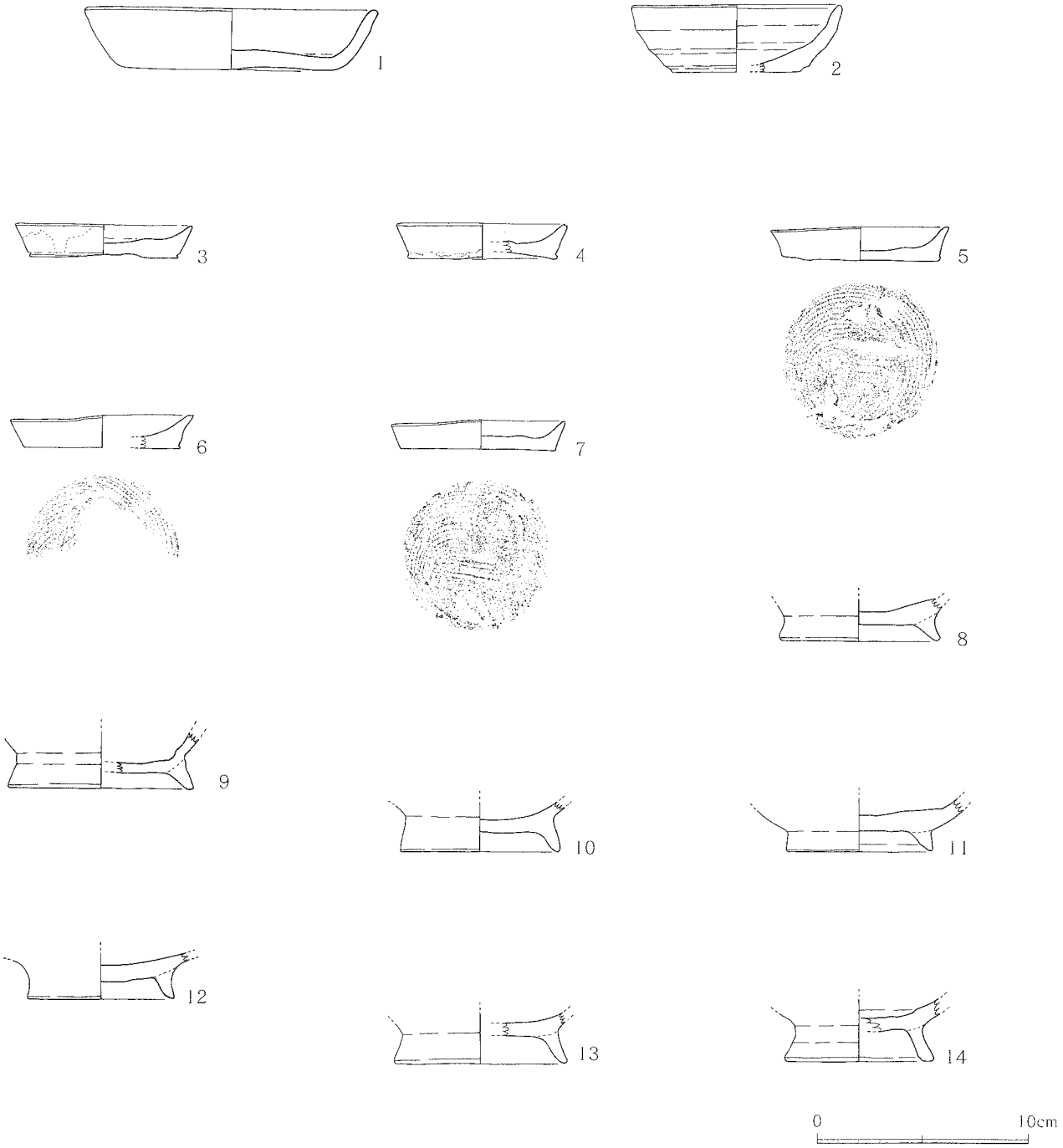
C調査区のAL～AM－30～31のグリッドにかけて検出した竪穴住居跡である。遺構は、5号住居跡を切っていることから、5号住居跡より新しい。住居跡の規模は、長辺が2.52mで短辺が2.22mの不整方形を呈している。深さは、0.14mと浅くかなり削平を受けている。柱穴は、3本検出できたことから4本柱の住居跡と考えられる。カマドは確認できず、また床の硬化面も残っていなかった。

遺構内からは、少量ではあるが土師器や須恵器が出土しており、遺物の特徴から古代の住居跡と考えられるが、殆どが小片のため図化できたものは無かった。



第103図　A区　一括遺物実測図　（中世）

第104図　B区　SI－02内出土遺物実測図



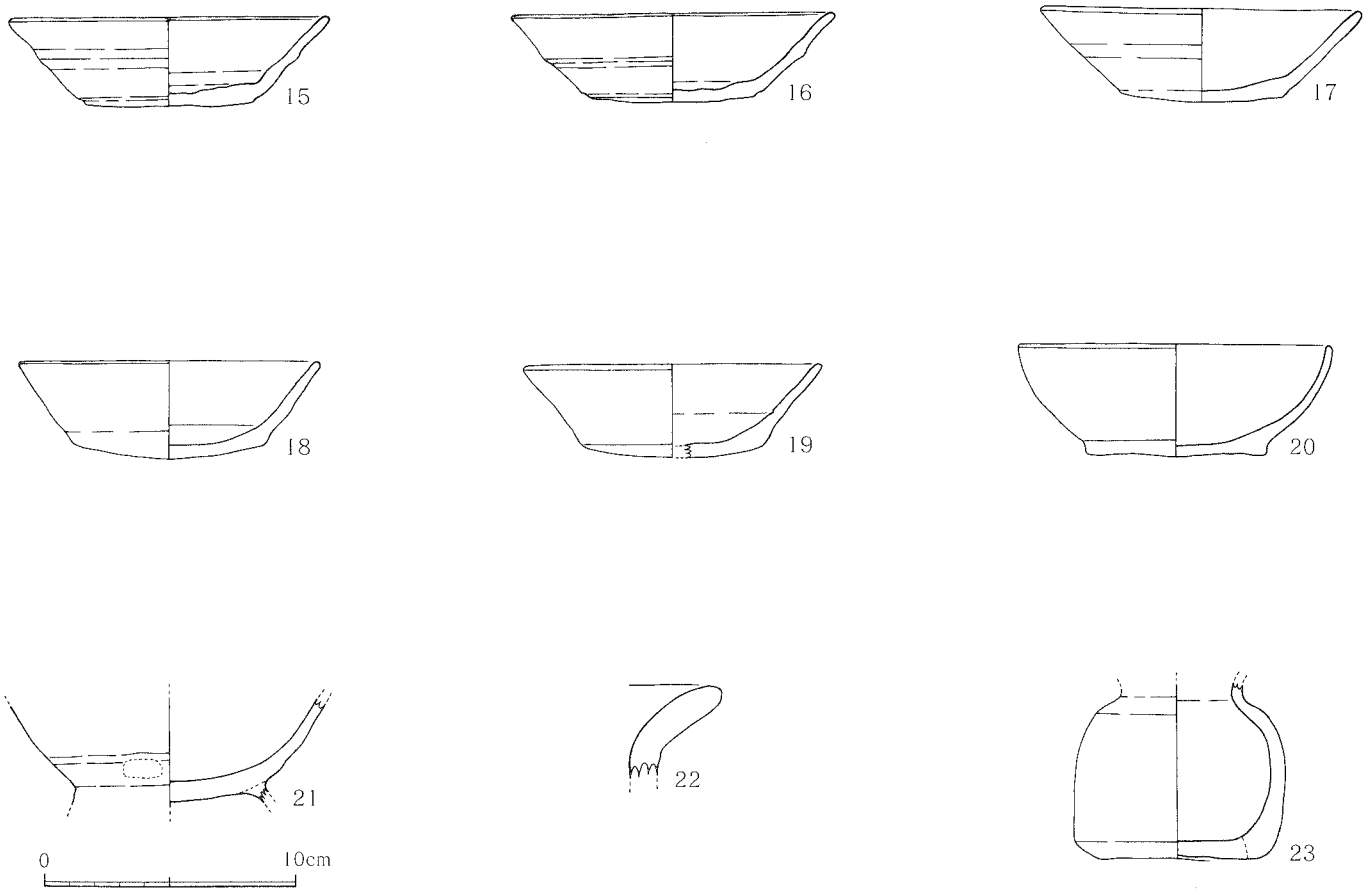
第105図　B区　一括遺物実測図　（中世）

SD－64（64号溝）

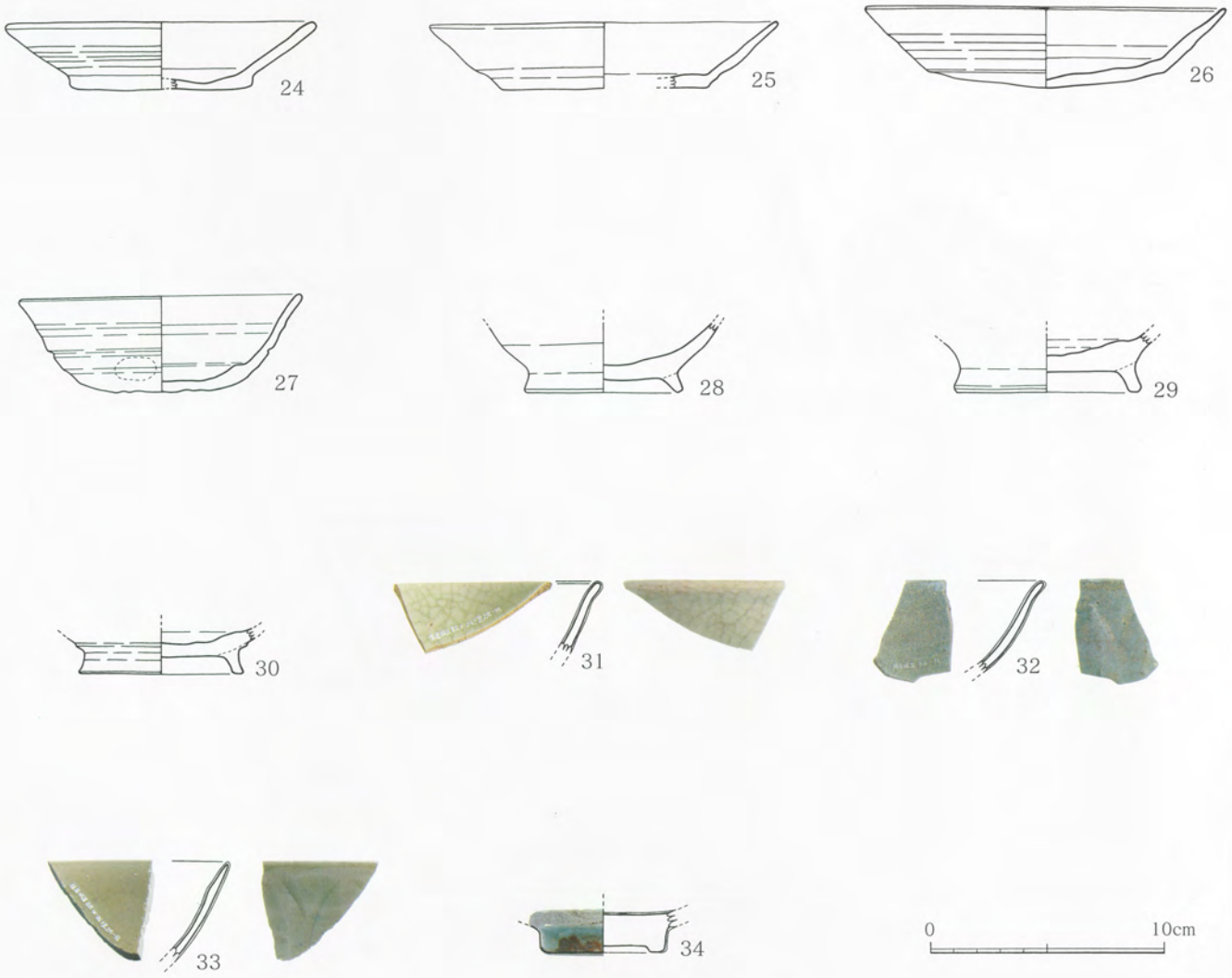
遺構（第101図）

C調査区のAM～AS－28～30のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、主軸を東西方向に取り掘られており、ほぼ一直線である。遺構は、東側と西側部分が調査区外へ延びることから、全長は不明であるが、37.8m分を検出している。溝の幅は、0.95mから広い部分で1.47mを測る。深さは、0.18mを測り、溝の断面は浅いため皿形を呈している。

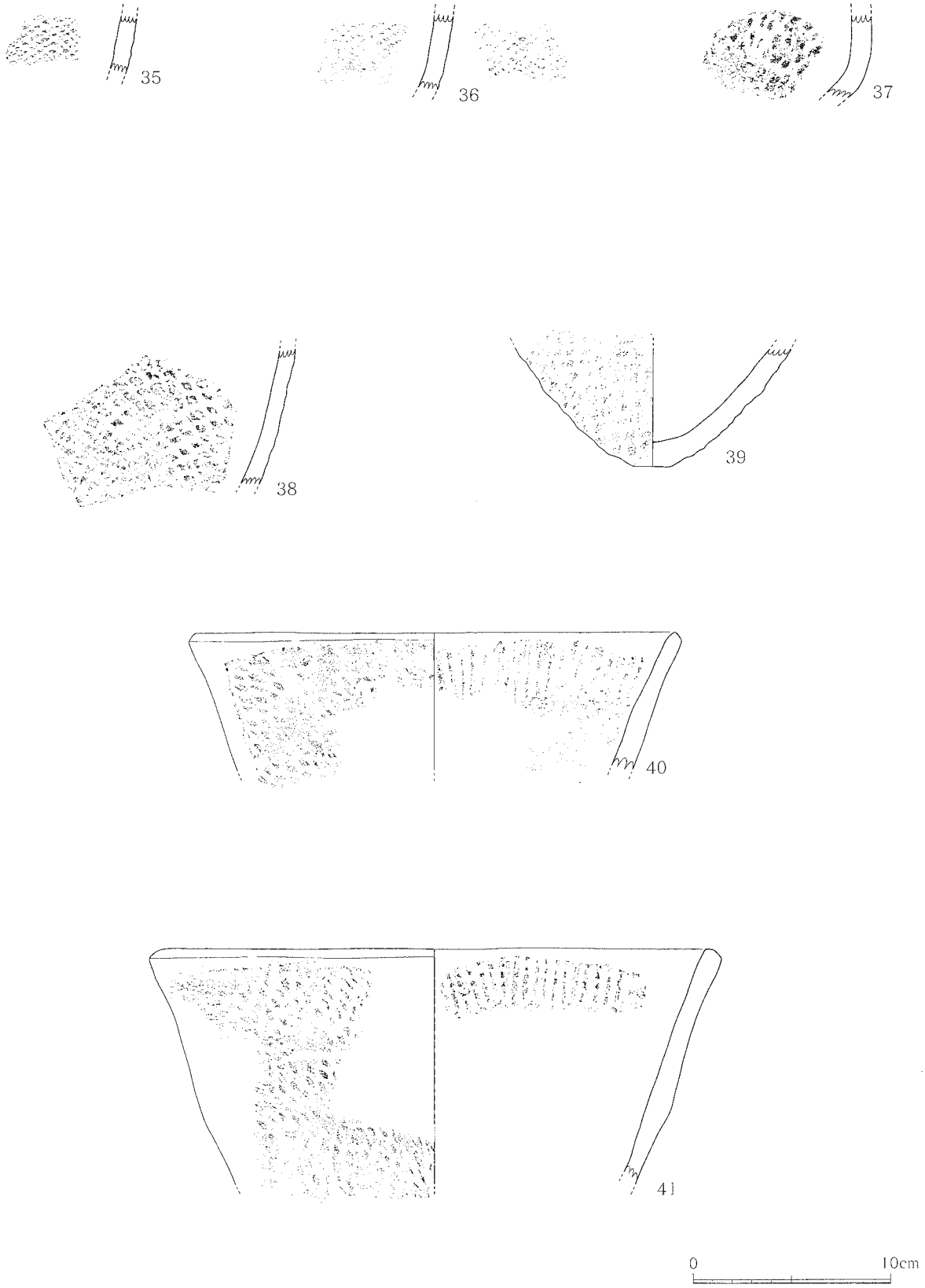
遺構内からは、中世期の遺物が少量出土しており、殆どが小片のため図化できたものは少なかった。



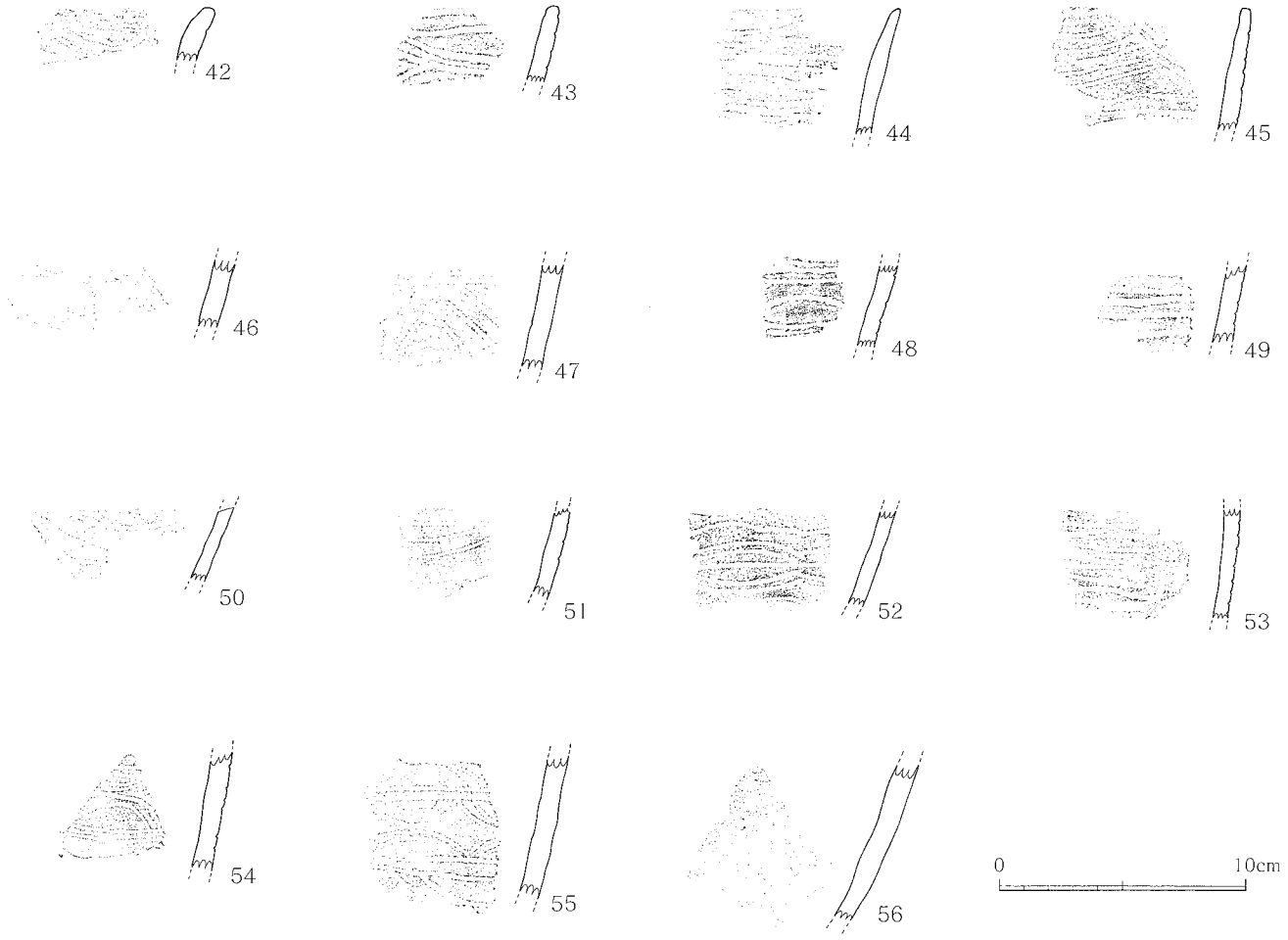
第106図　B区　一括遺物実測図　（中世）



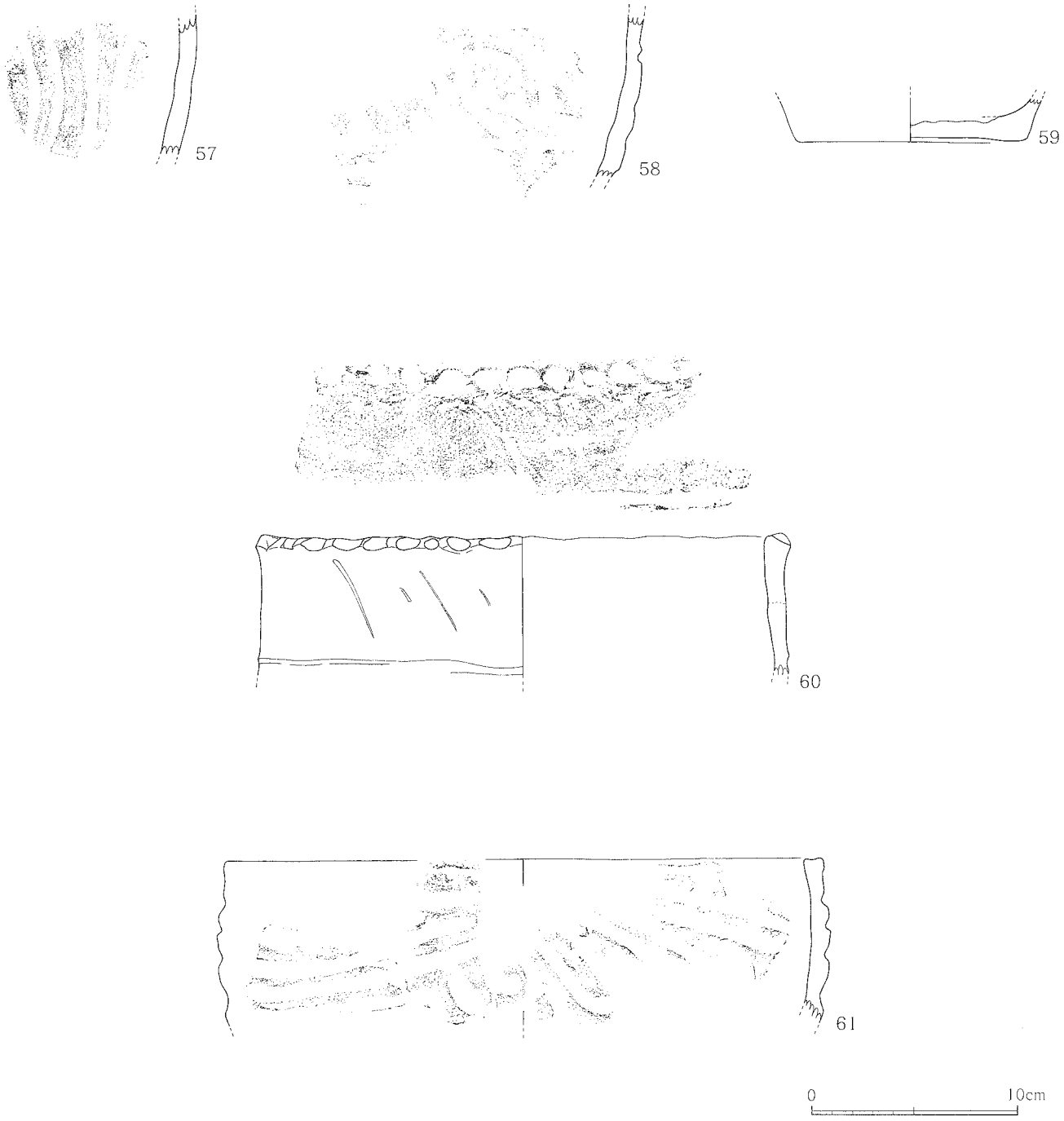
第107図　B区　一括遺物実測図　（中世）



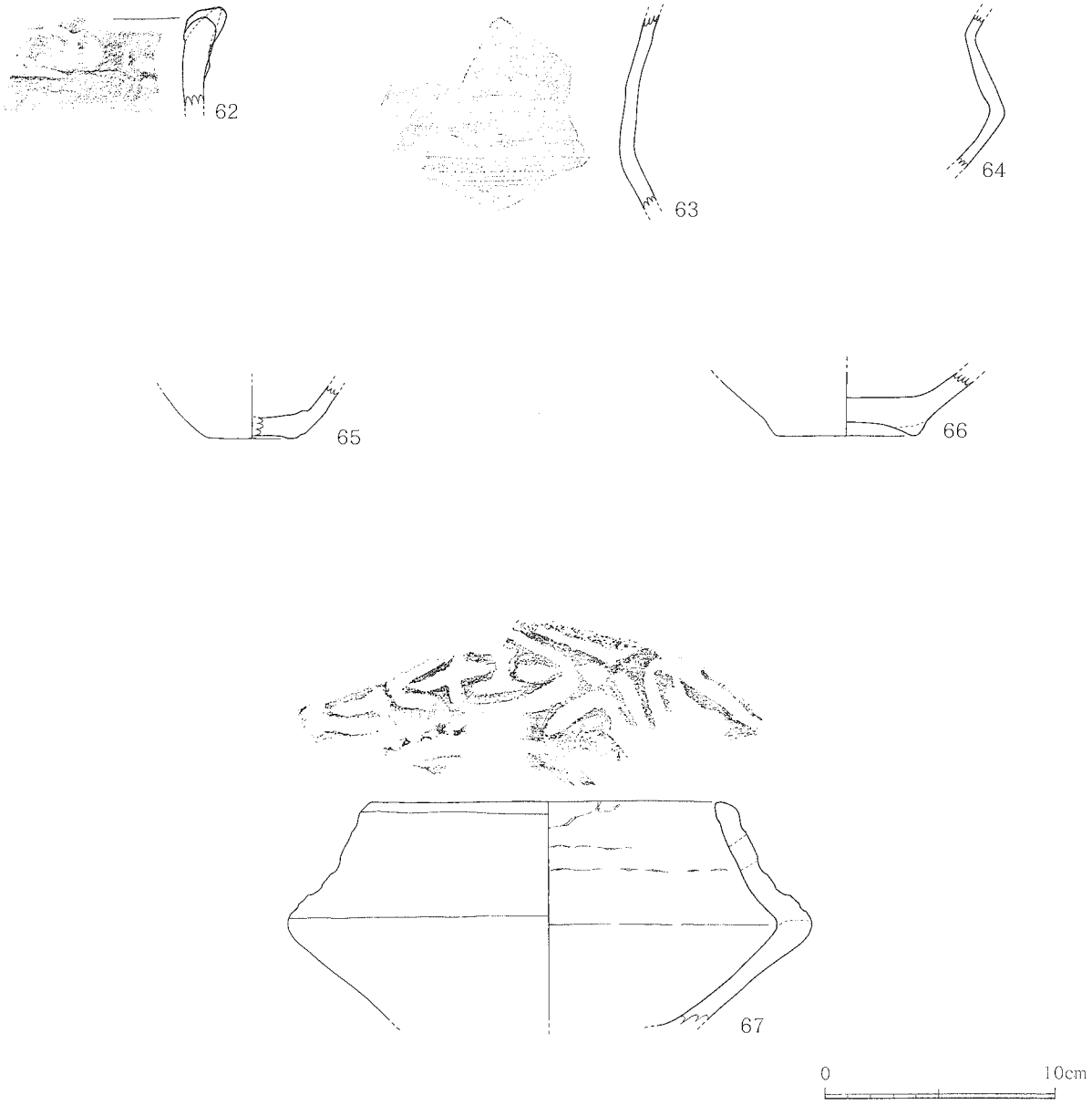
第108図　B区　一括遺物実測図　（縄文）



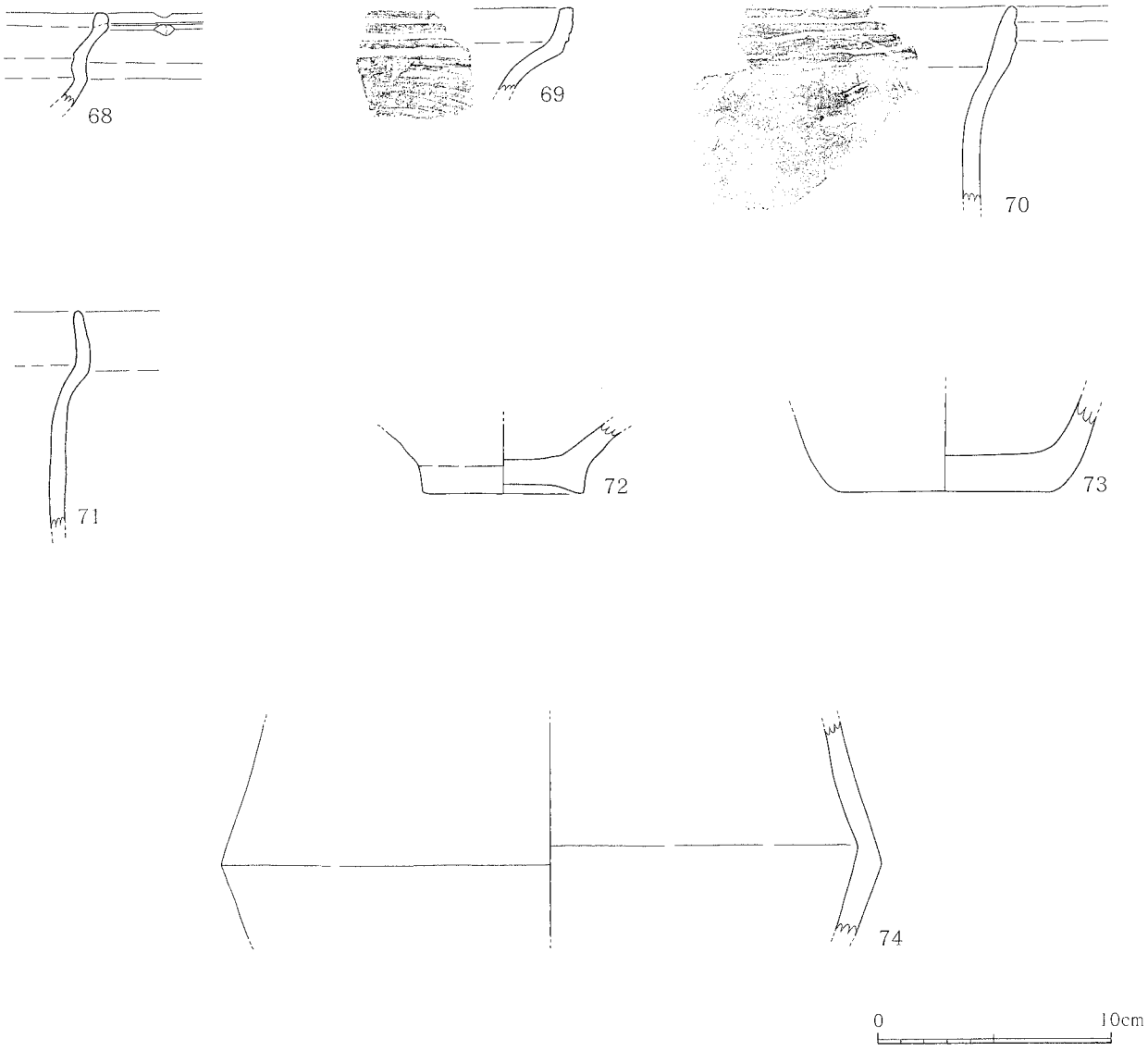
第109図　B区　一括遺物実測図　（縄文）



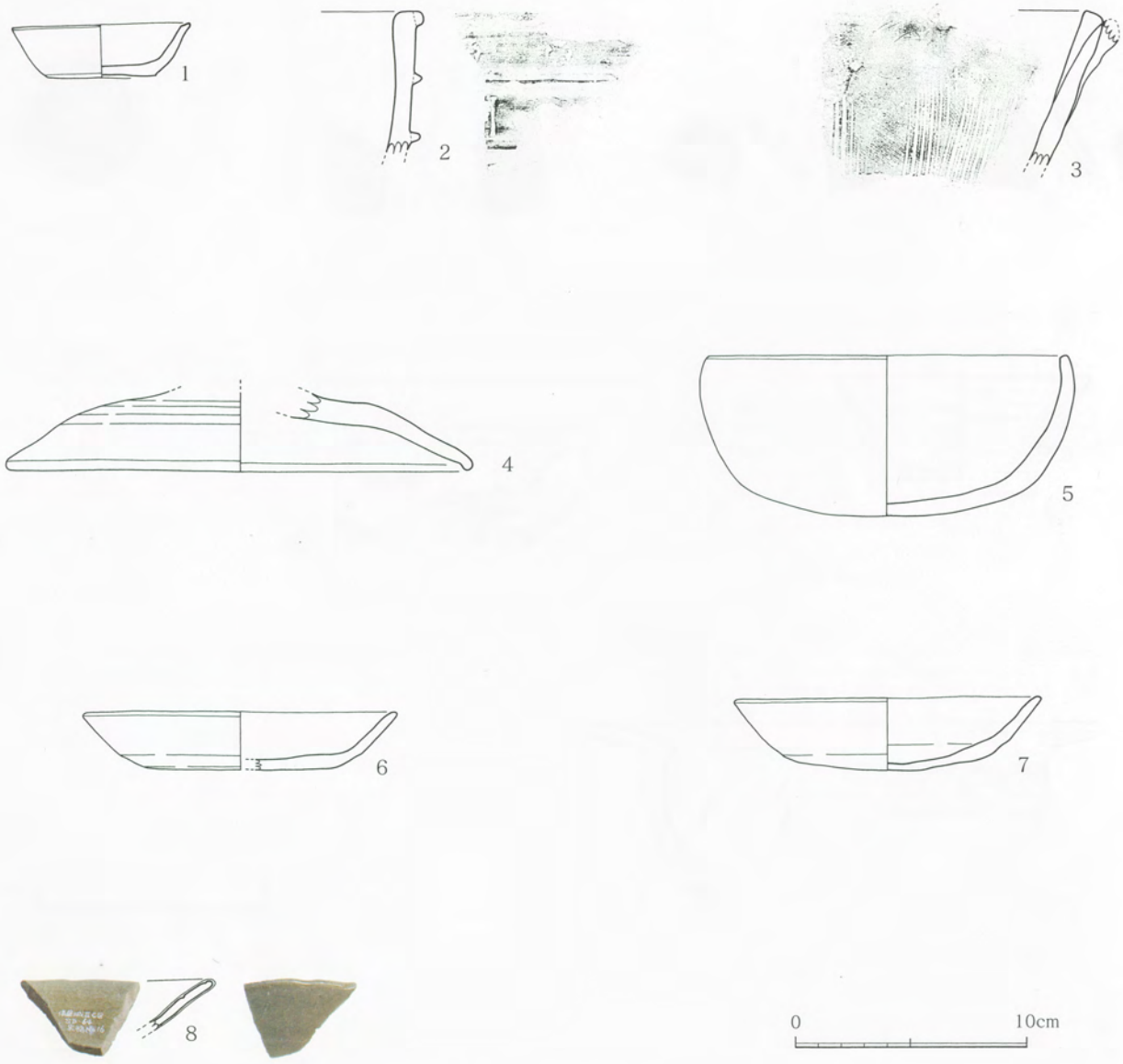
第110図　B区　一括遺物実測図　（縄文）



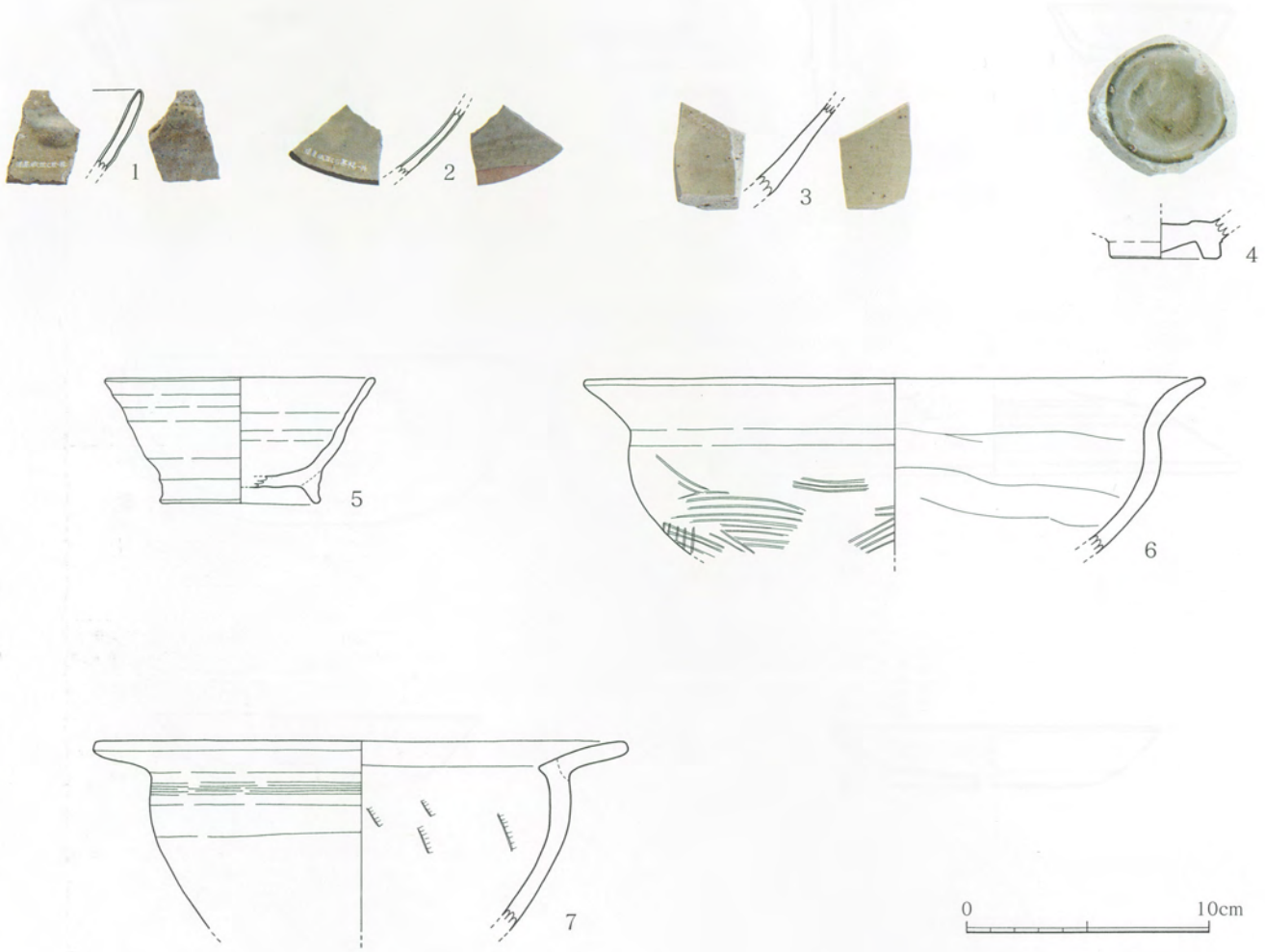
第111図　B区　一括遺物実測図　（縄文）



第112図　B区　一括遺物実測図　（縄文）



第113図　C区　一括遺物実測図　（中世・古代）



第114図　C区　一括遺物実測図　（中世・古代・弥生）

第19表

syjⅢ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　A区　SD－02内出土遺物 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第102図 1 syjⅢ42	土師器 坏	現存高　1.7 底径　(8.0)	体部下位より内湾気味に立ち上がる。底部は厚い。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少） 黒色微粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（少）	普通	回転ナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向のやや強いナデ。 にぶい黄橙色
第102図 2 syjⅢ15	土師器 坏	口径（10.2） 器高　2.5 底径　(6.8)	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みは渦状の成形痕を残す。 にぶい黄橙色
第102図 3 syjⅢ77	土師器 皿	口径　8.2 器高　2.0 底径　6.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 にぶい橙色
第102図 4 syjⅢ14	土師器 皿	口径　(8.0) 器高　1.8 底径　(5.8)	体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 にぶい褐色
第102図 5 syjⅢ45	黒色土器 椀	現存高　1.2 底径　7.8	底部はやや厚みがある。黒色土器A類。内面にカーボンを吸着。内黒。古代。	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 雲母（少）長石粒（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 黒褐色
第102図 6 syjⅢ49	瓦質土器 鉢	口径（14.0） 現存高　4.2	体部は僅かに開きながら直線的に立ち上がる。口唇部は丸く肥厚し、刻み目を施す。口縁部下に竹管文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（少）小石粒（少） 雲母（少）	良	回転ナデ後横方向のヘラミガキ。口縁上端もヘラミガキ。 オリーブ黒色	回転ナデ後斜め方向のヘラミガキ。 灰色
第102図 7 syjⅢ64	瓦質土器 羽釜	現存高　6.1	体部外面に鍔を貼り付ける	細砂粒（少）砂粒（少） 小石粒（少）雲母（少）	良	回転ナデ。 暗灰黄色	回転ヘラケズリ。 オリーブ褐色
第102図 8 syjⅢ78	瓦質土器 羽釜	現存高　6.6	口縁部外面に鍔を貼り付ける。	細砂粒（少）雲母（少）	良	口縁部周辺は回転ナデ。鍔以下は横及び斜め方向のナデ。 にぶい黄褐色	回転ナデ後一部ヘラミガキ。 にぶい黄褐色
第102図 9 syjⅢ72	須恵質 壺	現存高　4.8	肩部外面にクシ状工具による文様を施す。壺と思われるが、残りが少ない為、詳細は不明。傾きは正確ではない。	細砂粒（少） 白色微粒子（少）	良	クシ状工具使用の横方向の調整後施文。 灰色	回転ナデ。 灰黄褐色
第102図 10 syjⅢ66	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.4	体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸味を持つ。体部外面に片切り彫りによる鎬蓮弁を施す。上田氏分類の青磁碗B－Ⅰ類、14世紀前後。	白灰色 やや粗質	良	施釉。釉はガラス質で透明感がある。貫入が入る。 灰緑色	施釉。釉はガラス質で透明感がある。貫入が入る。 灰緑色
第102図 11 syjⅢ2	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.5	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。体部外面に片切り彫りによる鎬蓮弁を施す。上田氏分類の青磁碗B－Ⅰ類、14世紀前後。	灰白色 黒色微粒子（少） やや良質	良	施釉。釉は半透明、ガラス質で均等に掛かる。 灰緑色	施釉。釉は半透明、ガラス質で均等に掛かる。 灰緑色
第102図 12 syjⅢ1	白磁碗 輸入磁器	現存高　3.7	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は屈折し、上端は水平になる。端部内面には稜が付き、外方は尖り気味になる。内面にクシ目文を施す。大宰府編年の白磁碗Ⅴ－4b類、12世紀中頃～後半。	灰白色 やや良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。 黄灰白色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。 黄灰白色

第20表

syjⅢ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　A区　一括遺物（中世） 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第103図 1 syjⅢ46	土師器 皿or坏	現存高　1.8 底径　(8.2)	AA－47グリッド 体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がる。	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 雲母（少）	良	回転ナデ後縦方向のナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。 橙色
第103図 2 syjⅢ51	土師器 坏	現存高　1.8 底径　(9.2)	AA－47グリッド 体部下位より斜め上方に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多）白色粒子（少）	良	底部は回転糸切り後板目圧痕あり。 黄橙色	ナデ。 黄橙色

第20表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　A区　一括遺物（中世） 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第103図 3 syj Ⅲ76	土師器 坏	口径（12.4） 器高　3.7 底径　（8.6）	AA−4グリッド 体部下位に丸味を持ち、その後、開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。底部は高台状になる。内外面共器面荒れの為、詳細は不明。	細砂粒（多）小石粒（少） 赤褐色斑（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 浅黄橙色	見込みは一方向の軽いナデ。 浅黄橙色
第103図 4 syj Ⅲ58	瓦質土器 火鉢	現存高　5.2	A区　一括 口縁部は肥厚する。体部外面に凸帯を貼り付け、口縁部との間に菊花文のスタンプ、凸帯の下には連子状文のスタンプを、それぞれ連続して押す。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）小石粒（少） 赤褐色斑（少）雲母（少）	良	回転ナデ。凸帯の直上はヘラ状工具使用の横方向の調整。 暗灰黄色	口縁部は回転ナデ。体部は斜め方向のハケ目。 にぶい黄橙色
第103図 5 syj Ⅲ55	瓦質土器 風炉	現存高　4.5	A区　一括 口縁部は肥厚する。頸部に連続してスタンプを押す	細砂粒（多）小石粒（少） 赤褐色斑（少） 黒色粒子（少）	良	回転ナデ。 にぶい黄褐色	回転ナデ にぶい黄褐色
第103図 6 syj Ⅲ4	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.0 底径　（6.2）	A区　一括 体部下位より内湾気味に開きながら立ち上がる。高台内の削りは浅く、底部は厚い。体部外面に片切り彫りによる鎬蓮弁文を施す。高台外端に刻み目が連続して入る。上田氏分類の青磁碗B−1類、14世紀前後	黄褐色 やや粗質	良	施釉。釉は半透明、ガラス質で薄く均等に掛かる。細かい貫入が入る。高台畳付けから高台内を露胎とする。 オリーブ黄色	施釉。釉は半透明、ガラス質で薄く均等に掛かる。細かい貫入が入る オリーブ黄色

第21表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　B区　SI−02内出土遺物 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第104図 1 syj Ⅲ27	土師器 台付椀	高台高　1.5 現存高　3.5 底径　7.4	体部は直線的に開きながら立ち上がる。底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。古代	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ　底部はナデ 浅黄橙色	ナデ。見込みは一方向のナデ 浅黄橙色
第104図 2 syj Ⅲ33	須恵器 坏	口径　12.0 器高　4.1	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部は丸底気味になる。口縁部内外面にカーボンが付着。古代	細砂粒（多）白色粒子（少） 黒色粒子（少）	良	回転ナデ　底部は回転ヘラ切り後ナデ 灰黄色	回転ナデ。見込みは軽いナデ 浅黄色

第22表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　B区　一括遺物（中世） 特徴	胎土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第105図 1 syj Ⅲ54	土師器 坏	口径（13.6） 器高　2.9 底径（10.0）	Y−25グリッド、黒褐色土層 体部下位で丸味を持ち、その後、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。内外面共、器面荒れの為、底部の様子等は不明瞭。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（少）	普通	回転ナデ。底部は回転糸切り 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。回転による成形時の凹凸を残す にぶい黄橙色
第105図 2 syj Ⅲ17	土師器 坏	口径　（9.8） 器高　3.2 底径　（6.0）	AC−31グリッド、黒褐色土層 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。内外面の一部にカーボンが付着。	細砂粒（少）角閃石（少）	良	回転ナデ。 にぶい橙色とにぶい褐色 切り離し技法は不明	回転ナデ。 にぶい褐色
第105図 3 syj Ⅲ47	土師器 皿	口径　（8.4） 器高　1.6 底径　（7.0）	V−25グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。	細砂粒（少）角閃石（少）	良	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。底部は回転糸切り 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽く粗いナデ。 橙色
第105図 4 syj Ⅲ52	土師器 皿	口径　（8.0） 器高　1.6 底径　（7.2）	V−25グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。全体的に歪む	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。下位に指頭圧痕あり。 橙色	回転ナデ 橙色

第22表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　B区　一括遺物（中世、古代） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第105図 5 syj Ⅲ30	土師器 皿	口径　8.7 器高　1.6 底径　7.7	V−25グリッド、黒褐色土層 体部はやや外反気味に、僅かに開きながら立ち上がる。口縁端部は尖る。	細砂粒（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。体部近くの底部に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。渦状の成形痕が残る。 にぶい橙色
第105図 6 syj Ⅲ19	土師器 皿	口径　(8.6) 器高　1.6 底径　(7.5)	V−25グリッド、黒褐色土層 体部はやや外反気味に、僅かに開きながら立ち上がる。口縁端部は尖る。	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 角閃石（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 橙色	回転ナデ。 橙色
第105図 7 syj Ⅲ25	土師器 皿	口径　8.3 器高　1.4 底径　7.3	縄文調査 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 角閃石（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 にぶい橙色
第105図 8 syj Ⅲ35	土師器 台付椀	高台高　1.1 現存高　2.0 底径　7.6	AB−31グリッド、黒褐色土層 底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。高台はやや高めになる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少） 角閃石（0.1程度、少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 にぶい褐色	見込みは回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい褐色
第105図 9 syj Ⅲ38	土師器 台付椀	高台高　1.1 現存高　2.7 底径　7.6	AC−31グリッド、黒褐色土層 底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。高台はやや高めになる。古代。	細砂粒（少）小石粒（少） 雲母（少）長石（少）	良	回転ナデ。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 橙色
第105図 10 syj Ⅲ32	土師器 台付椀	高台高　1.7 現存高　2.4 底径　7.3	AC−32グリッド、黒褐色土層 底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。高台はやや高めになる。古代。	細砂粒（少）小石粒（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 にぶい黄橙色	不定方向のナデ。 にぶい黄橙色
第105図 11 syj Ⅲ37	土師器 台付椀 or坏	高台高　0.9 現存高　2.5 底径　7.0	Y−26グリッド、黒褐色土層 底部外面に、端部が開くように、高台を貼り付ける。内面見込みに赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少）	良	回転ナデ。高台内は指押さえ。 にぶい橙色	見込みは不定方向のヘラミガキ。 褐色
第105図 12 syj Ⅲ34	土師器 台付椀 or坏	高台高　1.4 現存高　2.2 底径　6.8	AC−31グリッド、黒褐色土層 底部外面に、端部が開くように、高台を貼り付ける。高台は僅かに外反する。古代。	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 浅黄橙色
第105図 13 syj Ⅲ36	土師器 台付椀 or坏	高台高　1.5 現存高　2.3 底径　8.0	黒褐色土層一括 底部外面に、端部が開くように、高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（少）小石粒（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 浅黄橙色	不定方向のナデ。 浅黄橙色
第105図 14 syj Ⅲ39	土師器 台付椀	高台高　1.7 現存高　3.0 底径　7.0	X−26グリッド、黒褐色土層 底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。高台は高い。古代。	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。 明赤褐色 残りが少ない為、切り離し技法等は不明。	ナデ。 明赤褐色
第106図 15 syj Ⅲ62	土師器 坏	口径　12.6 器高　3.5 底径　6.8	AC−29グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面中位に稜が入る。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）白色粒子（少） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り。 にぶい橙色と橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。回転による成形時の凹凸を残す にぶい橙色と明赤褐色
第106図 16 syj Ⅲ59	土師器 坏	口径　12.6 器高　3.5 底径　6.5	黒褐色土層一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部外面中位に稜が入る。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）白色粒子（少） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切りで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 明赤褐色
第106図 17 syj Ⅲ20	土師器 坏	口径　12.8 器高　3.8 底径　6.3	AC−29グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部はやや丸味を帯びる。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後一方向のナデ。 橙色	回転ナデ。見込みは不定方向のナデ 橙色
第106図 18 syj Ⅲ61	土師器 坏	口径　(11.6) 器高　3.9 底径　(7.6)	AB−27グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部は丸味を帯びる。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 黒色粒子（多）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色 底部切り離し痕は不明瞭。	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 にぶい橙色
第106図 19 syj Ⅲ23	土師器 坏	口径　(11.8) 器高　3.7 底径　(7.2)	Z−29グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部はやや丸味を帯びる。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 橙色 底部切り離し痕は不明瞭。	回転ナデ。見込みは不定方向のナデ。 橙色

第22表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　B区　一括遺物（中世、古代） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第106図 20 syj Ⅲ63	黒色土器 椀	口径（12.0） 器高　4.5 底径　7.2	AC－31グリッド、黒褐色土層 体部は内湾し、開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。底部は高台状になる。黒色土器A類。内面と口縁部外面にカーボンを吸着。内黒。古代。	細砂粒（多） 雲母（内面、多）	良	体部下位から中位は縦方向のヘラミガキ。口縁部周辺は横方向のヘラミガキ。底部は回転ヘラ切り後一方向のナデ。 にぶい黄橙色と口縁部周辺は黒褐色	体部は横方向のヘラミガキ。見込みは不定方向のヘラミガキ。 黒褐色
第106図 21 syj Ⅲ79	土師器 台付椀	高台径　7.5 現存高　3.8	AB－29グリッド、黒褐色土層 体部は内湾し、開きながら立ち上がる。底部外面に高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、少） 赤褐色斑（少） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後不定方向のナデ。体部下位に指頭圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みは不定方向のナデ。 にぶい黄橙色
第106図 22 syj Ⅲ57	土師器 甕	現存高　3.7	AB－29グリッド、黒褐色土層 口縁部は開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）白色粒子（少） 角閃石（少）	良	横ナデ。 にぶい褐色	横ナデ。 にぶい褐色
第106図 23 syj Ⅲ29	土師質 小型壺	頸部径　4.8 胴径　8.3 現存高　7.0 底径　6.2	AC－29グリッド、黒褐色土層 胴部は僅かに内湾気味に上方へ立ち上がる。肩部は内傾する。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1程度、多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り。 にぶい黄橙色	回転ナデ。底部は回転による成形時の凹凸を残す。 にぶい黄橙色
第107図 24 syj Ⅲ65	須恵器 坏	口径（13.0） 器高　2.9 底径　（7.8）	AB－31グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部丸味を持つ。古代。	細砂粒（少）砂粒（少） 白色粒子（少）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部は回転ヘラ切り 黄灰色	回転ナデ。 黄灰色
第107図 25 syj Ⅲ18	須恵器 坏	口径（14.8） 器高　2.8 底径　（8.6）	X－26グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部丸味を持つ。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3程度、微量） 白色粒子（多） 黒色粒子（多）雲母（少）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデ。 灰オリーブ色 残りが少ない為、切り離し技法等は不明。	回転ナデ。 灰オリーブ色
第107図 26 syj Ⅲ67	須恵器 坏	口径（15.6） 器高　3.5 底径（10.2）	X－26グリッド、ピット1、黒褐色土層 体部は直線的に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部丸味を持つ。底部は凸状になる。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）赤褐色斑（少） 白色粒子（多）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部は切り離し後ナデ。 黒褐色 切り離し技法はナデを施している為、不明。	回転ナデ。見込みは粗いナデ。 灰黄褐色
第107図 27 syj Ⅲ31	須恵器 椀	口径　12.0 器高　4.1	Y－25グリッド、黒褐色土層 体部下位で丸味を持ち、その後、直線的に開きながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。口縁端部は丸くなる。体部内外面にカーボンが付着。古代。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部に板目圧痕あり。体部下位に指頭圧痕あり。 暗灰黄色	回転ナデ。底部は一方向のナデ。体部下位に指頭圧痕あり。 灰黄色
第107図 28 syj Ⅲ73	須恵器 台付椀	高台高　1.7 現存高　3.0 底径　7.0	AC－30グリッド、黒褐色土層 体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り。 灰白色	回転ナデ。底部は一方向のナデ。回転による成形時の凹凸を残す。 灰白色
第107図 29 syj Ⅲ26	須恵器 台付椀	高台高　1.3 現存高　2.6 底径　8.0	黒褐色土層一括 底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少）	普通	回転ナデ。底部は回転ナデ。 灰黄色	回転ナデ。底部は不定方向のナデ。 灰黄色
第107図 30 syj Ⅲ28	須恵器 台付椀	高台高　1.0 現存高　1.9 底径　（7.0） 底径　（5.8）	AC－30グリッド、黒褐色土層 底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（多）黒色粒子（少）	普通	回転ナデ。底部は回転ナデ。 灰オリーブ色	回転ナデ。底部は一方方向の粗いナデ。 灰黄色
第107図 31 syj Ⅲ5	青磁椀 輸入磁器	現存高　3.1	X－24グリッド、黒褐色土層 口縁部は外反し端部は丸くなる。上田氏分類の青磁椀D類。14世紀中頃～15世紀前後。	黄白色 やや良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。 緑白色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。 緑白色
第107図 32 syj Ⅲ7	青磁椀 輸入磁器	現存高　3.8	黒褐色土層一括 外面に鎬蓮弁を施す。口縁端部は丸味を持つ。上田氏分類の青磁椀B－1類。14世紀前後。	白灰色 やや良質	良	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。 白緑色	施釉。釉は均等に掛かる。透明感は無い。貫入が入る。 白緑色

第22表

syj Ⅲ…は実測番号

番号	器種	法量（cm）	皿次調査　B区　一括遺物（中世、縄文） 特徴	胎土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第107図 33 syj Ⅲ6	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.3	W－26グリッド、黒褐色土層 外面に片切り彫りによる鎬蓮弁を施す。口縁端部は丸味を持つ。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅱ類。13世紀前後～前半。	灰色 良質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。 灰オリーブ色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。 灰オリーブ色
第107図 34 syj Ⅲ3	青磁碗 輸入磁器	高台径　5.4 高台高　1.0 現存高　1.8 底径　　5.4	AC－30グリッド、黒褐色土層 高台内の刳りは浅く、底部は厚い。高台は断面四角で高台外端を斜めに面取りする。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類。12世紀中頃～後半。	白灰色 緻密	良	施釉。釉は半透明、ガラス質で薄く均等に掛かる。大きめの貫入が入る。高台畳付けから高台内を露胎とする。 青緑色	施釉。釉は半透明、ガラス質で薄く均等に掛かる。大きめの貫入が入る。 青緑色
第108図 35 syj Ⅲ81	縄文早期 深鉢	現存高　2.8	縄文調査 外面に楕円文を施す。押し型文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（少）角閃石（少） 長石（少）	良	橙色	ナデ。 にぶい黄橙色
第108図 36 syj Ⅲ82	縄文早期 深鉢	現存高　3.8	X－28グリッド、黒褐色土層 内外面に楕円文を施す。押し型文土器。口縁部近くの胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.1～0.3、少） 白色粒子（多）角閃石（少） 長石（少）	良	にぶい黄橙色	楕円文下方はナデ。 にぶい黄橙色
第108図 37 syj Ⅲ83	縄文早期 深鉢	現存高　3.5	AA－27グリッド、黒褐色土層 外面に楕円文を施す。押し型文土器。底部近くの胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.1～0.5、少） 白色粒子（多） 長石（0.1～0.4、多）	良	にぶい黄橙色	ナデ。 にぶい褐色
第108図 38 syj Ⅲ108	縄文早期 深鉢	現存高　6.7	縄文調査、Z－29グリッド 外面に楕円文を施す。押し型文土器。底部近くの胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.6、多） 角閃石（少） 長石（0.2～0.3、多）	良	にぶい黄橙色	ナデ。 にぶい橙色
第108図 39 syj Ⅲ104	縄文早期 深鉢	現存高　6.0 底径　　1.8	縄文調査、Y－29、Z－29グリッド 底部より開きながら立ち上がる。外面に楕円文を施す。底部は尖底。押し型文土器。底部から胴部下半。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.8、多） 白色粒子（多） 角閃石（少） 長石（0.2～0.4、多）	良	にぶい橙色	ナデ。 浅黄色
第108図 40 syj Ⅲ105	縄文早期 深鉢	口径（24.2） 現存高　7.0	縄文調査、Z－27、28グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。外面に押し型文、口縁部内面に原体条痕を施す。押し型文土器。口縁部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、多） 白色粒子（多） 長石（0.2程度、多）	良	褐色	原体条痕下方はナデ 褐色
第108図 41 syj Ⅲ106	縄文早期 深鉢	口径（27.4） 現存高11.9	縄文調査、Z－27、28、AA－27グリッド 黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。外面に押し型文、口縁部内面に原体条痕を施す。押し型文土器。口縁部から胴部上半。40と同一個体の可能性がある。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.5、多） 白色粒子（多）雲母（少） 長石（0.2～0.3、多）	良	褐色	原体条痕下方はナデ。 灰褐色
第109図 42 syj Ⅲ103	縄文前期 深鉢	現存高　2.2	黒褐色土層一括 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（少）雲母（多）	良	にぶい褐色	ナデ。 にぶい褐色
第109図 43 syj Ⅲ89	縄文前期 深鉢	現存高　3.2	AA－27グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。口縁部。傾きは正確ではない	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）	良	灰黄色	ナデ。 にぶい黄橙色
第109図 44 syj Ⅲ93	縄文前期 深鉢	現存高　5.1	Z－29グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。沈線文土器。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.5、少） 白色粒子（多）	良	にぶい褐色	ナデ。 にぶい褐色
第109図 45 syj Ⅲ88	縄文前期 深鉢	現存高　5.0	X－26グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	にぶい黄褐色	ナデ。 黒褐色
第109図 46 syj Ⅲ107	縄文前期 深鉢	現存高　2.7	AB－29、Y－27グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	にぶい黄橙色	ナデ。 にぶい褐色
第109図 47 syj Ⅲ94	縄文前期 深鉢	現存高　4.4	X－26グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（多） 雲母（多）	良	にぶい黄橙色	ナデ。 にぶい黄褐色

第22表

syjⅢ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査　B区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第109図 48 syjⅢ85	縄文前期 深鉢	現存高　3.3	Y−29グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少）	良	黄灰色	ナデ。 黒褐色
第109図 49 syjⅢ97	縄文前期 深鉢	現存高　3.2	黒褐色土層一括 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（少）雲母（少） 長石（少）	良	ナデ。 黒褐色	ナデ。 褐色
第109図 50 syjⅢ102	縄文前期 深鉢	現存高　3.0	AA−27グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（多）	良	ナデ。 にぶい褐色	ナデ。 にぶい橙色
第109図 51 syjⅢ91	縄文前期 深鉢	現存高　3.6	W−25グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（多）雲母（多）	良	ナデ。 灰黄褐色	ナデ。 灰黄褐色
第109図 52 syjⅢ86	縄文前期 深鉢	現存高　3.8	V−26グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文、内面に貝殻条痕文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（少） 雲母（多）	良	黒褐色	灰黄褐色
第109図 53 syjⅢ96	縄文前期 深鉢	現存高　4.5	Y−29グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）雲母（少）	良	ナデ。 褐色	ナデ。 にぶい褐色
第109図 54 syjⅢ87	縄文前期 深鉢	現存高　4.8	Y−29グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.3、少） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	黄褐色	ナデ。 黄褐色
第109図 55 syjⅢ84	縄文前期 深鉢	現存高　5.9	Z−30グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.3、多） 角閃石（多）雲母（多）	良	ナデ。 暗褐色	ナデ。 褐色
第109図 56 syjⅢ98	縄文前期 深鉢	現存高　6.3	Z−30グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。野口、阿多タイプ。沈線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 黒色粒子（多）角閃石（多） 雲母（多）	良	ナデ。 にぶい橙色	ナデ。 にぶい黄褐色とにぶい黄橙色
第110図 57 syjⅢ117	縄文中期 深鉢	現存高　6.8	縄文調査 外面に凹線文を施す。阿高式。凹線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少）角閃石（少） 雲母（少）長石粒（少）	良	指ナデ。 褐色	指ナデ。 褐色
第110図 58 syjⅢ111	縄文中期 深鉢	現存高　7.9	Y−27グリッド、黒褐色土層 外面に凹線文を施す。阿高式。凹線文土器。胴部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	ナデ。 褐色	ナデ。 にぶい褐色
第110図 59 syjⅢ101	縄文 中期？ 深鉢	現存高　2.1 底径（10.8）	AB−28グリッド、黒褐色土層 阿高式。底部片。残りが少ない為、詳細は不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.3、少） 白色粒子（多） 雲母（多）長石粒（多）	良	ナデ。 にぶい橙色	ナデ。 にぶい橙色
第110図 60 syjⅢ114	縄文中期 深鉢	口径（24.8） 現存高　6.7	Y−25グリッド、黒褐色土層 胴部は僅かに外反気味に立ち上がる。口縁部に円穴文、胴部外面に凹線文を施す。阿高式。凹線文土器。口縁部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少） 赤褐色斑（少） 白色粒子（多）	良	ナデ後縦方向のハケ目。 灰褐色	ナデ。 にぶい赤褐色
第110図 61 syjⅢ113	縄文中期 深鉢	口径（29.0） 現存高　8.0	Y−27グリッド、黒褐色土層 胴部はやや内湾気味に立ち上がる。外面に凹線文を施す。阿高式。凹線文土器。口縁部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、少） 雲母（少）	良	ナデ後凹線文。 暗褐色とにぶい褐色	指ナデ。 にぶい褐色
第111図 62 syjⅢ116	縄文後期 深鉢	現存高　4.3	AC−29グリッド、黒褐色土層 口縁部外面に凹線文を施す。阿高系。凹線文土器。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、多） 雲母（少）石英（多）	良	ナデとヘラ削り。 にぶい橙色	ナデ。 にぶい橙色
第111図 63 syjⅢ109	縄文後期 浅鉢	現存高　8.5	V−28グリッド、ピット1、黒褐色土層 頸部から下の横位の沈線間に、短沈線による三角文を施す。胴部片。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、多） 雲母（少）	良	ミガキ。 黒褐色と灰褐色	ミガキ。 にぶい黄橙色

第22表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅲ次調査　B区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第111図 64 syj Ⅲ110	縄文後期 鉢	現存高　6.7	W－24グリッド、黒褐色土層 胴部は「く」字状に屈折する。黒色磨研土器。胴部片。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（多）	良	ミガキ。 黒褐色	横ナデ。 褐灰色
第111図 65 syj Ⅲ100	縄文後期 浅鉢	底径　(2.0)	黒褐色土層一括 底部より開きながら立ち上がる。底部片。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.6、少） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（多）	良	ミガキ、底部はナデ。 にぶい黄橙色	ミガキ。 にぶい赤褐色
第111図 66 syj Ⅲ80	縄文後期 浅鉢	底径　(6.2)	黒褐色土層一括 底部より開きながら立ち上がる。底部は上げ底になる。底部片。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	ミガキ。 橙色	ナデ。 にぶい黄橙色
第111図 67 syj Ⅲ112	縄文後期 初頭　鉢	口径（15.4） 胴径（23.0） 現存高　9.7	AB－28グリッド 胴部中位で「く」字状に屈折し、上半に円線文を施す。口縁部下に凸帯を貼り付ける。南福寺式or出水式。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少）雲母（少） 長石粒（多）	良	ミガキ。 橙色	ナデ。 にぶい橙色
第112図 68 syj Ⅲ43	縄文後期 浅鉢	現存高　4.1	Y－27グリッド、黒褐色土層 胴部から頸部にかけて屈折し、口縁部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（多）雲母（多）	良	ミガキ。 黒褐色と灰黄褐色	ミガキ。 黒褐色
第112図 69 syj Ⅲ90	縄文晩期 深鉢	現存高　3.5	黒褐色土層一括 頸部は外反し、口縁部は上方へ立ち上がる。口縁部の文様帯に横位に三条の平行沈線を施す。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（多）角閃石（少） 石英（少）	良	ミガキ。 にぶい赤褐色	ナデ。 にぶい橙色
第112図 70 syj Ⅲ95	縄文晩期 深鉢	現存高　8.6	AA－30グリッド、黒褐色土層 頸部は外反し、口縁部は上方へ立ち上がる。口縁部の文様帯に横位に三条の平行沈線を施す。口縁部から頸部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多） 赤褐色斑（少） 角閃石（多）雲母（少）	良	ナデ。 にぶい黄橙色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第112図 71 syj Ⅲ75	縄文晩期 深鉢	現存高　9.3	Y－26グリッド、黒褐色土層 頸部は直線的に立ち上がり、口縁部下で外反する。口縁部に帯部を持つが無文になる。口縁部から頸部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少）角閃石（多）	良	頸部はミガキ、口縁部は横ナデ。 にぶい黄橙色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第112図 72 syj Ⅲ74	縄文晩期 深鉢	底径　(7.0)	Z－30グリッド、黒褐色土層 底部より開きながら立ち上がる。底部は上げ底になる。底部片	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少）角閃石（少） 雲母（多）	良	ミガキ。底部は不定方向のナデ。 にぶい黄橙色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第112図 73 syj Ⅲ40	縄文晩期 甕？	底径　(9.0)	Z－26グリッド、黒褐色土層 底部は平底になる。底部片。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（多）雲母（多） 長石（少）石英（多）	良	ナデ。 にぶい黄褐色	ナデ 暗灰黄色
第112図 74 syj Ⅲ99	縄文晩期 深鉢	胴径（28.4）	AB－27グリッド、黒褐色土層、黒褐色土層一括 胴部は「く」字状に屈折する。胴部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）白色粒子（多） 角閃石（多）雲母（多）	良	胴部上半はミガキ、胴部下半は横ナデ。 橙色と褐灰色	ナデ。 灰黄褐色と黒褐色

第23表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅲ次調査　C区　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第113図 1 syj Ⅲ24	土師器 皿	口径　7.6 器高　2.3 底径　4.6	SX－11内出土　黒褐色土層下 体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。口縁部外面から体部内面にかけてカーボンが付着。灯明皿	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 赤褐色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り 橙色	回転ナデ。見込みは回転ナデ。 橙色
第113図 2 syj Ⅲ68	瓦質土器 火鉢	現存高　6.1	SX－11内出土　黒褐色土層下 体部は上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚し、口唇は丸くなる。体部外面に二条の凸帯を貼り付け、口唇部との凸帯間に菊花文のスタンプ、二段目の凸帯間に連子状文のスタンプを連続して押す。傾きは正確ではない。	細砂粒（少）小石粒（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。 にぶい赤褐色	口縁部は回転ナデ。体部は斜め方向のナデ。 にぶい赤褐色
第113図 3 syj Ⅲ70	須恵器 插鉢	現存高　6.9	SX－11内出土　黒褐色土層下 体部は開きながら立ち上がる。内面にクシ状工具による七条の插目を施す。口縁部を外方へ引っ張り出し、注口部を作る。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）白色粒子（少） 雲母（少）	良	回転ナデ後ナデ。 黄灰色	回転ナデ後斜め方向のハケ目後插目。 黄灰色とにぶい黄橙色

第23表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅲ次調査　C区　一括遺物（古代） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第113図 4 syj Ⅲ69	土師器 蓋	口径（20.2） 現存高　3.4	SI－05内出土 口縁部は屈曲し、やや開き気味に下りる。端部は丸くなる。天井部は高い。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少）雲母（多）	良	回転ナデ。天井部は回転ヘラケズリ。 明赤褐色	回転ナデ。 明赤褐色
第113図 5 syj Ⅲ60	土師器 盌	口径（15.4） 器高　6.9 底径　（6.2）	SI－06内出土 体部は内湾気味に、やや開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。底部は丸底になる。内面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（少）	良	横ナデ。体部下位は不定方向のヘラケズリ。 褐色	横ナデ。底部は不定方向のナデ。 明赤褐色

第23表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅲ次調査　C区　一括遺物（古代） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第113図 6 syj Ⅲ50	土師器 坏	口径（13.2） 器高　2.5 底径　（7.4）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。丁寧な作り。内外面に赤色顔料塗布。底部の切り離し技法はナデの為、不明。古代。	細砂粒（多）雲母（多）	良	回転ナデ。底部は切り離し後不定方向のナデ。回転ヘラ切りか？ 橙色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 橙色
第113図 7 syj Ⅲ53	土師器 坏	口径（13.2） 器高　3.1 底径　（8.4）	体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。内面は体部と見込みの境が不明瞭。底部は丸味を帯びる。丁寧な作り。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後不定方向のナデ。 橙色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 橙色

第23表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅲ次調査　C区　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第113図 8 syj Ⅲ12	青磁皿 輸入磁器	現存高　2.1	SD－64内出土　黒褐色土層 口縁端部に輪花を有する。口縁部内面に片切り彫りによる文様を施す。大宰府編年の越州窯系青磁皿。胎土の状況から日類の可能性がある。8世紀末～10世紀中頃。	灰色 白色微粒子（微量） やや粗質	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。貫入が入る 暗オリーブ色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、均等に掛かる。貫入が入る。 暗オリーブ色

第23表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅲ次調査　C区　一括遺物（中世） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第114図 1 syj Ⅲ13	青磁碗 輸入磁器	現存高　3.4	C区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。大宰府編年の越州窯系青磁碗。胎土及び釉の状況から日類の可能性がある。8世紀末～10世中頃。	黄灰色 黒色粒子（多） 陶器質で粗質	良	施釉。釉は透明感は無く気泡が多い。釉にムラが多い。 暗灰黄色	施釉。釉は透明感は無い。気泡が多く、大きく膨らむ箇所がある。釉にムラが多い。 暗灰黄色
第114図 2 syj Ⅲ11	青磁碗 輸入磁器	現存高　2.6	C区褐色土層一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。大宰府編年の越州窯系青磁碗。詳細は不明。8世紀末～11世紀中頃	灰色 黒色粒子（微量） やや良質	良	施釉。釉はガラス質で半透明。細かい貫入が入る。体部下位は無釉となる。 暗オリーブ色。無釉部分はにぶい橙色	施釉。釉はガラス質で半透明。細かい貫入が入る。 暗オリーブ色
第114図 3 syj Ⅲ10	青磁碗 輸入磁器		C区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。大宰府編年の越州窯系青磁碗1類か？8世紀末～10世紀中頃。	白灰色 黒色粒子（微量） やや良質	良	施釉。釉は透明感は無く気泡が多い。体部下位は無釉となる。 灰オリーブ色。無釉部分は灰白色	施釉。釉は透明感は無く気泡が多い。 灰オリーブ色
第114図 4 syj Ⅲ9	青磁碗 輸入磁器	高台径　4.6 高台高　0.7 現存高　1.7 底径　　4.6	AL－38グリッド 高台内の刳りは深く、中央が凸状に削られる。高台外端を斜めに面取りする。見込み中央が一段低くなる。大宰府編年の同安窯系青磁碗。12世紀中頃～後半。	灰白色 黒色微粒子（多） やや粗質	良	体部下位から高台内を露胎とする。 灰白色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、白色粒子を含む。細かい貫入が入る。（見込み部分） 明オリーブ灰色

第23表

syj Ⅲ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅲ次調査 C区 一括遺物（古代、弥生） 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第114図 5 syj Ⅲ16	土師器 台付椀	口径（11.0） 器高 5.2 高台高 1.2 底径 6.4	AK−32グリッド 体部はやや外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。高台はやや高めになる。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 角閃石（少）雲母（少） 石英（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 にぶい橙色
第114図 6 syj Ⅲ41	土師器 鉢型土器	口径（25.6） 現存高 7.3	AL−35グリッド 体部は内湾気味にやや開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、大きく開く。口縁端部は丸味を持つ。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	横ナデ。体部下位はクシ状工具使用の不定方向の調整。 にぶい黄橙色	口縁部は横ナデ。体部は横方向のヘラケズリ。 にぶい黄橙色
第114図 7 syj Ⅲ71	弥生 鉢型土器	口径（23.6） 現存高 7.8	AL−37グリッド 体部は内湾気味に開きながら立ち上がり、頸部で「く」字状に屈折する。口縁部は僅かに外反し、大きく開く。口縁端部は丸くなる。体部内面上位にモミ痕あり。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（少）長石（少）	良	口縁部は横ナデ。体部上位にハケ状工具使用の横方向の調整。体部下位は部分的な横及び斜め方向のハケ目後ナデ。 にぶい黄橙色	口縁部は横ナデ。体部上位にハケ状工具使用の横方向の調整。体部下位は部分的な横及び斜め方向のハケ目後ナデ。 にぶい黄橙色

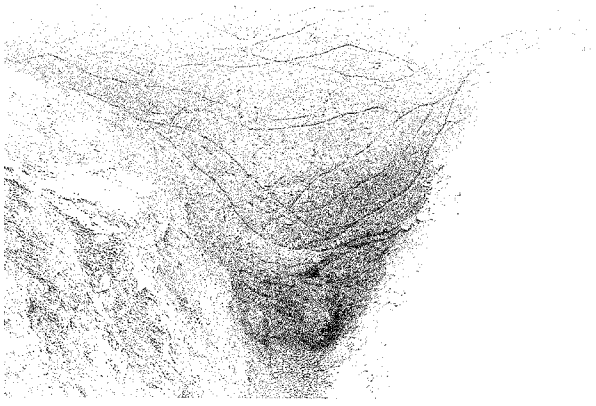
写 真 図 版

(1) 表土剥ぎ

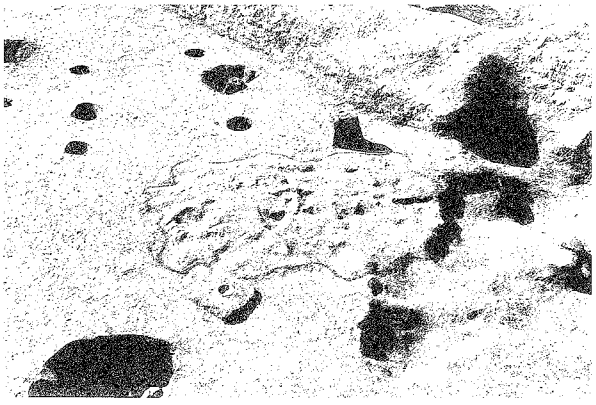
(2) A区SD－02検出状況

(3) A区SD－02遺物出土状況

(4) A区SD－02遺物出土状況



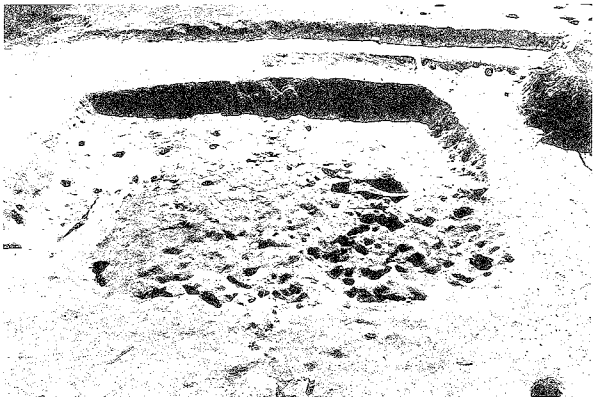
(5) A区SD－02土層断面



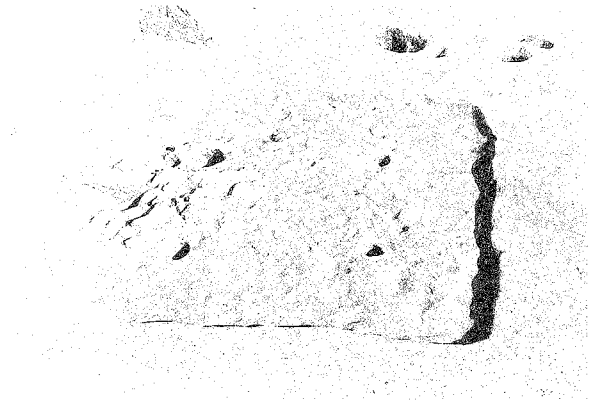
(6) SI－02検出状況

図版15

(1) B区全景

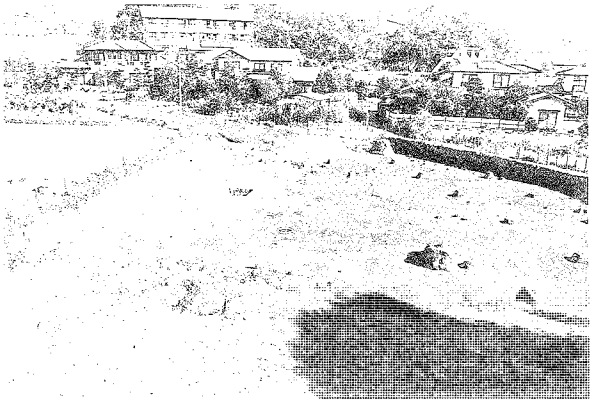


(2) C区SI－02

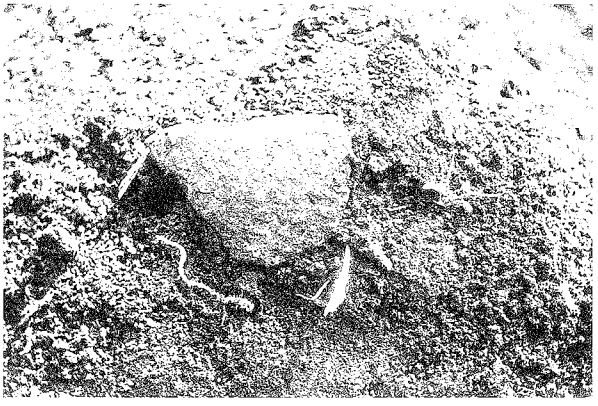


(3) C区SI－04

(4) C区SI－05・06

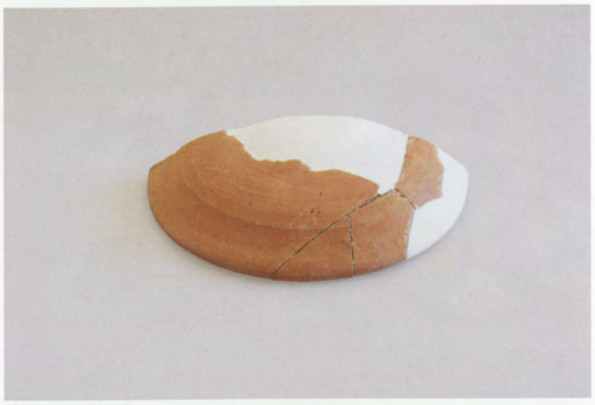


(5) C区全景



(6) 縄文調査　土器

(1) C区SX－11内出土遺物



(2) C区SI－05内出土遺物

(3) C区SI－06内出土遺物

(4) B区出土縄文式土器　1

図版17

(1) B区出土縄文式土器　2

(2) B区出土縄文式土器　3

(3) B区SI－02内出土遺物

(4) B区SD－02内出土遺物

第4節　Ⅳ次(2004年度)調査の成果

1.調査の概要と経過（調査日誌抄）

Ⅳ次調査である04年度調査は、昨年のⅢ次調査同様に道路建設予定地内の用地の取得が終わった部分から調査を実施した。また、調査地の中で縄文時代の包含層が残っている部分に関しては、縄文時代の層まで掘り下げての調査を実施した。本年度の調査区も、用地の取得状況により調査区が3ヵ所に分かれており、Ⅲ次B調査区の東側でⅡ次調査区の西側との間部分を東西がSからVのグリッドの間、南北が24から27のグリッドの間の調査区をA調査区、Ⅲ次B調査区の南側で東西がUからAHのグリッドで南北が17から31のグリッドの間の部分がB調査区、Ⅲ次C調査区の西側で東西がA JからAVのグリッドの間、南北が31から45のグリッドの間をC調査区と調査区名を付けた。昨年度のⅢ次調査同様に、昨年調査を終えた部分の道路橋脚の建設工事を行うため、A調査区を工事用車両の出入口として使用しなければならないことから、B・C調査区の調査を先に行いA調査区を年度の終わりに実施することとした。調査面積は、3調査区合わせて中世期が約4,300㎡と縄文期の約800㎡の合計約5,100㎡である。縄文期の調査は、本年度はA調査区だけで、B・C調査区については包含層が削平され残っていなかった。

発掘調査は、04年6月1日より開始し、05年2月10日までの8ヶ月間実施した。

2.調査の成果

SD－70（70号溝）

遺構（第116図）　遺物（第119図）　第25表

B調査区のAA～AC－20～22のグリッドにかけて検出した溝遺構である。遺構は、南北に掘られており、南側部分が調査区外に延びるため、全体の長さは不明であるが4.7m分を検出した。溝の幅は、0.54mから広い部分で1.29mを測る。深さは、0.08mと浅く上部は削平を受けており、断面はU字形を呈している。

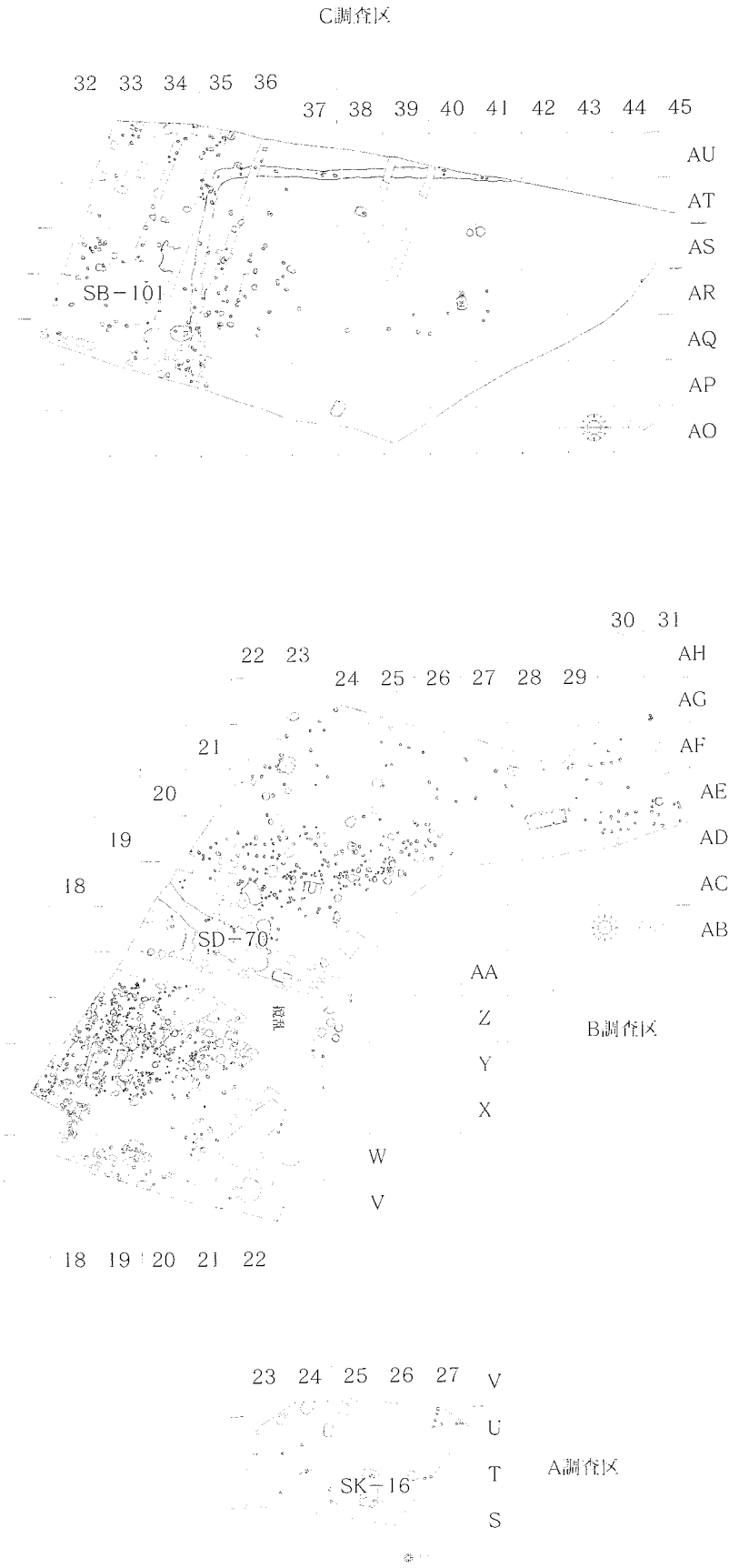
遺構内からは、中世期の遺物が少量出土しているが、その殆どが小片で図化できたものは少ない。

SB－101（101号掘立柱建物跡）

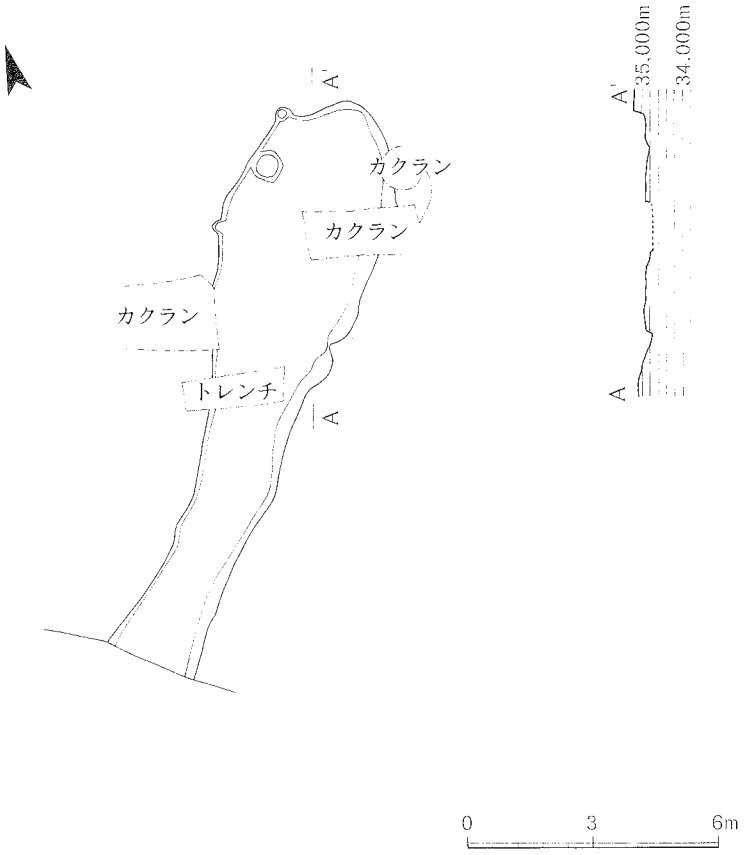
遺構（第117図）

C調査区のAR～AS－33～34のグリッドにかけて検出した掘立柱建物跡である。遺構は、棟方向をN－85°15′—Eに取り建てられた東西棟建物である。規模は、桁行3間で6.58m、梁行き2間で4.26mを測る。建物を構成する柱は、大きさが0.2m～0.38mで、深さは0.12m～0.39mを測る。柱穴内には、柱痕跡は確認できなかった。また、庇も有していない。

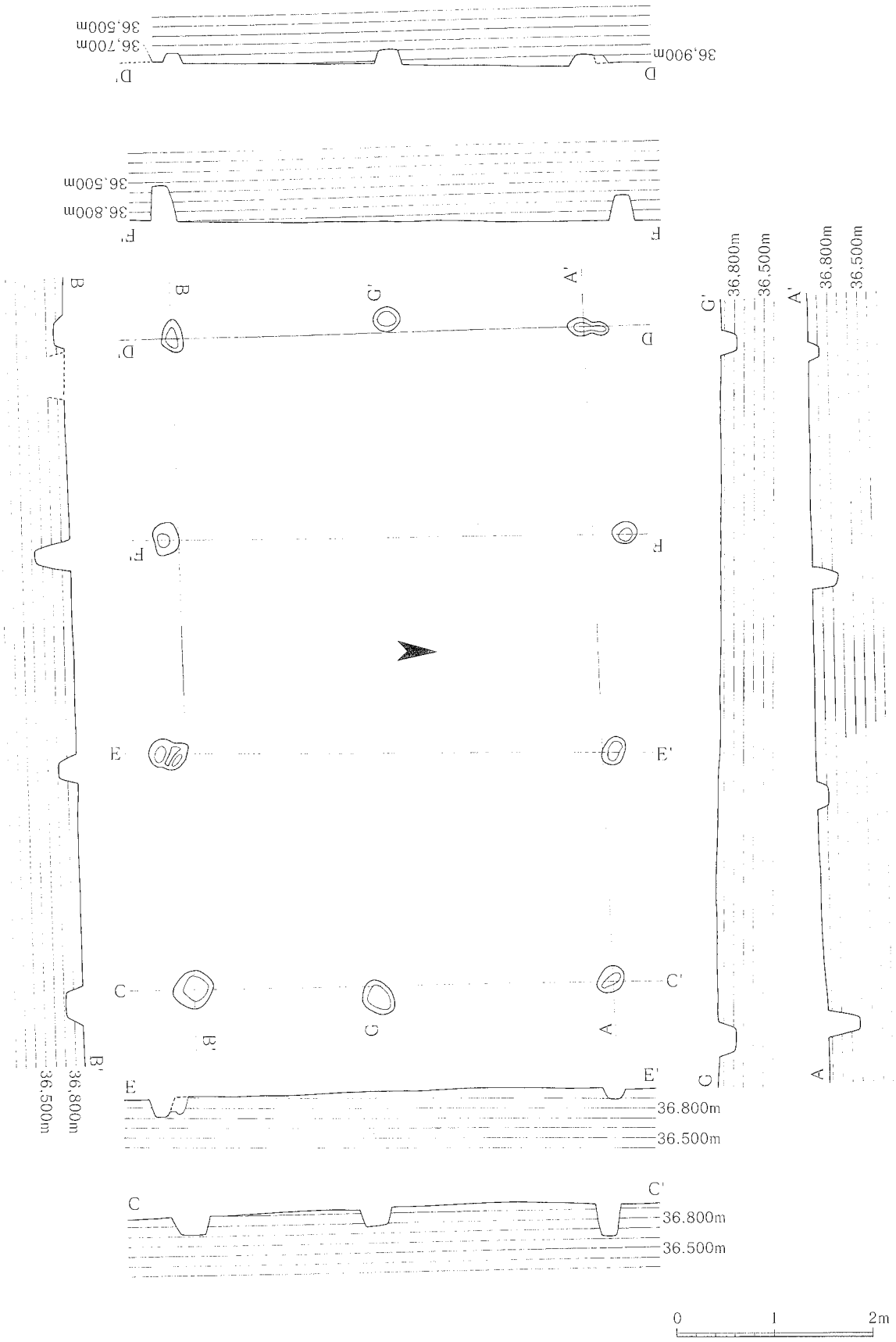
柱穴内からは、遺物の出土がまったく無いことから、遺構の正確な時期は不明であるが、他の遺構の時期から考えて古代の掘立柱建物跡と考えられる。



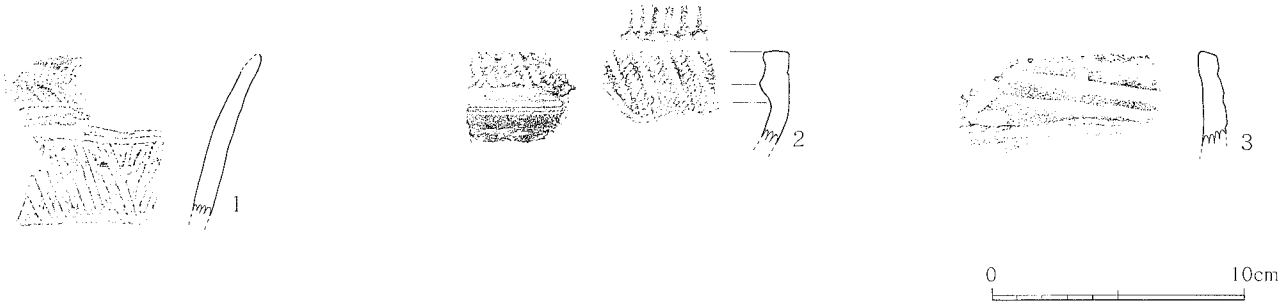
第115図　Ⅳ調査区遺構配置図及びグリッド図



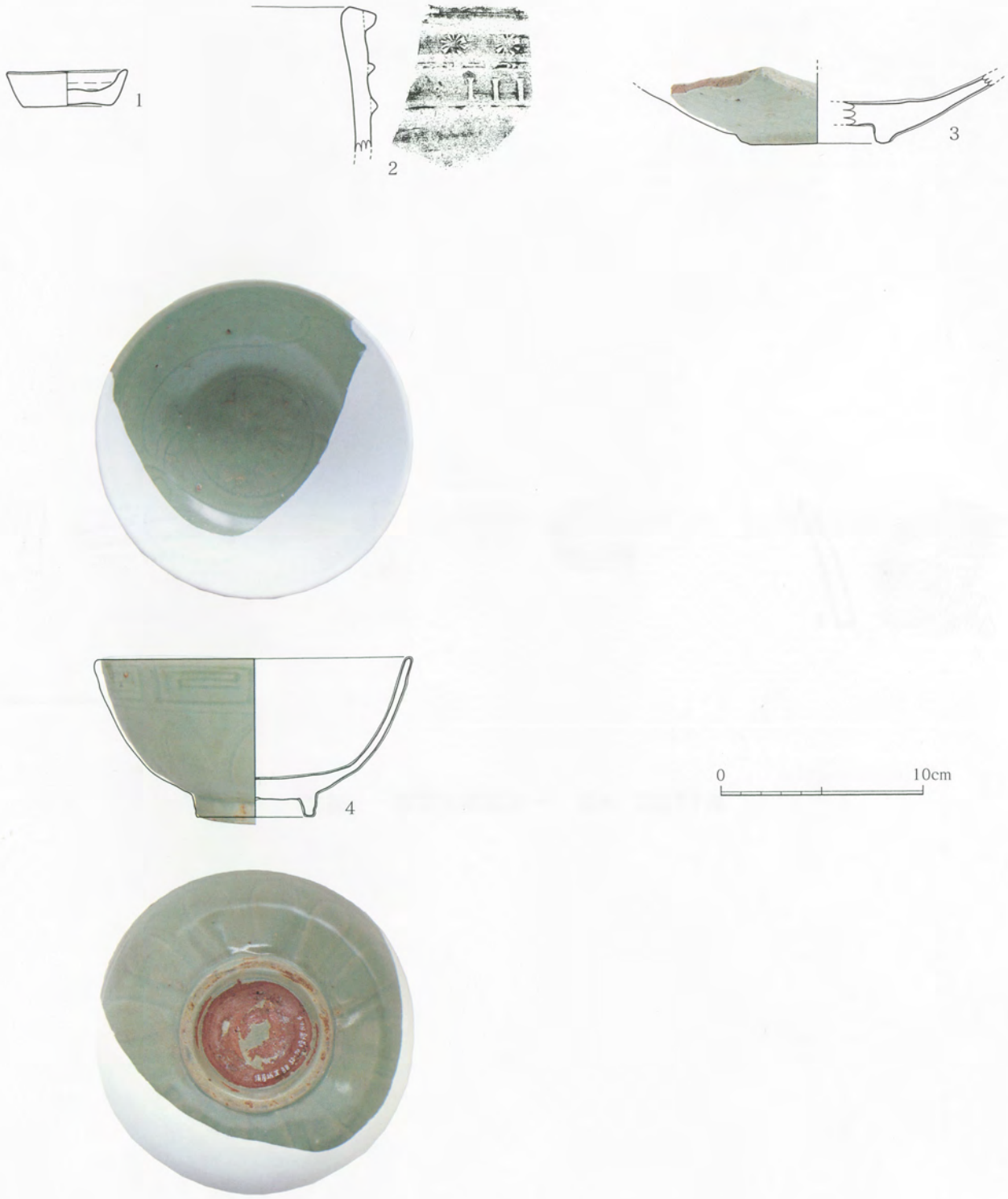
第116図　B区　SD－70実測図



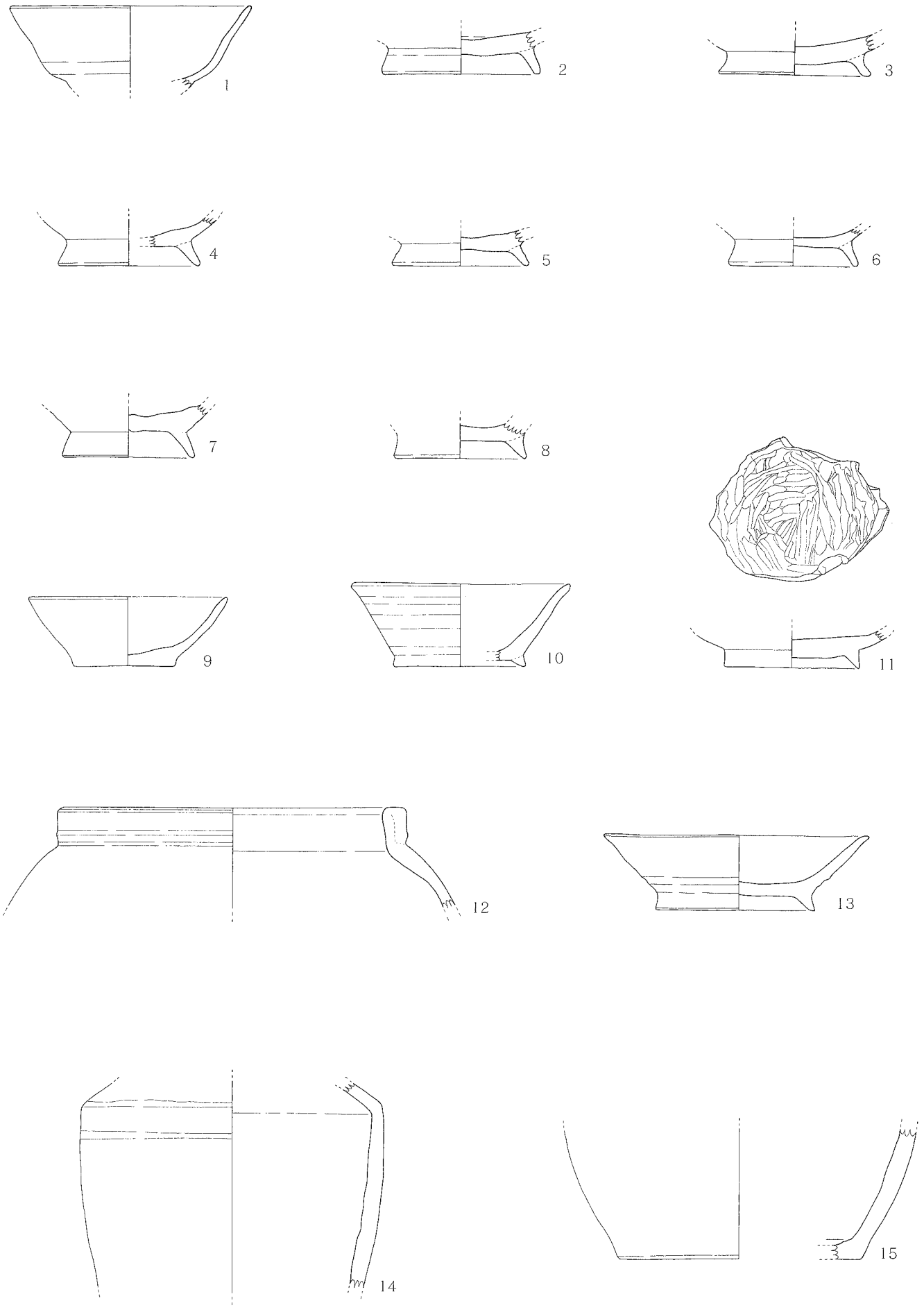
第117図　C区　SB－101実測図



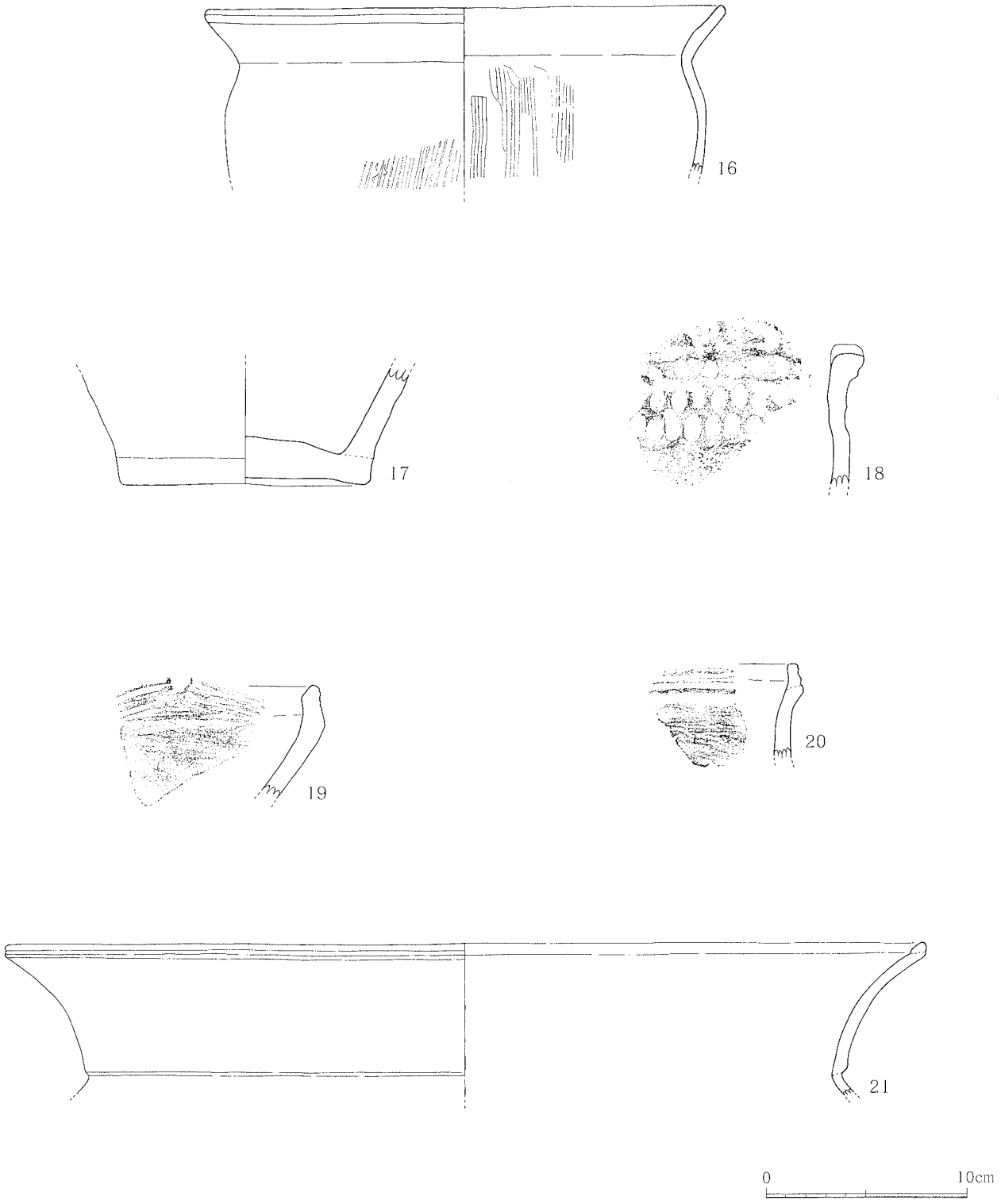
第118図　A区　一括遺物実測図　（縄文）



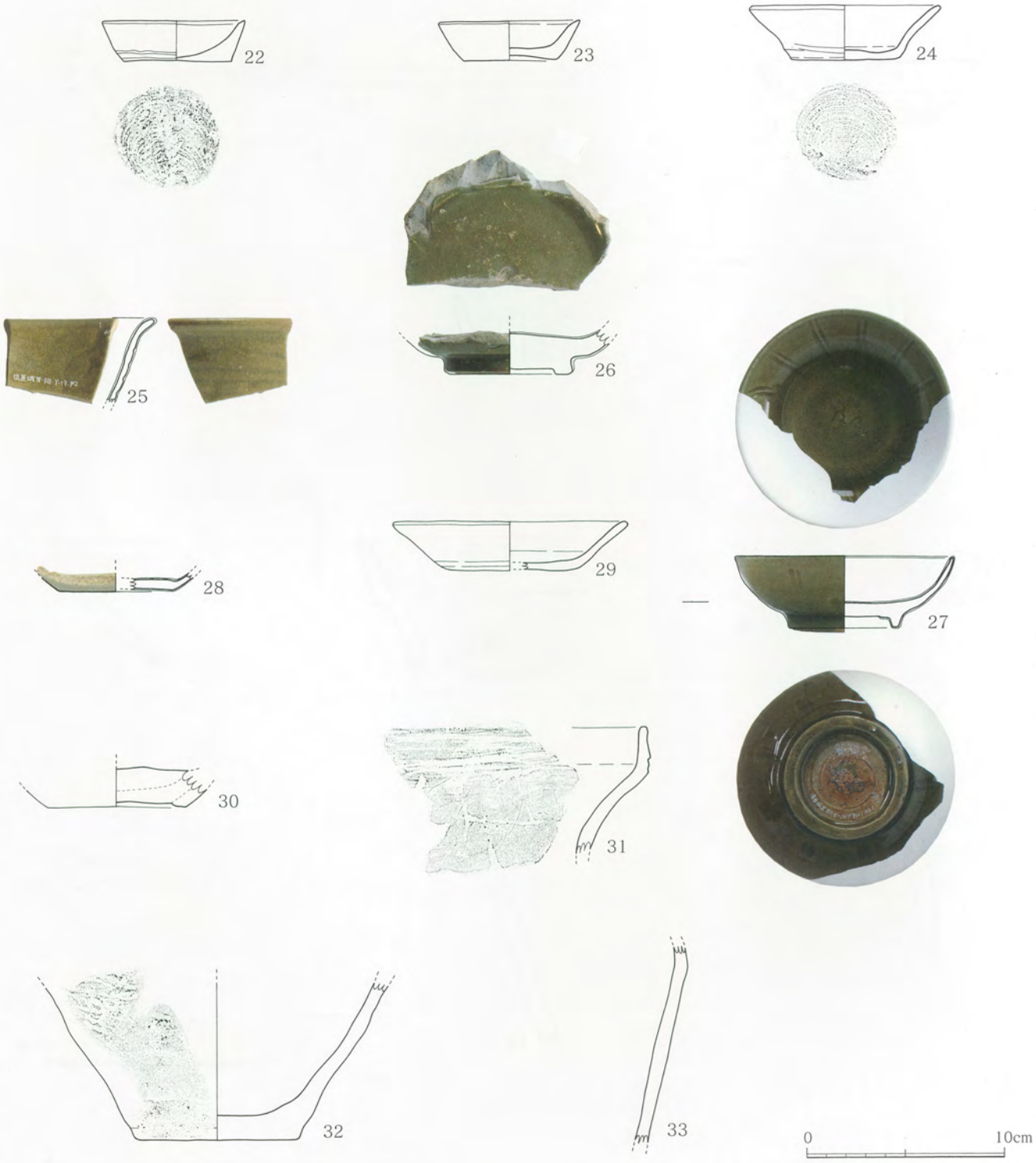
第119図　B区　SD－70内出土遺物実測図



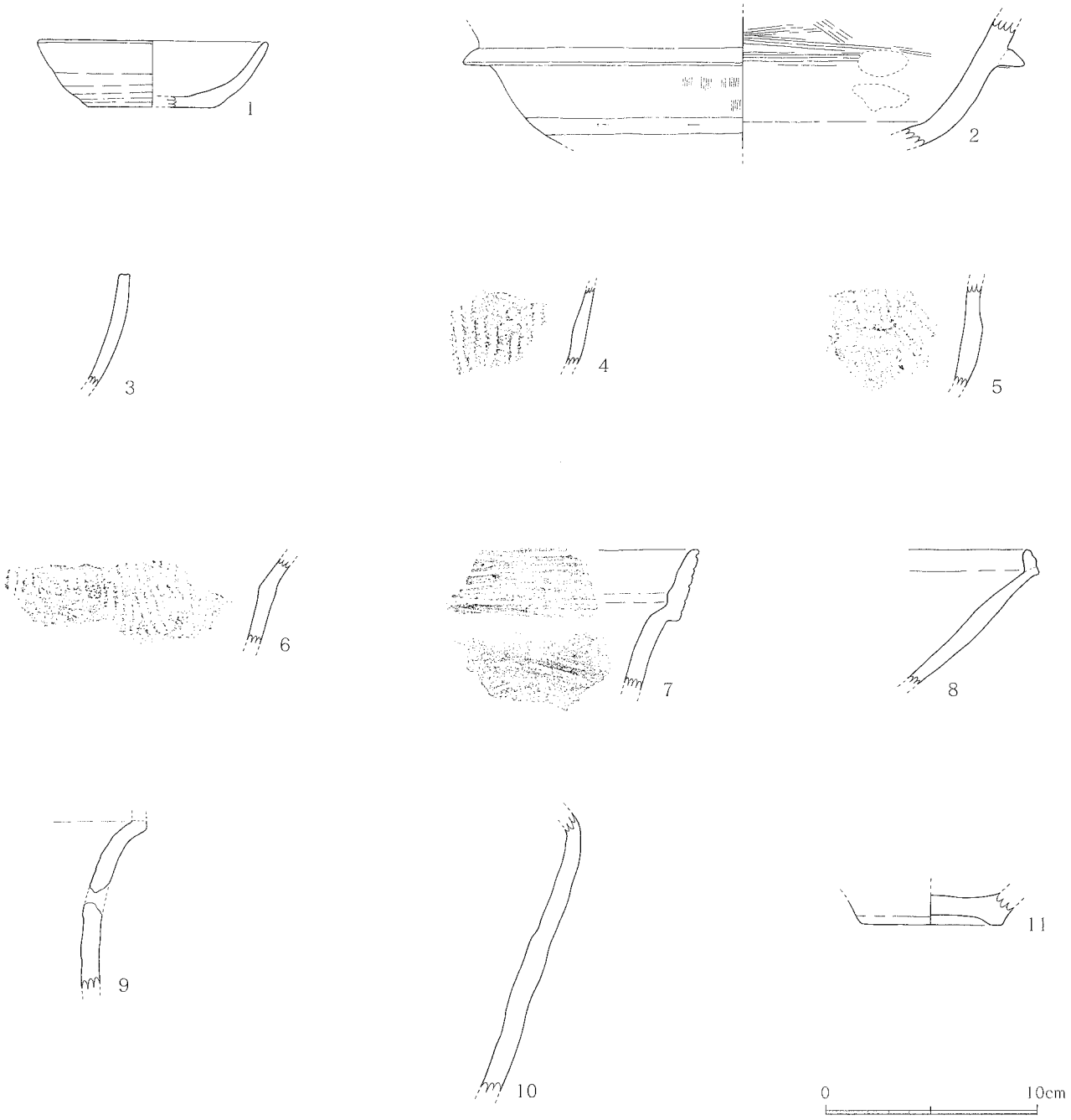
第120図　B区　一括遺物実測図　（中世・古代）



第121図　B区　一括遺物実測図　（弥生・縄文）



第122図　B区　一括遺物実測図　（中世・古代・縄文）



第123図　C区　一括遺物実測図　（中世・弥生・縄文）

第24表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査　A区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第118図 1 syjⅣ46	縄文前期 深鉢	現存高　6.4	S－26グリッド、黒褐色土層 外面に沈線文を施す。曽畑式。沈線文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.3～0.5、少） 角閃石（少）雲母（多）	良	ナデ。 黒褐色	ナデ。 にぶい黄褐色
第118図 2 syjⅣ41	縄文中期 浅鉢	現存高　6.4	S－26グリッド、黒褐色土層 口縁部は僅かに肥厚し、上端に刻目を施す。内外面に単節縄文を施す。船元式系土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.3、少） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	ナデ。 にぶい橙色と褐灰色	ナデ。 橙色
第118図 3 syjⅣ47	縄文後期 深鉢	現存高　3.8	U－25グリッド、暗褐色土層 外面に凹線文を施す。南福寺式？凹線文土器。口縁部片。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ後凹線文。 にぶい赤褐色	ナデ。 にぶい赤褐色

第25表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査　B区　SD－70内出土遺物 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第119図 1 syjⅣ17	土師器 皿	口径　6.0 器高　1.7 底径　4.4	体部は直線的にやや開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。小型の皿である。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多）	良	横ナデ。下位に指頭圧痕あり。 にぶい橙色	横ナデ。見込み中央に指頭圧痕あり。 にぶい橙色
第119図 2 syjⅣ19	瓦質土器 火鉢	現存高　7.0	体部は上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚し、口唇は丸くなる。体部外面に二条の凸帯を貼り付け、口縁部との凸帯間に菊花文のスタンプ、二段目の凸帯間に連子状文のスタンプを連続して押す。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少）雲母（多）	良	横ナデ後ヘラミガキ。 オリーブ褐色	横ナデ後ヘラミガキ。 黄褐色
第119図 3 syjⅣ2	青磁盤 輸入磁器	高台径（8.0） 高台高　0.5 現存高　3.4 底径　（6.6）	暗褐色土層 体部は直線的に大きく開きながら立ち上がる。高台内の刳りはやや深く、低部は厚くなる。高台は内面は直に外面は斜めに削れ、体部と高台の境はなだらかになる。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（1）の青磁盤に類似している。14世紀中頃～15世紀中頃。	橙色 白色粒子（多） 粗質 胎土は熱を受けて橙色に変色する。	良	施釉。釉は透明感は無く気泡が多い。大きめの貫入が入る。釉は畳付を越えて高台内途中まで掛かり、中央付近は露胎となる。露胎部分は熱を受けて橙色に変色する。 灰緑色	施釉。釉は透明感は無い。大きめの貫入が入る。 灰緑色
第119図 4 syjⅣ6	青磁碗 輸入磁器	口径（15.0） 高台径（6.2） 高台高　1.2 器高　7.8 底径　5.8	暗褐色土層 体部下位でやや腰が張り、その後、直線気味に開きながら立ち上がる。高台内の刳りは深く、高台は高い角高台となる。口縁端部は丸くなる。体部外面に蓮弁文、口縁部に雷文帯を持つ。体部内面にヘラ先による草花文と、見込みに印花文を持つ。上田氏分類の青磁碗C－Ⅱ－b類。15世紀前後。	白色粒子（少）	良	施釉。釉は透明感は無い。高台内は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。露胎部分は橙色に変色する。砂粒溶着。 青緑色	施釉。釉は透明感は無い。砂粒溶着。 青緑色

第26表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査　B区　一括遺物（古代） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第120図 1 syjⅣ21	土師器 椀	口径（13.6） 現存高　4.7	黒褐色土層 体部下位で屈曲し、その後、僅かに外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ後回転ナデ 明赤褐色	回転ナデ。 にぶい黄橙色
第120図 2 syjⅣ23	土師器 台付椀	高台高　1.5 現存高　2.4 底径　（9.0）	底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は高くなる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	高台は回転ナデ。底部は回転ヘラ切り。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の押凸が残る。 にぶい黄橙色
第120図 3 syjⅣ22	土師器 台付椀	高台高　1.3 現存高　2.3 底径　（8.6）	黒褐色土層 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は外反し高くなる。内面見込みは器面荒れの為、詳細は不明。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	高台は横ナデ。底部は回転ナデ。 浅黄橙色	にぶい黄橙色

第26表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査 B区 一括遺物（中世、古代、弥生、縄文）特徴	胎土（ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第120図 4 syjⅣ26	土師器 台付椀	高台高 1.5 現存高 2.7 底径 (8.2)	黒褐色土層 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は高くなる。高台内外面にカーボンが付着。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	高台は回転ナデ。底部はナデ。 橙色	ナデ。 にぶい黄橙色
第120図 5 syjⅣ25	土師器 台付椀	高台高 1.2 現存高 2.7 底径 (8.2)	黒褐色土層 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は高くなる。内面に少量のカーボンが付着。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（少）	良	高台は回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後不定方向のナデ。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残る。 浅黄橙色
第120図 6 syjⅣ24	土師器 台付椀	高台高 1.5 現存高 2.2 底径 (9.4)	黒褐色土層 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は高くなる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少） 黒色粒子（少）	良	灰白色	見込みは回転による成形時の凹凸が残る。 灰白色
第120図 7 syjⅣ27	土師器 台付椀	高台高 1.5 現存高 2.8 底径 (7.6)	黒褐色土層 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は高くなる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少）	良	高台は回転ナデ。底部は回転ヘラ切後ナデ。 にぶい黄橙色	見込みは回転による成形時の凹凸が残る。 にぶい黄橙色
第120図 8 syjⅣ20	土師器 台付椀	高台高 1.5 現存高 2.8 底径 (7.6)	黒褐色土層 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は僅かに外反し、高くなる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（多）	良	高台は回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 明赤褐色	ナデ。 明褐色
第120図 9 syjⅣ11	土師器 坏	口径 (11.4) 器高 4.0 底径 5.4	黒褐色土層 体部は僅かに内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部は高台状になる。全体に高目である。内外面に薄くカーボンが付着。古代。	細砂粒（多）角閃石（少） 雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切後ナデ。 灰黄褐色	回転ナデ。 灰黄褐色
第120図 10 syjⅣ10	黒色土器 椀	口径 (12.6) 高台高 0.7 器高 4.8 底径 (7.4)	黒褐色土層 体部下位より直線的に開きながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。口縁端部は丸味を持つ。底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は低く逆三角になる。黒色土器A類。内面にカーボンを吸着。内黒。古代。	細砂粒（多）赤褐色斑（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切りか？ にぶい橙色	ヘラミガキ。 黒色
第120図 11 syjⅣ28	黒色土器 椀	高台高 1.0 現存高 2.1 底径 (7.6)	黒褐色土層 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は低く逆三角になる。黒色土器A類。内面にカーボンを吸着。内黒。古代。	細砂粒（少）小石粒（少） 角閃石（少）雲母（少）	良	回転ナデ。底部の切り離し技法はナデの為、不明。 黄褐色	丁寧なヘラミガキ。 黒褐色
第120図 12 syjⅣ34	須恵質 壺	口径 (20.0) 現存高 5.6	表土 口縁部は折り返して肥厚し直立する。上端は平坦になる。二次焼成を受けている	細砂粒（多）白色粒子（少） 黒色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）石英（少）	良	回転ナデ にぶい黄褐色	回転ナデ。 橙色
第120図 13 syjⅣ8	須恵器 台付坏	口径 (14.8) 高台高 1.0 器高 4.3 底径 (8.8)	黒褐色土層 体部は開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は逆三角になる。古代。	細砂粒（多）小石粒（少） 角閃石（少）雲母（少）	良	回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 灰黄色	回転ナデ。 灰黄色
第120図 14 syjⅣ32	備前焼 壺or甕	胴径 (17.3) 現存高11.8	黒褐色土層 胴部は直線的にやや開きながら立ち上がる。肩部は屈折し内傾する。	細砂粒（多）砂粒（少） 黒色粒子（多）	良	胴部は格子目文叩き後、ヘラ状工具使用の横方向の調整。肩部から胴部に自然釉が垂かる。 にぶい赤褐色と灰黄褐色	横ナデ。 灰黄褐色
第120図 15 syjⅣ35	備前焼 壺or甕	現存高 7.5 底径 (13.8)	黒褐色土層 胴部下半よりやや内湾気味に開きながら立ち上がる。	細砂粒（多）砂粒（少） 黒色粒子（多） 長石（0.3～0.5、微量） 長石粒（少）	良	横ナデ後、一部斜め方向のナデ。自然釉が垂かる。胴部下位に胎土が溶着。 にぶい赤褐色と灰黄褐色	横ナデ。底部近くは横及び斜め方向のナデ。 灰黄褐色
第121図 16 syjⅣ33	弥生 甕	口径 (25.6) 現存高 8.4	黒褐色土層 頸部で屈曲した後、口縁部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。口縁部外面に少量のカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	口縁部は横ナデ。胴部は縦方向のハケ目後横ナデ。 にぶい黄褐色	口縁部は横ナデ。胴部は縦方向のハケ目後横ナデ。 褐色
第121図 17 syjⅣ39	縄文中期 深鉢	現存高 5.8 底径 12.0	黒褐色土層 底部はやや上げ底状になる。阿高式土器。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）雲母（多） 長石粒（多）	良	底部に鯨骨椎台痕が残る。ナデ。 明赤褐色	ナデ。 明褐色と褐灰色

第26表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査　B区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第121図 18 syjⅣ51	縄文後期 深鉢	現存高　7.0	暗褐色土層 口縁部に山形突起を貼り付け肥厚させる。口縁部上端は刻目を施す。外面に指による三段の指突文を施す。南福寺式又は出水式。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）	良	ナデ。 灰黄褐色	横ナデ。 にぶい黄褐色
第121図 19 syjⅣ52	縄文後期 ～晩期 浅鉢	現存高　5.6	暗褐色土層 口縁部外面に三条の平行沈線を施す。口縁部は山形口縁になる。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（少） 雲母（多）	良	ミガキ。 にぶい黄橙色	ミガキ。 にぶい黄褐色
第121図 20 syjⅣ48	縄文晩期 深鉢	現存高　4.7	黒褐色土層 頸部は外反し、口縁部で屈折する。口縁部の文様帯に三条の平行沈線を施す。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 雲母（少）	良	ミガキ。 にぶい黄橙色	ミガキ。 灰黄褐色
第121図 21 syjⅣ55	縄文後期 深鉢	口径（45.2） 現存高　7.7	暗褐色土層 頸部は外反し、口縁部で屈折する。御領式。口縁部。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.7、多） 角閃石（少）雲母（少） 長石（少）	良	ミガキ。 にぶい黄橙色	ミガキ。 オリーブ黒色

第26表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査　B区　一括遺物（中世、古代） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第122図 22 syjⅣ12	土師器 皿	口径　7.2 器高　2.1 底径　5.5	B区一括 体部は直線的にやや開きながら立ち上がる。口縁端部は内傾し平坦になる。小型の皿である。内外面に帯状にカーボンが付着。灯明皿。	細砂粒（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。体部下位はヘラ状工具使用の横方向の調整。底部は回転糸切りで板目圧痕あり。 褐色	回転ナデ。見込みは一方向の軽いナデ。 褐色
第122図 23 syjⅣ16	土師器 皿	口径　7.2 器高　2.0 底径　4.8	Y－18グリッド 体部は直線的にやや開きながら立ち上がる。口縁端部は内傾し平坦になる。底部は上げ底状になる。小型の皿である。口縁部に少量のカーボンが付着。灯明皿として使用か？	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 にぶい黄橙色	回転ナデ。 にぶい黄橙色
第122図 24 syjⅣ13	土師器 皿	口径　(9.4) 器高　2.8 底径　5.0	B区一括 体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。	細砂粒（少）赤褐色斑（少） 白色粒子（少）角閃石（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。 明褐色	回転ナデ。 にぶい黄褐色
第122図 25 syjⅣ4	青磁碗 輸入磁器	現存高　4.3	B区一括 口縁部は外反し、端部は丸くなる。体部外面に片切り彫りによるラマ式蓮弁と内面に施文を施す。上田氏分類の青磁碗D類か？14世紀～15世紀。	にぶい黄橙色 陶器質	良	施釉。釉はガラス質で半透明。細かい貫入が入る。 黄褐色	施釉。釉はガラス質で半透明。細かい貫入が入る。 黄褐色
第122図 26 syjⅣ3	青磁碗 輸入磁器	高台径（6.5） 高台高　0.8 現存高　2.2 底径　(6.5)	B区一括 高台内の削りは浅く、底部は厚い。高台は断面四角になる。畳付けから高台内はにぶい黄色に変色。大宰府編年の龍泉窯系青磁碗Ⅳ類。14世紀初頭～後半。	灰白色 黒色微粒子（少） 細かな穴が多くやや粗質	良	施釉。釉はガラス質で半透明。大きめの貫入が入る。畳付けから高台内は露胎となる。 灰オリーブ色	施釉。釉はガラス質で半透明。大きめの貫入が入る。 灰オリーブ色
第122図 27 syjⅣ1	青磁 直口口縁 皿 輸入磁器	口径　(9.4) 高台径（6.5） 高台高　0.8 器高　2.8 底径　(6.5)	Z－20グリッド 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。体部外面上位と下位に又状のヘラ状工具で、弁先の無い蓮弁をずらして描く。体部内面にも弁先の無い菊花文を又状のヘラ状工具で描き、見込みに陽圏線と中央に不明瞭な印花を施す。高台外端に等間隔に9箇所の刻み目を施す。「首里城跡－京の内発掘調査報告書」（1）の青磁直口口縁皿に類似している。14世紀～15世紀。	灰白色 緻密	良	施釉。釉はガラス質で透明感があり、やや厚く掛かる。貫入が入る。高台内は釉を環状に掻き取る蛇の目釉剥ぎを施す。 灰オリーブ色	施釉。釉はガラス質で透明感があり、やや厚く掛かる。貫入が入る。 灰オリーブ色
第122図 28 syjⅣ5	白磁皿 輸入磁器	現存高　0.9 底径　5.8	B区一括 底部は僅かに上げ底状になる。大宰府編年の白磁皿Ⅸ類か？13世紀～14世紀。	灰白色 やや粗質	良	施釉。釉は薄く掛かり半透明。 灰白色	施釉。釉は薄く掛かり半透明。貫入が入る。 灰白色
第122図 29 syjⅣ14	土師器 坏	口径（11.6） 底径　(7.0) 器高　2.5	B区一括 体部は僅かに外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色微粒子（少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り。 橙色	回転ナデ。 橙色

第26表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査　B区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第122図 30 syjⅣ45	縄文後期 ～晩期 深鉢	現存高　1.9 底径　(7.0) 器高　2.8	GO－5グリッド 底部はやや上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（多）角閃石（多） 雲母（多）	良	ナデ。 黄褐色	ナデ。 褐色
第122図 31 syjⅣ49	縄文晩期 深鉢	現存高　6.4	GO－1グリッド 頸部は外反し、口縁部で屈折する。口縁部の文様帯に数条の平行沈線を施す。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 雲母（多）	良	ミガキ。 明赤褐色	ミガキ。 にぶい赤褐色
第122図 32 syjⅣ9	縄文晩期 深鉢	現存高　7.7 底径　(8.0)	GO－24、26、AF－27、AE－26グリッド 底部より開きながら立ち上がる。平底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）角閃石（少） 雲母（多）長石（少）	良	ナデ。 明褐色	ナデ。 にぶい黄褐色
第122図 33 syjⅣ54	縄文晩期 深鉢	現存高10.0	GO－10グリッド 胴部は開きながら立ち上がる。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多）角閃石（多） 雲母（多）長石（少） 石英（少）	良	ナデ。 浅黄色	ナデ。 にぶい黄色

第27表

syjⅣ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅳ次調査　C区　一括遺物（中世、弥生、縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第123図 1 syjⅣ15	土師器 坏	口径（11.0） 器高　3.2 底径　(6.0)	C区一括 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。	細砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 角閃石（少）	良	回転ナデ。底部の切り離し技法は不明。 橙色	回転ナデ。 橙色
第123図 2 syjⅣ18	土師質 羽釜	胴径（25.0） 現存高　6.3	C区一括 胴部に鍔を持つ。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（多）	良	横ナデ後部分的な縦方向のハケ目。下位は横方向のヘラケズリ。 にぶい褐色	ナデ後横及び斜め方向のハケ目。 にぶい橙色
第123図 3 syjⅣ38	弥生 鉢？	現存高　5.5	縄文調査 体部はやや内湾気味に立ち上がる。体部外面に、赤色顔料による縦縞模様を施す。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）白色粒子（多） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（多）長石粒（少）	良	横方向のヘラミガキ後斜め方向のハケ目。 橙色	ナデ。 にぶい黄橙色
第123図 4 syjⅣ42	縄文中期 深鉢	現存高　3.7	縄文調査 横方向の単節縄文を施す。船元式土器。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.4程度、微量） 雲母（多）	良	褐灰色	斜め方向のナデ。 黒褐色
第123図 5 syjⅣ44	縄文中期 深鉢	現存高　4.7	縄文調査 横方向の単節縄文を施す。船元式土器。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 雲母（少）長石粒（少）	良	にぶい黄褐色	横ナデ 黒褐色
第123図 6 syjⅣ43	縄文中期 深鉢	現存高　4.2	AR－42グリッド、暗褐色土層 横方向の単節縄文を施す。船元式系。頸部～胴部付近。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）長石粒（少）	良	にぶい黄褐色	横ナデ 黒褐色
第123図 7 syjⅣ50	縄文晩期 深鉢	現存高　6.7	縄文調査 頸部でやや外反し、口縁部で屈折する。口縁部の文様帯に横方向の雑な沈線を施す。口縁部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（多） 雲母（少）	良	ミガキ。 黄褐色	ミガキ。 にぶい黄褐色と黒褐色
第123図 8 syjⅣ40	縄文後期 or晩期 浅鉢	現存高　6.5	縄文調査、暗褐色土層 口縁部はやや内傾気味に屈折し、二本の沈線を施す。口縁部。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	ミガキ。黒色磨研。 暗灰黄色と黒褐色	ミガキ。 にぶい黄色
第123図 9 syjⅣ56	縄文晩期 深鉢	現存高　7.9	縄文調査、暗褐色土層 頸部は外反する。穿孔部分がある。頸部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多）角閃石（多）	良	ナデ後ミガキ。 浅黄橙色	ナデ。 黄灰色と灰白色

第27表

syjⅣ・・・は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅳ次調査　C区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第123図 10 syjⅣ53	縄文晩期 深鉢	現存高13.2	縄文調査、AQ−40グリッド 胴部は開きながら立ち上がる。胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多）角閃石（多）	良	ナデとミガキ。 にぶい黄橙色と灰褐色	ナデ。 にぶい黄橙色と灰黄褐色
第123図 11 syjⅣ7	縄文晩期 深鉢	現存高　2.0 底径　6.5 器高　2.8	縄文調査 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少）角閃石（少） 雲母（多）	良	底部はナデ。下位は縦方向のミガキ。 明褐色	ミガキ。 にぶい黄色

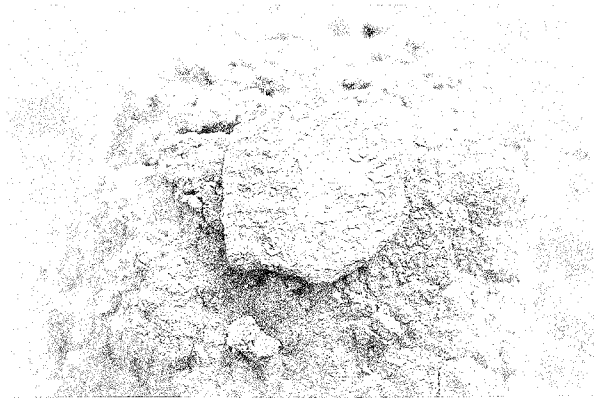
写 真 図 版

(1) 調査前

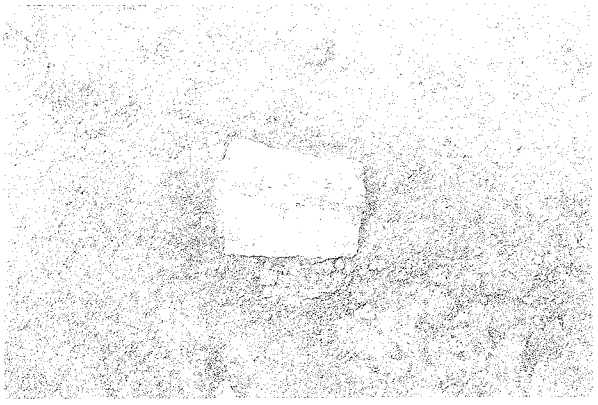
(2) 表土剥ぎ

(3) C区全景

(4) C区全景



(5) 縄文調査　土器



(6) 縄文調査　土器

図版19

（1）B区SD－70内出土土器

第5節　Ⅴ次(2005年度)調査の成果

1.調査の概要と経過（調査日誌抄）

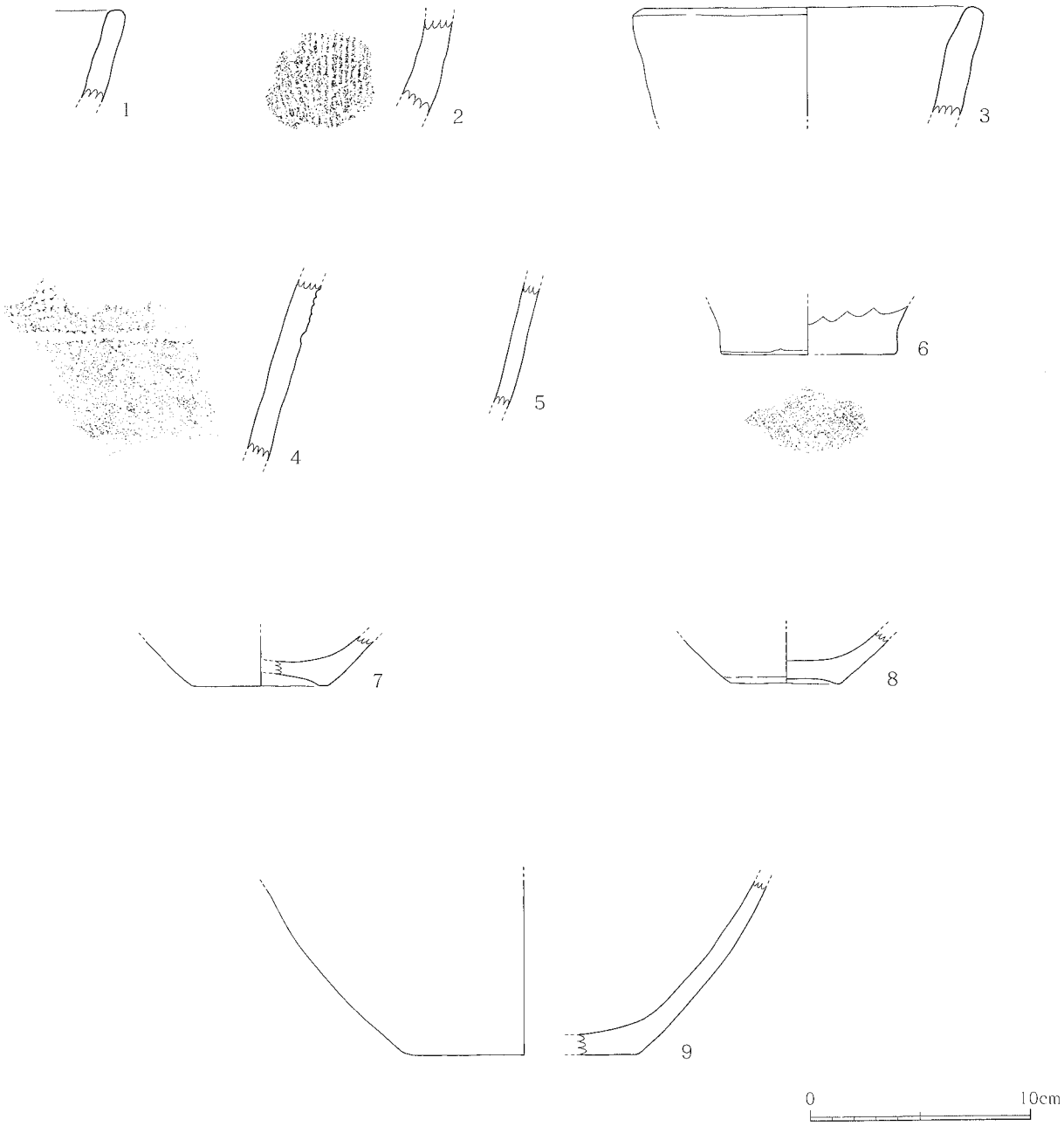
Ⅴ次調査である05年度調査は、昨年度まで発掘調査が終了したⅢ次のC調査区とⅡ次調査区との間に残っている未調査の部分を実施した。まだ用地の取得が済んでいない部分も残っており、昨年度調査を行ったⅣ次のC調査区と国道387号との間の部分については、県文化課が行う試掘調査の結果次第で本調査を実施するかどうかの判断をすることにした。本調査が必要になった場合には、06年度に実施することにした

本年度の調査区は、東西がAFからAMのグリッドの間、南北が23から31のグリッドで、調査区全体に縄文時代の包含層が残っていたことから、調査面積は中世期が約800㎡と更にその下層まで掘り下げての縄文期の調査が約800㎡の合計約1,600㎡である。

発掘調査は、05年12月15日より開始し、06年3月24日までの約4ヶ月間実施した。

2.調査の成果

第124図　Ⅴ次調査区遺構配置図及びグリッド図



第125図　一括遺物実測図　（縄文）

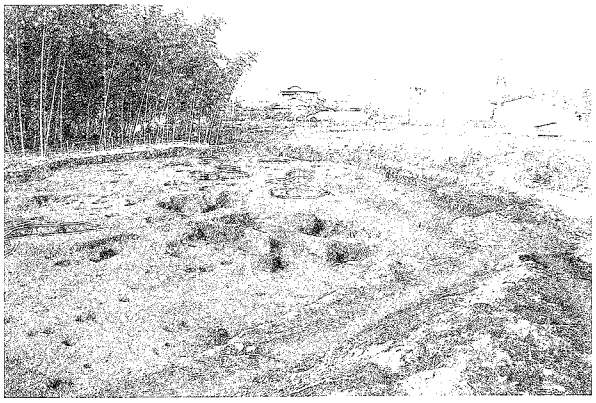
第28表

syjV・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	V次調査 一括遺物（縄文） 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第125図 1 syjV9	縄文早期 深鉢	現存高 4.3	調査区 一括 口縁部外面に貝殻条痕文を施す。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（少）砂粒（少） 小石粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（多）角閃石（少）	良	にぶい褐色	ナデ。 橙色
第125図 2 syjV11	縄文早期 深鉢	現存高 4.5	調査区 一括 胴部外面に貝殻条痕文を施す。胴部。内面は器面荒れの為、調整等は不明。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.5、多） 白色粒子（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	橙色	明黄褐色
第125図 3 syjV7	縄文 早期？ 深鉢	口径（15.0） 現存高 5.0	縄文調査、AH－29グリッド 器肉は厚く、口縁端部は平坦気味になる。口縁部。内外面共、無文になる。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）角閃石（多） 雲母（多）長石（少）	良	ナデ。 にぶい黄褐色と黒褐色	横ナデ。 にぶい黄褐色
第125図 4 syjV10	縄文中期 深鉢	現存高 8.3	調査区一括 胴部外面に単節縄文とその下に刺突文を施す。口縁部近くの胴部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ。 にぶい黄橙色	ナデ。 明黄褐色
第125図 5 syjV6	縄文	現存高 5.7	調査区一括 胴部？器種不明。天地、傾きは不明。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）雲母（少） 長石（少）	良	ナデ。 にぶい赤褐色	縦横にナデ。 灰褐色
第125図 6 syjV2	縄文 晩期 深鉢	現存高 2.2 底径 （8.0）	調査区 一括 底部は平底で葉脈痕が残る。葉を敷いて成形したと思われる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少） 黒色粒子（少）角閃石（少） 角閃石（少）	良	ナデ にぶい褐色	
第125図 7 syjV1	縄文 後期 深鉢	現存高 2.3 底径 （6.0）	縄文調査、AG－28グリッド 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少） 黒色粒子（少）雲母（少）	良	横及び斜め方向のミガキ。底部はナデ。 にぶい橙色	横ナデとミガキ。 灰黄褐色と褐灰色
第125図 8 syjV3	縄文晩期 深鉢	現存高 2.3 底径 （5.3）	黒褐色土層 底部は上げ底気味になる。底部。内面に少量のカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.3、多） 雲母（多）長石粒（少）	良	ナデ。横及び斜め方向のヘラ状工具使用の調整。 にぶい橙色	ナデ 灰黄褐色
第125図 9 syjV8	縄文 後期 深鉢	現存高 8.0 底径 （10.6）	調査区 一括、黒褐色土層 底部は平底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（多）雲母（多）	良	ナデ 明赤褐色	ナデ。 明褐色

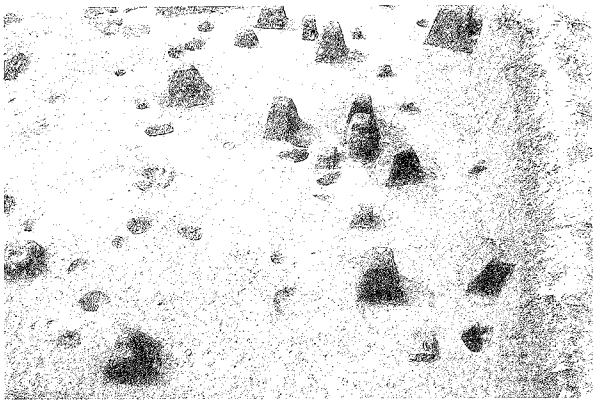
写 真 図 版

（1）表土剥ぎ

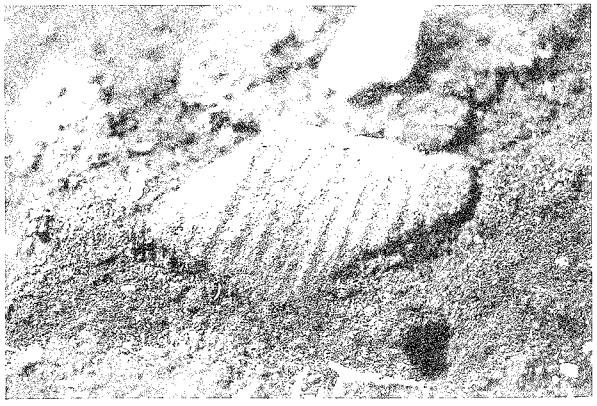


（2）調査区全景

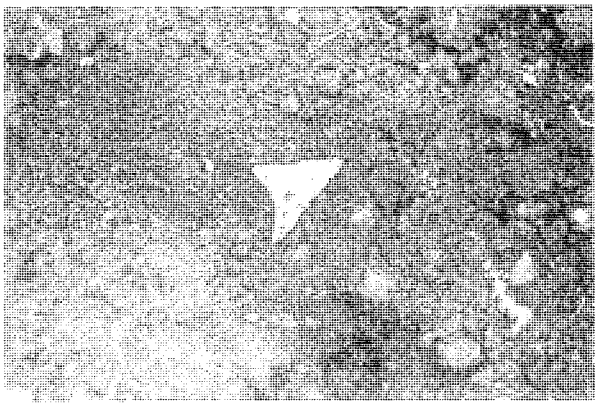
（3）縄文調査　遺物出土状況



（4）縄文調査　遺物出土状況



（5）縄文調査　土器



（6）縄文調査　石器

図版21

（1）　出土縄文式土器

第6節　Ⅵ次(2006年度)調査の成果

1．調査の概要と経過（調査日誌抄）

Ⅵ次調査である06年度調査は、05年度に県文化課の試掘確認調査により本調査が必要と判断されたⅣ次のC調査区の西側で国道387号との間の部分が対象となる。

国土交通省熊本河川国道事務所より、本年度の調査対象地域内の2ヶ所に建設予定の橋脚部分を、年度内に建設するので、橋脚建設予定地を先に調査を終えてほしいとの申し出があった。橋脚建設予定地の調査を、先に行うことにして調査に入った。国道387号より西側については、行政区が熊本市となることから、合志市による発掘調査は本年度で終了となる。

調査区は、4ヶ所に分かれており、南側よりⅥ－A・Ⅵ－B・Ⅵ－C・Ⅵ－D区と調査区名を付け調査を実施した。全調査区の中で、縄文時代の包含層が残っている部分に関しては、縄文時代の層まで掘り下げての調査を実施した。

調査区の場所は、東西AWグリッドからBKグリッドの間と南北34グリッドから43グリッドの間がA調査区、東西BCグリッドからBHグリッドの間と南北43グリッドから47グリッドの間がB調査区、東西AXグリッドからBAグリッドの間と南北41グリッドから43グリッドの間がC調査区、東西AUグリッドからBCグリッドの間と南北41グリッドから48グリッドの間がD調査区である。

調査は、本年度内に橋脚建設の予定であるB調査区とC調査区を先に行い、次にA調査区、最後にC調査区を行った。調査面積は、4調査区合わせて中世期が約3,120㎡と更に下層の縄文期が約3,120㎡の合計約6,240㎡である。

発掘調査は、06年7月10日より開始し、07年3月28日までの9ヶ月間実施した。

2．調査の成果

SB－104（104号掘立柱建物跡）

遺構（第127図）

A調査区のAX～AY－35～36のグリッドにかけて検出した掘立柱建物跡である。本建物跡の2.2mほど間隔を置いた北側には直交する105号建物と106号建物が建てられている。遺構は、棟方向をN－84°30′―Eに取り建てられた東西棟建物である。規模は、桁行3間で5.21m、梁行き2間で3.20mを測る。建物を構成する柱は、大きさが0.3m～0.8mで、深さは0.07m～1.02mを測る。柱穴内には、柱痕跡は確認できなかった。また、庇も有していない。

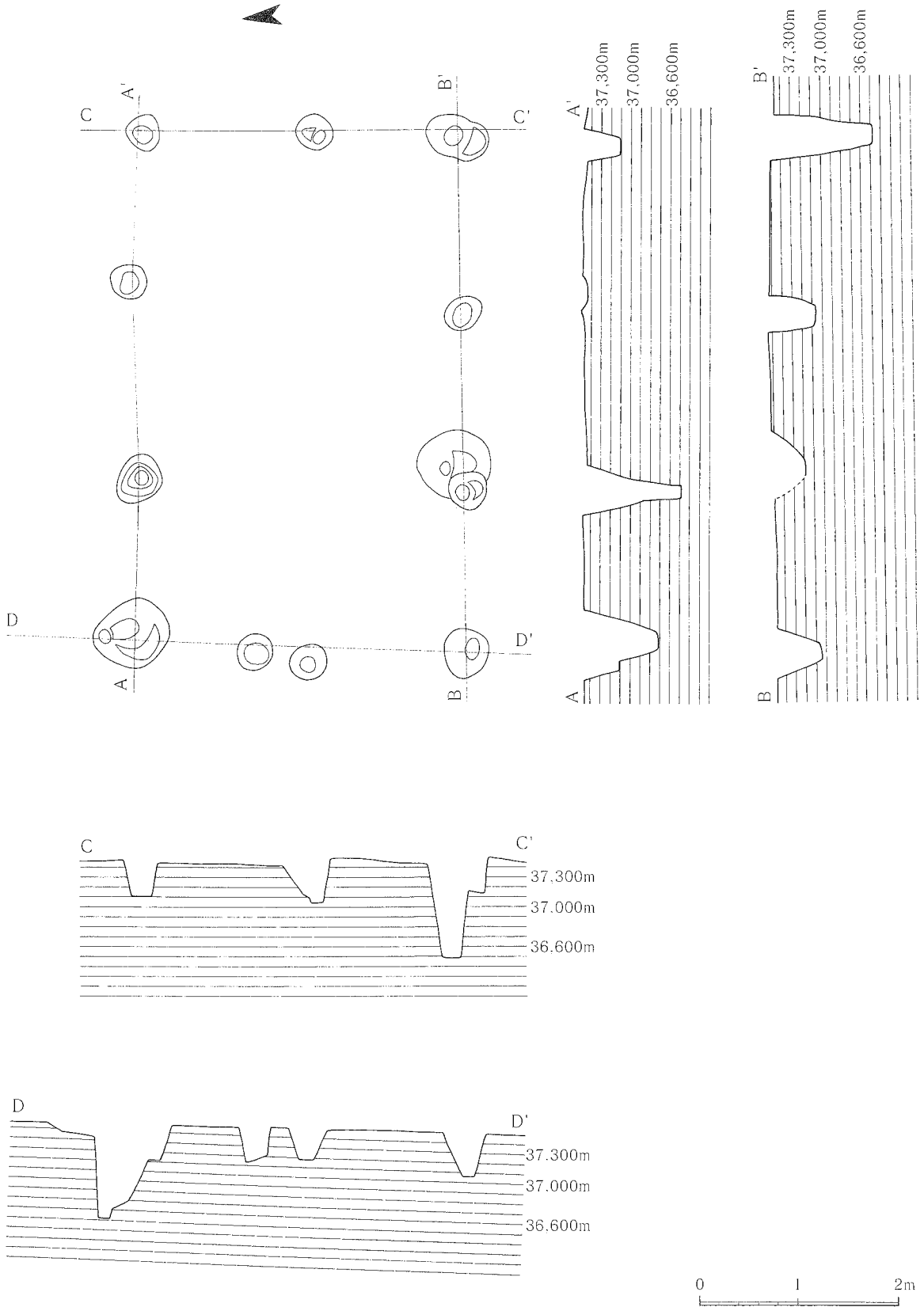
柱穴内からは、遺物の出土がまったく無いことから、遺構の正確な時期は不明であるが、他の遺構の時期や周辺から出土した遺物より、古代の掘立柱建物跡と考えられる。

SB－105（105号掘立柱建物跡）

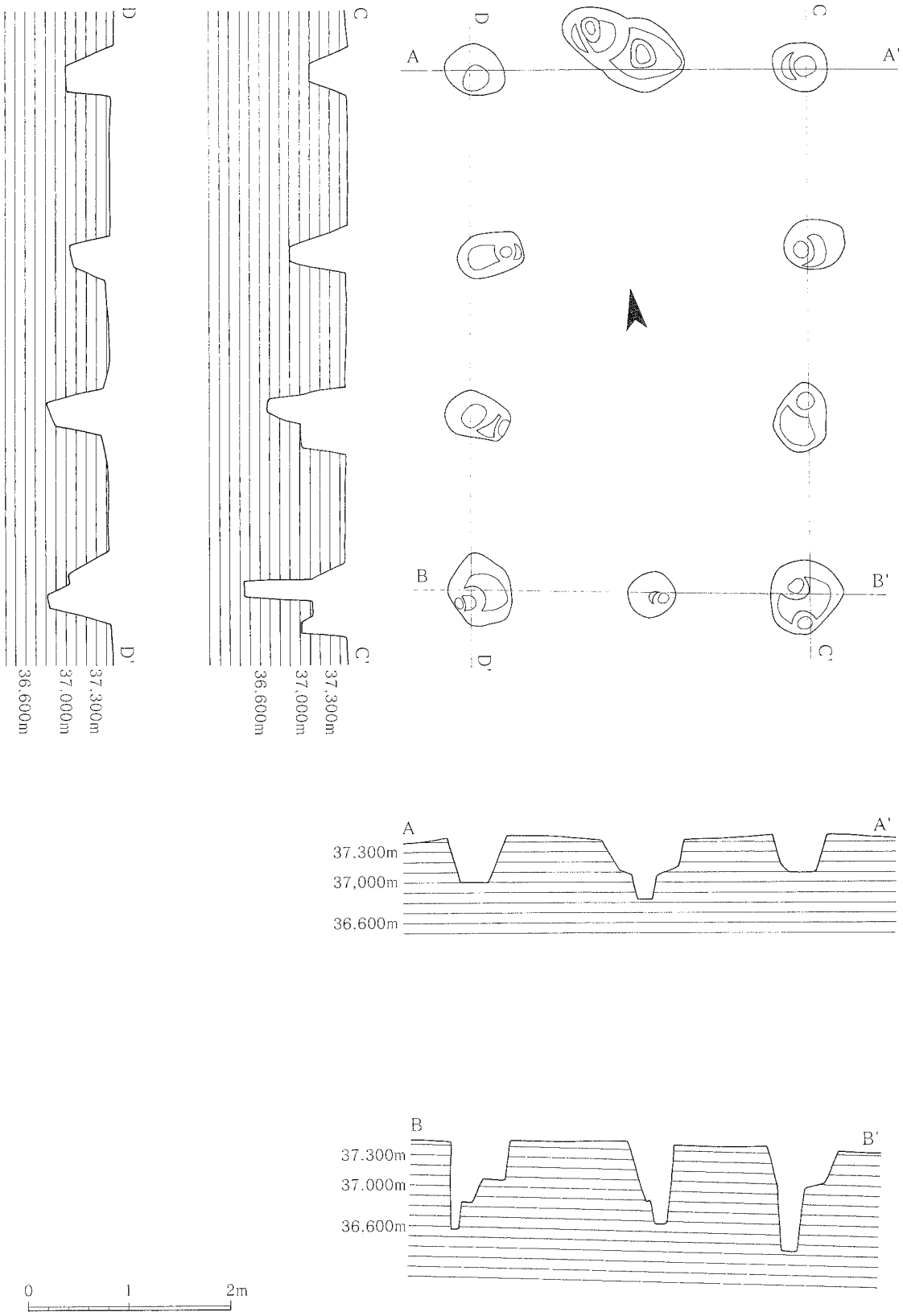
遺構（第128図）

A調査区のAY～AZ－36～37のグリッドにかけて検出した掘立柱建物跡である。本建物跡の2.4m南側には同方向に106号建物跡が建てられ、東側には直交して104号建物跡が建てられている。遺構は、棟方向をN－9°00′―Eに取り建てられた南北棟建物である。規模は、桁行3間で5.11m、梁行き2間で3.31mを測る。建物を構成する柱は、大きさが0.45m～0.72mで、深さは0.38m～1.3039mを測る。柱穴内には、柱痕跡は確認できなかった。また、庇も有していない。

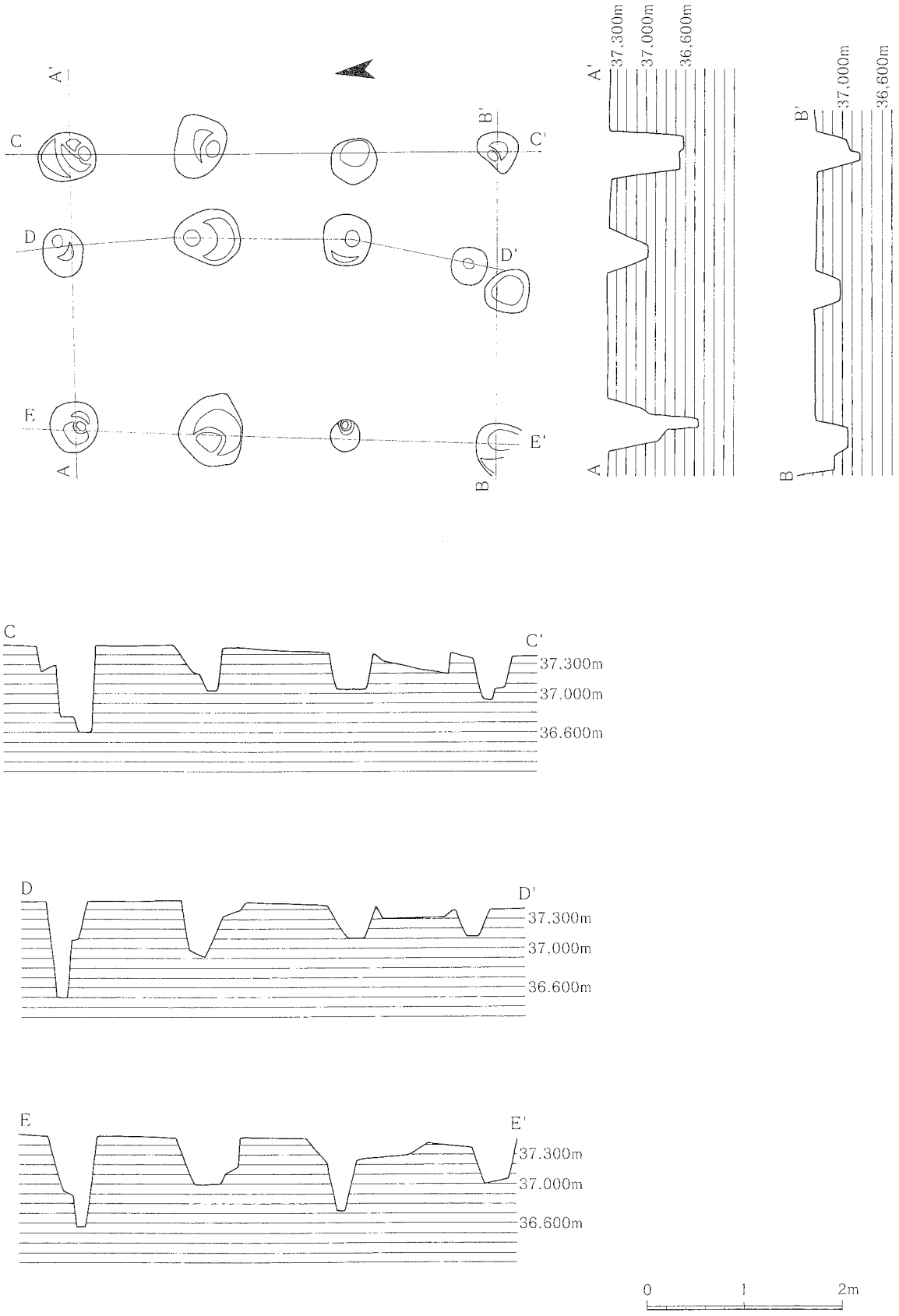
第126図　Ⅵ次調査区遺構配置図及びグリッド図



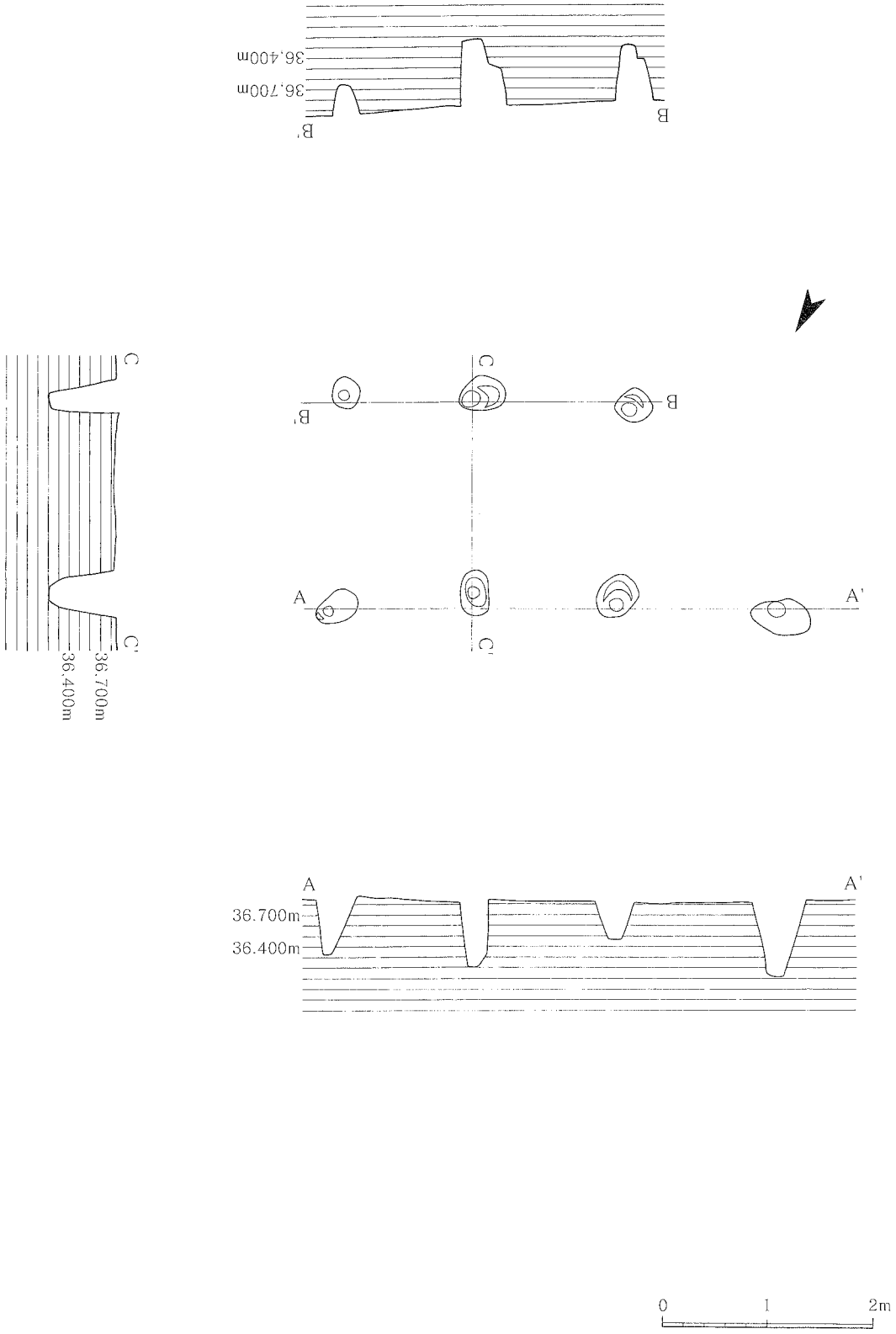
第127図　A区　SB－104実測図



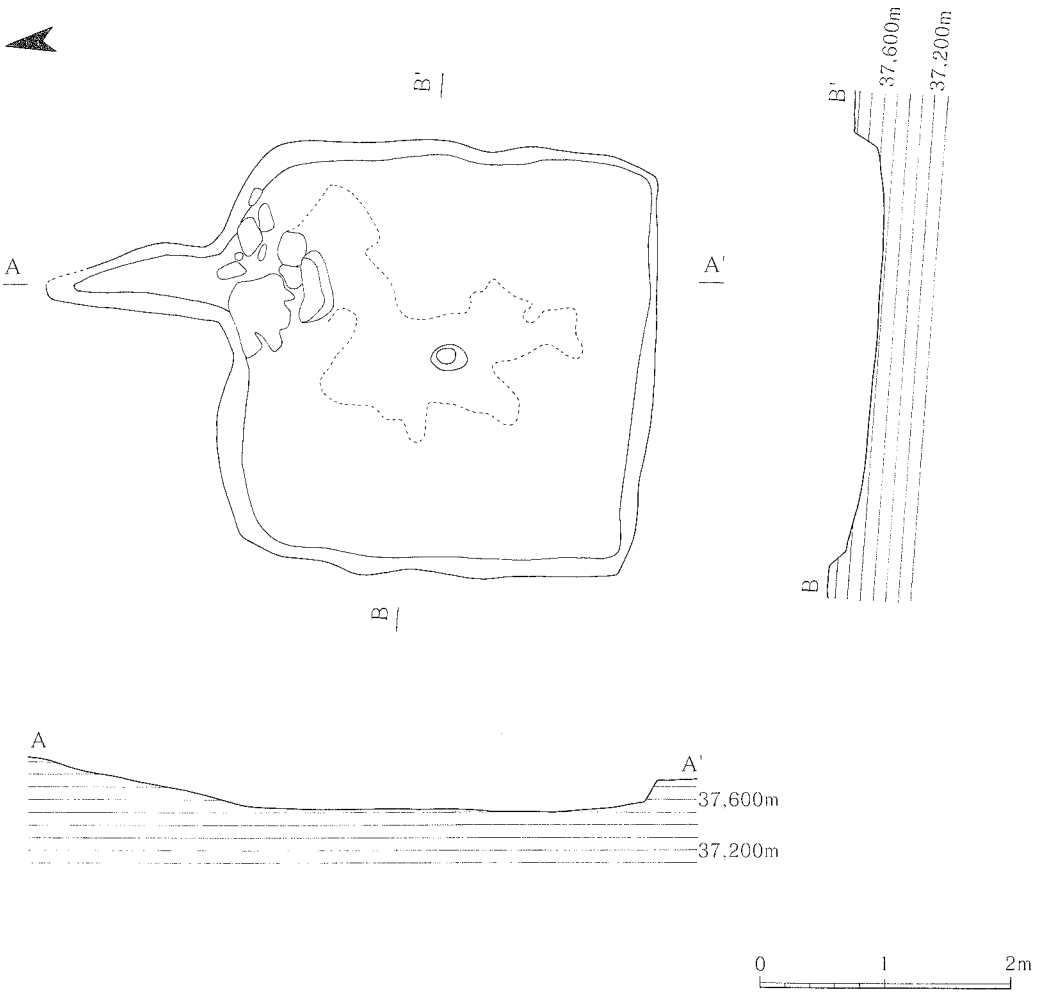
第128図　A区　SB－105実測図



第129図　A区　SB－106実測図



第130図　B区　SB－103実測図



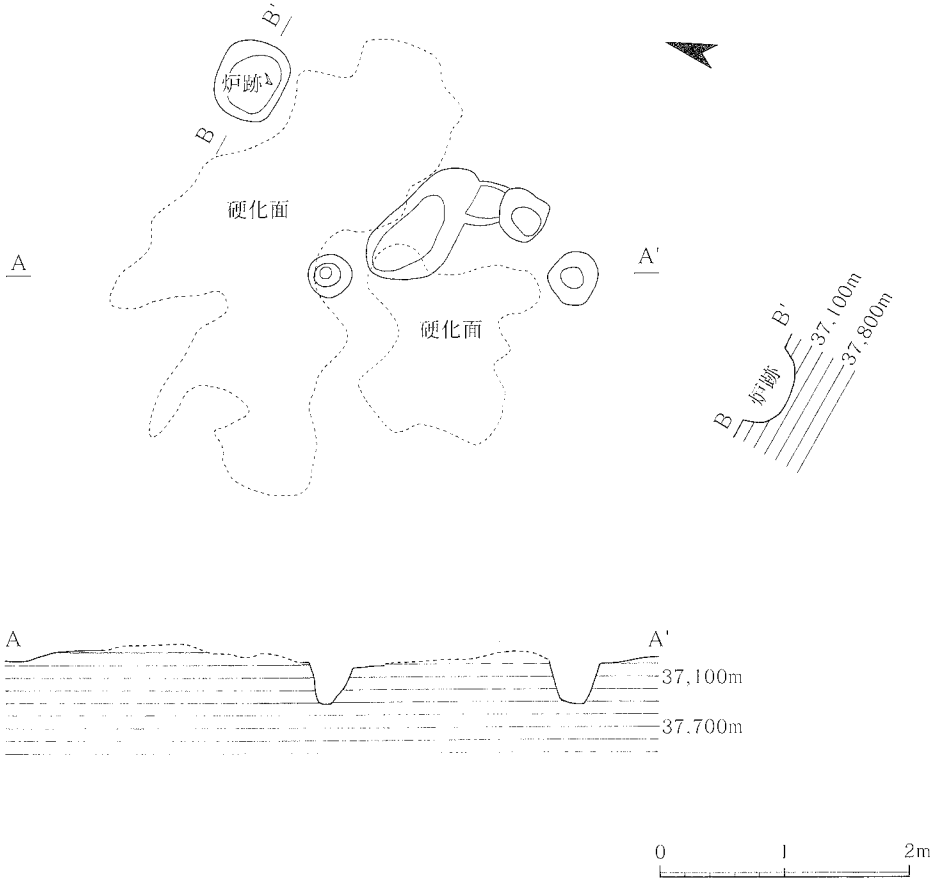
第131図　C区　SI－07実測図

柱穴内からは、遺物の出土がまったく無いことから、遺構の正確な時期は不明であるが、他の遺構の時期や周辺から出土した遺物より、古代の掘立柱建物跡と考えられる。

SB－106（106号掘立柱建物跡）

遺構（第129図）

A調査区のAZ－35～36のグリッドにかけて検出した掘立柱建物跡である。本建物跡の2.4m北側には同方向に105号建物跡が建てられ、東側には直交して104号建物跡が建てられている。遺構は、棟方向をN－6°30′－Eに取り建てられた南北棟建物である。規模は、桁行3間で4.35m、梁行き1間で1.87mを測り、東側に1間の庇が付いている。庇を含んだ梁行きは2間で2.81mを測る。建物を構成する柱は、大きさが0.3m～0.75mで、深さは0.26m～0.98mを測る。柱穴内には、柱痕跡は確認できなかった。南西側の隅柱が一部調査区外へ延びる。



第132図　C区　SI－08実測図

柱穴内からは、遺物の出土がまったく無いことから、遺構の正確な時期は不明であるが、他の遺構の時期や周辺から出土した遺物より、古代の掘立柱建物跡と考えられる。

SB－103（103号掘立柱建物跡）

遺構（第130図）

B調査区のSF～BG－44～45のグリッドにかけて検出した掘立柱建物跡である。遺構は、棟方向をN－61°00′—Wに取り建てられた東西棟建物である。規模は、桁行3間で4.25m、梁行き1間で1.94mを測る。建物を構成する柱は、大きさが0.27m～0.4mで、深さは0.2m～0.7mを測る。柱穴内には、柱痕跡は確認できなかった。また、庇も有していない。

柱穴内からは、遺物の出土がまったく無いことから、遺構の正確な時期は不明であるが、他の遺構の時期や周辺から出土した遺物より、古代の掘立柱建物跡と考えられる。

SI－07（7号住居跡）

遺構（第131図）

C調査区のAY～AZ—42～43のグリッドにかけて検出した竪穴住居跡である。遺構は、長辺が3.42mで短辺が3.40mを測り、隅丸方形を呈している。深さは、0.25mと浅くかなり削平を受けている。住居跡の、北側壁面の中央からやや東より付近に、カマドが確認された。カマドは、住居跡の壁面から1.42m外側に突出している。柱穴は、検出できなかったことから柱の本数は不明である。床には、中央付近に硬化面も確認された。

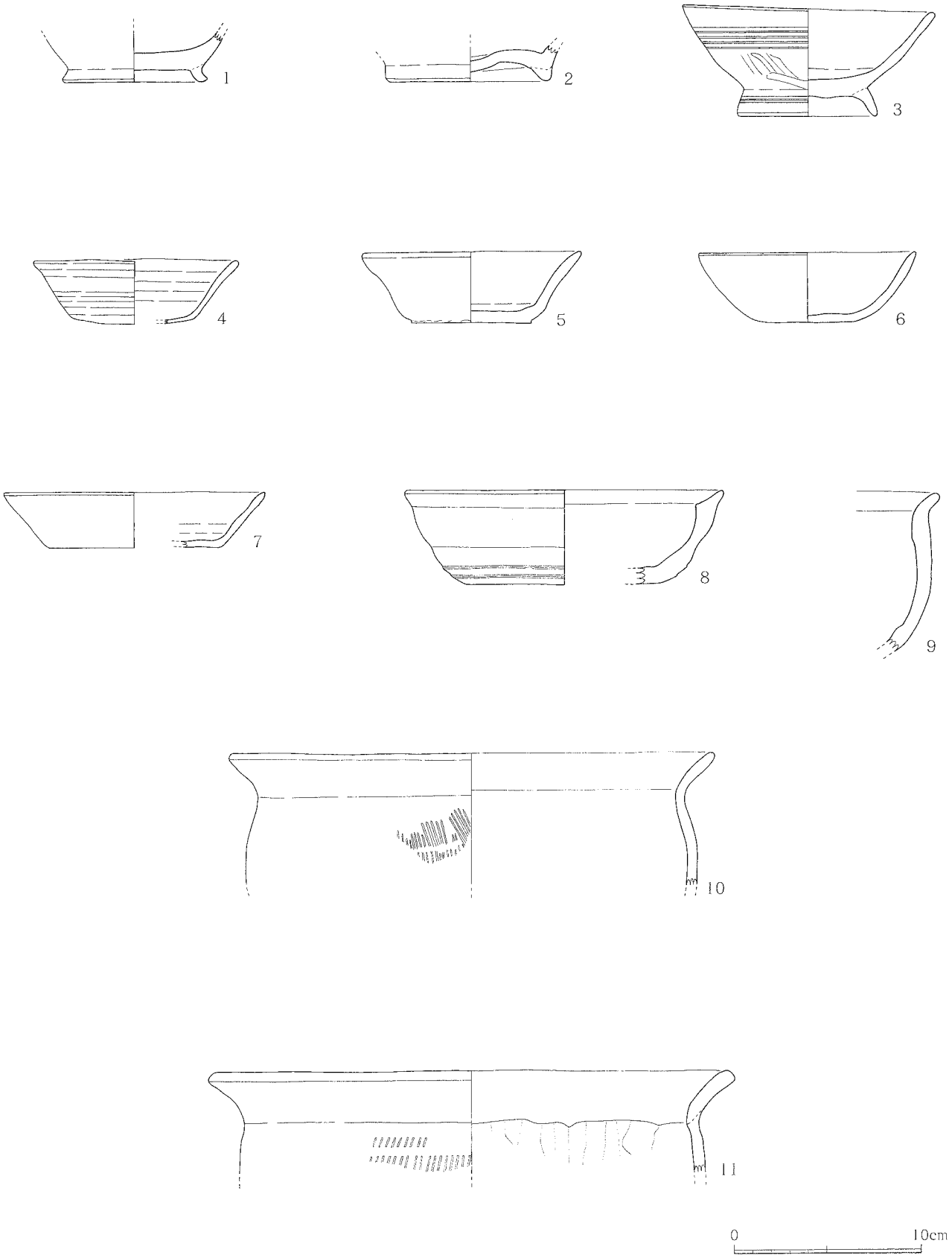
遺構内からは、少量ではあるが土師器や須恵器が出土しており、小片のために図化できなかったが特徴から古代の住居跡と考えている。

SI－08（8号住居跡）

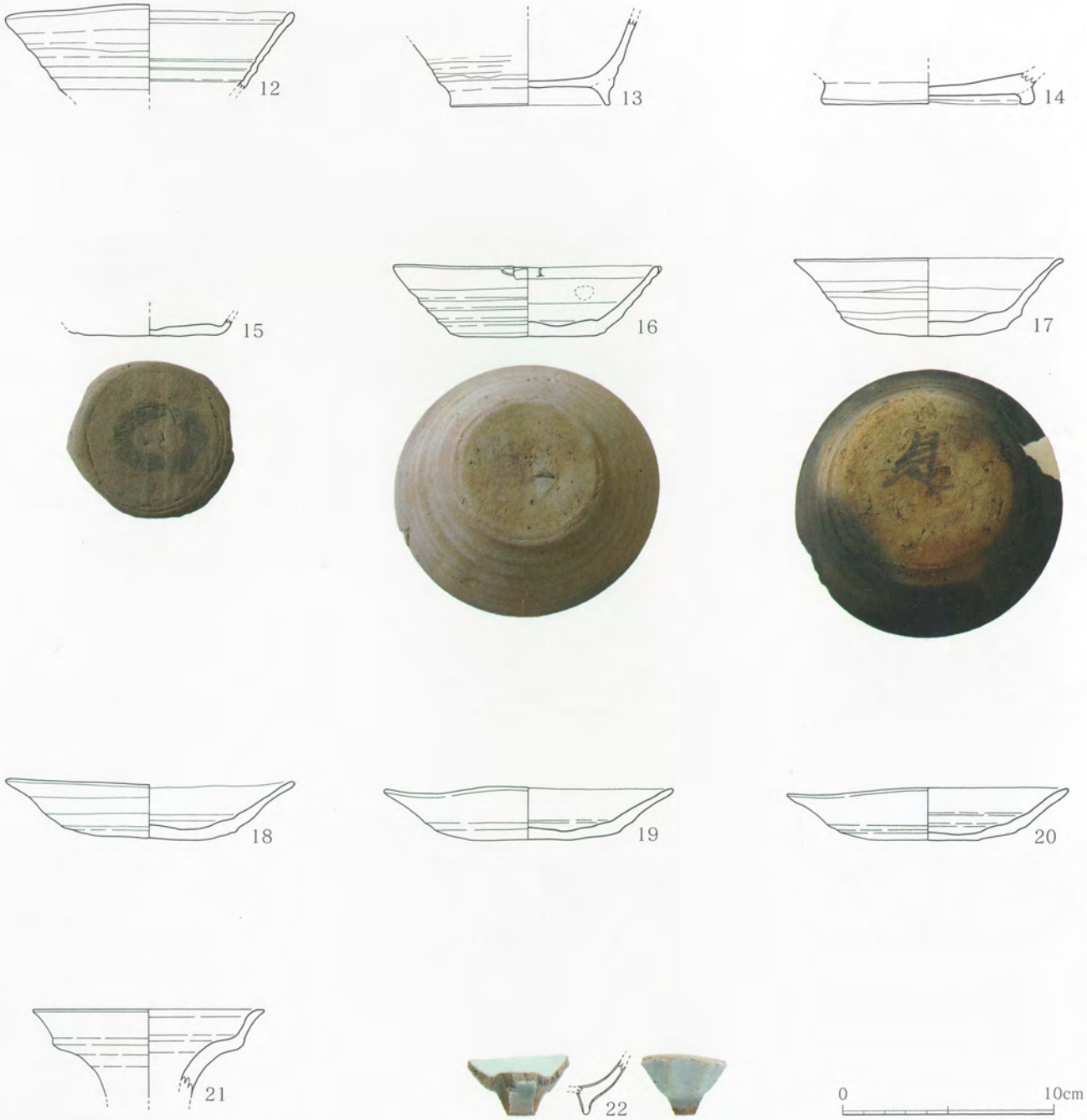
遺構（第132図）　遺物（第139図～第140図）　第33表

D調査区のAV～AW—42～43のグリッドにかけて検出した竪穴住居跡である。遺構は、その殆どが削平されていたことから、床の硬く踏みしめられた硬化面だけの検出で、形状や規模についてはまったく不明である。硬化面の北側には、長辺0.66mで短辺0.55m、隅丸長方形を呈した炉跡を検出した。深さは0.23mの皿状である。柱穴は、特定できなかったことから本数は不明である。

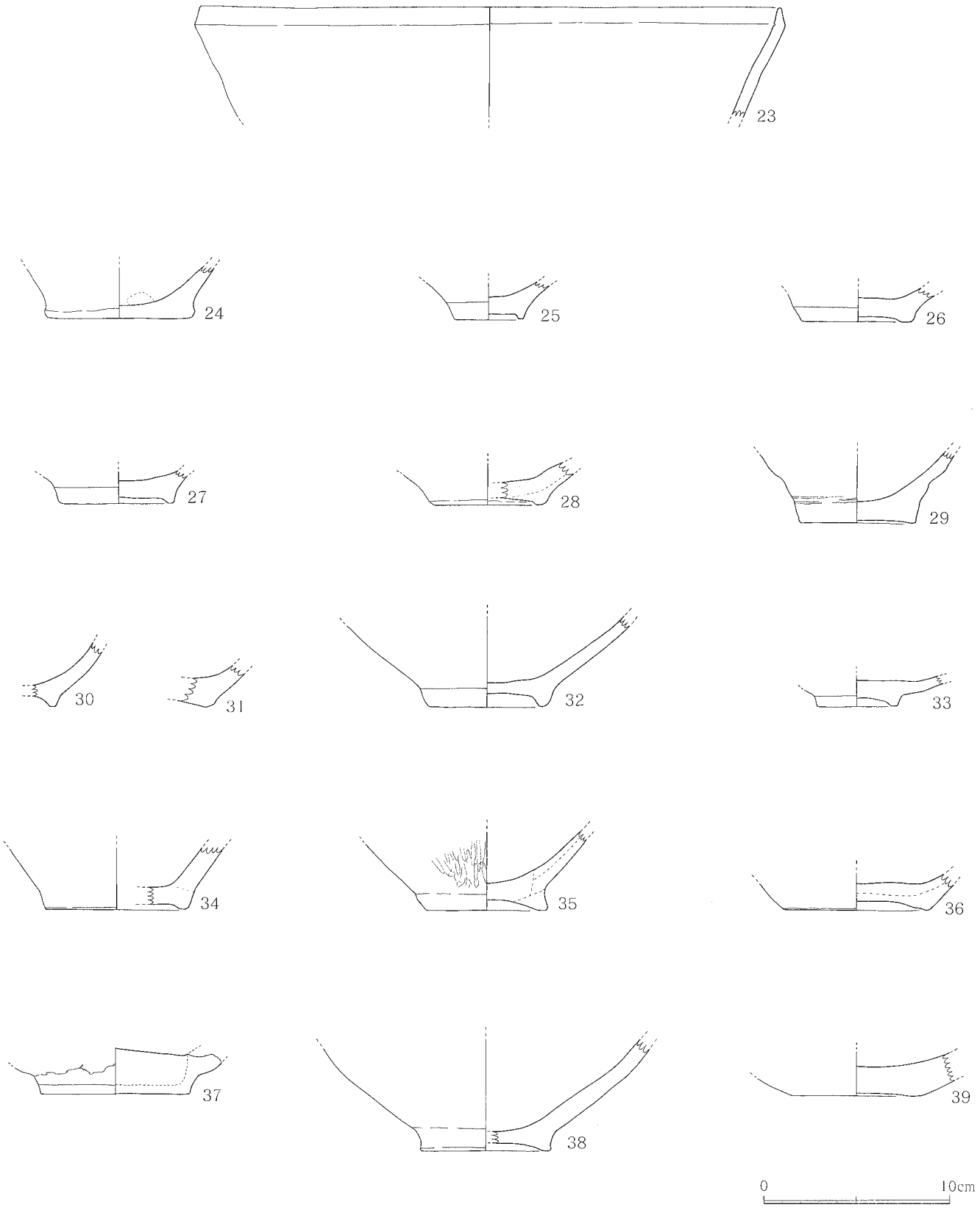
遺構内からは、弥生式土器の甕などが出土しており、遺物の特徴から弥生時代後期前半から中葉頃の住居跡と考えている。



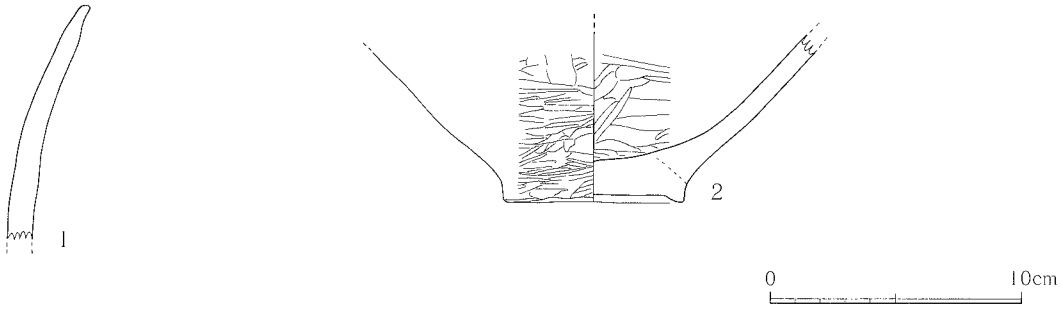
第133図　A区　一括遺物実測図　（古代）



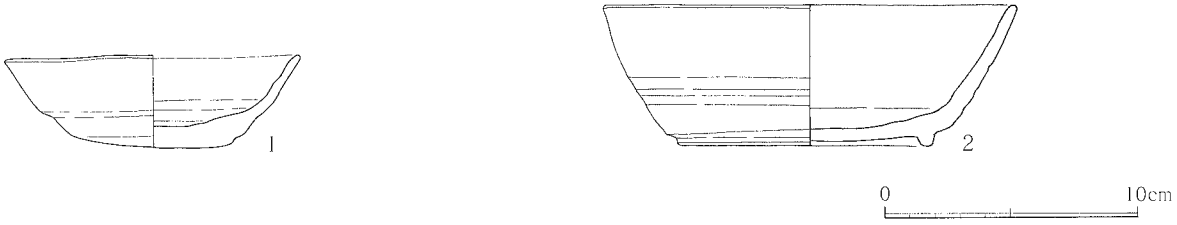
第134図　A区　一括遺物実測図　（中世・古代）



第135図　A区　一括遺物実測図　（縄文）

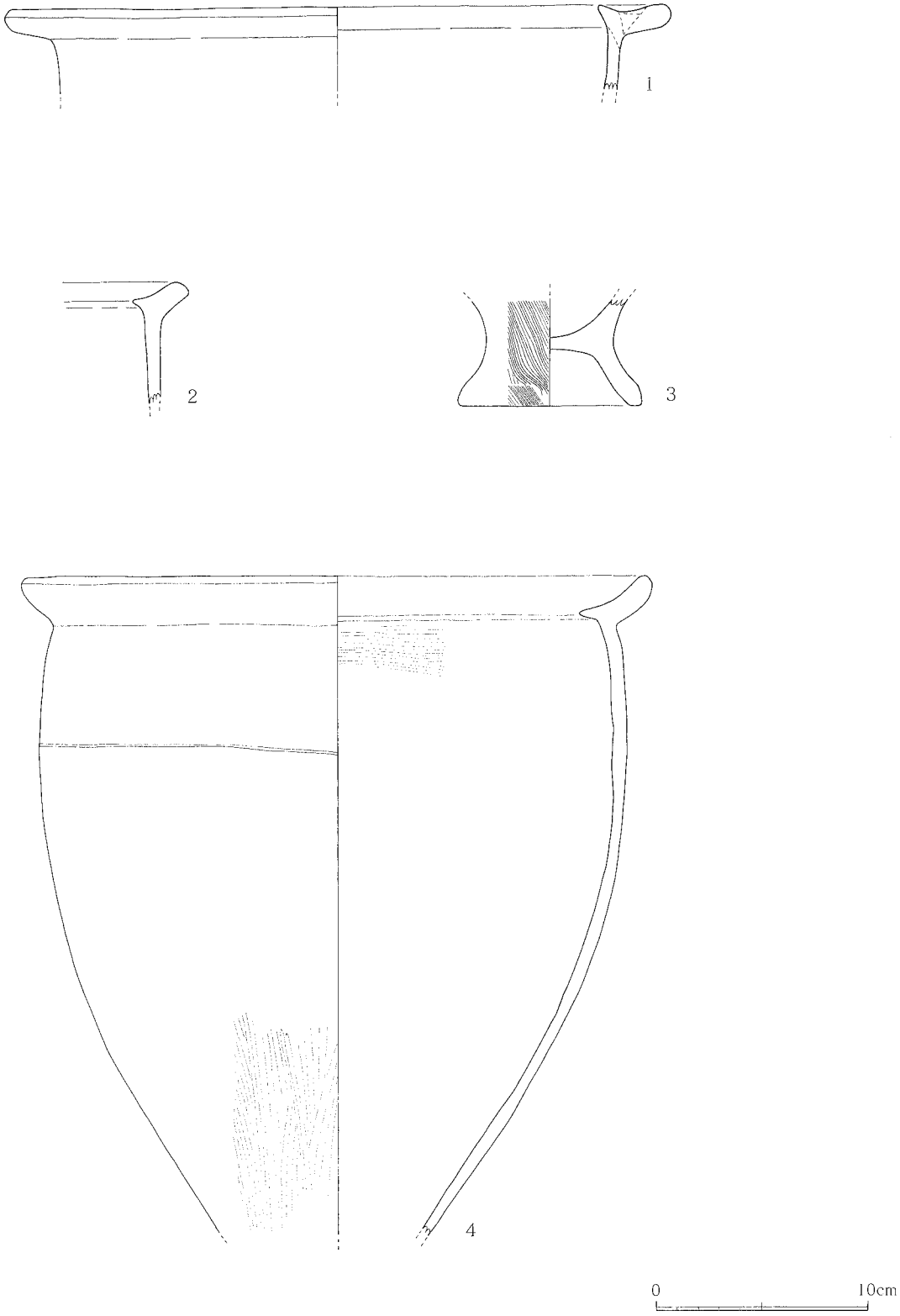


第136図　B区　一括遺物実測図　（縄文）

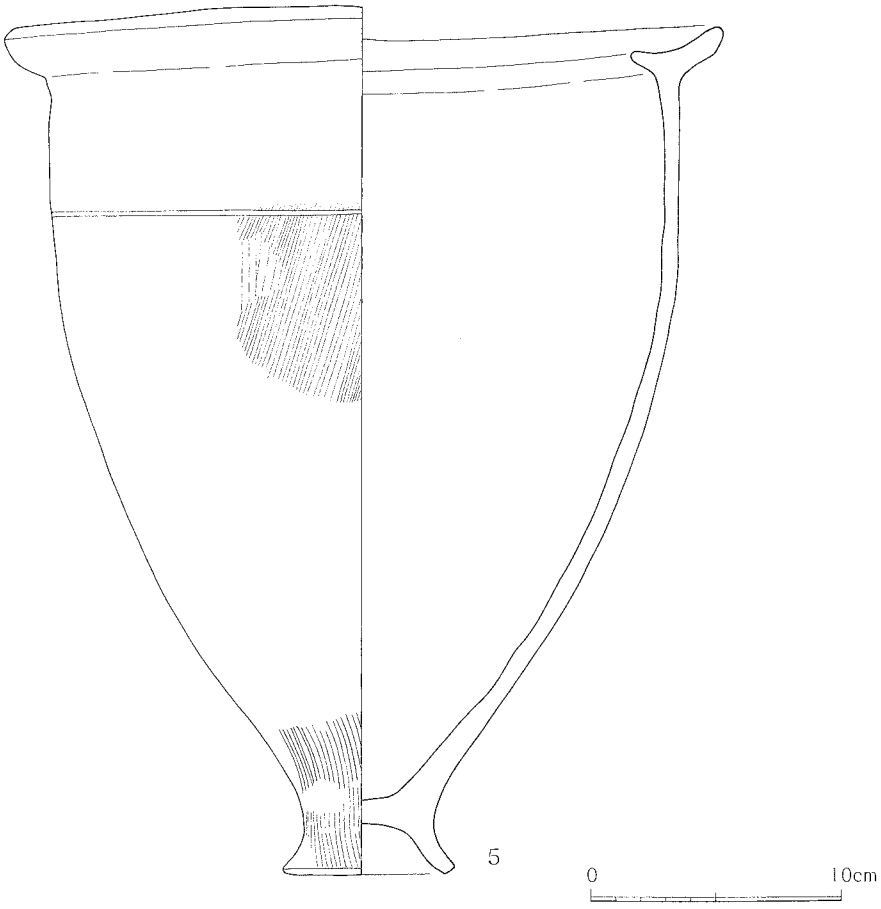


第137図　C区　一括遺物実測図　（古代）

第138図　D区　一括遺物実測図　（古代）



第139図　D区　SI－08内出土遺物実測図　（1）



第140図　D区　SI－08内出土遺物実測図　(2)

第29表

syjⅥ・・・は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅵ次調査　A区　一括遺物（古代） 特　　徴	胎　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第133図 1 syjⅥ33	黒色土器 椀	高台高　0.7 現存高　2.7 底径　7.8	AY－36グリッド 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台はやや外反する。黒色土器A類。内面にカーボンを吸着。内黒。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多）雲母（少）	良	横ナデ。底部は回転ヘラ切り後円を描くようにナデを施す。 にぶい橙色	ヘラミガキ。 暗灰色
第133図 2 syjⅥ7	土師器 台付椀	高台高　0.9 現存高　1.9 底径　8.4	縄文調査、BD－37グリッド 高台は歪み、貼付けは丸味を持つ。外面に黒色顔料、内面に赤色顔料を施す。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少）	良	横ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 黒色とにぶい褐色	ナデ。見込みは円を描くようにナデを施す。 赤色とにぶい橙色
第133図 3 syjⅥ9	土師器 台付椀	口径　13.0 高台高　1.5 器高　6.0 底径　7.2	縄文調査、BD－37グリッド 体部下位で僅かに丸味を持ち、その後、直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。内面は赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.2～0.4、少） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、少）	良	回転ナデ後不定方向のナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 浅黄橙色	回転ヘラミガキ後横及び斜め方向のナデ。見込みは不定方向のナデ。 浅黄橙色
第133図 4 syjⅥ46	土師器 坏	口径（11.0） 器高　3.5 底径　6.5	縄文調査、BD－37、38、39グリッド 体部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（少）砂粒（少） 赤褐色斑（少）	良	回転ヘラケズリ。 橙色	回転ヘラケズリ。 橙色
第133図 5 syjⅥ44	土師器 坏	口径　11.6 器高　3.8 底径　6.5	A区一括 体部は外反し、開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。内外面に赤色顔料塗布の痕跡あり。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.3程度、少） 赤褐色斑（多） 赤褐色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（少）	良	回転ナデ　底部は雑な回転ヘラ切り。 にぶい黄橙色と明褐色	回転ナデ。見込みは一方向のナデ。 にぶい黄橙色と明褐色
第133図 6 syjⅥ45	土師器 坏	口径（11.6） 器高　3.7 底径　5.0	AZ－46、BB－47グリッド 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。外面に赤色顔料塗布の痕跡あり。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	回転ナデ　底部は回転ヘラ切り後ナデ。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 にぶい黄橙色
第133図 7 syjⅥ60	土師器 坏	口径（14.0） 器高　3.0 底径　（9.0）	A区縄文調査 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少）雲母（少）	良	回転ナデ 橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残る。 橙色
第133図 8 syjⅥ36	土師器 椀	口径（16.0） 器高　5.1 底径（10.2）	A区暗褐色土層 体部は内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は内傾する。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色斑（多）角閃石（少）	良	回転ナデ。底部は回転糸切り。体部下位に指頭圧痕あり。 褐色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が僅かに残る。 暗褐色
第133図 9 syjⅥ37	土師器 小型甕	現存高　8.5	A区暗褐色土層 口縁部は外反し、端部は丸くなる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 雲母（少）	良	ヘラケズリと横及び斜め方向のナデ。 明赤褐色	ヘラケズリと横及び斜め方向のナデ。 明赤褐色
第133図 10 syjⅥ41	土師器 甕	口径（26.0） 現存高　8.5	AY－38グリッド、暗褐色土層 頸部で屈曲し、口縁部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。古代。内面にカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（少） 角閃石（少）長石（少）	良	胴部は縦方向のハケ目、口縁部は横ナデ。 にぶい橙色	ヘラケズリ。 にぶい橙色
第133図 11 syjⅥ6	土師器 甕	口径（27.4） 現存高　5.4	縄文調査、AY－35グリッド 頸部で屈曲し、口縁部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。古代。外面にカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.5程度、微量） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多） 雲母（少）	良	胴部は縦方向のハケ目後横ナデ。口縁部は横ナデ。 にぶい橙色	胴部は縦方向のヘラケズリ。口縁部は横ナデ。 にぶい橙色
第134図 12 syjⅥ10	須恵器 椀	口径　13.4 現存高　4.3	A区一括 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。古代。台付の可能性がある。	細砂粒（多）白色粒子（少）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデ。 灰白色	回転ヘラケズリ後回転ナデ。 灰色
第134図 13 syjⅥ5	須恵器 台付椀	高台高　0.8 現存高　4.1 底径　7.4	縄文調査、AX－38グリッド 体部は直線的にやや開きながら立ち上がる。底部外面に高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（多） 小石粒（0.3～0.5、微量） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）	良	回転ヘラケズリ後横ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 暗灰黄色と灰色	見込みは回転による成形時の凹凸をナデ消している。 灰色
第134図 14 syjⅥ11	須恵器 台付椀	高台高　0.9 現存高　1.5 底径　9.7	縄文調査、BC－36グリッド 高台は低く、底部外面に僅かに開くように貼り付ける。体部欠損後カーボンが付着。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（少）	良	高台部は横ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 灰黄色	見込みはナデ。 黄灰色

第29表

syjⅥ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅵ次調査 A区 一括遺物（中世、古代、縄文） 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	調整技法、施釉技法、色調 内面
第134図 15 syjⅥ3	須恵器 坏	現存高 1.5 底径 9.7	縄文調査、AY−37グリッド 底部外面に黒墨で○記号を書く。墨書土器。古代。	細砂粒（多）	良	底部は回転ヘラ切り後ヘラ状工具使用の一方向のナデ。 灰白色	見込みは不定方向のナデ。 灰白色
第134図 16 syjⅥ2	須恵器 坏	口径 12.3 器高 3.5 底径 6.4	縄文調査、AY−37グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。底部外面に黒墨で「見」という字を書く。墨書土器。口縁部に粘土の繋ぎ目がある。古代。	細砂粒（多） 小石粒（0.6、一個） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少）雲母（多）	良	回転ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後不定方向のナデ。 灰白色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、軽いナデを施す。体部中位に指頭圧痕あり。 灰白色
第134図 17 syjⅥ1	須恵器 坏	口径 12.5 器高 3.7 底径 4.8	縄文調査、AY−36グリッド 体部はやや外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。底部外面に黒墨で「見」という字を書く。墨書土器。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1〜0.2、多） 雲母（少）	良	回転ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後不定方向のナデ。 灰色と淡黄色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、ナデを施す。 灰色と淡黄色
第134図 18 syjⅥ4	須恵器 坏	口径 13.4 器高 2.9 底径 4.8	縄文調査、AZ−37グリッド 体部はやや外反気味に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。古代。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1〜0.2、多） 雲母（多）	良	回転ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後一方向のナデ。 灰色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、一方向のナデを施す。 灰黄色
第134図 19 syjⅥ38	須恵器 坏	口径 13.6 器高 2.5 底径 4.7	BA−36グリッド ピットⅠ 体部はやや外反気味に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。古代	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色粒子（少）雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 灰色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、一方向の軽いナデを施す。 灰黄色
第134図 20 syjⅥ39	須恵器 坏	口径 13.2 器高 2.5 底径 5.0	BA−36グリッド ピットⅠ 体部はやや外反気味に大きく開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。古代。	細砂粒（多）赤褐色斑（多） 白色粒子（少）雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 灰黄色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、一方向の軽いナデを施す。 灰黄色と黄橙色
第134図 21 syjⅥ63	須恵器 壺	口径（11.0） 現存高 4.2	A区暗褐色土層 頸部は外反し、口縁部は屈折した後、外反気味に開きながら立ち上がる。口縁部上端は水平になる。	細砂粒（多） 白色粒子（多） 黒色粒子（多）	良	回転ナデ。 にぶい黄褐色	回転ナデ。 にぶい黄褐色
第134図 22 syjⅥ67	青磁碗 輸入磁器	高台高 0.7 現存高 2.4	A区縄文調査 体部外面に鎬連弁を持つ。上田氏分類の青磁碗B類。残りが少ない為、詳細は不明。	黄灰色 やや粗質	良	施釉。釉は透明感は無い。やや細かい貫入が入る。高台畳付けの釉を掻き取る。 青緑色	施釉。釉は透明感は無い。大きめの貫入が入る。 青緑色
第135図 23 syjⅥ65	縄文後期 深鉢	現存高 6.0	AY−37、BB−36グリッド、暗褐色土層 頸部は直線的に開きながら立ち上がり、口縁部は「く」字状に屈折する。三万田式or御領式。口縁部。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	ミガキ。 にぶい黄橙色	ミガキ。 にぶい黄橙色
第135図 24 syjⅥ58	縄文後期 深鉢	現存高 2.8 底径 (8.0)	BB−36グリッド、暗褐色土層 底部は平底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少）角閃石（少）	良	ナデ。 にぶい褐色	ナデ。 にぶい黄色
第135図 25 syjⅥ52	縄文 後期 深鉢	現存高 2.0 底径 3.7	BA−40グリッド、暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（多） 雲母（多）	良	ミガキ。 黄褐色	ミガキ。 黒褐色
第135図 26 syjⅥ51	縄文 後期 深鉢?	現存高 1.8 底径 5.8	BC−40グリッド、暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（多） 雲母（多）長石（少）	良	横ナデとミガキ。 にぶい黄褐色	ナデとミガキ。 にぶい橙色
第135図 27 syjⅥ50	縄文 後期 深鉢?	現存高 1.7 底径 5.8	A区暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（多） 雲母（多）長石（多）	良	横ナデ後ミガキ。 にぶい黄橙色	ナデ。 黒褐色
第135図 28 syjⅥ57	縄文 後期 深鉢?	現存高 1.9 底径 (5.5)	A区暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	ミガキ。 橙色	ナデ。 にぶい黄橙色

第29表

syjⅥ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅵ次調査　A区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第135図 29 syjⅥ59	縄文 晩期 深鉢	現存高　3.7 底径　6.2	AZ－38グリッド、暗褐色土層 底部はやや上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.1～0.3、少） 角閃石（少）雲母（少） 長石（少）石英（少）	良	ケズリとミガキ。 にぶい黄橙色	ナデ。 浅黄色
第135図 30 syjⅥ53	縄文 後期 深鉢	現存高　3.5	Z－37グリッド、暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（多） 雲母（多）	良	ミガキ。 にぶい黄橙色	ナデ。 暗褐色
第135図 31 syjⅥ54	縄文 晩期 深鉢	現存高　2.3	SB－105ピット3、暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（多）	良	ミガキ。 黄褐色	ナデ。 褐灰色
第135図 32 syjⅥ40	縄文 後期 深鉢	現存高　4.9 底径　6.0	BC－41グリッド、暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 赤褐色斑（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.3、多） 石英（多）	良	ケズリ後ミガキ。 にぶい橙色	ナデ。 にぶい黄橙色
第135図 33 syjⅥ55	縄文 後期 浅鉢	現存高　4.9 底径　6.0	BC－41グリッド、暗褐色土層 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 角閃石（多）雲母（多）	良	ミガキ。 にぶい褐色	ミガキ。 にぶい黄褐色と灰黄褐色
第135図 34 syjⅥ66	縄文後期 浅鉢	現存高　3.4 底径　(7.8)	A区暗褐色土層 底部は上げ底になる。三方田式。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.4、多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少） 角閃石（少）雲母（少）	良	ミガキ。 にぶい黄橙色	ミガキ。 灰黄色
第135図 35 syjⅥ8	縄文晩期 浅鉢	現存高　4.3 底径　6.6	縄文調査、BB－37グリッド 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	ミガキ。 にぶい橙色	ナデ。 灰白色
第135図 36 syjⅥ12	縄文 後期 深鉢	現存高　2.0 底径　(8.0)	A区道路状遺構一括 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	ミガキ。 にぶい黄橙色	ナデ。 灰黄褐色
第135図 37 syjⅥ61	縄文晩期 深鉢	現存高　2.5 底径　(8.0)	AZ－39グリッド 底部は平底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（少） 角閃石（多）雲母（多）	良	横ナデ。 にぶい黄橙色	ナデ。 黄褐色とにぶい黄色
第135図 38 syjⅥ42	縄文 後期 深鉢	現存高　4.7 底径　(6.8)	BC－41グリッド 底部は上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.1～0.3、少） 角閃石（0.1～0.3、多） 雲母（多）長石粒（多）	良	ナデとミガキ。 浅黄橙色	ナデとミガキ。 橙色
第135図 39 syjⅥ56	縄文 後期 深鉢	現存高　2.2 底径　(7.0)	AZ－35グリッド 底部は僅かに上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（少）角閃石（少） 雲母（少）	良	ナデ。 黄褐色	ナデ。 灰黄褐色

第30表

syjⅥ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅵ次調査　B区　一括遺物（縄文） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第136図 1 syjⅥ64	縄文晩期 深鉢	現存高　9.4	BB－47グリッド 口縁部はやや外反気味に開きながら立ち上がる。口縁部。傾きは正確ではない。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色斑（少） 白色粒子（少） 角閃石（少）雲母（少）	良	ミガキ。 黄橙色	ナデ。 橙色と灰黄色
第136図 2 syjⅥ13	縄文 後期 浅鉢	現存高　6.7 底径　(7.2)	B区暗褐色土層 底部はやや上げ底になる。底部。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、多）	良	ミガキ。 浅黄橙色	ミガキ。 にぶい黄橙色と灰黄褐色

第31表

syjⅥ･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅵ次調査　C区　一括遺物（古代） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第137図 1 syjⅥ14	土師器 坏	口径　11.5 器高　3.7 底径　6.3 器高　2.8	AZ－43グリッド、黒褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。古代。	細砂粒（多） 角閃石（0.1程度、少） 雲母（少）	良	回転ナデ。体部下位はナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、ナデを施す。 橙色
第137図 2 syjⅥ47	須恵器 台付坏	口径（16.2） 高台高　0.5 器高　5.6 底径　10.2	C区一括、暗褐色土層 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。底部に低い高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（少） 白色粒子（少）	良	回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部は回転ヘラ切り。 灰色と灰白色	回転ナデ。 浅黄橙色

第32表

syjⅥ･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅵ次調査　D区　一括遺物（古代） 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第138図 1 syjⅥ20	土師器 台付椀	高台高　1.5 現存高　2.2 底径　(7.6)	AW－43グリッド 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台はやや外反する。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）	良	回転ナデ。高台は横ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデで板目圧痕あり。 橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、一方向のナデを施す。 橙色
第138図 2 syjⅥ19	土師器 台付椀	高台高　1.0 現存高　2.1 底径　9.2 器高　2.8	AX－45グリッド 底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は外反する。底部外面に黒墨で「井」という字を書く。内外面に赤色顔料塗布。墨書土器。古代。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 角閃石（0.1程度、微量） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 明赤褐色とにぶい橙色	回転ナデ後ナデ。 橙色とにぶい橙色
第138図 3 syjⅥ34	土師器 台付椀	口径（16.2） 高台高　1.0 器高　5.6 底径　(7.6) 器高　2.8	AX－45グリッド 体部は内湾し、やや開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸くなる。底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。古代。	細砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 黒色粒子（少） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 灰白色	回転ナデ。 にぶい黄橙色
第138図 4 syjⅥ16	土師器 台付椀	口径（14.0） 高台高　1.5 器高　5.7 底径　7.7	SD－76 体部は内湾し、開きながら立ち上がる。口縁端部は丸みを持つ。底部外面に、端部が開くように高台を貼り付ける。口縁部外面に赤色顔料が僅かに残る。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少） 角閃石（0.1程度、少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 浅黄橙色
第138図 5 syjⅥ48	土師器 台付椀	口径　13.4 高台高　1.5 器高　6.5 底径　(6.9)	AY－45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は僅かに外反し、端部は丸味を持つ。底部外面に端部が開くように高台を貼り付ける。高台は高くなる。古代。	細砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 赤褐色斑（少）	良	回転ナデ。底部はナデ。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 にぶい黄橙色
第138図 6 syjⅥ27	土師器 台付椀	現存高　3.4	AX－43グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多） 小石粒（0.5程度、微量） 白色粒子（少）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 橙色	回転ナデ。 橙色
第138図 7 syjⅥ17	土師器 坏	口径（11.2） 器高　4.1 底径　7.6	AX－45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。口縁部内外面に赤色顔料が僅かに残る。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（少） 角閃石（0.5程度、少）	良	体部上位は回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みはナデ。 浅黄橙色
第138図 8 syjⅥ23	土師器 坏	口径　11.4 器高　4.6 底径　6.2	AY－45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部中位に稜を持つ。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2～0.3、少） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1～0.2、少） 雲母（少）	良	体部上位は回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ。底部は回転ヘラ切り後ナデで板目圧痕あり。 浅黄橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残る。 浅黄橙色
第138図 9 syjⅥ15	土師器 坏	口径　11.4 器高　3.4 底径　7.4	AW－44グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。底部外面に黒墨で「井」のような、やや不明瞭な字を書く。内外面に赤色顔料塗布。底部外面と内面見込みにカーボンが付着。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 小石粒（0.5程度、微量） 赤褐色粒子（微量） 白色粒子（微量） 雲母（少）	良	回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、ナデを施す。 橙色

第32表

syjⅥ･･･は実測番号

番号	器種	法量（cm）	Ⅵ次調査 D区 一括遺物（古代） 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第138図 10 syjⅥ18	土師器 坏	口径 11.6 器高 3.3 底径 8.0	AX−45グリッド 体部はやや内湾気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は尖り気味になる。内面に赤色顔料が僅かに残る。胎土中に多量の雲母を含む。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 角閃石（0.1程度、多） 雲母（多）	良	回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後一方向のナデ。体部下位に指頭圧痕あり。 にぶい黄橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、一方向のナデを施す。 にぶい黄橙色
第138図 11 syjⅥ21	土師器 坏	口径 10.8 器高 3.3 底径 5.6	AX−45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部下位に稜を持つ。内面に赤色顔料が僅かに残る。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 赤褐色粒子（少）	良	回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ後回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデ。 淡黄色とにぶい橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、ナデを施す。 浅黄橙色
第138図 12 syjⅥ25	土師器 坏	口径 11.0 器高 3.3 底径 6.8	AY−45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。体部下位に稜を持つ。底部に孔があるが、意図的なものかは不明。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、多）	良	回転ナデ。体部下位は回転ヘラケズリ後横ナデ。底部は回転ヘラ切りで板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、一方向のナデを施す。 にぶい橙色
第138図 13 syjⅥ24	土師器 坏	口径 11.4 器高 3.6 底径 7.0	AY−45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸くなる。体部下位に稜を持つ。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.5、多） 赤褐色粒子（多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、多） 雲母（少）	良	回転ナデ後斜め方向のナデ。体部下位は回転ヘラケズリ後横ナデ。底部は回転ヘラ切り後ナデで、板目圧痕あり。 にぶい橙色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、一方向のナデを施す。 にぶい橙色
第138図 14 syjⅥ26	土師器 坏	口径（12.4） 器高 2.9 底径（9.4）	AX−45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を持つ。内外面に赤色顔料塗布。古代。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3〜0.5、少） 赤褐色粒子（少） 白色粒子（多）	良	回転ナデ後横及び斜め方向のナデ。底部は回転ヘラ切り後一方向のナデを施す。 淡黄色	回転ナデ。見込みは回転による成形時の凹凸が残り、ナデを施す。 浅黄橙色
第138図 15 syjⅥ62	土師質 鉢	口径（18.0） 現存高 4.7	D区一括 体部はやや内湾気味に上方へ立ち上がる。口縁部は肥厚し、上端は水平になる。	細砂粒（多）砂粒（多） 白色粒子（少） 角閃石（少） 雲母（少）	良	体部は横ナデでクシ状工具使用の横方向の調整痕がある。 にぶい黄橙色	口縁部は横ナデ。体部は縦方向のヘラケズリ。 にぶい黄橙色
第138図 16 syjⅥ28	土師器 甕	現存高 4.7	AZ−45グリッド 頸部で屈曲した後、口縁部は外反気味に開きながら立ち上がる。口縁端部は丸味を帯びる。古代。	細砂粒（多）砂粒（少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、多）	良	口縁部は横ナデ。胴部は縦方向のハケ目後ナデ。 にぶい橙色	口縁部は横ナデ。胴部は縦方向のヘラケズリと横ナデ。 にぶい橙色
第138図 17 syjⅥ22	須恵器 坏	口径（13.0） 器高 3.5 底径（6.6）	AY−45グリッド 体部は直線的に開きながら立ち上がる。口縁端部は平坦になる。古代。	細砂粒（多）白色粒子（多）	良	回転ヘラケズリ。体部下位は回転ナデ。底部は回転ヘラ切り後粗いナデを施す。 灰黄色	回転ヘラケズリ後回転ナデ。見込みは回転ナデ。 灰黄色

第33表

syjⅥ･･･は実測番号

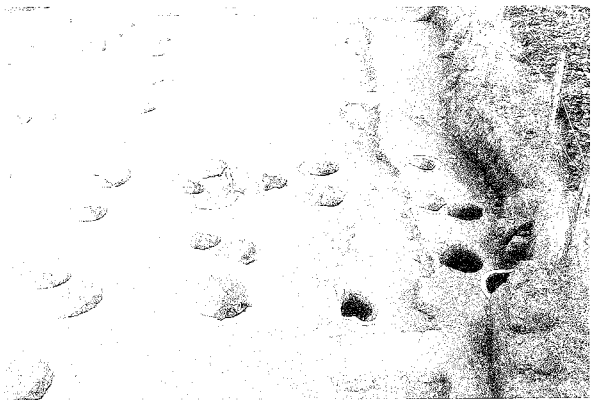
番号	器種	法量（cm）	Ⅵ次調査 D区 SI−08 内出土遺物 特徴	胎土 （ ）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調 外面	内面
第139図 1 syjⅥ32	弥生 甕	口径（31.6） 現存高 4.0	頸部で強く屈折した後、口縁部は「T」字状を成す。口縁外端は丸くなり、内端は尖る。口縁部外面下側にカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.3、多） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、多）	良	横ナデ。 にぶい黄橙色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第139図 2 syjⅥ31	弥生 甕	現存高 5.8	頸部で屈曲した後、口縁部は外方へ短く開き、端部は丸くなる。口縁部内面は内側へ短く張り出し、端部は尖る。外面にカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.3、少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、多） 長石（0.2〜0.3、少）	良	横ナデ。 黒褐色	横ナデ。 にぶい黄橙色
第139図 3 syjⅥ49	弥生 甕	脚台高 3.0 現存高 5.0 脚台径 8.8	脚台部は端部にかけて、外反気味に大きく開く。端部は丸くなる。体部内面にカーボンが付着。	細砂粒（多）砂粒（多） 雲母（多）長石粒（多）	良	横ナデ後縦方向のハケ目。 オリーブ黒色	ナデ。 にぶい黄橙色
第139図 4 syjⅥ68	弥生 甕	口径 29.0 胴径 28.0 現存高31.3	頸部で屈曲した後、口縁部は外方へ短く開き、端部は丸くなる。口縁部内面は内側へ短く張り出し、端部は尖る。胴部の最大径は中位より上になる。内外面にカーボンが付着。脚台部欠損。外面は器面が荒れている。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.2〜0.5、少） 白色粒子（多） 角閃石（0.1〜0.2、少） 雲母（少）	良	口縁部から胴部上位は横ナデ。胴部中位から下位は縦方向のやや不明瞭なハケ目。 にぶい黄橙色と黒褐色	ナデ。 にぶい橙色と褐灰色

第33表

syjⅥ･･･は実測番号

番　号	器　種	法量（cm）	Ⅵ次調査　D区　SI－08　内出土遺物 特　　徴	胎　　土 （　）内の数値の単位はcm	焼成	調整技法、施釉技法、色調	
						外面	内面
第140図 5 syjⅥ69	弥生 甕	口径　28.2 胴径　25.0 器高　34.5 脚台径　6.3	SI－08 頸部で屈曲した後、口縁部は外方へ短く開き、端部は丸くなる。口縁部内面は内側へ短く張り出し、端部は尖る。胴部の最大径は中位より上になる。脚台部を除く外面にカーボンが付着。外面は器面が荒れている。	細砂粒（多）砂粒（多） 小石粒（0.3～0.4、少） 白色粒子（多） 角閃石（0.2～0.3、少）	良	口縁部から胴部上位は横ナデ。胴部中位から下位は斜め方向のハケ目。下位から脚台部はやや不明瞭な縦方向のハケ目。 にぶい黄橙色と褐灰色	ナデ。 にぶい黄橙色と褐灰色

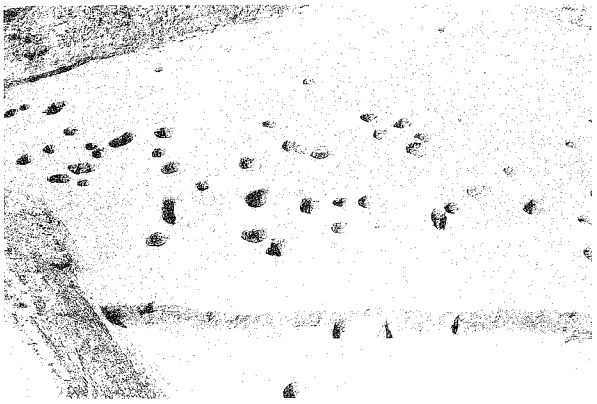
写 真 図 版



(1) A区SB－06

(2) A区SB－05

(3) A区SB－04



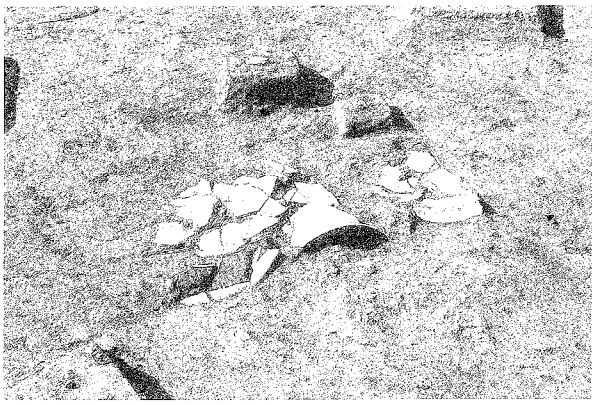
(4) A区SB－03

(5) B区全景

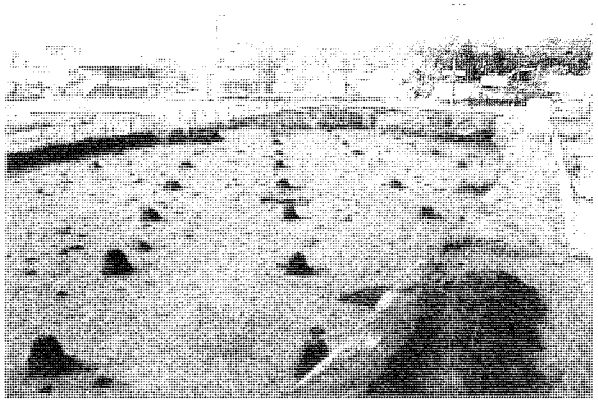
(6) C区SI－07

図版23

(1) D区SI－08

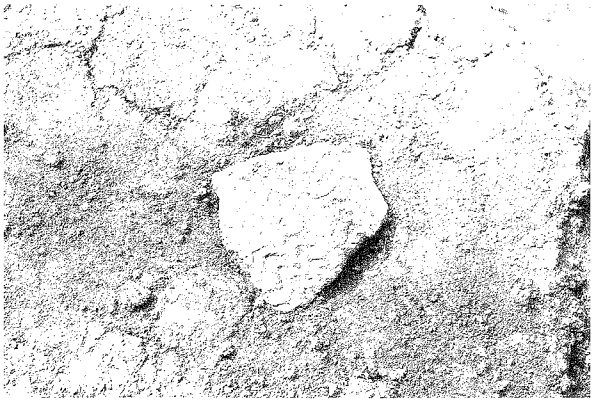


(2) D区SI－08内遺物出土状況

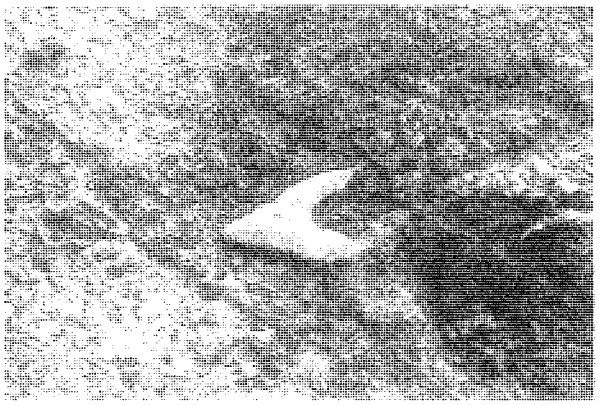


(3) A区全景

(4) 縄文調査遺物出土状況

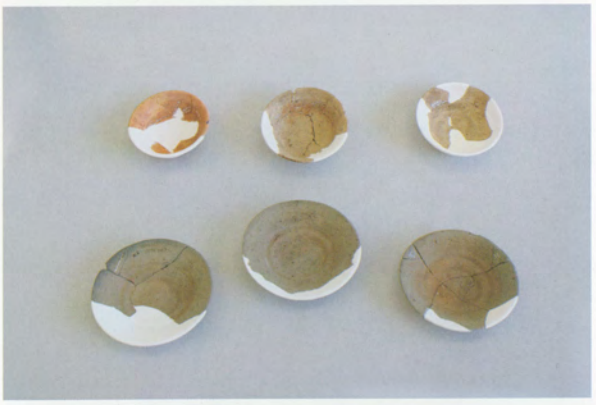


(5) 縄文調査　土器



(6) 縄文調査　石器

（1）A区出土墨書土器



（2）A区出土土師器

（3）A区出土縄文式土器

（4）C区出土土師器

図版25

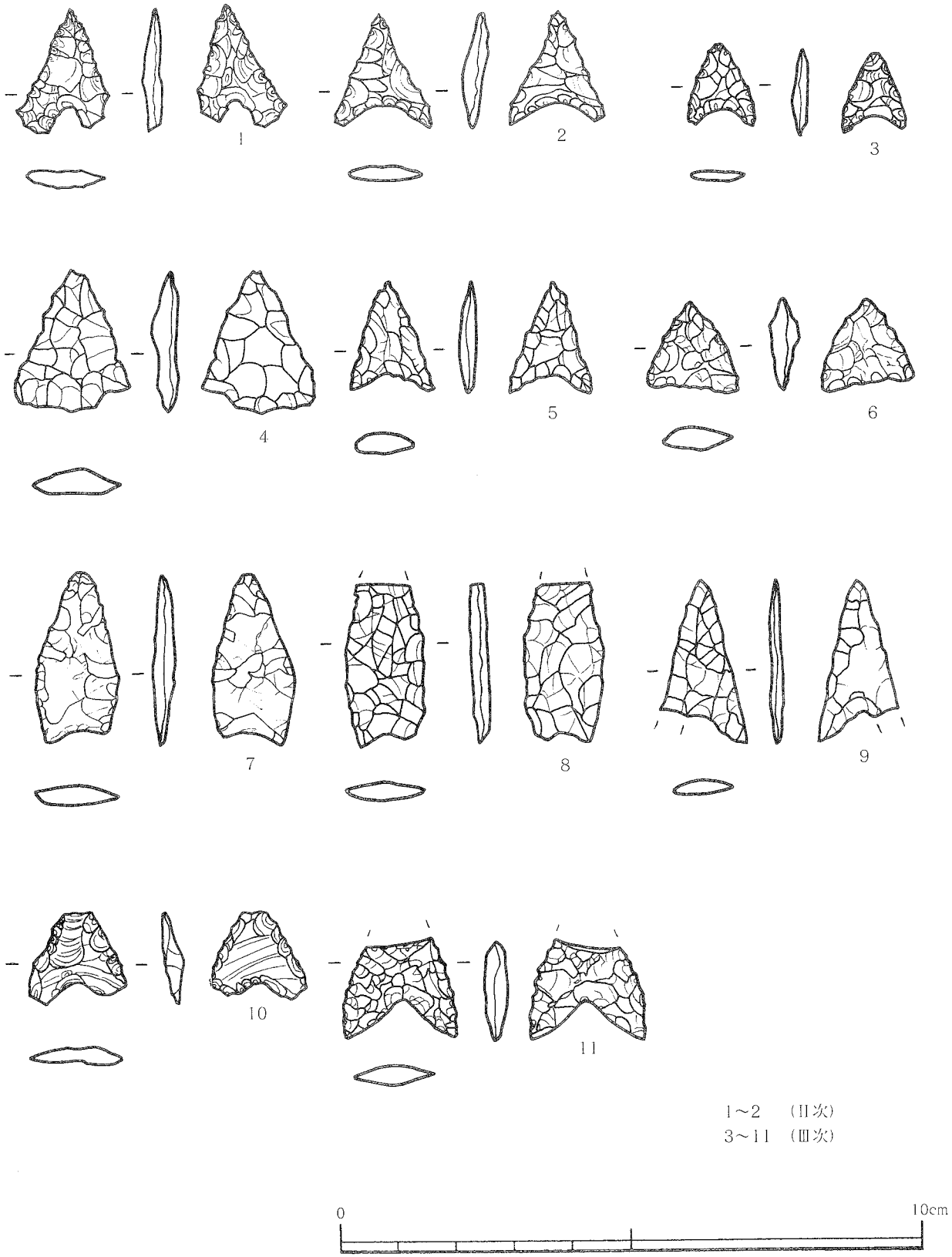
（1）C区SI－07内出土遺物

（2）D区出土墨書土器

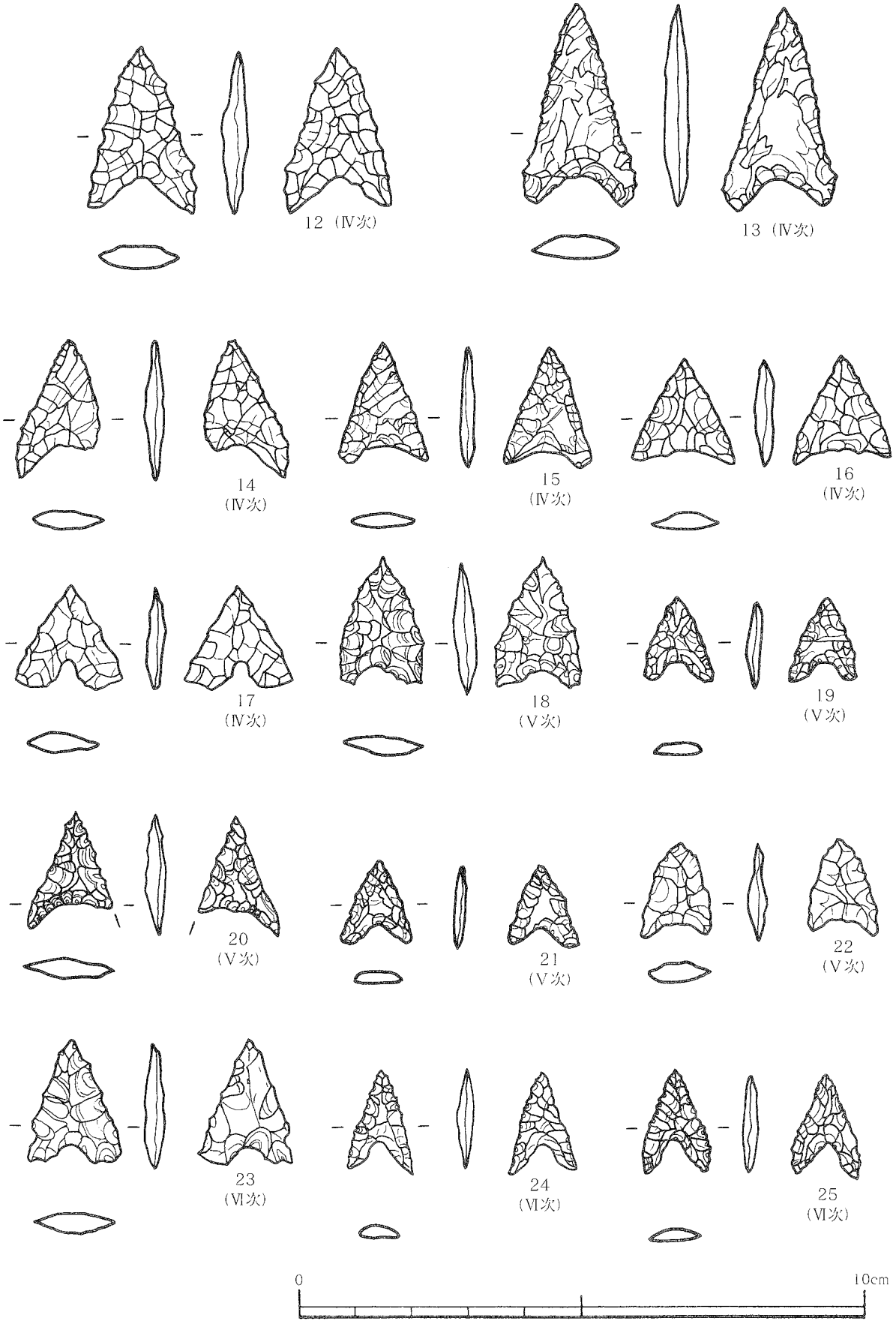
（3）D区出土土師器　1

（4）D区出土土師器　2

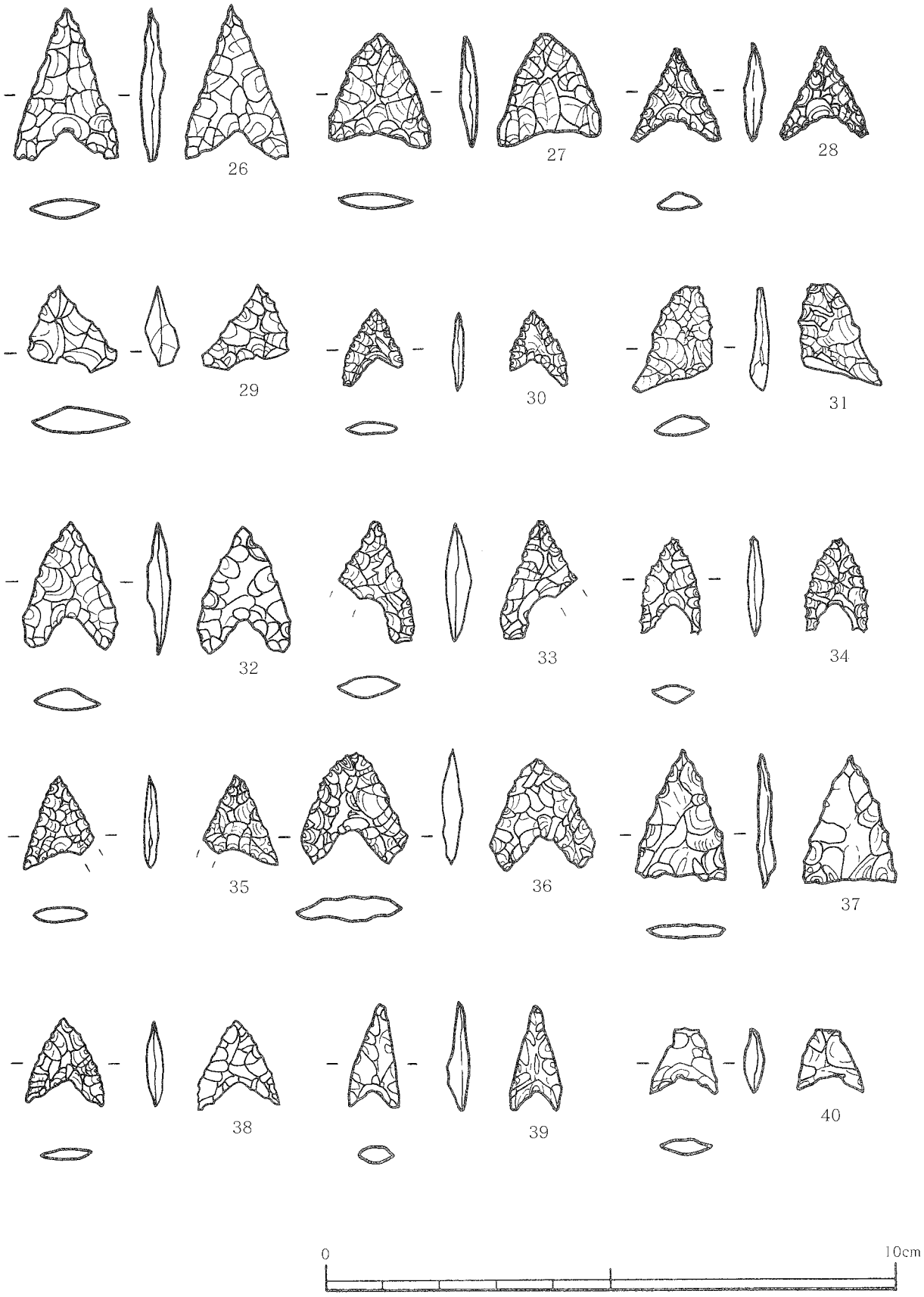
（1）D区SI－08内出土遺物



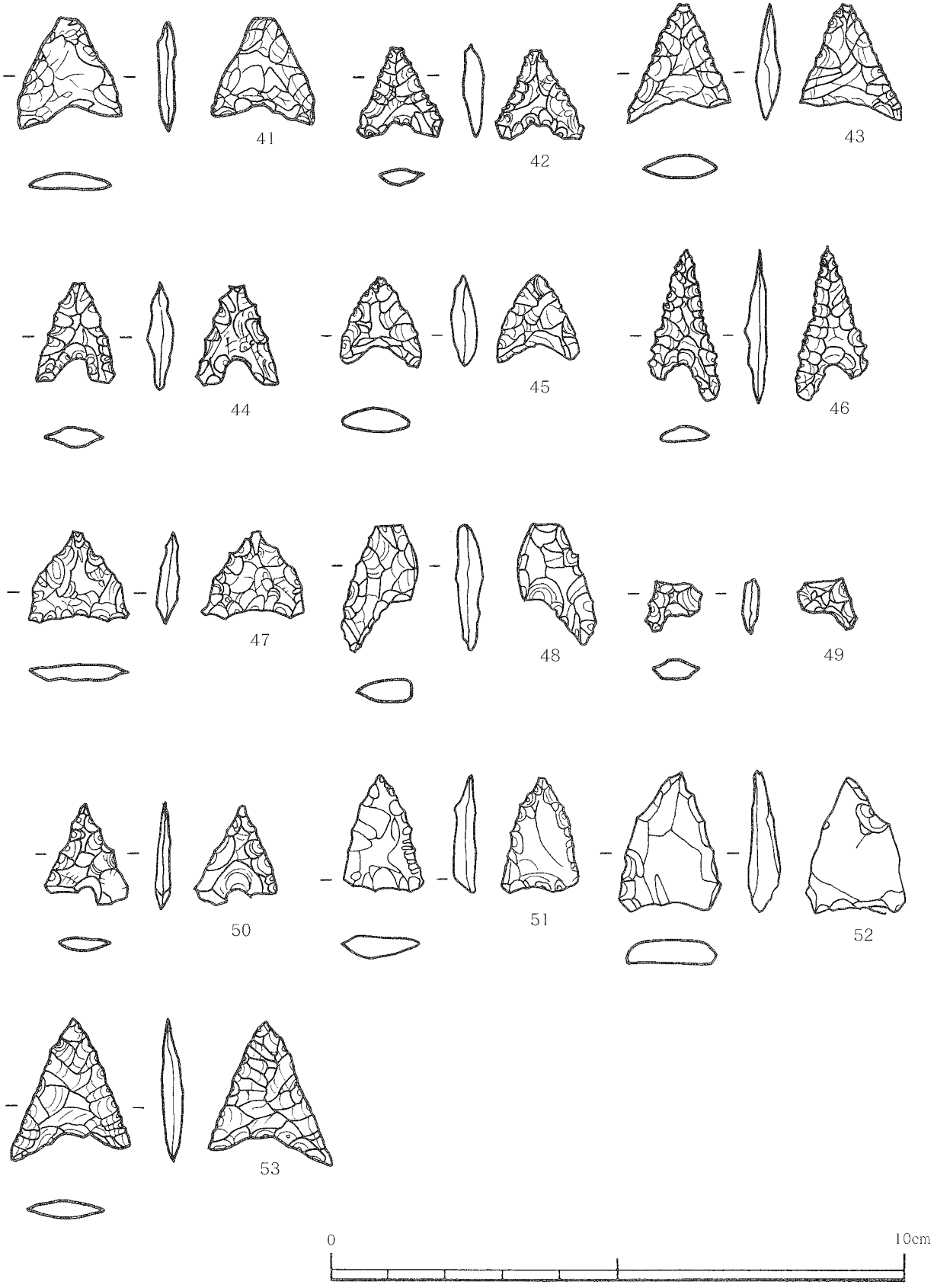
第141図　一括遺物実測図　（縄文石器）



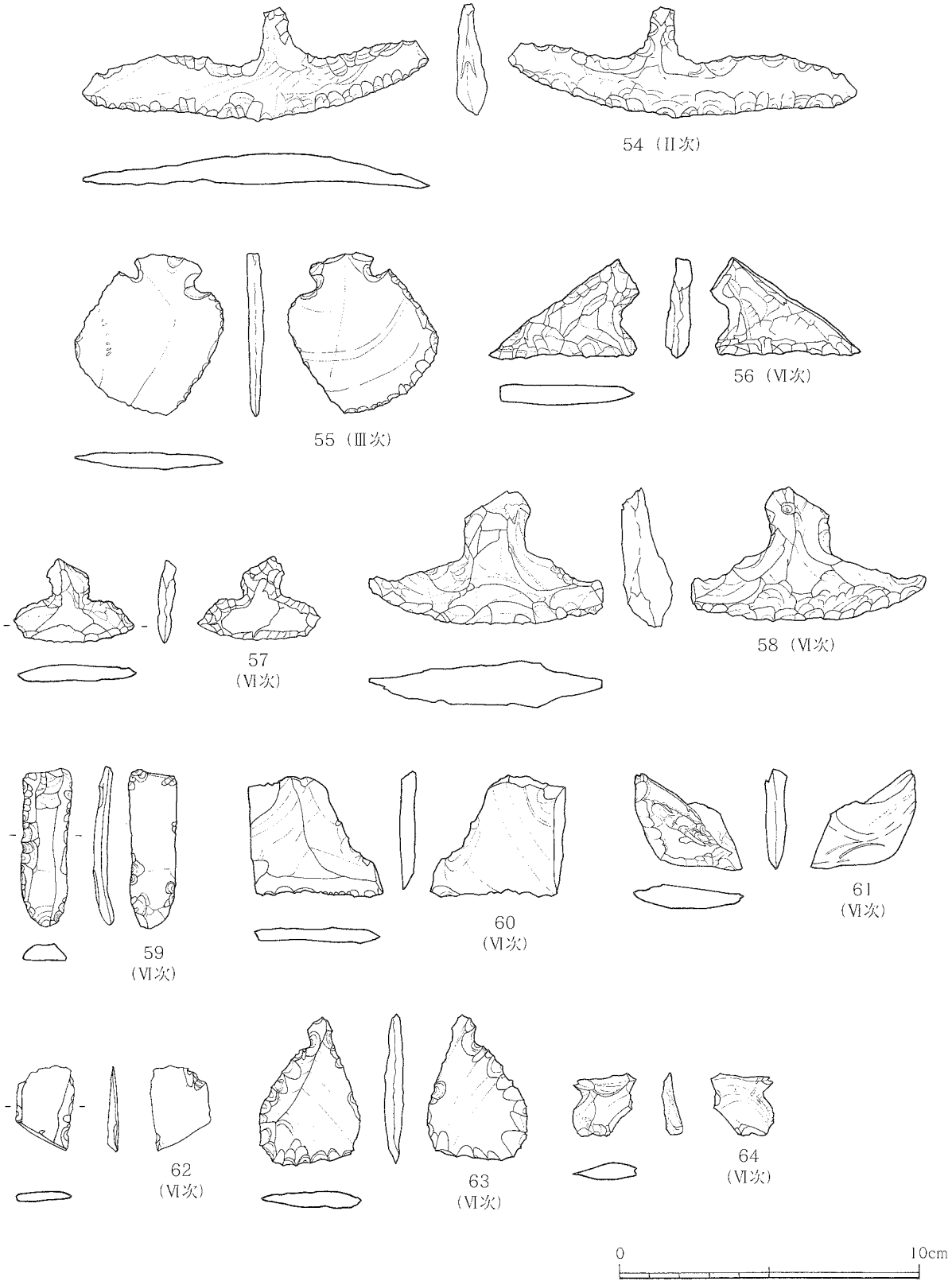
第142図　一括遺物実測図　（縄文石器）



第143図　一括遺物実測図　（縄文石器）　Ⅵ次



第144図　一括遺物実測図　（縄文石器）　Ⅵ次



第145図　一括遺物実測図　（縄文石器）

須屋城跡遺跡出土　縄文石器観察表

第34表

syjⅡ･･･は実測番号

Ⅱ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
1号土器北端			
syjⅡ(S) 2 1	石鏃	長さ 2.1 幅 1.5 厚み 0.3	頁岩
1号土器ベルト南下層			
syjⅡ(S) 3 2	石鏃	長さ 1.9 幅 1.7 厚み 0.3	頁岩

syjⅢ･･･は実測番号

Ⅲ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　A−4グリッド一括			
syjⅢ(S) 5 3	石鏃	長さ 1.4 幅 1.1 厚み 0.3	頁岩
A区　AA−5グリッド　縄文調査			
syjⅢ(S) 2 4	石鏃	長さ 2.5 幅 2.0 厚み 0.4	頁岩
B区　縄文調査　黒褐色土層			
syjⅢ(S) 1 5	石鏃	長さ 1.9 幅 1.4 厚み 0.3	黒曜石

syjⅢ･･･は実測番号

Ⅲ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
B区　Y−30グリッド　黒色土層			
syjⅢ(S) 3 6	石鏃	長さ 1.6 幅 1.6 厚み 0.5	黒曜石
B区　AA−30グリッド			
syjⅢ(S) 10 7	石鏃	長さ 3.0 幅 1.4 厚み 0.4	安山岩
B区　AC−30グリッド　黒色土一括			
syjⅢ(S) 6 8	石鏃	長さ 2.8 幅 1.4 厚み 0.3	黒曜石

syjⅢ･･･は実測番号

Ⅲ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
C区　3号住居址　黒褐色土層			
syjⅢ(S) 8 9	石鏃	長さ 2.8 幅 1.4 厚み 0.2	頁岩
C区　4号住居址　黒褐色土層			
syjⅢ(S) 4 10	石鏃	長さ 1.7 幅 1.7 厚み 0.4	黒曜石
C区　AK−31グリッド一括			
syjⅢ(S) 7 11	石鏃	長さ 1.8 幅 2.0 厚み 0.4	黒曜石

syjⅣ･･･は実測番号

Ⅳ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
B区　縄文調査			
syjⅣ(S) 2 12	石鏃	長さ 2.9 幅 2.0 厚み 0.5	黒曜石
C区　AS−38グリッド一括			
syjⅣ(S) 3 13	石鏃	長さ 3.6 幅 2.1 厚み 0.4	安山岩
C区　AQ−32グリッド一括			
syjⅣ(S) 6 14	石鏃	長さ 2.4 幅 1.5 厚み 0.4	頁岩

syjⅣ･･･は実測番号

Ⅳ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
C区　縄文調査			
syjⅣ(S) 1 15	石鏃	長さ 2.1 幅 1.6 厚み 0.3	黒曜石
C区　SK−95　暗褐色土層			
syjⅣ(S) 4 16	石鏃	長さ 1.9 幅 1.8 厚み 0.4	黒曜石
C区　AR−39グリッド一括			
syjⅣ(S) 5 17	石鏃	長さ 1.9 幅 1.9 厚み 0.4	頁岩

syjⅤ･･･は実測番号

Ⅴ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
AH−28グリッド　黒褐色土層			
syjⅤ(S) 1 18	石鏃	長さ 2.3 幅 1.5 厚み 0.4	黒曜石
AH−28グリッド　黒褐色土層			
syjⅤ(S) 4 19	石鏃	長さ 1.5 幅 1.2 厚み 0.2	黒曜石
AI−28グリッド　黒色土層			
syjⅤ(S) 2 20	石鏃	長さ 2.1 幅 1.6 厚み 0.4	黒曜石

syjⅤ･･･は実測番号

Ⅴ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
北西方向　黄褐色土層			
syjⅤ(S) 3 21	石鏃	長さ 1.5 幅 1.3 厚み 0.2	黒曜石
黒色土一括			
syjⅤ(S) 5 22	石鏃	長さ 1.7 幅 1.3 厚み 0.4	黒曜石

第35表

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　AW－36グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 23 23	石鏃	長さ 2.2 幅 1.7 厚み 0.4	頁岩
A区　AW－37グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 6 24	石鏃	長さ 1.8 幅 1.2 厚み 0.3	黒曜石
A区　AX－37グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 16 25	石鏃	長さ 1.8 幅 1.2 厚み 0.3	黒曜石

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　AX－36グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 17 26	石鏃	長さ 2.7 幅 1.8 厚み 0.4	頁岩
A区　AX－38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 25 27	石鏃	長さ 2.0 幅 1.9 厚み 0.3	黒曜石
A区　AX－38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 2 28	石鏃	長さ 1.6 幅 1.6 厚み 0.3	黒曜石

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　AX－38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 39 29	石鏃	長さ 1.5 幅 1.6 厚み 0.5	頁岩
A区　AY－35グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 13 30	石鏃	長さ 1.4 幅 1.0 厚み 0.2	黒曜石
A区　AZ－38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 30 31	石鏃	長さ 1.8 幅 1.3 厚み 0.3	黒曜石

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　BA－38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 9 32	石鏃	長さ 2.2 幅 1.7 厚み 0.4	黒曜石
A区　BD－39グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 10 33	石鏃	長さ 2.1 幅 1.1 厚み 0.4	黒曜石
A区　BG－40グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 1 34	石鏃	長さ 1.7 幅 1.1 厚み 0.3	黒曜石

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　BH－39グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 11 35	石鏃	長さ 1.6 幅 1.0 厚み 0.2	黒曜石
A区　BI－40グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 38 36	石鏃	長さ 2.0 幅 1.8 厚み 0.5	黒曜石
A区　縄文調査			
syjⅥ(S) 19 37	石鏃	長さ 2.3 幅 1.6 厚み 0.3	頁岩

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　縄文調査			
syjⅥ(S) 12 38	石鏃	長さ 1.5 幅 1.4 厚み 0.2	黒曜石
B区　縄文調査			
syjⅥ(S) 20 39	石鏃	長さ 1.8 幅 0.9 厚み 0.4	黒曜石
D区　AV－44			
syjⅥ(S) 21 40	石鏃	長さ 1.1 幅 1.2 厚み 0.3	頁岩

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
D区　AW－45			
syjⅥ(S) 26 41	石鏃	長さ 1.9 幅 1.8 厚み 0.3	安山岩
D区　AW－45			
syjⅥ(S) 3 42	石鏃	長さ 1.6 幅 1.5 厚み 0.3	黒曜石
D区　AX－43			
syjⅥ(S) 18 43	石鏃	長さ 2.1 幅 1.7 厚み 0.4	黒曜石

syjⅥ･･･は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
D区　AY－44			
syjⅥ(S) 4 44	石鏃	長さ 1.8 幅 1.4 厚み 0.4	頁岩
D区　AY－46			
syjⅥ(S) 7 45	石鏃	長さ 1.6 幅 1.4 厚み 0.4	黒曜石
D区　AZ－44			
syjⅥ(S) 5 46	石鏃	長さ 2.7 幅 1.3 厚み 0.3	黒曜石

第36表

syjⅥ・・・は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
D区　AZ−45			
syjⅥ(S) 14 47	石鏃	長さ 1.6 幅 1.8 厚み 0.4	頁岩
D区　AZ−46			
syjⅥ(S) 34 48	石鏃	長さ 2.2 幅 1.1 厚み 0.4	黒曜石
D区　BB−45			
syjⅥ(S) 22 49	石鏃	長さ 0.9 幅 0.9 厚み 0.3	黒曜石

syjⅥ・・・は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
D区　BB−46			
syjⅥ(S) 15 50	石鏃	長さ 1.8 幅 1.5 厚み 0.2	黒曜石
D区　BB−47			
syjⅥ(S) 35 51	石鏃	長さ 2.0 幅 1.4 厚み 0.4	頁岩
D区　BB−48			
syjⅥ(S) 28 52	石鏃	長さ 2.4 幅 1.8 厚み 0.4	黒曜石

syjⅥ・・・は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
D区　調査区上層　第6層			
syjⅥ(S) 24 53	石鏃	長さ 2.5 幅 2.1 厚み 0.4	黒曜石

syjⅡ・Ⅲ・・・は実測番号

Ⅱ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
M−20グリッド　縄文調査			
syjⅡ(S) 1 54	石匙	長さ 3.9 幅 11.7 厚み 1.1	頁岩
Ⅲ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
B区　AA−28グリッド　黒色土一括			
syjⅢ(S) 9 55	石匙	長さ 5.4 幅 5.0 厚み 0.6	頁岩

syjⅥ・・・は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　BA−38グリッド　ピット2　縄文調査			
syjⅥ(S) 42 56	石匙	長さ 3.3 幅 4.9 厚み 0.8	頁岩
A区　AY−35グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 36 57	石匙	長さ 2.7 幅 4.1 厚み 0.5	頁岩
A区　BG−38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 40 58	石匙	長さ 4.6 幅 7.8 厚み 1.6	頁岩

syjⅥ・・・は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　AZ−38、AX−38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 8 59	石刃	長さ 5.3 幅 1.7 厚み 0.5	黒曜石
A区　AZ−38グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 27 60	不明，破片	長さ 3.9 幅 4.3 厚み 0.6	頁岩
A区　縄文調査			
syjⅥ(S) 33 61	磨製石斧？ 破片	長さ 3.3 幅 3.7 厚み 0.8	頁岩

syjⅥ・・・は実測番号

Ⅵ次調査			
番　号	器　種	法量（cm）	石　材
A区　BC−39グリッド　縄文調査			
syjⅥ(S) 32 62	不明，未完成の石刃か？	長さ 2.8 幅 1.9 厚み 0.3	黒曜石
B区　縄文調査			
syjⅥ(S) 31 63	石匙	長さ 4.9 幅 3.4 厚み 0.6	頁岩
D区　東側壁面拡張部分			
syjⅥ(S) 37 64	不明	長さ 2.1 幅 2.1 厚み 0.4	頁岩

第V章　まとめ

今回の発掘調査は、文献資料が非常に少なく不明な部分が多く、中世南北朝時代の平城跡と考えられている須屋城跡関連の遺構や遺物を検出し、少しでも謎の部分を解明することを主な目的で調査に入ると、縄文時代や弥生時代、古墳時代、古代の各時代の遺構や遺物が検出された。当初、低地に遺跡が所在するため、この地域は古い時期の利用があまりなかったのではと考えていたが、縄文時代早期よりこの地域が、人々により利用されていたことが判明した意義は大きい。

縄文時代について

発掘調査は、平成13年度より開始し、平成18年度までの6年間実施した。調査面積は、全体で合計約18，500㎡になるが、その内約半分の9，100㎡に縄文時代の遺物包含層が残っており、中世期の調査が終了した後に、更に掘り下げて縄文時代の調査を実施した。他の部分についても、包含層は残っていたと考えられるが、住宅建築などによる整地で削平されたようである。調査では、包含層の残存状態が良好な部分については、少しずつ掘り下げて遺構と遺物の検出を行った。その結果、遺構は全く検出されなかったが土器などの遺物が出土した。出土した遺物は、量的にはそう多くないものの早期の押型文土器から晩期にかけての土器が出土している。今回の調査において、前期と中期にある程度まとまった状態で特徴的な形式の土器が出土しているので、紹介しておきたい。まず、II次調査B調査区より出土した、区画と考えられる二本の横沈線間に重弧状の沈線を施文した、いわゆる「プロト曽畑」と呼ばれる曽畑式土器に先行する野口式土器と考えられる土器群である。土器は、II次B調査区だけの出土で他の区域への広がりは認められず、またこの土器の後につながると考えられる曽畑式土器は出土していない。次に、II次調査区から出土した、内湾しながら外に開くキャリパー状を呈する口縁部の深鉢で、器面全体に縄文を地文として施文した後、くびれた頸部にハイガイの殻頂部を連続して押圧している土器で、底部には3個ないしは4個の突起を貼り付けている。この土器は、中九州では竹崎式土器と呼ばれ瀬戸内の船元系の土器と考えられ、他の遺跡からもたまに出土することがあるが、量的にまとまって出土することが少ない土器である。これらの土器は、遺構に伴うものではなく、土器だけの出土であり、出土したところが限定され面的な広がりがないことや、土器には磨耗が認められないことなどの理由から周辺からの流入ではなく、持ち込まれた可能性が高いものと考えられる。調査した遺跡の北側には、300m程離れた場所に妙泉寺池と呼ばれる湧水地があり、水が湧き出ていることからこことの関連が考えられる。

弥生時代について

調査最終年次であるVI次調査で、竪穴住居跡が1軒検出された。他の調査区からは、遺構や遺物は検出されていない。住居跡は、その殆どが削平により消滅しており、硬く踏みしめられた硬化面と楕円形を呈した炉跡だけの検出であった。住居跡の、規模や形状などの詳細は全く不明であり、また柱穴の特定が出来なかったので時期の特定は難しいが、炉跡が検出されたことや硬化面の直上から出土した甕の口縁部や底部の高台が低いなどの特徴から、弥生時代中期の後半頃に作られたと考えている。ただ、6年間の発掘調査でこの一軒だけの検出であり、周囲への広がりは認められなかったことから、周辺に広がるとしても数件程度ではないかと考えている。

古墳時代について

II次調査において、中世の18号溝に切られた状態で竪穴住居跡が1軒検出された。住居跡の形状は、残存

状態が悪く不明瞭であるが隅丸長方形と考えられ、中央付近からは楕円形の炉跡や南側の壁際には貯蔵穴と考えられる方形の掘り込みも検出された。住居跡内からは、甕や高杯などの古式土師器と共に弥生終末期の壺片が出土しており、住居跡の形態や中央に炉を持つ特徴は弥生的な要素を残していることから、住居跡の時期を古墳時代前期初頭と考えている。ただ、6年間の発掘調査でこの1軒だけの検出であり、周囲への広がりは認められなかったことから、弥生時代の住居跡同様周辺に広がるとしても数件程度ではないかと考えている。

古代について

この時期の遺構は、竪穴住居跡と掘立柱建物跡が検出されている。竪穴住居跡は、Ⅲ次調査区で5軒とⅥ次調査区から1軒の計6軒が調査された。Ⅲ次B調査区の4号住居跡とⅥ次C調査区の7号住居跡の状態が良く残っている。いずれも、隅丸方形の形状を呈し、壁の中央付近にカマドを作り付け、煙出しが住居の外に延びており、柱のすべてが確認されたわけではないが4本柱の住居跡であろう。住居跡は、周辺に広がる様子が認められないことから、集落として広がる可能性は低いと考えている。掘立柱建物跡は、国道387号に近いⅥ次調査区から4棟が検出された。とくに、A調査区から検出された3棟については、南北棟2棟と東西棟1棟をT字形に配置するという規則性が認められることや、出土点数が6点と少ないが周辺から「見」や「井」と書かれた墨書土器が出土していることなどから、普通の建物ではなく寺院か行政関連など特殊な施設の建物ではないかと考えている。しかし、建物の規模や柱穴が小さく、柱の間隔が統一されてなく、また柱筋が通っていないこと、周辺への広がりが考えにくいなど寺院や行政関連の施設とするには疑問点も多くある。掘立柱建物跡の中からは、遺構の時期を決める遺物の出土がなかったことから、正確な時期は不明であるが、周辺から出土した土師器や須恵器の杯や台付椀の高台部の形態的特徴から、平安時代前期で9世紀前半から後半にかけての時期に建てられたのではないかと考えている。竪穴住居跡の時期も、ほぼ同時期ではないかと考えている。

中世期について

須屋城については、「南北朝時代の菊池氏の庶流である須屋市蔵隆正の居城と伝えられる。」と肥後国誌に記述があるが、須屋城に関して記した文書は全く残っていない。また、その城主である須屋氏については、南北朝期の興国三（1342）年に菊池武士が作成した起請文（菊池神社文書）の寄合衆の中に須屋刑部という名が出てくるが、この文書の他には文献が全く残っていないため、須屋城や須屋氏についてはよく分かっていない。しかし、この起請文にある寄合衆は菊池一族の庶家の代表であることから、須屋氏は菊池系であり城がある須屋は菊池氏の支配勢力下にあったと考えられ、交通の要衝であり南北朝期には政治的にも非常に重要な地域の守りを任されていたということは、須屋氏が菊池一族の中で非常に重要な位置にいたことがうかがえる。

今回の発掘調査は、道路の建設部分という限られた範囲ではあるが、城跡の中心と考えられる部分を実施することから、殆ど様子がつかめていない須屋城について、何らかの情報が得られるのではという大きな期待の中で行われた。調査の結果、Ⅰ次調査区とⅡ次調査区から土塁と堀と考えられる溝が検出された。土塁は、調査前からL字状に巡るのが確認されており、土塁に囲まれた区画内に居館等の城の重要施設の検出を期待していたが、今回の調査でピットは検出されたが建物を復元するまでには至っていない。北側の、調査対象区外での存在が期待される。土塁の外には、土塁に沿って南北に延びる溝（18号）と東西に延びる溝（2号・6号）が掘られている。特に、東西に延びる溝は2本検出されており、いずれも南北溝の5m～6m手前で完結しているのが確認された。完結している部分には、遺構の痕跡は認められなかったが、18号溝が更に南に延びることから土塁があった可能性が大きい。南側の2本の（2号・6号）溝は、約6mの間隔を置

いて平行に掘られており、2号溝は遺跡東側の市道の手前で南側に鋭角に曲がっているのが確認された。この2本の溝は、中から出土した遺物に時期差が認められないことから同時期に掘られたものと考えており、なぜ2本の溝を掘る必要があったのかその理由は不明であるが、2号溝に囲まれた部分にも外敵から守らなければならない重要な施設があったのであろう。

調査では、期待した居館等の建物の検出はなかったが、検出された土塁や堀は出土遺物から14世紀前半頃に同時に造られたと考えており、当時の社会情勢が緊迫したため城の防御的機能を強化するために整備したのであろう。城が築かれたのは、いつであるか不明だが、出土遺物の量が13世紀前半頃を境に増え始めることや、土師器皿や瓦質椀などの日常雑器も増えることなどからこの時期の可能性が高いと考えている。

最後に、須屋城跡の市道を挟んだ東側で、熊本県文化課が平成13年に発掘調査を行った船入遺跡との関連について若干触れておきたい。船入遺跡からは、2棟の掘立柱建物を堀で囲んだ方形居館が検出された。調査者は、出土遺物から14世紀中葉から15世紀中葉に存在し、須屋城と関係の深い人物の館跡と考えられている。今回の須屋城の調査では、二つの遺跡の関係を裏付けるような遺構や遺物の出土はないが、遺跡の位置関係や時期などから須屋城主と関係の深い人物の居館と考えてよい。

参考文献

報告書		発行
熊本県教育委員会		
石の本遺跡群Ⅱ	熊本県文化財調査報告第178集	1999年3月
石の本遺跡群Ⅲ	熊本県文化財調査報告第194集	2001年3月
石の本遺跡群Ⅳ	熊本県文化財調査報告第195集	2001年3月
石の本遺跡群Ⅴ	熊本県文化財調査報告第205集	2002年3月
沖松遺跡	熊本県文化財調査報告第154集	1996年3月
祇園遺跡	熊本県文化財調査報告第188集	2000年3月
熊本県の中世城跡		
熊本県文化財保護協会	熊本県文化財調査報告第30集	1978年3月
黒橋貝塚	熊本県文化財調査報告第166集	1998年3月
古麓城跡	熊本県文化財調査報告第227集	2005年3月
古麓能寺遺跡　古麓城下遺跡	熊本県文化財調査報告第216集	2003年9月
杉の本遺跡	熊本県文化財調査報告第196集	2001年3月
鶴羽田遺跡	熊本県文化財調査報告第168集	1998年3月
二本木遺跡群Ⅱ	熊本県文化財調査報告第243集	2008年3月
二本木遺跡群Ⅲ	熊本県文化財調査報告第256集	2010年3月
二本木前遺跡	熊本県文化財調査報告第167集	1998年3月
灰塚遺跡（Ⅱ）	熊本県文化財調査報告第197集	2001年3月
船入遺跡	熊本県文化財調査報告第217集	2004年3月
御幸木部遺跡群	熊本県文化財調査報告第233集	2006年3月
御幸木部古屋敷遺跡Ⅰ	熊本県文化財調査報告第129集	1993年3月
山田城跡	熊本県文化財調査報告第102集	1989年3月
山田城跡Ⅱ・Ⅲ	熊本県文化財調査報告第112集	1990年3月
熊本市教育委員会		
熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集		
平成13・14年度		2003年3月
二本木遺跡群Ⅱ		2007年3月
二本木遺跡群Ⅲ		2007年3月
二本木遺跡群Ⅳ		2007年3月
二本木遺跡群Ⅴ		2008年3月
二本木遺跡群Ⅷ		2009年3月
古町遺跡Ⅰ		2004年3月
植木町教育委員会		
塔ノ本遺跡、今古閑久保遺跡		
滴水尖遺跡、轟城跡、ヲスギ遺跡	植木町文化財調査報告書第18集	2004年3月
熊本県宇土市教育委員会		
宇土城跡（西岡台）Ⅸ	宇土市埋蔵文化財調査報告書第29集	2007年3月
轟貝塚	宇土市埋蔵文化財調査報告書第30集	2008年3月
熊本県下益城郡美里町教育委員会		
堅志田城跡ⅩⅡ	美里町文化財調査報告第1集	2005年3月
玉名市立歴史博物館こころピア		
伊倉城跡	玉名市立歴史博物館こころピア	
	資料集成第5集	2003年3月

報告書		発行
人吉市教育委員会 史跡　人吉城跡	人吉市文化財調査報告書第26集	2008年3月
熊本県玉名郡三加和町教育委員会 田中城跡ＸＩ・ＸII	三加和町文化財調査報告第11．12集	1997年3月
八代市教育委員会 麦島城跡	八代市文化財調査報告書第30集	2006年1月
熊本大学文学部本下研究室 13～14世紀の琉球と福建	平成17～20年度科学研究費補助金 基盤研究（A）（2）研究成果報告書	2009年3月
臼杵市教育委員会 臼杵城		2010年3月
沖縄県教育委員会 首里城跡 京の内発掘調査報告書（I）	沖縄県文化財調査報告書第132集	1998年3月
大宰府市教育委員会 大宰府条坊跡ＸＶ　陶磁器分類編	太宰府市の文化財第49集	2000年3月
長崎県南島原市教育委員会 原城跡Ⅳ	南島原市文化財調査報告書第4集	2010年3月
福井県立朝倉氏遺跡資料館 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告書Ⅲ	福井県立朝倉氏遺跡資料館	1990年3月
参考文献		
開館10周年記念特別展 朝倉の遺宝 越前朝倉氏・一乗谷	福井県立朝倉氏遺跡資料館 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	1991年7月 1998年10月
概説　中世の土器・陶磁器		
中世土器研究会編	真陽社	1995年12月
1949～1981 近年発見の窯址出土中国陶磁展	出光美術館	1982年4月
季刊　考古学　第27号 特集　青銅器と弥生社会	雄山閣出版	1989年5月
新安海底文物	国立中央博物館	1977年
図解・日本の中世遺跡	東京大学出版会	2001年3月
東洋陶磁の展開	大阪市立東洋陶磁美術館	1999年3月
中近世土器の基礎研究ＸＶIII 中近世土器の基礎研究ＸＸ	日本中世土器研究会 日本中世土器研究会	2004年12月 2006年12月
全国シンポジウム 中世窯業の諸相 生産技術の展開と編年 資料集　発表要旨集	日本考古学協会	2005年9月
貿易　陶磁研究　NO.1-NO.5	日本貿易陶磁研究会六一書房	1998年11月
焼き物にみる中世の世界 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 第4回特別展	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	1999年3月

報告書抄録

ふりがな	すやじょうあと
書名	須屋城跡
副書名	一般国道3号熊本北バイパス改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	合志市文化財調査報告
シリーズ号	第2集
編集者名	浦田　信智
編集機関	合志市教育委員会
所在地	〒861-1104　熊本県合志市御代志1661番地1
発行年月日	2013年3月

所集遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
須屋城跡	合志市須屋	405	10	32° 51′ 20″	130° 43′ 50″	20011010 ～ 20070325	18,520	一般国道3号熊本北バイパス改築工事に伴う事前調査

所集遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主　な　遺　物	特記事項
須屋城跡	中世城館跡	縄文 古墳 奈良 平安 中世	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝遺構 土墓 土壙 道路状遺構	縄文土器（早期・前期・中期など） 縄文石器（石鏃・石包丁・石斧など） 弥生　（銅剣など） 古代　墨書土器など 中世　青磁や白磁などの輸入陶磁器 備前焼や瀬戸焼などの国産陶器 石臼や羽釜・天目茶碗など茶道具 他に土師器や陶質土器など	中世須屋氏に関連する城跡

合志市文化財調査報告　第2集

須　屋　城　跡

一般国道3号熊本北バイパス改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行年月日　2013年3月
編集・発行　合志市教育委員会
〒861－1104　熊本県合志市御代志1661番地1
印刷・製本　株式会社 有明印刷
〒865－0022　熊本県玉名市寺田123－1